

件 名

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

提出理由

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について、別紙のとおり報告します。

概 要

- 1 埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会
- 2 措置報告書提出以降に提出された要望書等
- 3 有識者からの意見聴取

1 埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会

(1) 意見交換会参加人数

単位(人)						
日程	部	会場	中学生	高校生	保護者	県内在住の方
7/25(金)	中学生 高校生	東部	5	6	-	-
7/30(水)		西部	中止	7	-	-
8/6(水)		南部	2	15	-	-
8/21(木)		北部	14	7	-	-
8/23(土)	保護者・県内在住の方		-	-	18	17
合計(91人)			21	35	18	17

※定員・・・中学生の部・高校生の部(各回15人)、保護者の部・県内在住の方の部(各回20人)



8/21 中学生の部・北部会場の様子

(2) 各回参加者からの意見

ア 中学生の部・東部会場

論点		意見内容(要旨)
共学化について		<ul style="list-style-type: none">● 別学か共学か選ぶ選択肢があることはとても重要と考える。● 異性に対して気を遣ってしまう人にとって別学という選択肢もあったほうがよいと思う。● 全て共学にしてしまうと、別学の良いところが消えてしまい、多様性が失われてしまうと思う。
男女共同参画の視点に立った教育	現在の中学校の様子	<ul style="list-style-type: none">● 先生から男子重たいもの持てるかな、という呼びかけがあり、男子が重たいものを運ぶ役割になっている。● 女子は男子が持てなかった余りや、ごみ捨てなどが割り当てられる。● 筋肉量の違いなどはあると思うが、重いものを持てる「男子」ではなく、「持てる人」で判断した方がよいと思う。
	男女で同じ教育をすること	<ul style="list-style-type: none">● 共学化することで男女の能力が伸びるということは良いことだと思う。● 異性がいることで本来の自分の力が出せない人のために、全て共学化するのではなく、別学という道も残しておくのもよいと思う。
	性別で分けた教育を行うこと	<ul style="list-style-type: none">● 性別で分かれることで、一人一人の得意不得意が分かってくるなど、男女を分けることで更に個性が見えることもあると思う。● 異性というのが苦手な人にとっては、同性のみの環境でいた方が安心して伸びる力があると思う。● 男女の特徴で分けることは差別とは違って区別だと思う。
	その他	<ul style="list-style-type: none">● 男女平等にするために共学化するというのは違うと思う。
別学校のイメージ		<ul style="list-style-type: none">● 別学校に行きたい人が別学校を選んでいるので、思考が似通っているのだと思う。● 異性の目を気にせず、自分らしく生きていける。● 伝統行事は昔の生徒たちの考えが反映されている部分もあると思う。考え方を反映するのはいいと思うので、時代によって伝統行事を変えていくのもいいと思う。
少子化・再編整備		<ul style="list-style-type: none">● 別学校を少しは残した方がいいと思う。● 別学校が埼玉に人を呼ぶ力になっているのであれば、残した方が埼玉のためになると思う。● 定員割れしている別学校を残すのは難しいが、まだ望まれている学校は残してほしい。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

イ 中学生の部・南部会場

論点		意見内容(要旨)
共学化について		<ul style="list-style-type: none"> ● 社会に出た時の男女の関わりは大切なものと思っている。男女の関わりを学べる共学化は自分のためになると思うし、生きていく上で必要なことだと思う。 ● 別学校があることで選択肢が広がる。行きたい人もいると思う。
男女共同参画の視点に立った教育	現在の中学校の様子	<ul style="list-style-type: none"> ● 男女でけんかになってしまうこともあるが、そのけんかなどから異性の接し方などが学べると思う。 ● 女子と男子で考え方が違うところはあると思う。 ● 男女というわけではなく、一人一人の経験や考え方の違いによると思う。 ● 重いものは力のある男子が運んだり、女子は細かいところを行うといったことがある。 ● リーダーや班長なども、女子も男子もいるなど、男女の役割分担は感じない。
	男女で同じ教育をすること	<ul style="list-style-type: none"> ● 男女で同じ教育環境の方がよいと思う。 ● 体つきなどが男女で異なるので、体育などそれが影響する学びは男女で分けた方がよいと思うが、国語や数学なら一緒によいと思う。 ● 筋肉量の違いはあるが、そこからいろいろ学べることもあると思うので一緒にの方がアドバイスなどもしやすいと思う。
	男女の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ● 女子だから、男子だからではなく、その人の個性をしっかりと見ないと、社会に行ったときにうまくいかないことなど多くなってしまうのかなと思う。 ● 男女の役割分担があってもよいという人がいてもよいし、それでよいと思う人同士で暮らしていけばよいと思う。
別学校のイメージ		<ul style="list-style-type: none"> ● 異性に気遣いなく、全力で楽しめるし、価値観も合いやすいと思う。 ● 将来を考えると、同性だけだと社会は成り立たないし、社会に出たときにどうやって異性と関わっていいのか困ってしまう時があるかもしれない。 ● 学生でしか味わえない体験があると思うので、今しかできないことをやりたいと思う。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

ウ 中学生の部・北部会場

論点		意見内容(要旨)
共学化について		<ul style="list-style-type: none"> ● 共学化の流れは仕方ないと思う一方で、いろいろな選択肢がある中から自分に合う高校を選びたいと思う。 ● 別学校に通いたい人もいると思うので、選択肢として残してよいと思う。 ● 共学化を進めるのはいいと思うが、全部ではなく、何校かは別学校があってよいと思う。 ● 別学校の今まで紡いできた歴史が共学になると変わってしまうと思う。 ● 偏りのない男女共学の方が将来のことを考えると、社会人になった時によいと思う。 ● 共学の中で男子クラス・女子クラスを作ればよいと思う。
別学校と共学校のイメージ	共学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 共学だと男女でお互いに刺激し合って、社会に出た時に共学の経験が役に立つこともあると思う。
	別学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 別学だと、異性の目を気にせず、好きなことに打ち込めると思う。 ● 別学校だとクラス・学年全体で仲良くなれるので、共学よりも団結力が深まると思う。 ● 男子だからたくさん走るというように、性別による役割分担が忍び込みやすいのかなと思う。
男女共同参画の視点に立った教育	現在の中学校の様子	<ul style="list-style-type: none"> ● 行事になると壁がなくなり、異性とでも積極的にコミュニケーションを取ることができるが、日常生活においては、休み時間に話に行ったりすることはそこまでない。 ● 同性の中でもグループが分かれることはあるので、共学でも別学でも、行事の時は一体感があって、普段は離れてといった環境に変わりはないと思う。 ● 男子は力仕事、女子は司会などを任されることが多いと感じる。
	男女の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ● 男女で関係なく仕事をしたとしても、女性の家事負担の方が重い分、女性の仕事量が増えてしまう。 ● 家事などは、話し合いや得意なものをやりあったりすればよいと思う。
	一人一人の個性を重視した教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 共学だから、別学だからというわけではなく、別学校の中での個性を大事にしたほうがよいと思う。 ● 男女で肉体の違いもあるので、それを加味して平等を探っていった方がよいと思う。 ● 例えば体育の持久走などで、個人の能力や希望に合わせて距離を選択できるとよい。
少子化・再編整備		<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化で学校を統合しなければならなくなり、別学校同士を合わせなければならなくなったら共学化をしていかないといけないと思う。 ● 学校を減らすのであれば、在学中に学校を移動できたりすれば、個性を伸ばすという意味ではよいと思う。 ● 高校の配置を見ると、南部の方が選択肢が多いので、選択肢の平等も考えていけるとよいと思う。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

工 高校生の部・東部会場

論点		意見内容(要旨)
共学化について		<ul style="list-style-type: none"> ● 別学校だと無意識のうちに固定化されている男女の役割分担が発生しないのは魅力だと思う。 ● アンケートでは共学化しない方がよいという意見が多い中で共学化を推進するのを疑問に思う。 ● 1件の苦情で共学化するしないの議論には普通ならないと思う。 ● 別学校だからこそこのニーズがあると考える。共学化により築いてきた伝統が崩れてしまうのではないか。 ● 共学化するのであれば、現行の制度に対して、より大きなメリットを示すべき。 ● 女子校で女子教育を行っている点は、社会的に見ても大きな意義があると思う。
学校生活	異性がいないことの良さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 同性しかいないので共通の話題が生まれやすい。 ● 周りの目を気にせず話せるようになった。 ● 女子校ではフェアに評価をされていると感じられて、モチベーションを維持できる。 ● 共学校だと女子が多い部活に男子が入部しにくい、別学校では興味のあることに挑戦できると思う。 ● フェアで性的被害の少ない別学校を提供していくことも一つの社会的意義があると思う。 ● 男女の交流でストレスとなり不登校となるようなことがあるなら救済措置として別学校があってもよいと思う。
	異性がいることの課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学時代(共学)は、女子はおしとやかというレッテルを貼られたり、男子と仲良くしすぎると色目を使っているように見られることがあった。 ● 中学時代(共学)は、男子と女子で評価の差があったように感じた。
男女共同参画の視点に立った教育	男女で同じ教育をすること	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の態度が男子と女子で違うかもしれない。男子だとすごく厳しい。 ● 体力的、身体的な差は男女間であるので、体育の授業が(男子の方が)厳しくなることは考えられるかもしれないが、身体的な差異が出にくい勉強に関しては特に中学校と今の男子校で差はないと感じている。 ● 知識的なものは対等に学んだ方がよいと思うが、内容によるが、一緒に学ぶことも大事だし、別で学ぶことの良さもある。どちらも大切なので、選択肢としてあってもよいと思う。 ● 共学校だと体育は男女別々で行っているが、別学校だと全員で一体感を持って行えているのがよいと思う。
	男女の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学時代(共学)では、男子は力仕事をやる、女性は家庭科の授業で頼りにされるといったことがあった。
少子化・再編整備		<ul style="list-style-type: none"> ● 別学校の倍率が1を超えている、需要がある場合は、共学化しないでほしい。 ● 学校が少ない地域には、通信制高校を提供するなどといった解決策もあるのではないか。 ● 共学化により、例えば性的被害を受けた生徒が別学校に入学できなくなる可能性もあるので、共学校でどうやって守られていくかがすごく大事になってくる。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

オ 高校生の部・西部会場

論点		意見内容(要旨)
共学化について		<ul style="list-style-type: none"> ● 別学校に居場所があると思っている。別学という選択肢を残してほしい。 ● 別学だと異性の目を気にしなくてよいので、新しいことに思い切ってチャレンジができると思う。 ● 男子校には男子校の、女子校には女子校の良い文化があると思う。 ● 共学化も大事だと思うが、別学校を必要としている人がいると思う。 ● 共学化をするのなら、倍率が1倍を切るなど、周りからあまり求められなくなった時でよいと思う。 ● 共学化に賛成だが、異性とのトラブルで通にくい人のため、全てを共学化する必要はないと考える。
学校生活	異性がいることの良さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 男女が協力することが多く、社会に出たときに必要なことが学べると思う。 ● 意見交換の際など、同性だけでは出てこなかった意見など、違った視点で話を進めることができる。 ● 男女で考え方が違うので、意見を交換できるのは共学の良いところだと思う。
	異性がいることの課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 男子との距離が近いという理由で嫌われている女子がいたのは共学のデメリットだと思った。 ● 行事の買い出しや重い荷物を持つなど男子に任されていたが、みんなで協力してやるべきだと思う。
	異性がいなかったことの良さ	<ul style="list-style-type: none"> ● グループワークなどで、男女の見えない壁のようなものがなく、自由に意見交換できるようになったと思う。 ● 異性との関係に悩んだ人にとって、一度逃げられる環境があるということが大事である。 ● 共学校だと女子が多いような部活に、男子校だとチャレンジすることができる。
	異性がいなかったことの課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 異性と触れ合える機会があまりなく、大学に入ったときに異性を苦手を感じる人は多いと思う。 ● 異性の目がないことが必ずしも良い方に転がるわけではなく、服装などが過激になることもある。
男女共同参画の視点に立った教育	男女で同じ教育をすること	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会に出てからは男女で分けて生活するわけではないので、男女一緒に学ぶことが大切だと思う。 ● 男女で同じ教育を受けたとしても、同性だけで受けるか、異性がいる中で受けるかで変わると思う。
	男女の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学時代(共学校)では、体育祭は男子がまとめるイメージが強く、合唱祭は女子がまとめるということがあったが、別学校では全員が積極的に活動を行うことができ、別学の方が積極性を学べると思う。 ● 中学時代(共学校)でも男女で役割分担せずに得意なことを行うことができた。お互い尊重し合える学校、クラスだった。
少子化・再編整備		<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろなことを学べる選択肢の中に別学があってもよいと思う。 ● 再編整備で別学校を統合するとしたら、男子校同士、女子校同士を統合した方がよいと思う。 ● 再編整備で統合した際には、近隣の男子校と女子校が統合して、その際、男子部、女子部を作ってもよいと思う。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

力 高校生の部・南部会場

論点	意見内容(要旨)
共学化について	<ul style="list-style-type: none"> ● 共学化には少し反対だが、社会の流れ的にはしょうがないのかなと感じる。 ● 共学校では、異性の方が多い部活に入部するのは簡単ではないが、別学校にはそういうハードルは存在せず、これまで男性、又は女性が多い傾向の業界に、逆側の性別の人が入りやすくなると思う。 ● 別学校に入学してからは、どんなことにも楽しむことができるようになった。自分を変えることができるのが別学校だと思う。 ● 性別にとらわれずできる部活があったり、学校の文化がよく残っていることから、共学化については、別学校を幾つかは残すべきと考える。 ● 共学化に反対である。理由は、①別学校の募集人員より、出願者人数の方が多いため。②女子校のみにある学科を共学校又は男子校に作ればよい。また共学化する際には施設改装費もかかってしまう。③別学校を希望している生徒の思いを押しつづけないため。 ● 男子校、女子校の双方が共学化されると、通学しやすい現女子校の人气が上がり、現男子校の人气が下がってしまう。そうすると学力が落ちていき、自由な校風が制限されていってしまうと思う。 ● 共学化で男女共同参画に近づくのは違うと思う。ジェンダーバイアスにとらわれることなく自立した人間を生み出せる教育として、別学は価値があると思う。 ● 鴻巣女子高校の保育科は、男子校にも共学校にも存在しないことからどうなのかと思う。 ● 共学化すると別学校の伝統が失われてしまう。
措置報告書への意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 結論への明確な根拠やデータがほとんど見られない。結論ありきな進め方に疑問がある。措置報告書に生徒の意見が反映されていない。 ● 別学・共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢だとする根拠について知りたい。 ● 男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があることの根拠があまり示されていない。 ● 措置報告書を策定する過程への不信感があることから、今後、主な発言などを見えるようにしてほしい。 ● 共学化はこれまでの状況を変更するということなので、変更の際は、メリットを示すべき。 ● 少子化がこれから進むことを考えれば、方針としては理解できる部分はあるが、共学化が決まった際にも、どういう形でそのように決まったかが分かるようにしてほしい。
浦和高校に女子が入れないことに対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 東大合格者など実績が一番良い浦和高校に女子が入れないのはおかしいと思う。 ● 優秀な生徒が入学しているから優秀な大学に行っていると思う。 ● 女子でもレベルの高い女子校や共学校を選択できるので、共学化につなげる必要はないと思う。 ● 仮に自分が女子で性格が同じだとしたら、東大合格者が多いところに行きたいと思うのは頷ける。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

キ 高校生の部・北部会場

論点		意見内容(要旨)
共学化について		<ul style="list-style-type: none"> ● 男子校には女子トイレが少なく、設備改修が必要。別学校では、部活動を男女に分ける必要がないので、種類が豊富。また、性別に合ったきめ細かな教育が実施できると思う。 ● 別学校では異性がない環境で、伸び伸びと生活し、お互いをよく知れて切磋琢磨できると思う。 ● 男子校は楽しいので、後輩たちにも味わってもらいたい。 ● 共学校と別学校を両方選べるのが魅力だと思う。 ● 共学化により、男子・女子の部活動を作るとなると活動場所が課題となると思う。 ● 受検生の視点で言うと、共学化により志望できる学校の数が増えるがその数は僅かであり、費用対効果に疑問がある。 ● 別学校は倍率が十分あるほか、同レベル帯の共学校があり選択肢がある。別学校の魅力が中和されることにより、埼玉県の公立高校の人气が下がってしまうのではないか。
学校生活	異性がないことの良さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 異性がないので、自分のやりたいことに力を入れることができる。 ● 共学化された場合、別学校で行っていた行事は実施できなくなってしまうと思う。 ● 同性だけなので行事が盛り上がる。全力で取り組める。 ● 異性がない環境だからこそ、価値観が分かり合えたり、自分の思っていることを言える。 ● 異性がいることによるいざこざがなく、クラス全体で仲良くできる。 ● 中学の時、女子が多い部活に入りにくい雰囲気があったが、男子校では入りやすい。
男女共同参画の視点に立った教育	男女で同じ教育をすること	<ul style="list-style-type: none"> ● 女子校であるので女子大からの説明会が設定される。 ● 男子校特有の学校行事が女子校にあったら、それはそれで楽しいかなと思うが、共学だと体格差が出てしまうので難しいと思う。
	共学校の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 共学校だとどうしても学校行事の準備などで、男性だから、女性だからで分けられてしまうことがある。
	男女の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ● 女子校では、共学校よりも理系を選択する女子生徒の割合が高い。 ● 中学時代(共学)では、教室の装飾など、女性らしいことは女性がするといった雰囲気があったと思う。 ● 別学校では全てやらないといけないので、男女の役割分担意識がない。 ● 社会の縮図である共学校の方が男女の固定概念が現れやすいと思う。 ● 別学校の中に、潜在的に男女の役割意識といったものが染みついているところはあると思うので、改善していくことが大事だと思う。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

ク 保護者の部

論点	意見内容(要旨)
共学化について	<ul style="list-style-type: none"> ● 別学は異性の目がない環境で自分らしく全てのことに熱中できる環境が揃っている。 ● 他の学校で代替性のない特徴的な教育をしている県立の別学校は共学化はやぶさかではないと思う。 ● 自宅から一番近くの別学校に、性別によって通えないというのは不思議な感じを受ける。 ● 異性が苦手な子供のシェルターとしてであれば、別学校の存在理由があると思う。 ● 共学もあるし別学もある。選べる自由を大事にしてほしい。 ● ネームバリューの維持を目的に別学維持をするのであれば教育としてどうかと思う。 ● 学校も社会の一員だと考えた時に、学ぶ場として共学は必要と考える。 ● 伝統ある学校の歴史を壊すことに強く反対。 ● 女子が男子校に行きたいとの意見を重視するなら、女(男)子が女(男)子校に行きたい思いも重視すべき。 ● 少子化により共学化をするのならば、学校の規模を小さくして別学校を残すことが考えられる。 ● 全国的に知名度が高い浦和高校に女子が入学できないのは、ガラスの天井であり改善すべきと思う。 ● 様々な学力帯に別学校を作ったらよい。 ● 別学校、共学校の中から自分に合った学校を選べるのが本当の平等だと思う。 ● 男女で体格や脳の違いがある。男女で同じ教育をすると、つまらない人間を生み出す教育になってしまう。 ● 少子化に併せて共学化を行うべき。
男女共同参画の視点に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> ● 公平性や代替性が確保されている前提において、男女共同参画と共学化は関連がないと思う。 ● 男女の役割分担などを感じずに過ごせる分、別学校の方が男女平等を確保できると思う。 ● 女性のキャリア形成を支援する教育ができるなど、特に女子校は男女共同参画に有意義である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 別学校のニーズの高さが分かったのだから、措置報告書に別学校の一定維持など追記をしてほしい。 ● 共学化反対の声が多く、民意が反映されていない政策を行っていると感じる。 ● 意見交換会について教育委員に伝えた結果、どのような議論が行われたのか明らかにしてほしい。 ● 措置報告書の検討に当たっての根拠となる議論やデータを示してほしい。 ● 浦和高校ばかりが叩かれるのは、私学に学生を増やしたいというような意図があるのではないかと思う。 ● 他県では、共学化しても実質的には一方の性しか入学していない学校もある。 ● 知事や教育長、教育委員と意見交換できる機会がほしい。

このほか、抽選により参加がかなわなかった応募者から10件(共学化推進1件・別学校維持9件)の意見を頂いている。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

ケ 県内在住の方の部

論点	意見内容(要旨)
共学化について	<ul style="list-style-type: none"> ● 共学校と別学校があり、自分の行きたい学校を選択できることが重要である。 ● 異性が苦手な子供にとって別学という選択肢は設けるべきである。 ● 別学校では異性の目を気にせずに学習に没頭できる。 ● 共学化するためには改修工事費等の費用がかかる。 ● 特色ある学校づくりの一環で別学校を残すべき。 ● 学校は変化し続けなければならない。母校に異性が入ってきてもすばらしい学校に変わりはない。 ● 多様性が求められる時代において、異性がいない学校を維持する必然性はない。 ● 発達段階における男女差を無視して男女一律に同一教育をすることの弊害の方が大きいと思う。 ● 共学化することで校是や校歌が変わってしまうことは、別の学校になることと等しい。
男女共同参画の視点に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> ● 別学校では同性しかいないので、バイアスがかからず全てのことをやることができる。 ● 性の多様性の観点からも誰もがどの学校も受検ができるよう共学化という方向に賛成。 ● 県立だけでなく、全ての学校を共学化しなければ、男女共同参画社会の推進にはつながらないと思う。 ● 公的に、男女で大雑把に区切るというのは感覚としては乱暴だと思う。 ● 学力の高い学校が別学校だと、ジェンダー格差を再生産してしまう可能性がある。 ● 共学校においてもジェンダーギャップは大きく、共学化によってジェンダー意識が進むかどうかは別の話である。共学校においても一層の啓発が必要だと思う。 ● 別学校がよいという考え方が受け入れられることが多様性ある社会であると思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 県立高校だけ共学化せよというのはおかしい。私立高校はそのままでもいいのか。 ● とにかく子供の意見を聞いて、尊重すべき。拙速に決定すべきでない。 ● 経済力によって私学に行けない家庭があるため、公立こそ多様な選択肢を用意して選べるようにすべき。 ● 別学校の伝統を守るだけでなく、ジェンダー平等にとってよいものを議論してもよいと思う。 ● 倍率が1倍未満の際には、別学校が望まれていないということであり、共学化を受け入れるべきだと思う。 ● 特に県南部においては、共学化について少子化を理由としないほしい。

このほか、抽選により参加がかなわなかった応募者から21件(共学化推進8件・別学校維持13件)の意見を頂いている。

(3) 「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」参加者アンケートの結果(抜粋)

1 中学生の部・高校生の部

質問	意見交換会の時間はいかがでしたか	意見交換会の進行や雰囲気は いかがでしたか	じゅうぶんに自分の意見は言えましたか																																													
中学生の部 回答件数:21件	<p>中学生</p> <table><tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr><tr><td>ちょうどよかった</td><td>15</td><td>71.4%</td></tr><tr><td>長かった</td><td>5</td><td>23.8%</td></tr><tr><td>短かった</td><td>1</td><td>4.8%</td></tr></table>	回答	件数	割合	ちょうどよかった	15	71.4%	長かった	5	23.8%	短かった	1	4.8%	<p>中学生</p> <table><tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr><tr><td>とてもよかった</td><td>8</td><td>38.1%</td></tr><tr><td>よかった</td><td>12</td><td>57.1%</td></tr><tr><td>あまりよくなかった</td><td>1</td><td>4.8%</td></tr><tr><td>よくなかった</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr></table>	回答	件数	割合	とてもよかった	8	38.1%	よかった	12	57.1%	あまりよくなかった	1	4.8%	よくなかった	0	0.0%	<p>中学生</p> <table><tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr><tr><td>じゅうぶんに発言できた</td><td>11</td><td>52.4%</td></tr><tr><td>だいたい発言できた</td><td>5</td><td>23.8%</td></tr><tr><td>まったく発言できなかった</td><td>3</td><td>14.3%</td></tr><tr><td>あまり発言できなかった</td><td>2</td><td>9.5%</td></tr></table>	回答	件数	割合	じゅうぶんに発言できた	11	52.4%	だいたい発言できた	5	23.8%	まったく発言できなかった	3	14.3%	あまり発言できなかった	2	9.5%			
回答	件数	割合																																														
ちょうどよかった	15	71.4%																																														
長かった	5	23.8%																																														
短かった	1	4.8%																																														
回答	件数	割合																																														
とてもよかった	8	38.1%																																														
よかった	12	57.1%																																														
あまりよくなかった	1	4.8%																																														
よくなかった	0	0.0%																																														
回答	件数	割合																																														
じゅうぶんに発言できた	11	52.4%																																														
だいたい発言できた	5	23.8%																																														
まったく発言できなかった	3	14.3%																																														
あまり発言できなかった	2	9.5%																																														
高校生の部 回答件数:35件	<p>高校生</p> <table><tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr><tr><td>ちょうどよかった</td><td>15</td><td>42.9%</td></tr><tr><td>短かった</td><td>20</td><td>57.1%</td></tr><tr><td>長かった</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr></table>	回答	件数	割合	ちょうどよかった	15	42.9%	短かった	20	57.1%	長かった	0	0.0%	<p>高校生</p> <table><tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr><tr><td>とてもよかった</td><td>9</td><td>25.7%</td></tr><tr><td>よかった</td><td>16</td><td>45.7%</td></tr><tr><td>あまりよくなかった</td><td>8</td><td>22.9%</td></tr><tr><td>よくなかった</td><td>1</td><td>2.9%</td></tr><tr><td>無回答</td><td>1</td><td>2.9%</td></tr></table>	回答	件数	割合	とてもよかった	9	25.7%	よかった	16	45.7%	あまりよくなかった	8	22.9%	よくなかった	1	2.9%	無回答	1	2.9%	<p>高校生</p> <table><tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr><tr><td>じゅうぶんに発言できた</td><td>12</td><td>34.3%</td></tr><tr><td>だいたい発言できた</td><td>17</td><td>48.6%</td></tr><tr><td>あまり発言できなかった</td><td>6</td><td>17.1%</td></tr><tr><td>まったく発言できなかった</td><td>0</td><td>0.0%</td></tr></table>	回答	件数	割合	じゅうぶんに発言できた	12	34.3%	だいたい発言できた	17	48.6%	あまり発言できなかった	6	17.1%	まったく発言できなかった	0	0.0%
回答	件数	割合																																														
ちょうどよかった	15	42.9%																																														
短かった	20	57.1%																																														
長かった	0	0.0%																																														
回答	件数	割合																																														
とてもよかった	9	25.7%																																														
よかった	16	45.7%																																														
あまりよくなかった	8	22.9%																																														
よくなかった	1	2.9%																																														
無回答	1	2.9%																																														
回答	件数	割合																																														
じゅうぶんに発言できた	12	34.3%																																														
だいたい発言できた	17	48.6%																																														
あまり発言できなかった	6	17.1%																																														
まったく発言できなかった	0	0.0%																																														

2 保護者の部・県内在住の方の部

質問	意見の交換をする際の人数(20名)は いかがでしたか	意見交換会の時間はいかがでしたか	意見交換会の進行はいかがでしたか
保護者の部 回答件数:18件	<p>保護者の部 回答件数:18件</p> <p>多かった 5 27.8%</p> <p>ちょうどよかった 12 66.7%</p> <p>少なかった 1 5.6%</p>	<p>保護者の部</p> <p>短かった 12 66.7%</p> <p>ちょうどよかった 4 22.2%</p> <p>長かった 2 11.1%</p>	<p>保護者の部</p> <p>適切だった 5 27.8%</p> <p>適切でなかった 4 22.2%</p> <p>どちらともいえない 8 44.4%</p> <p>無回答 1 5.6%</p>
県内在住の方の部 回答件数:17件	<p>県内在住の方の部 回答件数:17件</p> <p>多かった 3 17.6%</p> <p>ちょうどよかった 13 76.5%</p> <p>少なかった 0.0%</p> <p>無回答 1 5.9%</p>	<p>県内在住の方</p> <p>短かった 7 41.2%</p> <p>ちょうどよかった 10 58.8%</p> <p>長かった 0.0%</p>	<p>県内在住の方</p> <p>適切だった 7 41.2%</p> <p>適切でなかった 2 11.8%</p> <p>どちらともいえない 8 47.1%</p>

2 措置報告書提出以降に提出された要望書等

番号	提出者(受領者)	件名・概要	受領日
①	共学ネット・さいたま世話人代表 (受領者:教育長)	「共学化実現のための具体策を求める要望書」 男女別学校を「選択肢」「多様性」として維持することはせず、全域全校の共学化を分け隔てなく推進し、共学化を完了する最終期限を早急に定め、計画的に共学化を進めていくこと。 など	令和6年 9月25日
②	よりよい一女をつくる有志の会 (郵送)	「埼玉県男女共同参画苦情処理委員に出された措置報告書に関する質問」 「魅力ある県立学校づくり」の方針が近々改定されるとのことですが、その中で共学化について触れる予定であれば、措置報告書の「本県では男女別学校にも県民から一定のニーズがある」、「男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがある」ことについて、「魅力ある県立学校づくり」の中で、どのように反映する予定ですか？ など	令和6年12月23日
③	埼玉県立熊谷女子高等学校生徒会 (郵送)	「埼玉県立熊谷女子高等学校 共学化に関する生徒アンケート結果について」 本アンケート結果を踏まえ、埼玉県こども・若者基本条例第12条に則り、同校を女子高として維持することを求めます。 対象:熊谷女子高校在校生(1、2年生) ①共学化しない方がよい 221件(88.0%) ②共学化した方がよい 14件(5.6%) ③どちらでもない・わからない 16件(6.4%)	令和7年 3月31日

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

番号	提出者(受領者)	件名・概要	受領日
④	埼玉県立熊谷高校全日制生徒会長 (郵送)	<p>「共学化に関する本校生徒のアンケート結果について」</p> <p>埼玉県こども・若者基本条例に則り、今回の生徒の意見を県の教育施策に反映し、同校の男子校としての維持をお願い致します。</p> <p>対象：熊谷高校全日制在校生</p> <p>①共学化しない方がよい 480件(86.5%)</p> <p>②共学化した方がよい 17件(3.1%)</p> <p>③どちらでもない・わからない 58件(10.4%)</p>	令和7年 4月 1日
⑤	よりよい一女をつくる有志の会 (郵送、メール)	<p>「『埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会』に関する質問書」</p> <p>抽選方法をお教えてください。透明性、公平性のある方法であることの説明をお願い致します。特に一般の会は定員が少なく、県教委の方針の賛成の推進派ばかりが選ばれ、反対派は排除されることを懸念しています。 など</p>	令和7年 4月23日
⑥	埼玉県内高等学校連携有志* (受領者:教育長)	<p>「『埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会』の開催方法について」</p> <p>本意見交換会の開催方法には、中高生を含めた広く埼玉県民の意見を引き出すという観点から強い懸念を抱いています。以下の理由により、意見交換会の開催方法について変更を求めます。 など</p>	令和7年 4月24日
⑦	埼玉県議会議員 高木 功介 (受領者:教育長)	<p>「意見討論会等における生徒氏名公表に関する配慮のお願い」</p> <p>このたび、県教育委員会主催の「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」における「生徒氏名の公表の扱い」について、現場の声や保護者からの意見も踏まえ、以下のとおり配慮をお願い申し上げる次第です。 など</p>	令和7年 4月24日

*⑦と同時に埼玉県議会議員 高木功介氏・諸井真英氏から提出

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

番号	提出者(受領者)	件名・概要	受領日
⑧	埼玉県上尾市議会 議長 (郵送)	「埼玉県立高等学校男女別学校において生徒の意見に基づく方針決定を求める意見書」 埼玉県及び埼玉県教育委員会においては、在校生及び進学を目指す生徒の気持ちを第一に考え、埼玉県立高等学校男女別学校において当事者の意見に十分配慮した方針決定を行うことを求める。	令和7年 6月27日
⑨	埼玉県立浦和高等学校保護者代表 (受領者:教育長)	「埼玉県教育委員会から埼玉県男女共同参画苦情処理委員宛ての措置報告書に関しての保護者意見調査報告」 対象:浦和高等学校全日制保護者 「措置報告書」についてどのようにお考えでしょうか ①納得できる 3件(0.86%) ②どちらかと言えば納得できる 14件(4.00%) ③納得できない 225件(64.29%) ④どちらかと言えば納得できない 79件(22.57%) ⑤どちらとも言えない 29件(8.29%) など	令和7年 6月30日
⑩	埼玉県富士見市議会 議長 (郵送)	「男女別学の埼玉県立高等学校において生徒の意見も尊重した方針決定を求める意見書」 埼玉県及び埼玉県教育委員会に対し、在校生及び進学を目指す生徒の気持ちも尊重し、男女別学の埼玉県立高等学校において当事者の意見に十分配慮した方針決定を行うことを求める。	令和7年10月 6日

このほか、メール、電話等により91件(共学化推進17件、別学校維持59件、その他15件)の意見等を受けている。
また、7団体等からの意向に応じ8回意見交換等を実施した。
(※措置報告書提出以降から令和7年10月6日まで、共学化推進には一部推進を含む。)

3 有識者からの意見聴取

有識者	意見の要旨
<p>友野 清文 氏 (昭和女子大学 現代教育研究所 特別招聘研究員)</p> <p>令和7年8月28日 聴取</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 少子化によって共学化は避けられない流れであると思う。 ✓ 公教育は原則共学と考えるが、別学の意義(異性が苦手な生徒の居場所、伸び伸びできる環境、女子生徒のニーズに応じた教育など)を尊重し、別学校を生徒の選択肢として残していくことは考えられる。 ✓ 学校を社会の縮図と単純に考えず、社会に出るための力を育む上での特殊な環境として考えてもよいかと思う。例えば、学年制は、社会と比べて特殊な環境であるが、効率性の観点や同年齢で過ごすことによる教育的な意味付けがある。そういう学校の中でこういった力をつけるかを考えたときに、別学校というのにも意味があると思う。 ✓ アメリカの公立学校は、機会均等の原則から共学化にされてきたが、今は、別学の意義を再確認し、共学校において男女でクラスを分けたり、共学校の別学化を行う場合もある。 ✓ 共学校の方が、男女の定型的な役割分担が起こりやすいといった研究成果もあり、共学化したからといってジェンダー平等が実現するということには根拠がないと考える。 ✓ 共学校、別学校を問わず、ジェンダー・センシティブ(男女の違いや性別に関連する問題に敏感な態度や視点)な教育を進めることが重要であり、日常的にジェンダー平等教育を取扱う必要がある。具体的な取組として、ジェンダーを主語にするのではなく、通常の授業の中で、自然にジェンダー問題を扱っていくことが重要である。 ✓ 教職員の意識、考え方を常に見直していくことが大切である。そのためには、教職員研修、あるいは教員養成大学における大学生への教育の充実を図る必要がある。 ✓ 別学校の歴史や伝統については、社会と同様、変わっていくものなので、基本的な考えは維持しつつも、具体的な行事については、子供の意見を参考に見直していくことも大切である。 ✓ 男子が理科系、女子は文科系と言われることがあるが、それは統計的なものであることから、個々の能力や適性を最大限尊重していくことが重要である。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

有識者	意見の要旨
<div>勝野 正章 氏</div> <div>(東京大学大学院 教育学研究科長 教育学部長 教授)</div> <div>令和7年8月28日 聴取</div>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ これまで、共学が定着しているにも関わらず、ジェンダー不平等が解消されていないことから、共学化がジェンダー平等を促進するとは限らない。共学校のジェンダーステレオタイプや男女の役割分担の再生産の可能性について懸念がある。 ✓ 別学校については、異性を意識せず伸び伸びと個性を発揮できるとか、安心できる居場所という意義がある。特に、女子校におけるリーダーシップ教育や女性教職員が多いことによるロールモデルの存在といった肯定的な側面がある。 ✓ 一方、同性の集団の中で男らしさ、女らしさが誇張されてしまう側面もある。 ✓ 措置報告書の考え方はよいと考えるが、単純に共学化すればよいということではなく、共学校・別学校ともに、ジェンダー不平等があるということに常に意識を向けた学校教育をしていくことが重要である。 ✓ 別学校支持として、共学校、別学校が選択できることが多様性であるという主張については、学校間の差異を増やすことが校内の多様性を減らし、同質的な生徒集団ができる可能性があると考ええる。特に、伝統・文化の下に、社会的な価値観や威信に基づいたジェンダー化された差別が維持され、それが選択の自由の名のもとで正当化される可能性がある。 ✓ また、男女で異なる教育環境の提供が多様性であるという主張については、神経脳科学的な性差というところでの教育環境の違いに注目し、別学と併学を提供することが資質能力の向上に有効かどうかは学問的には論争がある。男性、女性それぞれの持っている資質能力を伸ばすという言われ方をするが、その目的(銘柄大学への合格)によっては、支配的な資質・能力、因習的なジェンダー意識の再生産・強化につながりかねないと思っている。 ✓ 制度的に共学化しただけでは、多様な他者との交流、相互理解・尊重が実現できるとは言えない。むしろ、共学化して、差別・不平等が見えなくなり、当たり前なものとなることにより、現状の不平等とか差別を生み出す文化・構造が温存されてしまう可能性がある。 ✓ 共学校、別学校ともに、ジェンダー不平等ということがあるということに常に意識を向けて、女性的とされてきた役割とか事柄の価値を高めるとことや、男性の役割の価値相対化といった学校教育をしていくことが大切である。 ✓ 別学校、共学校の分け方は、LGBTQ+やSOGIの生徒の存在を考えると、制度的に合っていないく、制度自体も変えていく必要があると考える。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

有識者	意見の要旨
<div> <div> 中室 牧子 氏 (慶應義塾大学 総合政策学部 教授) </div> <div> 令和7年9月1日 聴取 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経済学分野の研究成果で言えば、別学校より共学校の方がよいというエビデンスはおそらくない。私自身は、これまでの研究成果に基づけば、別学校を共学化にすることについて賛成ではない。アメリカの大学の例でいうと、女子大を共学化した際に、女性のSTEAM進学が大幅に減少したり、理系分野に就職する人が減少したという研究もある。 ✓ ただし、いろいろな条件があり、子供の数が減少していく中、別学校をそのままにしておくと、当然、その収容の人数が少なくなっていく。そのような中、県の教育予算に限りがある状況で、その予算を別学校に振り向けるのか、あるいは他のところに振り向けるのかという判断もあるかと思う。 ✓ ある研究者が、中学校で技術・家庭科における男女別の授業(男子:技術、女子:家庭)から男女共通の授業になった際の研究をしていて、ジェンダーステレオタイプが大幅に改善した(家事は女性がやるものだという価値観だったり、ハウスワークに関わる時間が増加)という結果を得ている。したがって、共学化については、経済学者が測らないような分野(ウェルビーイングや幸福感など)において、良い影響を与える可能性はあるかもしれない。 ✓ 就学期から中等教育の段階での男女差は非常に大きく、それぞれ性別に合った教育をすることは効果大きいという研究成果がある。特に、ステレオタイプの脅威から逃れられるなど、別学校の効果が大きいのは女子であり、共学化をした際には、女子校の良さをうまく共学校で再現できるような仕組み作りが重要である。 ✓ 男女で非認知能力にも差があり(男子は競争心や自尊心が大きく、女子は共感性や社会性大きい)、その性質、気質の違いというのは教育上大きいと思う。 ✓ 前述の研究成果については埼玉県以外のところでの研究であり、共学化した際には、データを取って検証ができると良いと考える。

男女別学校の共学化に関する意見交換等の対応状況について

○「魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議」(令和6年9月12日実施)における措置報告書に関するアドバイザーからの意見

アドバイザー	意見の要旨
<p>渡辺 大輔 氏 (埼玉大学ダイバーシティ推進センター准教授)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 前提として、同じ空間で違う人たちとかかわりを持ちながら学んでいくことが重要である。 ✓ 別学校の伝統や校風がどんなものか明らかにし、ジェンダー平等やセクシュアリティ平等に問題があるのであれば、その伝統は保ち続ける必要があるかどうか議論する必要がある。 ✓ そもそもジェンダー平等、セクシュアリティ平等について学ぶ機会が少なく、別学校・共学校問わず、総合的な探究の時間と絡めて、いろいろな人たち、多様な仲間たちと学ぶことが重要である。
<p>船橋 幸代 氏 (埼玉県PTA連合会副会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 親御さんたちとの話の中で、男女別学も多様性の一つだという話があった。例えば、男性恐怖症の女性がいることもあるし、女性が苦手な男性もいる。LGBTQのように、多様性という言葉がある。 ✓ 別学校を選ぶ理由があると思う。別学校がなくなるのは、今の時代の多様性という点にはそぐわないのではないかという思いが少しある。 ✓ ただ、生徒数が減ってしまっているということはもちろん分かるし、環境という意味では、いずれ校舎の維持が困難になるということも分かる。校舎を建て替える、作り変える際には、一概に男女別学だったところを全部一緒にするというのは、また少し違った話なのかと思った。 ✓ 多様性を尊重していただくのであれば、そういった選択肢を残してほしいという思いがある。 ✓ また、共学化の根拠が多くの方に伝わっていない現状があるかと思う。どうしてこう考えてこういう結論に至ったのか、その中身が親御さんに伝わっておらずアナウンス不足だと思う。県教育委員会には、もっとアナウンスをしっかりといただければと思う。
<p>奥平 博一 氏 (角川ドワンゴ学園専務理事・N高等学校長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多様性は創り上げるものではなく、この世の中、我々が生きているところが多様性である。これを創り上げなければならないというところが、教育の誤りではないかと思う。 ✓ 我が校は、東大、京大を受験する生徒から、小・中学校時代不登校だった生徒まで、一緒になって今も勉強している。勉強自体はICTを活用して個別最適化していくとして、勉強以外の部分で人として学ぶことは、まさに社会そのものだと思っている。 ✓ 我々の通信制教育というのは、教育の中でも片隅に置かれるものかもしれないが、そういった意味での多様性というのは、我々の中では日常であり普通である。創り上げるものでもなんでもない。コミュニケーションを含め、子供たちはそういう力を持っていると思っている。 ✓ そういう意味では、男女別が良いとか一緒に良いとかそういう議論ではなく、多様性は創り上げるものではないというのが、私の考えである。実際に今もそうだが、北は北海道から南は九州まで生徒が一緒になって活動している姿を見れば、これが世の中そのものだと実感できる。
<p>中川 未来 氏 (県立春日部高校教諭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 男女共同参画苦情処理委員からの勧告とそれに対する措置報告書については、当事者を置き去りにしていると感じる。 ✓ また、性別を理由に希望する学校に入学できないのは差別だというのは理解できるが、実際に現在の別学校が共学化したら、その学校が培ってきた文化や伝統が維持できないことは確実で、そういったマイナス面があることに賛成なのか、疑問に思う。

※ 役職はアドバイザー会議当時のもの

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(中学生の部・東部会場)

1 日時 令和 7 年 7 月 25 日(金) 10:00～12:00

2 場所 越谷コミュニティセンター 特別会議室

3 参加者 5名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

最初に、今日、どんなことを話そうと思っているのか。なんで今日話をしようと思ったのか、そのようなことを、自己紹介をしていただける方は、自己紹介と合わせて話してもらおうと嬉しいです。名前、学校名を伏せたい方は、伏せていただいたまま、自由に、一人 2 分か 3 分ぐらい、話をしてもらおうと思います。

(A)

私はガールスカウトに所属していて、BさんとCさんとDさんと一緒にの団体なんですけど、そこで共学化について議論が上がって、この会に参加しようと考えました。元々私たちジェンダーについて勉強していて、だからジェンダーの学んだことも生かせたらいいなって思ってます。少しでも多くの人の選択肢を残すことと、私が行動して、生徒たちの考えを伝えるために参加しました。共学化については、反対なんですけど、しょうがないかなという考えはあります。

(B)

この会に参加しようと思ったのは、ガールスカウトに入っていて、そこで共学化についての話が上がり、それについて詳しく知りたくて参加しました。異性に関わるのが苦手な人にとって、共学化は苦痛なのではないかと考えていて、全て共学にしてしまうと、別学の良いところが消えてしまい、多様性が失われてしまうんじゃないかと考えました。

(C)

私がこの意見交換会に参加しようと思った理由は、ガールスカウトで共学化についての話が上がったからです。私は共学化には反対です。中学 3 年生になった時に別学か共学か選ぶ選択肢がなくなってしまうのが嫌だからと、別学の学校に行ってみたいと思ったからです。

(D)

私はガールスカウトに所属して、参加した目的はガールスカウトで共学化についての話題が

上がって、県教育委員会が以前とったアンケートの結果があるのに、そこから共学化を推進していこうという考えに疑問を持ったからです。私は共学化に反対していて、実際別学に行きたい人もいるから、共学か別学を選ぶっていう選択肢があることはとても重要なのではないかと考えています。

(E)

僕がこの会に参加しようと思った理由は、家族の中に共学出身の人と別学出身の人がいるんですけど、双方のメリットもデメリットもよく聞くので、ほかの方々がどういうふうに思っているのかなっていうのが気になって参加しました。共学には、今までの中学校生活が楽しかったっていう人にとっては良い関係だと思うんですけど、そこで異性に対してなんか気を遣っちゃったなみたいな人がいる場合は、別学という選択肢もあった方がいいのかなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。お一人お一人の意見を聞きました。反対のご意見が多かったようにも思いますし、E さんについては、家族で出身が違うんですね。ではここから、もう少し皆さんの意見を少し、具体的に伺いながら意見を交換していこうと思うんですけども。まず、Aさんから少しお話を伺おうと思います。ジェンダーについていろいろ学んでいらっしゃるの話があったけれども、ジェンダーについては、どんなことを A さんは勉強されてるのかな。

(A)

簡単に言うと、男女で仕事が分けられることについて、ディベートのような感じで話し合ったり、LGBTQ+について勉強したり、いろいろな性があるっていいよねという話もありましたし、自分の性によって収入が変わってくるのがおかしいとか、性別によって何か分けられるっていうのはおかしいっていうのを学びました。でも、男女同じ世界の中にいると、やっぱり性によって仕事が分けられたりもします。だから、性別で分けるっていうのも、性別によって仕事を分けない一つの手段かなっていうのは考えます。

(依田 高校改革統括監)

男女によって仕事が分けられたり、役割が分けられたりすることについて少し疑問を持っているのかな、それについて、実際学校生活、中学校に今通っていて、そういうふうを感じる場面があった人はいますか。性別によって、中学校生活で疑問に思うこと、よくないなと思うようなことというのがあかな。

(C)

先生が教科書とか新学期に運んでくるんですけど、その時に、男子重たいもの持てるかな、みたいな、そんな感じで男子が重たいものを運ぶ仕事みたいな役割になっている。

(依田 高校改革統括監)

女子にはどんな仕事が来るのかな。

(C)

女子はなんか男子が持てなかった余りの少ない教科書とか、ゴミ捨てみたいな、そんな感じ
です。

(依田 高校改革統括監)

軽いものになってくるってことかな、なるほど。そういうのが男子と女子で仕事に分けられ
ちゃったりする。Cさんはそれに対してどういうふうに思うかな。

(C)

おかしいとは思う。男子も女子も重い運ぶの苦手な人とかもいるかなと思う。

(依田 高校改革統括監)

皆さんはどう思うかな。学校の先生が、男子は重いものを運んで、女子には重いものじゃな
くて、軽い方の仕事が割り当てられたりする。だけれどもCさんは男子も女子も重いものを持
つのは苦手な人がいるはずなんだから、それはおかしいんじゃないかなって思ってるとの話で
すけど、それについて意見がある方はいますか。

(E)

男子と女子だと筋肉の量とかの差があって、そういうのが一定数あるのは仕方ないんです
けど、重いものを持てる「男子」じゃなくて「持てる人」でくくった方がいいのかなと。

(依田 高校改革統括監)

Eさんは、男とか女とかっていう性別ではなくて、一人一人が持てるのか、持てないのかで
判断した方がいいってというのが意見だね。

(A)

私も同じように思う。

(依田 高校改革統括監)

違う意見の人はいるかな。(発言なし)分かった、ありがとう。

県教育委員会の考え方をお話しましょう。県教育委員会は勧告に対しての報告の中で、共学
化については、いろいろな人の意見を聞きながら、共学化を総合的に検討して推進していくと
いう見解を出しています。

県教育委員会は、男の人と女の人が、一緒に生活をして、仕事をして行くときに、男だからと
か女だからということで、仕事の内容が決まったり、生き方が変わったりすることはよくない、
とあっていて、一人一人、男の人でも女の人でも自分の特性、自分の希望とか自分の能力も含めて、

自分に合った生き方、職業を歩んで行ってもらいたいと思っています。そうしたときに、固定的に、男の人は、女の人はということではなくて、一人一人にあった生き方をしてもらおうとした際に、男の人と女の人が別々ではなくて、一緒にいる方が、男とか女とか分けて考えないで学校の生活を過ごせるんじゃないか、高校の三年間を男の人も女の人も協力をして過ごした方がいいのではないかとあって、総合的に検討する中で推進することにしています。

だけれども、だからといって、県教育委員会が、全ていつまでに〇〇高校を共学にしますと言ってるわけではない。別学の選択肢がなくなることについて嫌だと思う中学生もたくさんいることがアンケートで分かったし、やっぱり異性が苦手な人のことも考えなければいけないし、共学でも伸び伸びと、異性や人の目をあまり気にしないで、学力も体力も伸ばしていける学校にできるかを考えていこうと思ったので、皆さんの意見を聞こうと思ったのです。

皆さんからは、選択肢とかいろいろなお話がありました。今説明をしたことについて、意見があると思うので、聞かせてほしいと思います。Eさんは今話したことについてどう思うかな。

(E)

今実際子供が日本全体で減ってきてるっていうのもあるんで、共学化することによって、男女の能力が伸びるっていうのは全然良いかなって思ってる。

さっき言ったとおり、僕の知り合いにも、やっぱり異性が怖いなっていう人がいるって言ってたので。やはり道として、いくつか残しておくのはありじゃないかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。じゃあ、Dさんはどう思うかな。

(D)

共学であることで、お互い協力して伸ばすみたいなことは良いと思うんですけど、別学という選択肢も残しておくことで、異性があると本来の自分の力が出せないような人が、別学で力を出せると思うので、全部を共学化するとかそういうのじゃなくて、別学という道も残しておくのも良いと思います。

(依田 高校改革統括監)

はい。じゃあ、Cさんいいかな。

(C)

私もEさん、Dさんと同じで、いくつか残してくのは良いと思うし、異性がないから自分の力が発揮できるとか、そういう人もいるので、私もいくつか残していた方がいいと思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。じゃあ、Bさんいいかな。

(B)

男女で過ごしていて、協力して伸びることもあるけれど、異性とかかわるのが苦手な人がいたとしたら共学に行くのは気持ち的にもつらいと思うので、別学も選択肢として残しておいた方がいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとう。はい、じゃあAさん。

(A)

選択肢として残した方がいいと思うんですけど、ただ少子化で定員割れが起こったりするので、最終的にはおそらく公立高校が全部なくなって私立に移り変わるんじゃないかなと思っています。

ただ、その過程として、男女平等を謳うっていうのはどうかなと思います。少子高齢化だからだんだん減らしていきますよって言われたら、私たちはまあそうか、確かに少ないなと思いますけど、それを男女平等にするために共学化しますよって言われたら、そもそも別学が男女平等じゃないみたいな感じになってしまう。

(依田 高校改革統括監)

分かりました。少子化の話はこの後また、もうしばらくしてから話を移そうと思うけれども、とりあえず男女についての話を続けたいと思います。異性が苦手な人がいるから選択肢が必要との意見が多かったと思います。

そうしたこともあって、県立高校が137校ある中で12校、別学が今もあるわけなんです。ここで、皆さんの意見を聞きたいのは、皆さんの話では、性別で役割を分けちゃいけない、性別ではなくて一人一人の特性を見るべきだとのことでしたよね。

一方で、男子校、女子校の選択肢があった方がいい、異性が苦手ということは、皆さんの中でどう思うのかな。男はこう、女はこう、男子校はこう、女子校はこうだと思うということと、一人一人の人が違うということと、どのように考えているのかな。僕には男の人と女の人を分けているようにも、ちょっと聞こえたんだけど、どんどん反論してみて。

(A)

そうですね、ガールスカウト的には、私たちは一人で何かをやるんじゃなくて、みんなと協力してやり遂げるというのを、キャンプとかで勉強してるんですけど。一人力持ちの男性がいたら、一人力持ちの女性がいたら、その仕事は回ってしまうけど、私たちは一人一人、足が痛いとか、ちょっと体重いとか、そういう体調もありますし、筋肉が少ないなって思ってる人もいますが、その人たちが協力して働きアリみたいな、協力することで何か物事をやっていけるので、男女っていう、その枠に分けたとしても、その中で一人一人の得意不得意が分かってくるんですね。それで、男女という枠で見るんじゃなくて、その人その人のことを、男女も別の世界の中で見ることができるので、男女差別してるわけではなく、分けることで更にその人の個性が見え

るっていうことがあるかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

異性が苦手な女子であれば男子とは一緒にいたくないという人は、やっぱり女子の中だけで、学校生活を送った方がいいと思うかな。それとも一人一人男子とか女子とかじゃなくて、一人一人どういう人なのかを見て、良い人と付き合っていた方がいいよって、どっちをAさんは思うかな。

(A)

私はその人にゆだねます。なぜなら、その人の人生を歩むので、男女同じ世界に無理矢理連れ込むのもいいと思いますし、同じ性を持つ人たちの中にいてっていいと思います。どちらも尊重するんですけど、ただ異性が苦手っていう人の中にもいろいろ考え方あるので、選択肢は残していくっていうか、逃げ道を作るっていうか。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、そうだよな、そう思う。Bさんはどうかな。

(B)

異性というのに問題がない人は、男女一緒に暮らしてても問題ないと思うけど、異性同士でいるのが苦手な人にとっては、同性でいた方が安心して伸びる力もあると思うし、異性がいても問題がなければ異性との力を伸ばした方がいいと思う。

(依田 高校改革統括監)

Bさん、もうちょっと詳しくお話を聞きたいんだけど、異性同士でいるのが苦手とか、異性と一緒にいても安心できるとかっていう人がいるとのことだけれども、やっぱり違うのかな、女子と男子では。

(B)

男子は男子でも、女子は女子でも、思ってることも違うだろうし。

(依田 高校改革統括監)

男の人と女の人では思ってることは違うことってあるのかな。

(B)

あると思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。分かりました。だから、やっぱり女子は女子の考え方を持っている方が安心でき

る人もいるんだよということなんだね。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

Cさんはそれについてはどう思うかな。

(C)

私もそうだと思います。一人一人考え方が違うので、それにあったところを選べばいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

やっぱり男の人と女の人で、そういう考えに違いがあるのかな。

(C)

あると思います。

(依田 高校改革統括監)

うん、そう思うんだね。Dさんはどう思うかな。

(D)

今男女で仕事を分けちゃ駄目って話をしたけど、やっぱり現状では、女子だけの雰囲気とか、男子だけの雰囲気とか、異性という時の雰囲気とか、結構学校によって雰囲気が変わってくるから、男女で分けるんじゃないくて、個人がどういう考えで、女子しかいないからこっち、とかじゃなくて。学校の雰囲氣的に自分は女子だけの雰囲気の方が好きっていう人は別学に行けばいいし、自分は共学でもその雰囲気でやっていけるみたいな考えがあったら、共学に行けばいいし、そういうふうに自分が行きたいと思う学校に行くっていうので、やっぱり選択肢があった方がいいと思うし、自分の好きな雰囲気とかで行けるといいと思う。

(依田 高校改革統括監)

うん、言ってることよく分かりますよ。じゃあ、Eさんどう思うかな。

(E)

男子と女子に分けるのって、それを偏見で分けると差別ってなっちゃうから駄目なんですけど、それこそ男性は右脳の方が発達して、女性は左脳の方がみたいな、元々ある特徴で分けるのは差別とは違って区別だと思うんです。その区別を介した結果、本人の思考とか、特徴とか得意なものとか、苦手なものとか、そういうのはやっぱり特徴っていう、また別のジャンルに当て

はまると思うんで、その特徴とか思考に従った結果、別学校とか共学とか、それは本人の意思なので、差別とかとはまた別なんじゃないかなとは思っています。

(依田 高校改革統括監)

いろいろ良い意見をたくさんいただけて嬉しく思います。

県教育委員会は、男の人と女の人で、たしかにね、例えば骨格の違いがどちらかっていうと男の人の方が体が大きいんだとか、肩幅が広いんだとか、傾向としてあることは否定していません。男女の違いが、全くないとは言っていないです。女の人と男の人の違いは事実としてはあると思ってはいるんです。

ただ一方で、男の人と女の人の考え方が違うだとか、あとは能力がとか、男女で決まった能力の違いがあるかっていうところについては、県教育委員会はそのようには思っていないです。女の方は語学が得意、たとえば英語が得意なのは女の人だとか、数学が得意なのは男の人だとか、社会にそういうのがあるのかもしれないんだけど、県教育委員会はそういうことは考えていないです。男の人でも女の人でも、変わりがなく、一人一人得意な人もいれば、得意じゃない人もいます。運動もそうです。女の人でも足の速い人もいれば、男の人でも足の遅い人もいますし、水泳が得意な人もいれば、ボール投げが得意な人もいて、いろいろ個人個人の得意があって、それは個人の違いであって、男の人と女の人で何か能力に差があるっていうふうには県教育委員会は考えていません。

全体として、どちらの身長が高いんだとか、どちらのボール投げが遠くに投げられるんだかっていうのは、それは統計すれば事実は事実としてあるんだけど、だからと言って、男女の能力差を前提において、学校の教育活動をしように考えていることはなくて、一人一人の持っている特徴、特性に合わせて教育をしていくべきだというのが県教育委員会の考え方です。

性別である特徴っていうのは、事実としてあるものはあるけれども、それによって教育活動を男と女で分けようという考え方は持っていないということです。ここで皆さんの話を伺おうと思います。Dさんから学校によって雰囲気が違うという話がありました。女子校はこう、男子校はこう、共学はこう。だから選択肢になっていいんだっていうふうに皆さんは多分考えてるんだと思う。それを否定するわけではないです、県教育委員会はそうやって学校を揃えてるわけだから。選択肢として選んでもらっていいと思ってるのだけれども、県教育委員会が考えているのは男とか女とかっていうことではなくて、一人一人の特性に合った学びをやっていこうって考えている中で、男子校とか女子校とか、その学校の雰囲気が、男の人はこうだから、女の人はこうだから、になってるとするんだとしたら、今僕が言っていることと、学校がやっていることが、もしかしたら違うことになっている可能性が出てきちゃうなって思ったんです。

そこで皆さんに聞きたいのは、皆さんの中で男子校とか女子校と、共学のその雰囲気とかイメージ、皆さんはどう思っているのだろうって、ちょっとそこをまた聞いてみたいんだけど。じゃあ、今度はDさんから行こうか。女子校と男子校の違いってどう思うかな。共学もなんだけど、そこにどんな違いがあると思うかな。

(D)

女子校は、なんか共学とかにも比べて、すごい仲が良いというか、仲が深まりやすいとか。共学に比べて、やっぱり男子よりも同性同士の方がやっぱりなんか合う部分があるっていうのがあって、それで同じ性別の方が、仲は深まりやすいとか。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、特に女子校の話なのかな。同じ性別の人がたくさんいる方が、仲の良い友人が作りやすいっていう、そういうことかな。ちょっと違うかな。

(D)

イメージだから分かんないんですけど、共学はやっぱり男女とかで仲良くて、やっぱり女子校とか別学の方が、自分と周りでなんか似たような部分があるから、気軽に話せるような人がいっぱいいるみたいな。

(依田 高校改革統括監)

はい。じゃあ、Eさんは女子校、男子校、共学でイメージって違うかな。

(E)

違う側面もあります。例えば男子校に行きたい女子校に行きたいっていう人って、女子校、男子校っていう希望がある人が集まってるわけじゃないですか。だからここから持論なんですけど、もう必然的に思考が似通ってるのかなっていうふうに思います。ここに行きたいって言って集まった人たちだから、まあやっぱり似た思考になった結果校風が変わるっていうこともあると思う。

(依田 高校改革統括監)

行きたい人が男子校、女子校を選んできてるわけだから、思考が似ている人が集まるから、そういう思考の校風になっていくんだっていう考え方だね。Cさんはどう。

(C)

私は共学と別学はやることは変わらないけども、別学では男子だけの部活とか、女子だけの部活とか、そういう分けられているのがないのと、仲が良さそうだなっていうイメージがあります。以上です。

(依田 高校改革統括監)

はい。じゃあBさんは。

(B)

男子と女子でやっぱり思ってることとか、考えてることとかは、女子同士男子同士だと似て

たりするけど、女子と男子を比べた時に考えてることが全然違ったりして、話が噛み合わないことは時々あるかもしれないですし、女子と男子で一緒でもいいけど、分かれているとそれなりに雰囲気が変わったりするんじゃないかと思う。

（依田 高校改革統括監）

それは、女子校と男子校のイメージの違いになってくるのかな。考えが違って、お互いに話が噛み合わないようなことがあると。それは男子校と女子校の雰囲気の違い、イメージの違いになってくるかな。

（B）

そう思います。

（依田 高校改革統括監）

例えば女子校のイメージってどんなイメージをBさんは持ってるかな。

（B）

親しみやすいイメージがある。男子はノリで親しくなったり。

（依田 高校改革統括監）

うん、うん、なるほど。Aさんはイメージ持ってるかな。

（A）

別に違くないと思います。一緒だと思います。中学生高校生は思春期じゃないですか、異性の目を気にしてしまう。それ本能的にそうなると思うんですけど。だからこそ、男女で分けることで、男子校、女子校、どちらの方面を見ても、自由に自分らしく生きてる感じなんです。共学の学校よりも生き生きとした感じがして、異性の目を気にしないからかなと思った。女子校に通ってる知り合いがいるんですけど、その子は異性の目を気にしないから、自分らしく生きていけるって。

（依田 高校改革統括監）

分かりました。今のAさんの意見はどう思うかな。共学と別学を比べたってことだね。皆さんは共学と別学を比べてみてどう思うかな。そこはやっぱり共学に比べると別学の方が、生き生きと自由に生きてるっていうふうにイメージしてるんだね。

（出井 県立学校部副参事）

いろいろ意見ありがとうございます。私は3年前まで共学校の校長先生でした。皆さんこれから高校に入りますよね、ちょっと事例を一つだけお話ししたいなと思っています。自分らしく生きるとか、そういう点で今高校がどうなっているのかというところです。

公立高校で私が校長先生をしていた時に、男の子なんだけど、女性として、スカートを履いて高校に通いたい。という相談がありました。校長として、学校はみんなが伸び伸びとできるようにしたかったので、受け入れられますよと答えました。特に学校は、いろいろなことを学ぶ場なので、いろいろな子に入ってほしいなと思ってました。

その子が今年卒業したんですけど、その子が入ったことによって子供たちが変わりました。いろいろなものを受け入れて、いろいろなことを考えるようになりました。ほかの子供たちの中から、実は私もそういう考えがあるんですよとか、自由に活動できるようになりました。いろいろな子たちがいる中で学んでいくところにおいては、学校も変わっています。当然先生方も変わらないといけない。先ほど重いものとかで男女を分けて先生から指示されるといところもあったかもしれないけど、大人も考えていかなくちゃいけない。

共学校が良い、別学校が良い、という話ではなくて、皆さんがこれから高校を希望を持って選択するに当たって、いろいろな多様化の中でしか学べないということも、その時私も経験しました。これからの時代は皆さんと共に作っていかねばいけないので、高校に入った時に、その環境として固定化するのか、それともいろいろなものを作る場を作っていくのか。これはみんなで考えていかなくはいけないものなのではないかな、とその時は感じました。

(依田 高校改革統括監)

Aさんから思春期なので、異性の目が気になると、別学だと異性の目が気にならないで、自由に生き生きできるとの意見がありました。そのことは事実なんだと思ってます。実際自由に生き生きと活動できるということは、アンケートや、いろいろな方からその話を聞く中で、意見をたくさんいただいています。

同性だけで生き生きと伸び伸びと活動していく中で、女の人はこちらだよね、男はこちらだよね、というような、性別によって違いがあるみたいな固定観念が、その雰囲気の中でできちゃって、これが役割分担にも、もしかしたら進んでいってしまう。女の方は、昔で言えば、家庭に入って子供を育てるのが女の人の特性に合ってるんだ。男は社会に出て、仕事をして、お金を稼いでくるのが、男の人の特性に合ってるんだ。いわゆる特性で物事を見て、役割分担まで決めてしまうような考え方に、男の人だけとか女の人だけで伸び伸びと気持ちよく生活することによって、そういうふうなことになっていってしまうのはとっても良くないことなんだなと考えている。昔はみんな、それが普通だと思ってたから。学校もそれが普通だと思ってた。だけど今は、男女共同参画って難しい言葉があるけれども、男の人でも女の人でも、共に協力をして社会で活躍をして、家庭のことも仕事のことも、一緒に協力をして、一緒にそれぞれの個性に合わせて、得意不得意を認め合った中で、協力し合ってやっていこうという世の中にこれから進めていこうとしていて、学校もそういう学校にしたいなっている。

別学であって、異性の目を気にしないで、伸び伸びと自由に生き生きと学校生活を送ることはとっても良いことだと思うのだけれども、そういう雰囲気の中で、男女の特性のようなものができていってしまわないようにしたいと思っているんです。それについて皆さんの話を聞きたいんだけど。

(A)

その前に質問いいですか。別学でそういう特性が分かれてしまう、男女によって分かれてしまうということは、女性は家事の授業、男性は仕事の授業があるってことなんですか。

(依田 高校改革統括監)

20 年前まではあったんです(のちに 30 年前に修正)。これは共学校でも男子校でも女子校でも一緒です。例えば男の人は技術っていう、中学生で言えば、ラジオの組み立てとかを授業で勉強したり、女の人は料理とかを勉強するとか具体的にカリキュラムの違いが、共学校でも男子校でも女子校でもあったんです。今は教育課程とか外形的なものはないんです。

ないのだけれども、今言われてるのがさっきCさんが言ったような、隠れたカリキュラムがあるのではないかとすよね。例えば、女子校の体育祭と男子校の体育祭の違いに隠れてないか去年調査をしたんです。調査結果では、男子校の人には、共学になったらこれはできないとか、男子校だからこれができるとか、女子校にも女子校だからこその活動だとか、この行事は女子校だからのもの、と考えられているものもありました。その一つ一つの取組や行事を県教育委員会が良いとか悪いとかは思っていないです。ただ、男子だからとか、女子だからということをも前提に置いた行事には、男女の特性を刷り込むような教育になっちゃうのはよくない。例えば伝統があって、みんなが喜んでやってる行事自体を否定はしない。だけれども、その行事をする理由に、男はこうあるべきだからこういうことをやる、女性はこういう女性であるべきだからこういう行事をやる、っていう考え方の下でそれを教育活動としてやってるんだったら、それは刷り込みになっちゃうんじゃないですかっていうふうに県教育委員会は思ったんです。

そこで女子校と男子校に、共学も含めて、共学だって男子と女子で演目が違った際に、演目の違うこと自体を否定はしてないんですよ、生徒がやりたいような演目があってやるにはいいんだけれども、そこに女子はこうであるべきとかね、男子はこうあってほしいとか、男の人のやるものだから、女の人にはこれはやらないでくださいみたいな話になってくるとすると刷り込みになっちゃうと、今は目指そうとしている社会像に対する考え方とずれが出てきちゃうなって思ったんです。

そういう危険性があるとすれば、県教育委員会は学校に対して気をつけるように伝えなきゃいけないし、また皆さんの中にもちょっと考えてほしいなと思うところがあったんですけど、どうですか。

(A)

でも自分たちがやりたいって思っている人であればやればよいと思います。ただ、学校側があなたたちは女子なのでこれをやりなさい。あなたは男子なので、これをやりなさい。と刷り込んでいるのであれば、それは学校側がやっぱり固定観念がまだ薄れてきてないなと思うんですけど、ただ生徒自身がこれをやりたいですって言うるのであれば、それは尊重しなきゃならないと思います。性別によってたぶん競技は考えてないと思うんですね、同じ性別だけだと私たちはやりたいのはこれだっていうので、異性を気にしないっていうのもあるんだと思うん

ですけど、やりたいのはこれだっていうのを、はっきり言える環境ではあると思うんですね。共学と比べて、やはり異性の目を気にしないから、自分の意見を言いやすいっていう人も中にはいると思うんですよね。だから、それこそ刷り込みじゃなくて、自分たちで発信している競技だったらいんじゃないかなと。

(依田 高校改革統括監)

私の話の中の家庭科について、20年前ではなく30年ほど前のことでした、ごめんなさい。今のAさんの意見、ほかに何か考えがある方はいますか。男の人と女の人で、考え方の違いがあるとか、意見が合わないこともあるとの事実があったんだけど、それによって、例えば体育祭で、女子はダンス。男子は棒倒しといったように、これは共学も含めてなんだけれども、男の競技だ、これは女性だという、そういうふうに学校の教育活動になることについてはどう思うかな、Cさんはどう思うかな。

(C)

それは学校のことなので。学校が男子と女子で別にしてるんだったら、それはおかしいと思うなら、競技を変えたりすればいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

それはAさんがおっしゃってるのと似てるかな。要は子供がどう思うか、生徒自身がどう考えるかで考えていけばいいということをCさんはおっしゃってるのかな。

(C)

はい。

(依田 高校改革統括監)

うん、そうか。Dさんはどう思う。

(D)

体育祭の競技もやっぱり、さっきおっしゃってたダンスとかの話を先生が決めたのなら、しょうがないと思うこともあるけれど、生徒がやりたいと思ったことも、アンケートを取ったり、男女が共同で一緒にできるものを取り入れるのも大事だと思います。

(依田 高校改革統括監)

じゃ、ちょっとまた聞こうと思うんだけど、男と女の特性や特徴は違うんだとの意見がありました。だとすれば、特性に合った教育が必要だという意見もあると思います。良い悪いではなく。別学校の雰囲気とか伝統は、男性の特性とかそういったものから来てると思うのかな。

(E)

伝統行事ってなんか昔の生徒たちが作り上げたみたいなものがあるじゃないですか。だから当時の生徒たちの考えが反映されてるのかなって思う部分もあります。だから、やっぱり特性までも反映するのはよろしくないと思うんですけど、考え方を反映するのは全然良いと思うので、時代によって、伝統行事を変えていくっていうのもいいんじゃないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。Dさんはどう思うかな。

(D)

さっきAさんが言ったように、生徒自身がこうしたいっていう意見を、学校が反映させていくのはいいと思うんですけど、学校からあなた女性だから、これをやりなさいとか、そういうのはやっぱりだめだと思うんですけど、やっぱり昔からある体育祭の伝統、ダンスの競技は昔からやってるよとか、そういうのだったら学校の特徴としてはとっといてもいいのかなっていう考えもあります。

(依田 高校改革統括監)

それも生徒が判断した方がいいということかな。学校というところだから、先生たちが生徒に対して、これを学んでほしい、これを身につけてほしいという気持ちはあるから、学校の先生と生徒たちが意見を交わしながら、作り上げていくのが一番良いと私も思っています。

時間も過ぎてきたんで話を少し変えますね。さっきAさんが少子化の話をしました。その少子化について、お話を聞いていきたいんだけど、少子化で、皆さん今後どのくらい子供の数が減っていくって思いますか。10 年とか 15 年という単位で見るとどのくらい中学生が減っちゃうって思ってますか。Dさんどのくらいだと思うかな。

(D)

だいたい今自分の学校の学年が 100 人とか、120 人とか、そういう 1 学年なんですけど、去年小学校に職場体験で行った時に、その一年生の数が 100 人切ってて。それでちょっとずつ減ってくのかなって。

(依田 高校改革統括監)

そうなんだ、ちょっとずつ減っていくんじゃないかと。Cさんはどれくらい減っていくと思う。

(C)

半分くらい。

(依田 高校改革統括監)

半分、どのくらいで。

(C)

20 年ぐらい。

(依田 高校改革統括監)

20 年ぐらいで半分、なるほど。Bさんはどう。

(B)

だいたい 10 年後ぐらいには今の 8 割ぐらいになってるんじゃない。

(依田 高校改革統括監)

今の 8 割ね、なるほど。

どのくらい子供がずっと減っていくか事務局データありますか。

(事務局)

県教育委員会の推計です。公立中学校等の卒業予定者数になりますが、令和 6 年 3 月から、令和 20 年 3 月までの 14 年間で、約 58,900 人が約 44,100 人と、14,800 人程度減少することが見込まれています。

(依田 高校改革統括監)

令和 6 年から令和 20 年だから、15 年ぐらいのスパンで 25%程度だから、100 人いた学校、Dさんの学校が 100 人ちょっとと言ったけど、100 人いる学校が 75 人程度に県の全体の平均でなるとのことですね。で、ここでまた地域によっても、大きく減る地域もあれば、ほとんど減らない地域もあります。この東部・利根地域はどうだろう。

(事務局)

東部・利根地域は令和 6 年 3 月が 14,668 人ですが、それが令和 20 年 3 月には 10,349 人、4,319 人の減ということになっております。

(依田 高校改革統括監)

県全体だと 25%程度と言ったけど、東部・利根地域になると約 3 割です。これから、3割の高校を減らすことは考えていないけれども、学校の数には減らしていかないといけないと思っています。なんでかという、それは生徒の数が減ることと、高校はなかなか小さくできないからです。

高校には、たくさん教科がある。先生が小学校のように、クラスの数に応じて先生の人数が決められない。高校の先生の人数が少なくなると、例えば数学を教える先生が国語も教えなければいけなくなったりすることもあるかもしれない。高校で一人の先生が違う科目の勉強まで教えるのは難しい。専門の資格を持った先生に、専門的に各教科の勉強を教えてもらえないのは、よくない。そういうことを考え、高校には一定の大きさが必要だと思っています。

さらに、高校は同じ勉強する学校ばかりではなくて、商業や、農業、工業の勉強をする学校も、普通科目を中心に勉強をする学校もある。一人一人の能力とか希望に沿って、通える学校を、減らす中でも揃えていかないといけない。そうした時に、学ぶ内容が重なる学校はくっつけていく必要がでてくる。今個々の具体の高校の話をしているわけではない。

それが、皆さんと話をしてきた男女別学、共学のことは別の話として、学校の学びの選択肢をちゃんと揃えながら、学校の数減らしていこうとすると、同じ学びの学校などをくっつけたりして、生徒に自分の希望と能力に応じた学校を各地域に配置しようとした時に、再編整備を考慮しなければいけない。そこに、同じ学びをする別学校が、同じ地域に設置を続けることができるかどうかは、また別の議論としてあるので、県教育委員会が考えなければいけなくなってくる。

(A)

それは、共同参画の苦情処理の方々が連絡する前から考えていたって言うことですか。

(依田 高校改革統括監)

苦情処理委員の勧告がある前から、再編整備は20年以上前から進めてきていて、少しずつ県立高校は減ってきているんです。別学校も減ってきている。

例えば、行田女子高校と行田進修館高校、行田工業高校が一緒になって、今、進修館高校という共学校になっています。男女共学を推進するという考えとは別で、地域に残す学びを考え、別学校も共学校と同じように減ってきている。

で、今後ますます中学生の数が減っていく時に、今まであまり話題に上ってこなかった地域でも、学校の再編整備は必要になってくる。東部地域の皆さんが住んでいる地域においても例外ではないってことなんです。だから、今まで話していた話とは全然別の話として、県教育委員会は考えていかなければいけないと考えています。

(A)

その考えていたその流れの途中で1件の苦情が来て、じゃあついでにみたいな感じですね。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会は、元々男子と女子が共に学校生活を送ることは好ましい、望ましいことだと、前から思っていました。だから、新しく作ってきた学校は共学校です。少子化の状況があまり顕著にならないうちは、基本的に学校が、自分の学校を今後どうするかを考えていくことを前提にしていた。男女はともに学ぶことは望ましいことだって県教育委員会は考えていて、学校の先生たちもそのように考えてきた。

ただ、生徒の意見もあったり、中学生の皆さんの意見もある中で、各学校で自分の学校の今後を考えてくださいと、去年まで言ってきた。けれども、今おっしゃった、少子化と、学校の再編整備を考えた時に、学校に任せるのではなく、県教育委員会が全県を見渡しなが、各地域

の学びのバランスを今、別学のある地域でも考えることが必要になってきたので、県教育委員会が主体的に判断をすることにしました。

これからは県教育委員会が主体性を持って考えるようにしたいと。学校は自分の学校について考えているのに、急に県教育委員会からズドンとなるのはよくないから、これからは県教育委員会が、共学の推進も、主体的に考えていきますということです。

(A)

ドーンと話を進めるために、共学化にすることでジェンダー平等になりますよ、と。

(依田 高校改革統括監)

元々県教育委員会は推進していたんです。

(A)

推進していたけど、学校の方は動かないから、じゃあ、県教育委員会はジェンダー平等だから、県教育委員会が考えますよって言ったんですよね。

(依田 高校改革統括監)

ジェンダー平等、男女共学の推進というのは、今までも学校と県教育委員会は推進する立場でできているんです。

これまで学校は、今後の自分の学校を考える中で、今の別学 12 校については、共学化の具体的な検討を進めなかった。ほかの学校で、例えば常盤女子高校が常盤高校になったり、川口工業の学科で、男子だけだったのを共学化したり、学校が独自で取り組んだものはあります。

12 校については、具体的な取り組みをする必要がないと学校が判断してきたので、県教育委員会も、学校の主体的な取り組みを尊重していたから、12 校には指示を出してこなかった。

これからは、県教育委員会が責任を持たないと、周りの学校の再編整備を見て、これまでの男女共学の推進とは別の議論として共学になってもらわなければいけない可能性も出てきたということです。

(A)

元々はジェンダー平等が目的ではなく、少子高齢化の問題が浮き彫りになってきたからでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会が主体性を持つと言ったのはそのとおりです。ただ県教育委員会の元々の考え方は推進ですし、これまで共学化は進めてきた。12 校については、学校で取り組みがなかったから止まっていたということ。

(A)

元々は少子高齢化で進めていた話ということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

元々は少子高齢化と関係なく、男女の共学化を推進してきた。少子化は関係なかった。

(A)

じゃあなにが原因なんですか。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会は男の人と女の人と一緒に学校生活を送る方が望ましいと考えている。それはもう何十年も前からです。それは男の人でも女の人でも同じ内容の学びをした方がいいとの考え方。分けて別の学びをさせるのは県教育委員会としての考えではないから。

だから男子校でも女子校でも同じ学びをなるべくするように県教育委員会は考えてきた。だけど同じ学びをするには一緒に学んだ方が同じ学びになる。

(A)

効率が良いということですか。

(依田 高校改革統括監)

効率も良い、効率だけじゃないけど。分けることによって、特性がクローズアップされるリスクはあると思っている。

分けて学ぶことで生き生き学べることは良いことなんだけれども、そこに隠れている課題もあると思っている。一緒に学ぶことで同じ学びができるということは、実態として同じ学びができと思っている。分けることによって同じ学びができない課題が潜んでいると思っている。

男の人でも女の人でも、同じ勉強をした方がいいという考え方は、これはもう 80 年近くそう思っている。女の人のためにも、男の人のためにも、違う学びがあった方がいいと昔は思っていた。女の人には良いお母さんになるような教育が必要とか、男の人には外に出て一生懸命仕事して、お金を稼いでいくような教育が必要とか、そういうふうに教育を分けた方が昔は良い教育だと思っていた。

けれども、戦争が終わった後から、男の人でも女の人でも同じ勉強をした方がいいとの考えに沿って、ずっと共学化を進めてきた。けれども、それぞれの学校の個性があったり、地域の思いがあったり、中学生の希望がある中で、各学校が自分で考えてきた。

それとは別にここ最近においては、少子化で学校を減らしていかなければいけなくなった時に、共学校も別学校も、どちらも変わらずに統合しないといけない学校が出てくる。

(E)

さっきの議題で話した内容に、少子高齢化っていう問題が加わっちゃったから、学校だけじゃなくて、県教育委員会全体で考えなきゃいけない。

(依田 高校改革統括監)

それを県教育委員会が主体的に検討しますというふうに去年発表した。だからその理由は少子化なんです。

(E)

やらざるを得なくなった。

(依田 高校改革統括監)

一定の規模の学校を残すためには、学校の数を整理しなければいけなくなっている。

(C)

別の話になっちゃうんですけど、共学化問題について、公費で行われる公立高校だけが対象で、私立高校は男女別学が議論には上がってないそうなんですけどどうしてですか。

(依田 高校改革統括監)

社会全体とすればあがってないわけではないんだと思う。けれども、勧告と報告の関係だと、勧告が県立高校の男子校に入りたい女子中学生が、県立高校の男子校に入れないことに対しての苦情に対してだった。もし私学の男子校に入りたいけれども、入れないのがおかしいという苦情に対してだったら、違ったと思う。勧告も県立高校にだけなされた。

県教育委員会が所管しているのが県立高校だから、県教育委員会が今回報告を出している。私学も共学化については、それぞれの私学の学校法人の中で、今後の学校をどうするか議論されていることは、新聞報道などでも分かる。社会では私学も含めて、共学化の動きは出てきています。

(C)

少子化の問題で減らすとかって話にはなっていないんですか。

(依田 高校改革統括監)

私学でも少子化の影響で共学化を考えるっていうのは、言われてます。

生徒数の減少に応じて関西で今、武庫川女子大という大きな女子大が共学になると話題になっている。共学と別学の議論がある中で、さらに少子化の影響があって、共学化の議論っていうのはいろいろなところでされているので、私学に関心があれば、私学の方も関心を持って見てもらった方がいいかもしれない。

(C)

はい。

(依田 高校改革統括監)

皆さんから質問とか意見とかがあれば。また、みんなの中で意見交換をしたかったら、話してください。

(A)

やっぱり別学校ちょっとは残しといた方がいいかなと思います。全国的に共学化が進んでるじゃないですか。埼玉の別学校は頭がよろしい学校が多いじゃないですか。それが埼玉に人を呼ぶ力になっているのであれば、残した方が埼玉のためにもなるかなって思います。

(E)

今の意見すごく同意なんですけど、でもやっぱり定員割れしちゃってる別学校を残すっていうのは、実際問題なかなか難しいじゃないですか。だから定員割れしてない、まだ望まれてる学校は残してほしいですね。似たような意見になっちゃうんですけど。

(D)

私も、その別学に、定員割れとかせずに、行きたいって人がいるのであれば、残しておいてもいいと思うし、でも、人数が少ないって言うのだったら、少ない別学を残していかないといけないって言う考えではない。

(依田 高校改革統括監)

中学生の志望が少なくなった学校と、中学生の志望が集まる学校とで、違いがあると思うんです。それも大切なことなんだけれども、もう一つ、その地域でどういう学びの内容を残すのか、これからいろいろ今までにない学びの必要があるのかなと思っている。

例えば、中学校から高校の中高一貫教育、外国の大学に進学できるような学び、産業教育、AIとか情報をしっかり学べる学校、自分のライフスタイルにあった、通信制とか定時制の良いところを併せ持ったような学びができるとか。

これまでである学校だけではなくて、新しい学校も考えていかなければいけない。新しい学校ができた時に、男子も女子も両方行ける学校にしないといけないとかを考えた時に、中学生の希望が多い学校は残すだけじゃなくて、この地域にどういう学びを、どういう学校を配置していくのかということも、両方合わせて考えていこうとしています。魅力ある学校を作った際には、どちらかの性別しか学べない学校にするのは難しいのかなと思っています。

ただ、皆さんの地域にある別学校について、今どうしたいとか、こうしたいと思っているってことではないことは、安心をしてほしいと思います。意見交換をする中で、県教育委員会の考え方をお伝えをしながら、皆さんの意見を伺って、その意見をそのまま県教育委員会で共有をして、今後の、今説明した再編整備も含めて、男女共学化の推進を検討していくことにします。決して県教育委員会の考え方が正しいから、県教育委員会の考え方に皆様になってくださいと思っているのではないことは分かってください。県教育委員会是这样考えているということだと思ってください。

県教育委員会の考えに対して、皆さんが反対意見を持つことはとても大切なことだと私は思っています。私も皆さんの意見を正しいとか正しくないとか考えながら聞いていません。そのまま素直に中学生の意見として、とても参考になったと思ってます。嬉しく思ってます。以上で終わりにしたいと思うんだけど、もしあれば。

(A)

去年アンケート取ってたじゃないですか。それで、中学生も高校生も別学は残してほしいというのが半分超えていたと。たくさん見られたと思うんですけど、その人たちの意見も尊重するのであれば、男女別学ちょっとは残してほしいなと思います。

(依田 高校改革統括監)

はい。ちょっと去年のアンケート、特に中学生の意見をちょっと見てみようか。

(事務局)

男女別学校 12 校のあり方についての質問結果です。中学生の回答ですが、「男女別学校は共学化した方が良い」が 18.7%、「男女別学校は共学化しない方が良い」が 19.3%、「どちらでも良い」が 56.2%、「その他・分からない」が 5.8%という状況でございました。

(依田 高校改革統括監)

たくさんの中学生に答えてもらってありがとうございます。共学化しない方が良いというのがやっぱり 19%、この意見は率直に受け止める必要はあります。それだけの割合の方が、別学校を共学化しない方がいいと考えてることは受け止めていきたいと思います。

(A)

その「共学化しない方が良い」の中の中学 3 年生の割合は何パーセントですか。

(事務局)

これは学年別には出ていないです。

(依田 高校改革統括監)

学年別にはちょっと分からない。2 割近い人が思っていることは、少ないと思っていません。

(A)

中学生でも、中学 3 年生、2 年の後半から 3 年生にかけて進路学習するんですけどうちの学校は、だから 1 年生、2 年生あたりはそもそも高校について知らないとか、そういう人も多いんじゃないかなって資料を見て思いました。

(依田 高校改革統括監)

現実味という意味ではそうかもしれない。ほかはありますか。大丈夫かな。
今日は皆さん、ありがとうございました。

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(中学生の部・南部会場)

1 日時 令和 7 年 8 月 6 日(水) 10:00~12:00

2 場所 埼玉県県民健康センター 中会議室

3 参加者 2 名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

僕の方で進行させていただきますので、話を聞かせてくださいね。簡単に自己紹介と、皆さんの意見、考え方について、最初に簡単にお話をいただいていいですか。

(A)

私の共学化に関する意見としては、賛成です。なぜなら、共学化にした方が、これから社会に出た時の男女の関わりって、すごく私自身で大切なものだと思っているし、それに、男子と女子で分けて、それでももちろんいいとは思いますが、男女共学にした方が、その分学べるものも多いと思うし、社会に出た時に、例えば会社などの先輩後輩とか、そういう時にも絶対に役に立つと思っている、だから共学化は絶対自分のためにもなると思うし、生きていく上で必要なことだと思うから、賛成と思っています。

(依田 高校改革統括監)

はい。ありがとうございます。

(B)

僕の共学化に対する意見としては反対です。

共学に行きたいなら、共学校に行けばいいと思うし、やはり男子校とか女子校ならではの良いところだってあると思うので、県で少しあった方が、絶対選択肢は広がると思うし、あとは、行きたい人も必ずいると思うので、反対です。

(依田 高校改革統括監)

はい。ありがとうございます。

賛成と、反対の意見が両方出てきて、お互いの考え方をこれからゆっくりとお話を聞いていきます。

まず A さん、学べるものが多いとおっしゃったけれども、共学で学べるものは、どういうことが学べると思われますか。

(A)

例えば私の学校では、男女でけんかになっちゃうこともあるんですけど、そのけんかからうまく異性の接し方とか学べるんじゃないかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

もう少し話を聞かせてもらっていいかな。

(A)

女子はこの人についていくみたいなリーダーが女子の中にいて、男子にもリーダー的な子がいて、その中で女子は女子のリーダーの子についていくから意見があって、男子も男子のリーダーの子についていくからその意見があって、それが合わない結構ぶつかっちゃうことが多いから、そこでけんかになっちゃったりすることがあります。

(依田 高校改革統括監)

男子と女子で、集団が分かれているのかな。

(A)

分かれてるところもあるし、男女関係なく仲良くしているところもあるけど、けんかになっちゃう時は、みんなリーダー的な子に気を使って、自分の意見を言えない子たちもいるからそうっちゃう。

(依田 高校改革統括監)

そういうことがあるんだね。ありがとう。

Bさんの学校にもそういうことはありますか。

(B)

あります。

(依田 高校改革統括監)

男子と女子で意見が分かれて、けんかになっちゃうことはあるかな。

(B)

あることはあるんですけど、そんなには多くないかな。

(依田 高校改革統括監)

男子と女子で意見が違うことはあるかな。

(B)

いや、ないです。

(依田 高校改革統括監)

Aさんは男子と女子で考え方が違うっていうようなこともあるのかな。

(A)

みんなが一緒に意見になる時もあるし、男子と女子で分かれちゃう時もあるし、女子と男子のグループと男子と女子のグループで分かれちゃうときもあって、いろいろパターンがあります。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、分かった。もう少しお話を聞くな。

男子と女子で、Bさんは別に意見に違いがあることはないとお話をしてもらったかと思うけども、男子と女子で考え方が違うことはないと思うかな、それともあると思うかな。

(B)

あると思います。

(A)

あると思います。

(依田 高校改革統括監)

女子はこういう考え方とか、男子はこういう考え方とか、そういうことがあったかな。

(A)

例えば、私のクラスであったことなんですけど、一人の子がちょっと転んで怪我しちゃって、それで、女子は保健室にすぐ連れていった方がいいよとなりましたが、男子は、先生をこっちに來させようって考えで、それで女子と男子で考え方が違うっていうか、発想っていうか、やっぱりそういう生物学的な感じから違うのかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

女子は怪我したら保健室に連れて行こうと思ったけど、男子は先生をここに連れてくればいいのかと言ったんだね。

Bさんにはそういう経験はあるかな。

(B)

その怪我の具合によると思います。あと、意見の違いは、今まで生きてきた経験とか、周りの環境とかに左右されると思うので、その学校がたまたまなのか、低確率で男子と女子で別れちゃったのかは分からないと思います。

(依田 高校改革統括監)

Bさんはそれは男とか女ではなくて、一人一人の経験とか、考え方の違いによるんだ、個人個人の違いだと思うということだね。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

Aさんはどう思うかな。

(A)

経験とか言われたら、それも多少関わりはあるかもしれないけど、もとはやっぱり女子と男子で考え方は違うんじゃないかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

女子と男子で考えが違ったりすることもあるのかもしれないし、一人一人で経験とか、生活が違うから考え方が違うということもあると思います。

今度は、授業であつたり、学校行事であつたり、学校生活が男女で違った環境があつた方がいいと思いますか。男子校と女子校と共学って意味ではなくてね、男の人と女の人と変わらない学校生活がいいと思いますか。それとも男の人は男の人用があつた方がいい、女の人は女の人用があつた方がいいと思うかな。

(A)

私はやっぱり同じ教育環境の方がいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

Aさんは、男子と女子で考え方が違うところもあるとは思いますが、考え方が違ったとしても、学校の生活は同じ方がいいという考え方だね。

Bさんはそこはどう思うかな。

(B)

同じがいいって人もいますし、違った方がいいとか思ったりする人もいると思います。

(依田 高校改革統括監)

Bさんはどっちかな。

(B)

体育とかなら別とかだし、国語とか数学とかだったら、別に一緒でもいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

机に向かってする勉強は一緒でもいいけれど、体育とかは、別の方がいいという考え方なのかな。

(B)

はい。そうです。

(依田 高校改革統括監)

それはどうしてなんだろう。

(B)

体つきとか違うじゃないですか、筋肉量とか。それで、運動能力とか人によってもそれぞれだし、男子の方が動ける人が多いと思います。

(依田 高校改革統括監)

男の人と女の人で、筋肉量とかいわゆる体格とかが違うから、そういうものを使うときには分けた方がいいと思うということかな。そこは A さんはどう思うかな。

(A)

筋肉量が違うけど、でもそこからいろいろ学べる技術とかがあったりすると思うので、一緒の方がアドバイスとかもしやすいんじゃないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

2 人の考え方が違ったね。お話を聞いてきたけれども、県教育委員会がどう考えてるのか、お話をします。

県教育委員会は、男の人と女の人で、考え方が違うとか、体格が違うとか、そういったものは、あることも、ないこともあるだろうし、いろいろだと思います。皆さんの考えと一緒にしたいと思います。

ただ、県教育委員会は、男の人と女の人で違う勉強とか違う学校生活を送ることに、積極的な考え方は持っていません。男の人と女の人が、一緒に協力をしてこれからの社会を生きていこうとするときに、違う教育活動をするのはあまり良くないと思っています。男の人でも女の人でも同じ勉強を、同じ学習をしてもらいたいと思っています。分けて学ぶよりも、一緒に学んだ方が、同じ内容の勉強ができるというように考えています。ここは学校ではないから、県教育委員会が言っていることが正解ですとか、このような考えにしましょうということではなく、皆さんは皆さんの考え方で、お互いの考えを意見交換をしながら、理解を深めていきたいという場なので、決して私の言うことが正しいと言われていないと捉えないでください。

それを前提にして、B さんが最初に話した、男子校、女子校にも良いところがあるという話について、どういうところがあると思うかな。

(B)

女子ではないんで、ちょっとそこは分からないですけど、共学校だと、異性に気遣いとか気にしちゃうじゃないですか。でも男子だけだと全力でツッコミとか体育祭とかも楽しめるし、価値観とかも合いやすいと思う。なんか男子校だったら、共学よりは楽しめるんじゃないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

男子だけの方が合いやすいということですかね。異性があると気を遣ってしまうということなのかな。

(B)

はい。僕の友達にも男子校に行ってる人がいて、その人は共学の中学校よりも、高校の方が楽しいって言ってたんです。

(依田 高校改革統括監)

それは異性を気にしなくていい、気にしない方が楽しいってことなのかな。

(B)

気が軽いつていうか。

(依田 高校改革統括監)

それが男子校の良いところだと思うんだね。

Aさんはどう思うかな。

(A)

気が軽いのは、それは良いと思うんですけど、それは男子校にしかない良さなので、それはいいと思うんですけど、やっぱり将来とかを考えると、同性だけだとももちろん社会は成り立たないし、それだと社会に出た時にすごく気が重い、どうやって話していいんだろうみたいな、どうやって関わったらいいいんだろうみたいな、困っちゃうときがあるかもしれないので、やっぱり共学にして、それを学んで社会に出た方がいいんじゃないかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

将来のことを考えると、同性だけだと困ってしまうのではないかということだね。Bさんはどう思うかな。

(B)

女性と関わりとかはあるとは思いますが、男女の関わり方も大切だとは思いますが、やはり学生とかでしか味わえないような体験とかあるじゃないですか。だからその経験もなくしてほしくないっていうか、そっちの方が。たぶんおじいちゃんとかになっても関わり方は学べると思いますので、今しかできないことをやりたいって思うんです。

(依田 高校改革統括監)

二人ともとても良い意見を出してもらって嬉しいですよ。

高校生にもアンケートを取ったのだけれども、伸び伸びと自由にという意見は、男子校にも女子校の方にもありました。Bさんがおっしゃったことは、高校生のアンケートで同じ意見がたくさん出ていましたね。

一方で、Aさんが言った将来男女が一緒に生活していく中で、高校生活を一緒に送った方がいいという意見もたくさんありました。両方の意見はアンケートでも出てきていて、今いろいろお話を聞いて、どちらもそのとおりだと思います。

県教育委員会は、先ほどAさんが気が軽いと言ったように、男の人だけ、女の人だけで盛り上がることの中に、もしかしたら、男の人と女の人を区別をして見ようとしている気持ちがある、入っているとそれは良くないのではないかなと思っています。これは、男女別学校だけの話ではなくて、共学校も同じなのだと思います。男の人はこうとか、女の人はこうとかと思ってしまうと、女の人、男の人はこういう特徴があるというように思ってしまうと、性別の特徴に合わせて例えば、昔だったら家庭をしっかりと守っていくのが女の人に合った生活の仕方なのではないかとか、外で仕事をして、お金を稼ぐのが男の人にとって合った生活なのではないかとか、男の人に合った仕事とか、女の人に合った仕事とかというようになるのは、これから、男の人と女の人が一緒に協力あって、社会を築いていこうとするときに、あまりよくないことなのではないかなと思っています。共学校でも、男子校や女子校も、女の人と男の人の違いがあるから、それぞれの役割分担があった方がいいとなると、今の県教育委員会の目指している社会に対しての学校教育のあり方に、ちょっとずれてきてしまうというように思っています。

県教育委員会は男と人と女の人の違いがないと言っているのではなく、男女問わず生徒一人一人の違いに合わせて、その人に合った勉強を、その人に合った個性を中心に考えた方がいいのではないかなと思っています。

ですから別学校がね、楽しくて、全力で物に取り組めるのは、とても良いことだと思う。男だから女の人とは違うからと、役割分担があるというようになっていくことには気をつけた方が良いでしょう。それは共学校も A さんの話にあったように、気をつけなければいけないことがあると考えています。皆さんの意見はあるかな。

(A)

やっぱりその区切りをつけちゃうっていうのは、人を女子だからこうだとか、男子だからこうだと思って人とか、私の学校にもいるので、その人の個性をちゃんと見てあげないと、やっぱり社会に行った時にうまくいかないこととか多くなっちゃったりするのかなって思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。B さんはなにか思うことあるかな。

(B)

役割分担とか言ってたんですけど、それが良いっていう人もいますし、嫌だっていう人もいると思うんですけど、それならそれでいいと思う人同士で価値観が合うから、そこで暮らせばいいと思いますし。これは別に無くす意味ではないと思います。

(依田 高校改革統括監)

人それぞれの考え方があっていいという考え方だね。そのとおりだね、人に考え方を強制することではないと思います。

県教育委員会は、男女の役割分担ではなくて、人それぞれの個性に応じて、勉強をしていく学校生活を送ってもらいたいと思っていますということなので、一人一人がどう考えるのかは、B さんがおっしゃるとおりだと思っています。

B さんは、男女の役割分担はあると思うかな。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

A さんはどう思うかな。

(A)

やっぱりまだそこは、男女の役割っていうのはあると思う。

(依田 高校改革統括監)

例えば、どんなところに役割分担があると思うかな。

(A)

学校だと、例えば重いものとかは力のある男子が運んだり、女子は細かいところをやったりみたいなの。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。Bさんは、今Aさんが言ったようなことはあるかな。

(B)

あります。進級して新しい教材とか持っていく時に、「ちょっと男子」とか先生が呼んだりするんです。

(依田 高校改革統括監)

重いものとか軽いものというのはあるんだね。

学校生活の中で、重いもの軽いものっていうのはあったけれども、学校行事であるとか、日頃の勉強の中で、男女で役割分担がされているようなことは、みんなの学校はあるのかな。

(B)

ないです。

(依田 高校改革統括監)

男子生徒も女子生徒も同じことをやっているんだ。

(B)

リーダーとか班長とかも、ちゃんと女子も男子もいます。

(依田 高校改革統括監)

例えば体育祭、運動会とか、文化祭とかでも男子生徒と女子生徒で役割分担は特になくて、同じことをやっているのかな。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

先ほどBさんは体育は違う方がいいのではないかと、筋肉量とかが違うからと言ったけど、体育祭の種目とか、そういったところはどうかな。

(B)

準備とか種目はそんなに関係ないと思います。

テント張りとかなら男子が行っています。

(依田 高校改革統括監)

テント張りとかは男子の役割なんだ。その時女子は何をやっているのかな。

(B)

釘打って線引いて、区画を作ったり。あとは飾りつけとかです。

(依田 高校改革統括監)

区画を作ったり飾りつけとかね。学校行事とかではなくて、学校生活の中で重いもの軽いものということがあるということでしたね。

Aさんの学校は、学校の行事であるとか、授業であるとか、そういったところで役割の分担みたいなものに気付くことはありますか。

(A)

特になくて、行事とか、みんなで協力して頑張ろうみたいな。

(依田 高校改革統括監)

文化祭はまだ経験していないか。体育祭の中でも男女で同じ種目をやっていますか。

(A)

はい。

(依田 高校改革統括監)

Aさんはどう思うかな。体育祭は男女で違う種目があった方が良いと思うかな。

(A)

ない方がいいと思う。

(依田 高校改革統括監)

ない方がいいと思うのね。Bさんはどう思うかな。

(B)

あってもいいと思いますし、なくてもいいっていう人もいると思う。

(依田 高校改革統括監)

Bさんはどっちかな。

(B)

僕は、なんでもやりたいので同じか、別に競技数に変わりがないなら、そこはなんとも言えないです。

(依田 高校改革統括監)

例えば女子はこういうことやりたい、男子はこういうことやりたいということがあるのかな。

(B)

女子でもサッカーやりたいとかいう人もいますし。男子でも絵を描きたいとか、運動系じゃなくてもいますんで。

(依田 高校改革統括監)

A さんも同じ考えかな。

(A)

はい。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会も皆さんと同じです。体育は別という話もあります。体力とか体格とか、平均を取れば男女で違いがあるのかもしれないけれども、人それぞれの方が違いがあるのではないかと思います。個人個人の差の方が大きいのではないかと思います。

男の人、女の人という違いもあるけれども、それよりも一人一人の持っている特徴の方が大きいと思っています。高校によっては持久走大会で、男の人も女の人も、それぞれ自分の体力とか自分の目標に合わせて、走る距離を選べる学校もあったり、いろいろ工夫を凝らしています。県教育委員会も、性別でやることを分けるのではなくて、一人一人自分に合った、今持久走大会の話をしたけれども、運動能力に合ったことをやりましょうという考えを持っています。そこは勉強もそうだと思います。

昔は、男の人は数学とか理科とかが得意で、女の人は英語とか国語とかが得意と言われていた時期がありました。今でもそう思っている人もいるのかもしれないけれども、県教育委員会は、それがあるとかないとかよりも、一人一人の、個人個人の得意なところを伸ばして、苦手なところを克服していくように考えればいいと考えていて、男の人とか女の人で得意とか苦手とかを考えて、学校の教育活動を考えようと思っていません。そこは、皆さんと同じ考え方なんだと思います。

【休憩】

(依田 高校改革統括監)

ここから話を変えて、少し説明をさせていただきます。

県教育委員会は長い間、男女共学を推進をする考え方を持ってきました。考え方自体は去年からではなくて、何十年も昔から、県教育委員会は共学を推進してきたんです。それは、男の人と女の人で違う教育をするのではなくて、同じ教育をするためには一緒の学校で勉強した方が、同じ場所で、同じ時間に勉強した方が同じ勉強になるという意味では、皆さん分かってもらえると思う。

実際は今県立高校 137 校のうち、12 校男女別学校が今でもあります。それは、先ほど B さんが言ったように、別学校は全力で生き生きと学校行事に取り組めるとか、伸び伸びと生活できるとか、異性がちょっと苦手だな、緊張しちゃうなっていうような人が安心できるという意義があるなど、いろいろそういった意見が生徒にも保護者にもあって。そういうことを考え、県教育委員会は、男女が違う教育をするのではなくて同じ教育をするから、一緒に学んだ方がいいと考えているのだけれども、それぞれの学校で生徒や保護者、卒業生や関係者の意見もあるだろうから、地域の状況も踏まえて、各学校で考えてくださいということとし、学校が主体で考えてきたんです。

これまでも、何校かは別学だった学校が共学になったりもしてはいるけれども、学校が主体になって考えてきたため、県教育委員会が学校に、別学から共学になりなさいということは今まで

言ったことがなかった。去年からは、これからは学校ではなくて、県教育委員会が主体になって考えていくようにしましょうと、方針を変えました。

なんで県教育委員会が、主体的に考えるようにしたのかなのだけれども、そこは今までの話と違う話になるのだけれども、今後、子供の数が減っていくということが原因としてあるんです。

少子化という言葉聞いたことがあると思うのだけれども、これから中学校の卒業者の数がどんどん減っていくことになるんです。今までも減ってはきていたけれども、ここからさらに大きく中学校の卒業者数が毎年毎年減っていくことになります。みんなどのくらい減るか考えたことがあるかな。

Bさん、例えばこれから10年とか15年後とか、中学校3年生の卒業者数がどのくらい減ると思うかな。割合でも、人数でも。

(B)

200人くらい。

(依田 高校改革統括監)

Aさんはどのくらい減ると思うかな。

(A)

700人くらい。

(依田 高校改革統括監)

市でいうと近いものがあるかもしれないね。事務局の人に説明してもらいましょう。埼玉県と、南部地域について説明してください。

(事務局)

こちらの資料は、県教育委員会で作成しているものです。公立の中学校等卒業者数になりますが、令和6年の3月から、令和20年の3月までの14年間を比較しています。

令和6年3月の卒業予定者数は約58,900人となっていますが、令和20年3月では約44,100人に減りまして、約14,800人埼玉県としては減少することが見込まれているという状況です。

地域別に見ていきますと、「南部・さいたま・県央」という地域では21,264人から、17,950人になりまして、3,314人の減少が見込まれています。

割合で言いますと、埼玉県全体では約25%減ります。今申し上げた「南部・さいたま・県央」地域で言いますと、約16%が減少していくという状況になります。以上です。

(依田 高校改革統括監)

皆さんのイメージと比べてどうだったかな。県教育委員会は、これから中学生が減って、高校に入学してくる人が少なくなることは本当に大変なことだと思っています。県立高校は137校あるけれども、約25%子供が減るから、137校の25%の学校を減らすと単純に考えているわけではないけれども、多く学校を減らさないといけなくなると考えています。

みんなの近くの学校や、行きたい学校がなくなるのは、これはよくないことだとは思っているけれども、ただ一方で高校は、小学校とは違って、なかなか小さな学校が残せないということがあるんです。

みんなも中学校に入って、小学校と違うと感じたのは担任の先生が全部の教科を教えてくれなくなったことでしょう。数学の先生がいたり、英語の先生がいたり、社会の先生がいたり、理科の先生がいたり、教科によって先生が変わるよね。高校になると、さらにたくさんの教科に分かれてくるんです。そうすると、学校の先生をたくさん置かないと、専門的な学びは難しい。英語の先生が数学を教えたり、数学の先生が国語を教えたりは各教科の専門性が高くなってくると難しくなってくる。それぞれの教科を教えてもらう先生を各学校に配置しないといけなくなってくるでしょう。そうすると、高校だと 50 人とか、場合によっては 100 人とか、本当にたくさんの先生が必要になるのです。法律で、クラスの数によって、先生の数も決まっていて、一定の規模のクラス数を学校に置かないと、それだけ専門性のある先生を配置できなくなってしまう。校長先生と教頭先生と担任の先生でというわけにはいかない。そうするとたくさんのクラスがないと先生が足りなくなってしまうんです。

学校の規模が小さくできない、一定の規模の学校を維持しようとする、学校の数を減らさないといけなくなってしまうのはみんな分かるかな。そこで、再編整備と私たちは言いますが、高校の再編整備を進めようとしてるんです。

また、学校の数を減らそうとした時に、次に何が起こるかという、高校は、高校によって学びに違いがあること。農業高校、工業高校、商業高校で勉強すること、ほかにもいろいろあるけれども、大きく学んでいる内容が違います。それは、何を学びたいか、将来どういう仕事に就きたいかを考えて、普通科高校に入りたい人もいれば、農業高校に入りたい人もいて、工業高校にも。そうすると、みんなの住んでいる地域は比較的人口が多いところだから、高校が周りにたくさんあるけれども、そうでないところの人たちも、農業も勉強したい人もいるし、工業が勉強したい人もいるし、普通科高校で勉強したい人もいるし、埼玉県に住んでいる中学生が、自分が学びたい学びができる学校を、それぞれ残していかないといけなくなるんです。

そうすると県教育委員会は、どの地域にどの学校を残すかを、バランスよく、この地域にも農業高校が必要だ、この地域にも商業高校が必要だ、工業高校も普通高校も必要だ。というふうにして考えて、同じような学びをしている似たような学校については、例えばA校とB校が同じような学びをしている学校だとすれば、ここは一緒にして新しい学校にして、学びの選択肢が男の人も女の人も、地域によっても、あまり差がないようにしていかないといけないと思って、再編整備を考えています。

そうした時に、今までは、共学化は学校が自分でよく考えてください、将来の学校の学びを考えた時にどうあるべきか考えてください、地域の皆さんや生徒などの意見もしっかりと聞いてくださいということで学校が中心にやってきたけれども、これからは県教育委員会がこの学校とこの学校は一緒になってもらって、新しい学校にした方がいいなどと考えないといけなくなってくる。

さらに、高校に行って勉強したいという内容も、今までとだいぶ違うようになっていくと思っています。例えばAIとかね、コンピューターとか、今まで以上に学びたい子供が増えてくると思っているのだけれど、そうすると情報を中心に学ぶ学校も必要だとか、あとは、定時制や通信制などの自分のライフスタイルにあった学校に行きたいとか。ほかにも、海外の大学に留学する際に受験資格が得られる学びがほしいとか、中学生と高校生と 6 年間を通じたカリキュラムで学んでいきたいとか、いろいろな学びがしたいという中学生のことも考えなければいけないと思っています。学校の数は減る一方で、いろいろな特色のある学校は逆に増やしていかないといけないとなった時、今までの学校を変えていかないといけなくなる。

そうした時に、各学校で考えてくださいねというのではなくて、県教育委員会が責任を持って考えないといけない。別学校と共学校どちらも同じように、もしかしたら、二つを一つにしないと

いけないこともあるかもしれないし、1校であっても、違う学校にしないといけないこともあるかもしれない。新しい良い学校ができましたという時に、男の人と女の人どちらかしか入れない学校は、県教育委員会は作れないと思っています。

男の人も女の人も両方入れる学校にしないといけないと思っていて、もしかすると、共学校同士もあるけど、男子校と女子校もあるし、男子校と共学校、女子校と共学校ということもあるだろうし、男子校1校だけでも新しい学校にしようとした時には、その学校も共学校にならないといけなくなる可能性もある。男の人と女の人が教育機会の均等と言うのだけれども、公平に学びの選択肢を選べるようにしていくために、県教育委員会が考えないといけなくなったと思って、去年方針を変えたんです。

去年、これからは県教育委員会が主体になって考えていきますと切り替えたんです。男女共学の推進は、県教育委員会は元々考えていたけれども、ただ主体が今までは学校で、去年からは、県教育委員会が主体的に考えていく方向にしたんです。

今日、皆さんと意見交換をしたい内容は、以上だけれども、今日振り返って、最後一言ずつ皆さんからお話も伺って終わりにしたいと思います。じゃ、Aさんからどうぞ。

(A)

今日はすごい共学化についてのことを深められたと思いました。私は共学化に賛成で、これからの社会を生きていくために必要だと思っていて、それをもっと深く知れたっていうか、県教育委員会が思っていることをすごく知れたことがすごい学べて、とても良い時間だったなって思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとうございました。はい B さん。

(B)

この意見交換会で共学の良さとか、県教育委員会の考え方だったりとか、自分の考えとかが深められて良かったと思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。出井さん何かありますか。

(出井 県立学校部副参事)

本当に、様々な意見ありがとうございました。皆さんがこれから高校に進学されると思いますが、どの学校も良い学校にしていきたいと思っています。子供たちと一緒に、教育全体として様々考えていかなくてはいけないと思っています。

今日いろいろとお話しいただいて、自分の意見をしっかりお持ちだなと思って聞いていました。今日は男女共学についての話ですけど、もしかしたらこれから社会に出て仕事をしていく上で、いろいろなところに課題があると思うんですね。そこに対応できるような高校を作っていくというのは、社会に近い高校としての使命だと思っているので、どの学校の校長先生もしっかり今考えています。

学びの部分は差異がないように県教育委員会としてしていきたいなと、子供たちにとってどこに行っても公教育として、しっかりと学べる高校という形を作していきたいなと思っているので、いろいろな意見をいただき、ありがとうございました。

(依田 高校改革統括監)

はい、今日は本当にありがとうございました。皆さんの意見を聞いて、大変こちらも考えを深めることができたと思っております。いただいた意見については、最初にお話したように、県教育委員会全体に共有して、今後の事務の参考にさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。以上で終わります。

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会（中学生の部・北部会場）

1 日時 令和7年8月21日(木) 10:00～12:00

2 場所 熊谷文化創造館 さくらめいと 会議室2

3 参加者 14名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

先ほど司会からありましたが、皆さん名前については自由です。簡単に自己紹介と併せて、皆さんの別学校の共学化についてのご意見を、まず簡単にお一人お一人お話をさせていただこうと思います。

(A)

私は夏休みにいろいろ高校の説明会に行ったりもして、別学も共学も行ったのですが、どちらもその高校の良さや特色があって、近年共学の魅力や、別学の受検者数の減少など、やっぱり共学化の流れっていうのは仕方ないなと思う一方、受検生としてはいろいろな選択肢がある中から自分に合った高校を選んでいきたいなと思います。

(B)

私はこの夏休み2校の学校の説明会に行きました。夏休みが始まる前から別学校の募集人数が減ったりするのを見て、共学化に向けてどんどん加速しているなという実感しました。私は共学校に進もうと考えていますが、別学校に進みたいという人もいるだろうし、両方の意見があるから、今後どうなるか興味があって参加しました。

(C)

私が今回意見交換会に参加した理由は、埼玉県はほかの地域よりも公立高校の別学校が多いということを知り興味を持ったからです。

私の意見としては、別学校は残してほしいという意見です。私の父が別学校に通っていた経験があり、受検という大きな節目を迎える中でその良さをよく聞いて、別学校の方がいいかなと思ったからです。

(D)

私は共学化には反対です。理由は、別学に通いたい人もいると思うので、選択肢として残してもいいんじゃないかと思ったからです。

(E)

僕は共学化を進めるのはあまりよくは思っていません。自分は最初は共学の高校を志望していたんですけど、そこに親が赴任して、あまり親と同じところに通いたくなくて、その中で同じ学力レベルの別学の高校があったので、そこに通学したいと考えています。もしそういうことになった場合の選択肢があった方がいいと思う。

(K)

僕自身共学化には反対です。男子校女子校に行きたいと思う人もいるし、先輩方や自分の姉も別学出身で話を聞いてみると、話が合う人が多かったと聞いた。周りからの意見を聞いた上で、自分で共学に行くか別学に行くか決められたらいいと思うので、選択肢という意味で残していった方がいいかなと思う。

(L)

私は共学化を進めるのはいいと思うんですけど、全部を共学化にするんじゃなくて、何校か別学校があってもいいと思う。社会に出たら男女で仕事をする時が多くなると思うので、共学校に入ること、将来男女のコミュニケーションを円滑にできると思います。別学は今多様性といわれる中で、共学と別学があるのが良いと考えているので、選択肢があってもいいなと思います。

(M)

自分の姉が女子校に通っていて、姉に意見を聞いてみたら、女子だけでしかさせない自分があると言っていました。ありのままの自分をさらけ出せるんだったら、男女別学があってもいいんじゃないかなと思ったので、私は共学化には反対です。

(N)

私は共学化には反対です。理由としては、別学校は別学校なりの今まで紡いできた歴史があるから、共学になると、男子校、女子校でしかできなかったこととかもあると思うし、そういう風潮が少し変わってしまうのではないかなと思ったので反対です。

(F)

私は共学化には反対です。理由は、別学校を必要としている人がいると思うから、選択肢を一つに絞るのではなく、複数ある方がいいと思うからです。

(G)

僕は共学化には反対です。なぜなら男子校、女子校があると、例えば男子校ならではの雰囲気、体育祭とか男子校だとかなり盛り上がりたりする場面が多く学校見学とかで見られたので、そういう雰囲気はあった方がよいと思います。

(H)

私は共学化について賛成です。私はまだ男子とうまくコミュニケーションが取れていないので、男子や女子とコミュニケーションが取れる環境があった方がいいと思うからです。

(I)

私は共学化については賛成です。理由としては、男子校や女子校より、偏りのない男女共学の方が将来のことを考えると、社会人になった時によいと思うからです。

(J)

私は共学化に賛成です。男子校も女子校もあっていいと思うけど、共学の中で男子クラス・女子クラスを作ればいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。賛成の人も反対の人も、賛成なんだけれども全部はやめた方がいいなど、一人一人意見が違ったと思います。そこで皆さんから頂いた意見をこの後掘り下げていこうと思います。

いただいた意見の中で、別学の共学化について、反対をされている方の中で、比較的多かった意見は、選択肢という表現が多くの方からあったと思うので、まずこの選択肢ということについて、少し皆さんと意見交換をしたいなと思っています。この選択肢というのは、男子校と女子校と共学校で、三つ選択肢がある方がいいというご意見だったと思うのですが、選択肢とは何が違うという選択肢なのかを、聞かせていただきたいと思います。

男子校と女子校と共学校で何が違うと思っているのかについてです。意見がある方がいれば、手を挙げてもらっていいかな。では、Cさん。

(C)

私個人としては、異性の目があるかないかの違いが大きいと思います。例えば、共学だと男女でお互いに刺激しあって、先ほどの意見でも出た社会に出た時に共学の経験が役に立つこともあるだろうし、男女別だと、例えば今まで男子がいたから女子がいたから私はこれができなかったっていうのを気にせずに好きなことに打ち込めるっていうことが違いだと思います。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとうございます。ほか意見のある方はいますか。自分はこういうところが男子校と女子校と共学校で違うと思っているということについて、少し考えてみてください。

話を少し違う角度にしてみましょうか。先ほどGさんが、男子校の雰囲気があるという話をしたと思うんだけど、女子校と男子校と共学校で、男子校とか女子校とか行ったことがないからよく分からないというのはあるかもしれないけれども、イメージとして、ここは女子校、男子校、共学校の良いところだ、よくないところでもいいです。何か皆さんの中でイメージがありますか。Gさん、先ほど男子校の雰囲気のことを言っていたけれども、もう少し教えてもらっていいかな。

(G)

男子校となると、男子しかいないから、みんなで盛り上がる時に、クラスとか学年全体でかなり仲良くなることができたりして、共学よりも、団結力が深まると思って、絆とかが強いものになるのかなと思う。共学だと女子もいると、女子が苦手な人とかもいるだろうから、そういう人は、あんまり喋れなくて終わっちゃうみたい。自分の中学校とか見て、それが嫌だなと思ったんで、そこが多分違うと。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、分かります。逆に女子校のイメージで、こうだというイメージを持っている人はいますか。今Gさんに男子校の話をしてもらったのだけれども、女子校には今、Gさんが話したようなイメージを皆さん持っていますか。例えば団結力があるとか、みんなで盛り上がる事ができるとか、仲良くなる事ができるというような話です。どうでしょうか。

(M)

お姉ちゃんは文化祭とか体育祭とかの話を聞かせてくれるんですけど、その時にお互いに協力し合って団結力が深まると言っていて、男子校、女子校関わらず団結できると思う。

共学でも異性が苦手でも、行事を通して、お互いに意外な一面とかも知れるから、男子校、女子校、共学それぞれ良いところもあるけど、悪いところもあると思います。

(依田 高校改革統括監)

女子校はお姉さんの話だけれども、Gさんが話したような部分があるということだね。女子校も男子校と同じように異性の苦手な人がいたりして、同性だけだったら盛り上がることもできるし仲良くできるところもあるということだね。

今、皆さん共学にいるよね。共学はみんなで盛り上がることはなかなか難しいし、みんなで仲良くするのも大変だし、団結力も男子と女子で別れてしまったりすることがあるのかな。そこはどう思うかな、今度はKさんから聞いてみよう。共学はやはり、男子校とか女子校の雰囲気とは違うかな。

(K)

日々の生活だと、いつも話す人は同性が多くはなりますけど、自分のクラスでは意外と行事になると壁がなくなる。自分自身は異性の人とでも、行事とかになると、積極的にコミュニケーションとったりして、意外と行事っていう面では、絆は異性でも深めたりできるんですけど、日常生活においては、休み時間とかに自ラ話しに行ったりすることはそこまでない。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、分かります。ほかはどうかな。では、Jさんはどう思う。

(J)

Kさんと同じで行事とかは結構みんなが協力してできてるけど、休み時間とか授業で二人グループ作りましようとかになると、男子同士とか女子同士になるかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

自分の学校は違うよとか自分のクラスは違うよという人はいるかな。

(G)

僕のクラスは行事のときは、壁もかなり薄くなって、盛り上がる事ができるんですけど、その次の日とかになったら、冷静になってしまってまた今までどおりの壁がある感じ。そこは男子校だと、声もかけやすいだろうし、そういうところは違いなのかなと思う。

(依田 高校改革統括監)

分かりました。今3人の方にお話をいただいたけれども、大体共学校のイメージはみんなそのような感じで一致するかな。Gさんのところも行事の時はまとまりやすいんだね。でも次の日になると壁はあるんだね。それは、KさんもJさんもそんな感じかな。はい、分かりました。

もしもの話で、今の学校が同性だけだと想像してみよう。そうした時に、行事の時はどうだろうか。女子だけの中でもグループができるかな。男子だけの中でも壁はできるかな。それともやはり皆がまとまっていくのかな。そこのところは女子だけだからとか男子だけだからかな。それとも仲良しグループだとかそういうことなのかな。どう思うかな。

壁があるというのは、やはり男子、女子がいるからなのかな。それとも仲良しとか気が合う合わないからなのかな、皆さんどっちだと思う。

(B)

やっぱり女子の中でもグループで分かれることがあるから、共学だろうと別学校だろうと、同性の中でも分かれるところが出てくるから、どっちだったとしても、行事の時だけは一緒に、普通の時は離れてみたい環境は変わらないと思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。やはり同性の中でもグループはできるかな。そこは少し違うよという意見の方はいるかな。

(N)

私の学年は、全体の人数が少ないのもあるかもしれないけど、男子は学年の男子全員が仲良く一つのチームみたいになったら、そんな分かれることもなく、全員で一つのことに力を入れて、みんなで協力しながら物事に取り組めるんじゃないかと思います。

(依田 高校改革統括監)

Nさんの学校は女子は女子でまとまっているかな。男子と女子で分かれてまとまっている雰囲気があるのね。分かりました。両方意見が出てきたね。

さらに皆さんに話を聞きたい。同性の中でもグループができるということもあるし、人数が少ないからかもしれないけれども、男性と女性で、グループが分かれているというところもあると。それって何でなんだろう。皆さんの意見を聞きたいのだけれども、男の人と女の人ってやはり違いがあるからなのかな。違いがあるとするのだったら何が違うんだろうね。そこを皆さんどう思っているのかな。

男の人と女の人で、行事が終わるとなんとなく分かれてしまう、壁があるみたいな話を皆さんしたと思うのだけれども、それはどうしてなのだろうか。何か違いがあるからなのだろうか、それとも違いがなくてもそうなってるのだろうか。Eさん、どう思うかな。

(E)

行事があるときは、やっぱり男女どちらも同じ目的に向かっているのだから、それぞれがグループでも同じ話はされると思うんです。その時にやっぱり、同じものの話をしているのが多いと思うので、気持ちが合った場合には、その時に男子も女子もどちらも話の内容は同じなんで、話しやすいと思います。でも、普段の生活ではやっぱり考えてることも違うと思うので、そのときに、それを一緒に共有するのは時間がかかることですし、簡単にはできない、難し

いことだと思うので、グループに分かれてしまうのはしょうがない部分じゃないかなって思います。

（依田 高校改革統括監）

はい、ありがとう。今、Eさんからとても大切な意見が出たと思うんだけど、行事というのは、今Eさんがおっしゃったように、男女ともに同じ目的があるからまとめることができるんだというような内容だったと思います。一方で、普通の日常生活は違いがあるから、なかなか話も合わないこともあるということだったと思います。とても今の話は大切なところなのかなと思うのだけれども、ほかに男子と女子に違いがあるとかないとか、どういう違いがあるとかについて意見がある人はいるかな。

では、県教育委員会の考えを皆さんに伝えていきますね。県教育委員会は男子と女子の違いがあるかないかと言えば、それはあるところもあるし、ないところもあると思っています。全く男子と女子が同じだと思っているわけではないです。

ただ、県教育委員会が考えてるのは、男子と女子で、学校の勉強に違いを出す必要はないと考えているんですね。女子用の勉強と男子用の勉強っていうのが、県教育委員会はそれはないことにしようと思っているんです。今、皆さんは共学の中学生で、男子も女子も違う学びはしていないと思います。けれども、僕が共学の中学生の時は、女子は家庭科を学んで、男子は技術科を学んでとか違いがあったのです。びっくりするかもしれないけれど、昔は女子用の勉強と男子用の勉強があったのです。

それはどういうことかということ、男の人は、社会に出て、仕事をしてお金を稼ぐのが男の人の役割だから、男の人用の勉強で技術科を学んで、将来エンジニアとかになれるように学んでいきましょう、女の方はしっかり家庭を守って、子供の教育、子供の世話をしっかりとできるようになることが女の人の役割だから、女の人用の勉強で家庭科を学びましょう。こういったことが昔の社会の考え方で、それが学校の中にも入っていたのです。

県教育委員会もそれでよいと私の中学生の時は、思っていました。けれども、今は男女共同参画社会といって、会社でも家庭の中でも、男の人と女の人が一緒に協力をして、社会で活躍するし、家庭の中でも活躍をする社会を目指すというふうに、考えていて、県教育委員会も同様に考えています。そうしたときに、県教育委員会は男の人と女の人の違いがあるのかもしれないし、ないのかもしれないけれども、皆さんの学校での学びについては、同じ勉強をした方がいいというふうに考えています。

今、皆さんにお話を聞いた中で、様々意見があって、やはり男子と女子ではなかなか一致できないところもあるし、仲良くできないところもあるとは思いますが、それは、多分大人になっても一緒だと思います。女の人と男の人で、仲良くなる人もいるし、仲良くならない人もいるし、男女とも活躍しなければいけないんだけど、全く違いがないということではないかもしれない。ただ、会社の中で一緒に仕事をする上で、家庭で一緒に生活をする上で、同じ目的を持っている中では、男女で役割分担というのはないようにしていましょうというように県教育委員会は考えています。

このことについて皆さんはどう考えるかな。

（C）

先ほど県教育委員会のお話を聞いて、男女に違いはあるかもしれないと言ってたんですけど、例えば、今は男女で関係なく仕事をしてたりとかするので、家庭にいる時間が短くなっているっていう話を聞いたことがあるんです。男性と女性が同じぐらい働いたとしても、家

事とかは男性が多分ここまでやったらいいだろうとか、週末にまとめてやればいいのかという考え方になってしまうのに対し、女性は、今日はここまでやらないと、明日の朝ご飯作ってとか、そういう母性本能があるから、女性の仕事量が必然的に増えて、結局平等とも言えないし、結果的に女性の仕事量が増えてしまうから、そこをちゃんと理解するべきだと思います。

（依田 高校改革統括監）

今のCさんの意見、女性の方が家庭で家事負担が重いという現状を皆さんどう思うかな。そんなことはないという意見とか、仕方ないとか、いろいろ意見はあると思うのだけれども、皆さんから意見を聞きたい。

（K）

僕自身は家でお母さんのお手伝いとして料理とか家事とかやることもあって、自分の中では料理は、兄もいるんですけど、兄も意外と料理をする人で、料理とか自分の好きなものとかなら、手伝えることもできるだろうし、話し合いとかで、どっちか分担することも、片方に負担がよるとか、そういうことは、話し合いとか自分の得意なものとかをやりあったりすればいいと思う。

（依田 高校改革統括監）

はい、ありがとう。CさんからKさんからもとっても良い意見が出てきて、私もびっくりしているのだけれども、本当にそのとおりだなとも思います。皆さんはどう思いますか。いいかな。このことについても、県教育委員会はどのように考えているのかをお話しますね。

Cさんの今のお話は、私もそのとおりだと思います。やはり女性に家事負担は重くのしかかっている現状は、様々な調査を見てもそのとおりだと思います。私が先ほど申し上げたのは、男女共同参画を目指すこれからの社会で活躍していく皆さんの教育についてのお話をしたんです。

母性本能という話もありましたが、県教育委員会はそこを前提にはしていません。先ほどKさんが得意なことで分担することについてのお話がありましたが、男の人でも女の人でも、いろいろな人がいらっしゃると思っています。男の人でも、本当は家庭の中でたくさん家事をやって、もっと子供と一緒に触れ合って子育てを頑張りたい。自分は料理が得意だという人も男の人にもたくさんいると思っています。女の人でも、自分は家事よりも社会で、例えばエンジニアとして、営業職として、仕事をしたいと思っている人もいます。

得意、不得意も先ほどKさんが言ったようにそのとおりだと思っています。自分は力仕事が好きだという女の人もいると思っています。自分は力仕事は苦手だけど、細かな指先を使った作業が得意だという男の人もいると思っています。

それは男性、女性の違いよりも、個人個人の違いが大きいのではないかと考えています。そこで先ほどの学校の学びの話なんですけれども、県教育委員会は、男の人用の教育、女の人用の教育ではなくて、一人一人の個性に合った学びを皆さんに提供したいと考えています。性別ではなくて、一人一人の希望と個性に応じた学びをできる限り届けたいと思っています。男の人用と女の人用の学びを分けたいと思っていないんですね。

少しずつ、県教育委員会の考え方が皆さんにも伝わってきたかなと思うのですが、そこが共学化を進めていこうという考え方の大きな理由の一つになります。

ただ、皆さんが先ほど言っていたように、異性の目があるかないかというところで、学校生活で異性が苦手な人もいるでしょうし、また同性だけで生き生きと、自分の学力や体力を伸ばしたいと思う人もいるでしょうから、別学に意味がないとは思っていません。別学には別学の大切な意義はあると思っています。その上で、県教育委員会は一人一人の個性を重視していく方を考えて、共学化を推進しようとしているのです。

ただ、別学にも大切な意味があるので、そういったことは皆さんとよく意見交換をしながら、今後検討を進めていく必要があると思っていますので、総合的に検討をするというのはそういう意味です。

皆さん今の私の話、県教育委員会の方針の話になってきましたが、考え方について意見がある人はいますか。

(D)

男の人が家庭科が得意だったら、共学に行ってそういったことを中心に学んでいけばいいと思います。家庭科が得意じゃない人、力仕事が得意な人は別学に行って、得意な部分を学べばいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとうございます。今のDさんの意見について、意見がある人はいますか。では、Cさん。

(C)

共学に行ったからこうしたい、別学校に行ったからこうするじゃなくて、個性を大事にするというのであれば、別学校の中での個性を大事にした方がいいと思います。先ほど県教育委員会は男女で同じ教育をしたいと言ってたけど、男女で肉体の違いももちろんあるわけで、そうすると、例えば男女で同じ距離の持久走を走らなければならないとか、そういうことになっちゃうんだったら、ちゃんと肉体のことも加味して差をつけないようにする、平等っていうのを探っていった方がいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

とても良い意見を今言ってもらったと思います。ほかに意見がある人はいるかな。いいかな。

今、Dさんと、Cさんから話があったので、それについても話をしますね。一人一人得意があれば、別学でも一人一人の個性に合った教育をするべきという考えは、おっしゃるとおりだと思います。今、別学でもそういうふうにしてると思います。

ただ、今回は男女が一緒に学ぶということが、男女が同じ学びをする上では、一緒に学んだ方が同じ学びができますという考え方をしているということなんです。その上で、Cさんの話として、肉体的な、体力的な違いがあるでしょうと、そういったものはちゃんと加味しないといけないから、男女は分けた方がいいっていう考え方もあると思います。

一方で、本当にそこは男女で分けていいのだろうか、女の人でもたくさん走りたい人はいるのではないかなと。マラソンで42キロ、女の方は短い方がいいか、男女で違う距離の方がいいかという時に、その方がいいという人もいでしょう。けれども、女子でも同じ方がいいと思う人もいかもしれないし、また、男子の方でも、自分は短い方がいいというふうにいる人もいかもしれない。ということを考えると、県教育委員会は、できれば一人一人

選択肢があった方がいいと思っています、肉体的な違いも。Cさんが今言った意見はとっても大切なことで、一人一人の能力に応じた学びというものがあっていいと思っています。

能力と希望に合わせた学びをどのように作っていくかがとても重要で、それは男の人の能力とか、女の人の能力と考えるのではなくて、その人の能力に合った学びをどう提供できるかということを考えないといけないと思っています。その上で、Cさんが言ったように、男女で身長とか体つきとかいろいろなところで統計的に全体としての違いがあることは、そこを否定するつもりは全くないんです。ただ、それを踏まえても、一人一人の違いを考えることは、別学も共学も一緒です。別学だからといって、うちは男子校だから、こういう風にやらなければいけないとか、うちは女子校だから女性の教育をしなければいけないとかと県教育委員会は考えていないということです。

男子校だから男用の教育をやるとか、女子校だから女用の教育をやるとか、共学だから真ん中だとかではなくて、別学でも共学でも一人一人の個性に応じた教育をすべきというところです。「男らしい」というような言葉が先ほどあったけれども、世間的に何が「男らしい」というのは、一人一人違うから、定義はないのだけれども、ある人が思ういわゆる男らしい教育というものがあるとしても、それはその人の希望で、その人がそういうことを望んでそういう能力があるんだったら、その人の男らしい教育というのはその人に提供しても、それはいいですね。一方でそういうのが苦手な人が男子校にいた際に、それを強制するというのではなくて、その違う人に合った教育というものをしっかりと提供しなければいけない。

全体的な雰囲気の中で、うちは女子校だから女子校はこうなんだというのを一人一人の学びに押し付けてはいけない。そこは共学も一緒に、あなたは男なんだからこうだとかね、あなたは女子なんだから、こうだとかというのを共学校の中でも、学びの中ではやってはいけないというふうに思っているんです。男子校、女子校、共学校の話ではなくて、どの学校においてもそうだと思っています。話をまた展開させたいんだけど、今、Cさんが別学でもとおっしゃったけど、皆さんは今共学にいるよね。皆さんの意見を聞きたいのだけど、これは男の人がやることだとか、これは女の人のやることだとか、皆さんが共学の中で感じるということのが何かあったら教えてほしいんだけど。例えば、学校行事の話が先ほどもあったけれど、学校行事の中で男子と女子でまとめることができるという話があって私はとても嬉しかったんだけど、一方で、そういう中でも、男の人と女の人で分けられるということはあるのかな。あるようなら、教えてほしいんだけど。Hさんは、学校で、女子だからとか、男子だからとかということはあるかな、ないかな。

(H)
ないです。

(依田 高校改革統括監)
Iさんはどう思う。

(I)
私もないと思います。

(依田 高校改革統括監)
では、Jさんはどうかな。

(J)

私は、男子は力仕事とか、女子は係みみたいな司会をやってとか、力仕事が男子に任されることが多いと感じます。

(依田 高校改革統括監)

今、HさんとIさんは特にそういうことはないっていうふうに思っていて、一方、Jさんは男子は力仕事、女子は司会とか力仕事じゃない役割が多いって思ってるという意見があったけど、ほかに意見がある人いるかな。Aさんはどう思う。

(A)

自分は、例えば体育の授業の持久走とかで、男子は1,500mで、女子は1,000mとかで分けられていて、例えばそういうのを個人の能力とか希望に合わせて選択できるようになったらいいのかなっていうことなんですけども。

(依田 高校改革統括監)

はい。分かれてるんだね、女子と男子で走る距離がね。

(A)

新体力テストです。

(依田 高校改革統括監)

新体力テストだね。ほかに、自分の学校は違うよという方はいるかな。例えば、体育祭とか、男子と女子で走る距離とかは同じかな、それとも違うかな、どうかな。では、Lさんの学校はどうかな。

(L)

走る距離とかは、先ほどいったように、新体力テストとかは違うんですけど、男女で分けられてると感じることはほかにあって、例えば合唱コンクールとか、飾り付けとかの場面では、椅子並べは力がある男子がやったり、飾りつけとかは女子が中心にやったりっていうことがあって、そこで男女の違いっていうのは感じています。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとうございます。新体力テストはその範囲で、どのくらいの記録が出るのかということを調査するという意味で一定の距離の中で、男子と女子の全体の中でどのくらいの記録が、あなたの位置はどうかということを調べるためのものなので、少し話が違いかと思うんですが、LさんやJさんが言ったように役割というものになってくると、そこは考える必要があるんだろうなと思うのだけれども。LさんやJさんがおっしゃったことと違う意見を持っている方はいますか。今、共学の中学校の話聞いたのは、このことに気付くことが大切だなと思ったから伺ったんです。

知らないうちに、意識をしないうちに、男の人と女の人役割分担が、学校も社会の中の一つなので、社会にある考え方が、学校の中に入ってしまうわけだね。けれども、そこに皆さんが気付くことが大切だと思っていて、要は男だからとか、女だからとかではなくて、

私は力仕事を頑張りたい、私は司会とか飾り付けとかをやりたいと思っている人が、今後、社会に出て男の人と女の人と一緒に仕事をする際に、重いんだから男の人がやるべきだよ、飾り付けとかは女の仕事だというのは、男女共同参画にはなっていないと思います。男女で役割分担が決められていると、自分が活躍したいのに活躍できない社会になってしまう可能性がある。それでいい人はいいいんだけどね。女の人でも、体力、力もあるし、力仕事をやりたい。男の人でも、自分は体力に自信がないし、できれば細かな飾り付けとか、そういったところは得意なんだという人はたくさんいると思う。一人一人の個性と希望で活躍できる社会になってほしいと思っていて、学校の生活の中でも、そこに、気付いていくことが大切だと思ってるんです。

今、しさんやJさんが言ったようなことに気付いて、役割分担が男女で決められているのではなくて、自分が参加したい、自分が活躍したい、自分がやりたいところで手が挙げられる学校になると、とても良いなと思ってます。そこはどんどん先生にも言っていると思いますね。先生もきっと分かってくれると思います。

共学とか、別学とかということではなくて、こういったことは別学にも共学にもあることだと思っているので、共学校にいる皆さんから話を聞きました。この後ちょっと別学校の高校の話を私の方でしたいと思います。

【休憩】

（依田 高校改革統括監）

先ほど、共学の話をいろいろ伺ったので、次は別学校の話をしたいと思います。男子校と女子校と共学の三つがあるわけなんだけれども、今、埼玉県の県立高校の別学校は12校なんです。この北部地域は、熊谷市に男子校と女子校が1校ずつあります。

県教育委員会は、共学校も別学12校も、同じようにとても大切だと思っています。そこは理解をしてほしいと思います。

県教育委員会は別学校の共学化を推進するという考えを持っていますが、先ほど話したこととの続きになるのだけれども、別学校には共学校にはない課題があると思っています。

共学校は、先ほど言ったように、社会の男女の役割分担意識が学校の中にもあって、男子と女子で役割が分担されしまうということがあって、そこに気付いていくことが大切ですよという話をしました。別学校は、それがあまりないのです。それは、県教育委員会も今までやったアンケートであるとか、意見を伺った中で、そのようなことを伺っていて、共学校にあるような役割分担意識とか、そういうものが別学校にはあまり入り込まない。例えば、音楽だとか美術だとか、芸術系の部活動でも、男子校だと入りやすいんだという意見があったり、女子校でも、女子しかいないので、文化祭や体育祭の時に重い荷物を女子が運んでいるという話があって、男女の役割分担がなくて、男子校なら男子、女子校なら女子が全部やらなければいけないというような話を、今まで別学の方々から聞いてきました。男子校、女子校には、男女の役割分担意識については、共学に比べて少ない、入りにくいと思っています。

一方で、その男子や女子がいないから問題が起こらない、摩擦がないがゆえに、女子と男子が違うんだという考え方が忍び込みやすいところがあるのではないかと考えています。

別学校は歴史があったり、共学になるとそれができなくなることがあるというお話がありました。そのことをそうではないと言っているわけではありません。そういうことではなくて、別学校だからあるという学校行事、その「別学校だから」という理由とは何だろうと考えてみた時に、そこにもしかしたら男だからとか女だからとかというものが、考えの中に入

っているとしたら、実はそれって男だからこう、女だからこう、という役割分担の考え方に自然となってきたしまっている可能性があるのではないかなと思うのです。男だから、男子校だからこういう学校行事、だから社会に出ても男はこういう仕事。女子だから、女子校だからこういう学校行事、それが将来社会に出た時に、女性だからこういう仕事ということに、無意識の中でなってきたしまう、その忍び込みやすさが別学にはあるんじゃないのかなと。皆、同性の中だけでいるから、楽しいし、意見も合う人が多く、仲良くもできて、コミュニケーションも取りやすいということは多くの人が言うようにあるのだと思いますが、それゆえに女性だから男性だからというふうに思ってしまうと、それが役割分担の話にまで行ってしまう危険性が潜んでいるのではないかなというふうに思っているのです。

そういったことが、県教育委員会、共学校での課題で気をつけなければいけないこととは別に、別学校で気をつけなければいけないことだと思っているのだけれども、これについて皆さんはどう思いますか。私が今話した別学校についての話について意見がある人いるかな。では、Gさん。

(G)

僕は、さっきの県教育委員会の方の意見に賛成で、確かに忍び込みやすいのかなと思って、僕が結構夏休みの時とかに行った学校では、なんか男子だからたくさん入学したら走るみたいなのがあったんで、確かに忍び込みやすいのかなとは思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。Cさん、どうかな。

(C)

男女の違いが別学だと露わになるって話に、それって結局共学でも同じじゃないかなっていう思いの方が強いです。逆に別学校だと、自分は実はこういう方が向いていたんだっていう自己肯定感を育むことにもつながるし、その経験があるからこそ役割分担の意識がある中で、でも自分はこっちに向いてるから私はこうしたいって言える力になるんじゃないかなって思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。ほかはどうだろう。Nさん、どうかな。

(N)

最初の意見の時に、別学校はその高校の歴史があるって言ったんですけど、確かに今の話を聞いて、男子だからとか女子だからっていう固定概念っていうか、女子も別にできるけど男子がやるイメージが強いついていうものの印象が広がってしまうっていうのは確かにそうだなと思っていて。

でも、やっぱり男子校は、別学校に行った先輩の話を聞いたりしても、なんか楽しい。女子の方は分かんないんですけど、男子校に行った先輩は本当にすごい楽しい、男子は男子ですごい盛り上がりだして楽しいっていうのを聞いていて、そういう人もいるから、その意見を聞いて、男子校に行きたいって人もいるだろうし。

だから別学校がなくなっちゃうとなると、今自分の学校でも女子と関わりにくたって人もいるし、自分の可能性、新たな一面とかを見つけるためには、そういう選択肢も残しといった方がいいんじゃないかなって思います。

（依田 高校改革統括監）

はい。ありがとう。

ですから共学校にも別学校にも課題はあって、それに気付いていくことが大切だっていうことだと、皆さんの話もそうだと思います。Cさんのお話もそうなのだと思います。

別学校に良いところがないと思っているわけではないですよ。別学校に行って成長している生徒はたくさんいますし、最初に言ったように、県教育委員会は別学校も共学校もとても大切だと思っていますから。ただ、気付いていくということが一人一人これから大切になるのかなと思います。

だから、女の人だからとか、男の人だからと、自分自身がまず思わないでいくことが大切なのかなと思います。自分は一体何をやりたいんだろう。自分の個性、自分の得意なところ、苦手なところを考えて、そこで自分は得意なところを伸ばして、苦手なところはなるべく克服するようにしていくというところに、そこに女の人だからとか、男の人だからとかということを考える必要は私はないと思っています。

例えば、昔の話なのだけど、もしかしたら今も少し残っているかもしれませんが、男の人は例えば、数学とか理系が得意で、女の方は、例えば、語学とか文学とか文系が得意でというような考え方が結構あって、今でも、理系の女子生徒は数字的にはまだ少なく、文系には女子が多くて、男性は理系が多いというのが数字的にはあるわけなんだけれども、だからといって女子が苦手だとか得意だとか、男子が苦手だとか得意だとかって考える必要はなくて、一人一人が自分を見ていくことがとても大切だと思っています。

そこは男子校を選ぼうが、女子校を選ぼうが、共学を選ぼうが、僕は一緒だと思っています。そこにしっかりと気付いていくことが、自分のことを考えることができるということが、人のこともそういうふうに考えることができるということだと思うんだよね。男子のくせにとか、女子のくせにとかというふうに、人のことを思わないようになるのではないかと私は思っているのです。

この話について意見がある人はいますか。違う話に移っていいかな。

今まで話してたのは、男子とか女子とか、男女の違いであるとか、そういったことについて皆さんの意見を聞いてきたわけだけれども、これからは少し違う話をしますね。

県教育委員会は、今回報告書の中で、別学校の共学化を推進すると言っています。男女別学校の共学化については、ずっと昔からそういうふうを考えていました。去年いきなり言い始めたのではなくて。実は何十年も前から、男女共学化を進めるという考え方を県教育委員会は持っていました。

それでは、去年、何を県教育委員会が今までから変えたかということ、これまでは、県教育委員会は主体的に共学化を考えるのではなくて、別学校がそれぞれ自分で学校の教育改革を考えていく中で、男女別学校の共学化についても考える中で、うちは共学になろうというふうに考えた場合には、県教育委員会はそれを支援しようと言っていました。それを去年、これからは県教育委員会が主体的に共学化を推進するようにしますと変えました。その変えた理由が生徒数の減少ということが、大きな理由の一つなんです。

高校に入る生徒が減っていくので、今、県教育委員会は高校の再編整備をしています。再編整備という言葉は少し難しいんだけど、簡単に言うと、生徒の数が減っていくから、

学校を統合して少なくしているんです。ここで皆さんに聞いてみたいと思うのですが、この後どのくらい中学生が減っていくと思うかな。今年、生まれた子供が高校入るのは15年後ぐらい、これから15年ぐらい経った時に、どのくらい子供が減っていくと思うかな。Bさんどれくらい減ると思う。

(B)

今どの学年も私たちの学校では100人を超えていますが、15年後100人をちょっとでも切ってくるのではないかなと思ってます。

(依田 高校改革統括監)

少し減るのではないかなと思っているのだね。では、Fさんはどう思うかな。

(F)

私の学校は今4クラスなんですけど、前は5クラスあって、もう1クラスなくなってるので、次はまた一つ減って3クラスとかなるんじゃないかなって。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。4クラスが3クラスになるかなということだね。Gさんはどのぐらいだと思う。

(G)

15年後だと、今学年全体で100人いるかいらないくらいなんで82、3人かな。

(依田 高校改革統括監)

なるほど2割ぐらい減る感じかな。Kさんの学校はどのくらいになると思うかな。

(K)

今クラスが22人で、学年でも45人なので、学年で30人切るようになっちゃうんじゃないかと。

(依田 高校改革統括監)

子供の数、出生数はもう決まっていて、引っ越したりする人もいるから、その数が全く変わらないというわけではないんだけど、大体は分かるのね。推計という言葉を使うんだけど、県教育委員会は、この後どのぐらいになるのかを計算しています。その推計を事務局の人に聞いてみようと思います。事務局から、今後の生徒の数の推計を皆に伝えてください。

(事務局)

こちらが中学校の卒業見込者数です。公立中学校等の卒業生数を推計しています。ここにあるとおり、令和6年3月と令和20年3月の14年間を比較しますが、埼玉県全体で、令和6年3月では約58,900人、令和20年3月では約44,100人ということで、約14,800人が減少することが見込まれています。埼玉県全体では25%程度が減少することになります。

地域別の数字でいうと、この地域、北部・秩父地域を合わせたものになりますと、令和6年3月では4,915人、令和20年3月では2,989人と、1,926人の減少という

状況であり、ことで、この北部・秩父地域で見ますと、39%程度が減少する見込みであるという状況です。以上です。

（依田 高校改革統括監）

どうかな大体皆さんのイメージと合ってたかな。県全体だと25%程度だから100人いれば75人ぐらいになる。北部・秩父地域だと39%程度というから、100人いたら60人ぐらいになるということです。

このような感じで、県教育委員会は推計をしています。中学生が減少していく中、高校をどうしてこうかと考えた時につ方法があると思います。

一つは一校一校の生徒の数を減らしていく。学校の数はいあまり減らさないで、学校の規模を小さくしていく。今高校は大体、学校によって大分違うのだけれども、1学年6クラスで240人ぐらいだとします。約39%の減少となれば、240人いる中で、1学年が145人ぐらいにしていくという考え方があります。大体4クラスぐらいになってくるということです。

そういう方法もある一方で、学校の規模は変わらず、6クラス240名はそのままにして、学校の数減らすという考え方の両方があります。

県教育委員会はなるべく、どの地域からいろいろな学校に通えるようにしたいと思っていて、ある程度学校を残す必要があると考えているから、学校の規模が小さくなることも一定程度必要だとは思っているのです。けれども、高校は、小学校と違ってクラスを少なくすることは難しいと思っています。その理由は、皆も中学生だから分かると思うのだけれども、教科ごとに先生が違って、高校も同様に違うのだけれども、さらに専門的な勉強をしてもらうようになります。

例えば、社会では、世界史もあれば地理もあって日本史もあって、政治・経済という科目もあります。理科でも、物理があったり、化学があったり、生物があったり、高校の学びになると、いろいろ専門性がどんどん分かれてくるんだよね。そうした時に、学校に配置する先生の人数は、法律で決まっていて、学校の規模が小さくなって生徒数が減少することに伴い、少なくなってしまうのです。

小学校だと、ほぼ全部の教科のことを担任の先生が教えてくれるから、校長先生と教頭先生と担任の先生と、ほかに何人か先生がいれば、それで小学校だとなんとかなるかもしれないけれども、高校で、もし2クラスとか3クラスとなっても、やっぱり生物も物理も、日本史も世界史も、現代文も古典も勉強しなければいけないから、先生の手数は1学年9クラス360人いる学校も、1学年3クラス120人の学校も、同じぐらいの教科の先生を揃えないと、同じ学びができなくなってしまう。こっちの小さな学校は、数学の先生が英語も国語も教えますというわけにはなかなかいかないわけだね。

そうすると、高校では、一定程度の学校の規模を維持しなければいけなくなってきました。そうすると、どうしても学校数を減らしていかないとなくなってしまうと、学校数をこれからどのくらい減らさなければいけないかという、そういう検討をしなければならないと思っています。

高校が、中学校とさらに違うのは、先ほど学びが専門的になっていくという話をしたけれども、学校によっても学びが違ったりします。普通科もあるけれど、農業も、工業も、商業の学校も、定時制とか、通信制とか、総合学科とかいろいろあるのね。普通科の中でも、個人個人の学力に応じた学びの違いはあるのだと思っています。

皆さんも、自分の学力に合った高校に行きたいという希望があると思います。一人一人の希望と能力に応じた学びの選択肢を用意しなければいけないと思っています。選択肢という言葉がまた出てきたけれども、選択肢は、すごい重要だと思っていて、農業、工業、商業、普通科の学び、さらに自分の能力に合った学び、その学びの選択肢を、南部地域の生徒にも、北部地域の生徒にも、それぞれの地域の生徒に対して、できる限り同じように提供しないといけないと思っています。

そうしたときに、学校の数を減らさなければならないということがあって、さらにこれから、今までにない学びも必要だとも考えています。情報とかAIとか、外国の大学に入りやすい学びだとか、中学校と高校で一貫して6年間継続して学べる学校だとか、今までにない選択肢も増やしていく必要があると思っています。それを高校の再編整備と言っているのだけれど、再編整備をするのは各学校の判断では難しい。

今まで県教育委員会は、男女別学、共学は、各学校の教育改革を進める中で考えてくださいと言ったのだけれども、これからは各学校が考える時代ではもうなくなってきていて、県教育委員会が、県全体を見て、例えば、北部地域の学校について、農業と工業と商業と総合学科だとか、普通科だとか、いろいろな学校を見る中で、なるべく皆にしっかりと選択ができるように、一人一人の希望と能力に応じた学びの選択肢があるようにと考えていく中で、どうしても似た学びの学校をくっつけたりしていかなければいけないことが出てきます。そこについては、共学校も別学校も全く同じように県教育委員会は考えていかなければならないと思っています、別学校だから別学校のまま残すというわけにもいかないし、共学校は優先的にくっつけましょうというわけにもいかないと思っています、そこは同じ学び、類似した学びの学校は一つになってもらわなければいけない学校も出てくるとしています。

あと、こっちの学校の学びが変わった時に、こっちの学校の学びを変えてもらわなければいけないかもしれない。県全体を見て、いろいろな学びが必要だと考えた時に、共学校と一緒にってもらう別学校も出てくるかもしれないし、別学校同士で一緒にしてもらうことも必要かもしれないし、もしかしたら全然違う学びの学校と一緒にあって、新しい学びを作ってもらう学校も出てくるかもしれない。新しい学校になった際に、新しい学び、特色ある高校を作った際に、どちらかの性別、男の人だけの学校ですとか、女の人だけの学校ですという話ではなくて、その学校はどちらの性別も学べるようにしないと、男女の教育機会が均等にならなくなってしまう。

だから、これからは、県教育委員会が主体的に考えるようにしたということなんです。なんとなく分かるかな。

結局、生徒数がこれから減っていく中で、学校を減らしていかなければいけないということに伴って、それでも学びの選択肢をしっかりと皆さんに提供するには、共学校も別学校も同じように再編整備の対象にしなければいけない。そうした際に、学校が主体になって考えていくということがもう難しくなっていて、県教育委員会が主体的に考えていくことにしましたということなのです。

このことについて、皆さんの考え方とか、意見とか質問、疑問があれば、いただきたいです。あるかな。

いいかな。

では、最後に皆さん、最初と同じように今日の感想も含めて、一人一人の意見を、お聞きしたいと思っています。そこでまたこの話も含めて話をしたい人にはしてもらっていいので、よろしくお願いします。

ではJさんからお願いします。

(J)

自分はまだ二年生で、進学とかはあまりまだ考えていないけど、この話を聞いて、別学校でも共学でも良いところはあるからしっかり考えていきたいなと思いました。

(I)

今回意見交換をしてみて、女子校や男子校、共学についてのメリット・デメリットを知ることができて良かったです。また、将来の夢という点で、選択肢の幅が広がったからよかったと思います。

(H)

今回の意見交換会で、共学化とか女子校とか男子校について深く学べたと思いました。

(G)

今回の意見交換会では、別学校と共学校のメリットとデメリットとか、それについてほかの人の意見とかも聞くことができて、自分の進路についてもよく考えてみようと思いました。

(F)

私は元々共学化には反対だったんですけど、今回の意見交換を通して賛成になりました。出生率がだんだん減って行って、学校と学校を合わせていかないといけないっていうふうになった時には、別学校と別学校を合わせていかないといけないっていうふうになったら、やっぱり共学化をしていかないといけないというふうに思いました。

(N)

生徒数の減少ってというのは、すごい自分でも実感していて、自分の学校でも年々各学年の人数が減ってきていて、自分の学校はどっかの学校と合併っていう話も出てきてるので、そういう部分では、高校も別学と別学が一緒になって共学になるっていうこともあり得るので、ちゃんと男だからとか女だからとかそういう考え方を自分がしないことをまず意識して、今後生活していきたいと思いました。

(M)

先ほどの県教育委員会さんのお話を聞いて、出生率が下がるから別学を一緒にしたり、そういうのは良いと思ったんですけど、それはそれで、男子が苦手で、女子が苦手で、みたいな人にとってはあまり良い話ではないと思いました。だからこれからも、男女別学の共学化について考えていきたいと思います。

(L)

私は改めてこの会に参加してみて、埼玉県は農業や商業や工業と、勉強のランクっていうか、いろいろ充実しているなと改めて思いました。私は共学化に賛成の気持ちが大きくて、今回の話を聞いてみて、県教育委員会さんたちが先ほど話していたような対策とかを考えているのを知れたので、私もこれからも共学化や男女別学校について、自分なりに考えていきたいと思いました。

(K)

ちょっと僕の理想っていうか、考え方になって難しいところもあるんですけど、高校の数とかをもし減らしていったりするのであれば、自分の個性とか、高校に入った後に見つかったりして、もしかしたらこっちの方が行きたかったなとか思うこともあると思うので、もし減らしたりするのであれば、途中から移動できたりとか、難しいかもしれないですけど、そういうシステムが考えられても、自由っていうか、個性を伸ばすっていう意味ではそういう考えもいいのかなって自分なりに考えました。

(E)

別学の高校同士をくっつけて、共学にして、その中でもいろいろな、人の個性によって選べるようなシステムを作るっていうのは本当に素晴らしいことで、社会に出て自分の個性が生かせるということはすごくメリットを感じました。

でもやっぱり人によって性格も違うし、そういう面では、別学の方が生活しやすい、それこそ勉強しやすいとか、別学の方がはかどるとか、そういうのがあると思うので難しいなと思いました。

なので、こういう話し合いの機会を、これからも続けていって、みんなが納得できるようにしていくことが大事と考えました。

(D)

今日の話を通して、男女の壁っていうのが結構あって、それで共学化に反対の人が多いと思うので、これからの学校生活で男女の壁をなくせるように、少しでも男だからとか女だからっていう考え方をなくせるように頑張りたいと思いました。

(C)

今回の意見交換会はすごく貴重な体験になったと思います。受験を目前にしてる3年生にとってはとても身近で重要なことだと思ったからです。私は共学化に反対だったんですけど、今回あまり知る機会がない県教育委員会の話も聞けて、共学化に対して完全に賛成はできないけれど、そういう流れがあるんだなって知ることができたので、少しずつ自分の中で整理してみたいと思います。ありがとうございました。

(B)

今日の話し合いを経験してみて、私は共学化はどうなのかなって思っていたけど、やっぱり共学でも別学でも男女の壁はあるから、共学化にすることは賛成の方向になりました。おっしゃっているところで、北部と南部の選択肢が平等に近くなるようにっていう話もしてらしたんですけど、やっぱり高校の配置を見てみると、南部の方が選択肢が多くて、北部は選択肢が少ないっていう状況があるので、やっぱり卒業生の推計が減少しているのに加えて、この選択肢の平等も考えていけたらいいのかなと思いました。

(A)

やっぱり人口減少に伴って、高校の統廃合っていうのは、これからどんどん増えてくると思うんですけど、やっぱり卒業生とかは母校がなくなってほしくないと思うし、その地域の人もやっぱりずっとそこに高校があって、なくなってほしくないっていう気持ちもあると思

うし。統廃合とか共学化にかかわらず、高校が主体的に学べる環境になってほしいなと思っています。

（依田 高校改革統括監）

はい。皆さん、ありがとう。こちらこそ本当に勉強になりました。

今日のこの会議は、皆さんと意見交換をする中でお互いに理解を深めることができればいいと考えて開催している会議です。私の言ってることが、学校の勉強のように、正しいとか、正解だとかということでは決してありません。県教育委員会の考え方を皆さんにお伝えして、皆さんは皆さんの考え方を県教育委員会に伝えていただいて、お互いに理解を深めることができたなら幸いだと思っています。皆さんからいただいた意見は、ここにいる県教育委員会の事務局職員だけではなくて、県教育委員会全体にしっかりとお伝えをして、県教育委員会の中で共通理解を図るようにします。

時間が少し過ぎました。これで終了させていただきます。

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(高校生の部・東部会場)

1 日時 令和 7 年 7 月 25 日(金) 14:00~16:00

2 場所 越谷コミュニティセンター 特別会議室

3 参加者 6名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部区参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

まず、今日参加されている皆さんから、お話をいただこうと思っています。自己紹介としてお名前とか学校とか、話せる範囲で結構です。中にはお名前など本日公表されないというご意思をお持ちの方もいらっしゃると思いますので、自己紹介を自分の紹介できる範囲でお話をいただいて、併せて皆さんの県教育委員会の報告書に対するご意見でも構いませんし、自分のお考え、男女別学・共学に関連したお考えを伺えればと思います。そのお話を伺った上で、意見交換を展開していきたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思っています。スタートしましょうか。Aさんからお願ひします。

(A)

この意見交換会において、中 3 のときからジェンダー平等とか、その教育の話とかを講習で学んできた経験とかもあって、すごく興味を持って、意見交換会に参加しようと思いました。私は、共学にいますが、それでも、別学で過ごしている子が友達にもいるんですけど、その子たちの生き生きしてるところを見て、中学校の時とかはあんなに話してなかったのにとかと思ってて、私はとても嬉しかったです。それで、別学だと、偏見が広がるっていうわけでないと思う。男女がないからこそ、男子はこれ持ってよとか、女子は、綺麗に字を書いて、まとめてあげるねっという話とか、無意識のうちに固定されてるところもあったりすると思う。男女別学だと、男子同士、女子同士だから、そういうことが起こることはなくて、それもまた魅力かなって思ったりしています。

(B)

私は A さんと一緒にガールスカウトという団体で活動していて、そのガールスカウトでは、昨年からジェンダーについて学んでいて、一人一人でジェンダーについて一つ自分が興味がある問題について考えてみようっていうテーマがあった時に、私はこの共学化について考えようと思いました。

その理由としては、以前、県教育委員会の方からアンケートをお願いしますというのが来ていて、私もアンケート答えたんですけど、そのアンケートの結果を見て、やっぱり共学化しない方がいいっていう意見が多かったの、埼玉県内では共学化しない方がいいって思ってる人がいっぱいいる中で、県教育委員会の方からは推進していきますというふうに来ていたのが、疑問に思ったことと、先ほど依田さんがおっしゃっていたアンケートだけでは意見が集めきれないっていうところで、新しい疑問なんですけど、集めきれなかったという時点でも共学化の反対が多い中

で、共学化を推進しますっていうふうに報告したのはどういう理由があるのかなということが気になりました。

(D)

僕はこの意見交換会に出ようと思ったきっかけはニュースなどで、共学化の問題を取り扱っていることがあって、そこで疑問に感じた点があったからです。

この共学化の問題は、そもそも共学化するかしないかっていうこの議論をするべきではないと思います。その理由としては、1件の苦情が県の苦情処理委員の方に来たっていうお話を伺ったんですけど、その1件の苦情が、来たぐらいで共学化するかしないかという議論には普通ならないのかなと思いました。以上です。

(E)

私がこの意見交換会を知ったきっかけは、同じ学年のBさんからこの話を伺って、元々共学化について興味があったということと、去年の夏頃に行われた別学の生徒会の方々が、県教育委員会の方に、多くの反対の署名を持っていった会が行われたニュースを見まして、クラスの子も参加していたので、すごく気になっていて、そんなに多くの署名があってそのような会を開いたのに、そのまま共学化を推進する理由や、私は別学に在学しているので別学への愛があるわけですが、その共学がどのようなものか理解してないという点もありますので、共学の方の話を聞いたりですとか、共学化を進めたいと考える人たちの意見も聞きたいと思い参加させていただきました。

私の意見としましては、その別学の学校が今、倍率が割れているものが少ないのもあって、その別学だからこそのニーズもあるのかなと考えています。例えば、私が所属している音楽部という合唱を行う部活なんですけれども、その合唱の方では、県の合唱コンクールの上位に、多くの別学校が入っておりまして、特に浦和第一女子高等学校さんや松山女子高等学校さんは全国大会でも1位、3位に入賞するレベルの伝統を持った高校になっています。共学化をしてしまうことで、今までできていた女性合唱の伝統が崩れてしまうのではないかという意見があるので、私は共学化に反対します。以上です。

(F)

今回の意見交換会に興味を持ったきっかけは、自分の学校でも頻繁に共学化に関しての話が生徒の中ですごく飛び交っていて、学校の方からも今回の意見交換会に関するお知らせがあったので、参加させていただきました。

私の立場は、共学会に対しては反対です。その理由は、賛成側にも反対側にも様々な意見があると思うんですが、反対側の主張が全て合理性がないというわけでもないですし、そもそも共学化っていうのは、立法ですから、その立法というのは、現行の制度に対して、より大きなメリットを示さなければ、立法というのはできない。それにもかかわらず、共学化に対して、このまま別学でいくよりも大きなメリットをまだ示せてないっていうのが今の現状だと個人的な解釈しておりますので、反対っていうのが私の意見です。

(G)

私は共学化については反対です。理由としましては、私は1年間海外に留学をしていて、向こうではもちろん別学校がないので共学校に通っていました。ここで様々な経験をしたのですが、海外はやはりジェンダーギャップが少なくてLGBTQの方への配慮があったりとか、そもそも男

女での差別が起こらないようにしているように感じるかもしれませんが、実際はそんなことなく、女子生徒に対する加害であったりとか、授業内での差別もかなり多くありました。留学先では、女子というだけで平等な教育の機会を得ることができませんでした。埼玉県に別学校があって、女子教育を行っているということは、社会的に見ても大きな意義があると思いました。

(依田 高校改革統括監)

一通りご意見をいただきました。皆さん反対ですね。皆さんからいただいた意見から、意見交換を進めていきたいと思うんですが、まず B さんですね。アンケートの意見で反対意見が多かったのに、県教育委員会が推進の方針を出したのは、納得がいかないというような趣旨だったと思います。また、こういう意見交換がさらに必要なぐらい、アンケートではまだ十分な意見が集められてないという認識があるのに、方針を出したことに対する疑問も併せてありましたね。

県教育委員会の考え方を、お話をします。県教育委員会が今回アンケートをしましたのは、いわゆる多数決を取るためにやったものでなく、いわゆる世論調査をやったものではないです。今回、私どもが苦情処理委員に出そうとしている報告書を策定する上で、意見がある方について意見を寄せていただく、ご関心のある方に意見を寄せていただくという趣旨のアンケートです。実際別学の方からたくさんアンケートを寄せていただいています。共学の方からは比較的少ない結果でした。全県立高校の生徒のうち別学校の生徒は約1割ぐらいいますが、アンケートに回答いただいた高校生のうち、別学校の生徒は約3割でした。世論調査という形で、不特定多数に、学年や男女比や地域のバランスなども図って行ったものではないのです。私どもとしては今回、特に別学に通われてる皆さんはどのような内容の反対をされているのかに非常に興味があります。別学を希望されて別学に行っている方々が多くアンケートを寄せていただく以上、反対が多いことは、想定はされたことですが、どのような理由で別学を選ばれたのか、別学を選んだ理由と、別学に通われて実際どう思っているのか。また、その共学化についてどのような意見を持っているのか、その内容について私どもは大変関心を持って、しっかりと県教育委員会で議論をしました。先ほど共学化推進の方針を出したのが疑問だという趣旨だったと思いますけれども、県教育委員会は共学化を推進するという考え方は、以前から一貫して、共学化を推進する立場でいました。

その理由については、また意見交換の中で触れていこうと思いますけれども、それぞれの学校の持っている、歴史であるとか、住民の皆さんの考え方であるとか、在校生、またこれから進学される中学生の考えも含めて、それぞれの学校の中で検討をするように、私どもはこれまでしてきました。昨年までですね。その結果、何校かの学校は共学化になってきたわけですが、それを今回、各学校にお任せするのではなくて、県教育委員会が主体的に判断することに今回方針を転換しました。

今までは学校に、よく学校の状況を見て、学校が今後どうあるべきかを考える中で共学化を考えてくださいと言ってきたことを、これからは、県全体を見回しながら、県教育委員会が主体的に進めていくことにしましたということが、昨年の報告書のポイントの一つです。

今回、なぜその意見交換をまたするのかという2番目の疑問なんですが、先ほど申し上げましたように、これまでいろいろ、意見を出していただきました。

別学校の生徒さんが、異性のいない中で伸び伸びと生活ができることを大変喜ばれている、伸び伸びと生活する中で、体力や学力を伸ばすことができたという実感をお持ちの生徒さんがたくさんいることもよく分かりましたが、個々の顔が見える中で、具体的にお話をもう少し掘り下げて伺ってみたいと思ったのがその趣旨です。私どもが、昨年報告を出す中で、去年と今年、来年と、生徒さんも様々変わっていきますし、世間も変わっていく中で、どのように皆さんのご意見

がこれから変わっていくのか、また、変わっていかないのかということも含めて、継続して伺っていく必要はあると考えました。その観点で今回の意見交換会を持たせていただいたところです。

話を戻させていただきますね。先ほどお話をいただいた中で、Aさんは、共学校に通われてるというお話でしたが、一方で、別学に通学した人は、生き生きしてる姿を見て、性別にとらわれることがなく、生き生きとした別学の生活を見て、別学はあった方がいいとお考えになられたという趣旨でした。

皆さんにご意見を伺っていきたいんですけれども、どうして、異性がいないと生き生きした生活が送れるのか、実際自分は異性がいないから生き生きしているという方がいらっしゃる、お話を伺いたい。

(B)

私は中学時代は男子もいる環境だったんですね。高校になってからの方が喋る回数というか口数なんかより活発に話すようになったなと感じている。なぜかという、中学校の時は、教室の座席が男子同士、女子同士が隣合わせや前後にならないように、そういう席の並びだったが、高校だとどこを見ても全員女子しかいないので、休み時間も隣の人とお話したり、授業中も分からないところの相談だったりとかも、中学時代よりも高校の方が話しやすい。男子よりも女子の方が話しやすかったというふうに感じています。

(依田 高校改革統括監)

同性の方がやっぱり話はしやすいですか。そこは意見はいかがですか。男性の方はやっぱり男性同士の方が話をしやすいですか。

(F)

中学時代と比べて男子しかいないので、共通の話題っていうのが生まれやすいこともありますし、クラスとかで盛り上がる時とかも、中学時代の共学だと周りの異性の目っていうのがあったり、当然、男女が半分ずつなので相対的にも男子の数も少ないですし、別学になるとそれが2倍なので、盛り上がりとか、みんなの意識っていうのは一致しやすいかなっていうところがあり、そういったことから生き生きしやすいのかと思います。

(E)

私は中学時代、共学だったんですけれども、別に男子に対して話しにくいと感じたことはないんですけれども、共学ならではの、女子はおしとやかというレッテルを貼られたりだとか、あとは気が合う男子がいても仲良くしすぎると、色目を使ってるように見られてしまったりだとか、そういうことがあって、私も共学に通っていたけれども、周りで話すのは女子が多かったと感じていますし、今別学に来てどんな人とも楽しく話せるので、周りの目を気にせずに話せるようになったのは別学でよかったことの一つだなと感じています。

(G)

私は元々中学校は共学校に通っていたため、受検をする時も共学にしようと思ってました。元々異性とのコミュニケーションにも特に問題がなかったのも、中学校と同じような環境の共学校に通おうと思っていたんですけど、留学をするとすると、今の学校が一番留学へのサポートが手厚かったのも女子校に通うことになりました。

女子校に通って一番良かった点は、性別などの不当な理由で評価の差が出ないところです。中学生の時に、女子の体育の成績は、男子よりも良くなっていました。私も全く体育得意じゃないのに、女子ってだけで成績がよくつけられてたことに納得していなかったんですけど、女子校に通い始めて、そういう性別によって評価の違いが出ないことで、すごくフェアな評価がされていると思って、それでモチベーションを維持できてますし、体育の授業も楽しいと思っているので、そういった面では異性のいない状況で、性別によって優遇されることがない環境で学べていることが、自分にとっては良かったと思っています。

(依田 高校改革統括監)

分かりました。中学校では、男子と女子で評価の違いがあるなって感じでいらっしゃったんですか。

(G)

強く感じました。

(依田 高校改革統括監)

男子と女子で、いわゆる学校の評価だけではなく、教育活動の中もそうかもしれませんが、中学校時代、高校時代含めて、男子と女子で扱いが違うとの考えをお持ちの方はいらっしゃいますか。共学校ではどうですか。

(A)

教師の態度がちよっと違うかもしれない。男子だとすごく厳しいんです。グラウンドを走る時に少し喋るぐらいで、1周回ってきたらすごく大きな声で怒っていた。逆にその先生が女子を担当した時があったんですけど、話をしても笑っていた。先生自体にも問題があると思うんですけど、目に見えちゃうと、支障があるのかなって思ったりしてます。

(依田 高校改革統括監)

そのほか、思い当たるようなことがあれば。

男子と女子の違いを皆さんがどう考えているのかを伺おうと思っている。同性だと話しやすい。同じ話題もあるし、意識も同じ意識を持っているというような趣旨のお話もありました。男子と女子っていうのは違いが、骨格が違うとか、背が高い低いとか統計上で、走る速さが違うといったことは、あるのかもしれませんが、学校の生活、教育活動の中で、男子と女子が違うカリキュラムであるとか、違う教育内容であるとか、Aさんからあったように違う指導方法であるとか、そういったものを皆さんはどう考えているのか、それが良い教育なのか、それともそれはあまり望ましくない教育だと思うのか、その辺ご意見があれば伺いたいと思う。

(E)

別学に通ってるのもあって、あまり男子が行っている教育について詳しくないので、Fさんに男子校でどのような教育を受けているのか質問してもよろしいでしょうか。

例えば体育の時間ですとか、共学の時に通って行ってたことと、何か男子だけになって変わったこととか授業内にありますか。

(F)

体育の授業では、中学時代よりもよりハードになったりというのはよくあるんですが、勉強という面だと特に中学時代と差異はないかなと思う。体力的、身体的な差は、それは男女間で、どうしても身体的な差はどうしても出てしまうので、体育の授業が厳しくなるっていうのは、ある程度考えられることなのかもしれませんが、身体的な差異が出にくい勉強に関しては特に中学校として今の男子校でも特に差はないかなと、自分の肌ではそう感じます。

(依田 高校改革統括監)

例えば学校行事とか、勉強と体育じゃない学校生活においては何か、男子校は共学と違うって思うようなところなんてありますか。

(E)

文化祭は女子校とは少し違うと思うのですがどうでしょうか。

(F)

文化祭は、女子がいないので、共学の文化祭はあまり行ったことがないので違いが分からない部分があるが、共学と違うなって言われるところは、ミスコンというのがあって、まあ、男子が女装して、一番のかわいさとか決めるとか、そういう特有のイベントはあったりする。

(E)

女子校も男装コンテストが以前ありましたね。今でもカップルコンテストっていうのがあって、同性同士なんですけど、カップルを演じてどれが一番面白かったのかとかいう競う行事があるので、そこは結構別学ならではのなと思います。

(依田 高校改革統括監)

女装もあるし男装もあるということですね。Dさんは、男子校ですけど、何か男子校ならではの違いを感じたことはありますか。

(D)

あります。部活動の選択であったりとか、文理選択の時に私は共学でないのであんまり分からないんですけども、共学だと、例えば吹奏楽とか、女子が多いから、興味があっても男子が敬遠したりすると思うんですけど、別学校では、自分の興味があることに、挑戦できると思う。

(E)

今の意見はすごく面白いと思いました。確かに別学ならではのと思います。私もその方がいいと思ってます。

(依田 高校改革統括監)

ほかはどうですか。最初のテーマに戻ります。男子校のカリキュラムであるとか、学びであるとか、女子校のカリキュラムであるとか、学びであるとか、共学の学びであるとかについて、違いはありそうな感じもありますよね。これは皆さんにとってどうですか。どう思いますか。男の人と女の人とそれぞれ分けて学んでいく、違う学びがあるのかについて、どう思いますか。

(E)

別で学ぶことで得られる良さもたくさんあると自分自身感じてはいるんですけども、そのずっと別で学んでるっていうのはまた違うと思っていて、そのどこか社会に出たら男子と女子、同じ場所で活躍しなきゃいけないことが今多いので、教育で別で学ぶことも大切だと思うんですけど、一緒に学ぶことも大切だと思うので、全てがこの別学になるべきというわけではないんですけども、やっぱりその別で学ぶことで得られることもあるので。その辺も大切だと思います。あとはその身体的にこの男女の差があるのは仕方ないと思っているんですけども、でも知識的なものはなるべく対等に学んだ方がいいと思っていて、例えば小学5年生や4年生の時に女子は生理について、女子だけ教室に集められて教育をするっていう場面があって、それについては、男子も同じように同じ場で学んでもよかったんじゃないかなと思う場面もあるので、その内容にはよるんですけど、一緒に学ばってということも大事だし、でも、別で学ぶことによる良さもあるので、どちらも大切なので、選択肢としてはあってもいいかなと思ってます。

(F)

自分も男子と女子で学ぶことが違うのはこれはよくないなというのは思う。小学校・中学校で共学で、高校で男子校という自分の経験からの話だと、共学でしか学べないことがある一方、共学では学べないことがあるんですね。一方、別学でしか学べないことがあって、一方、別学では学べないことっていうのがある。中学校まで共学で学んで、その後、別学に行くともた新たな学びっていうところがあって、それぞれでしか学べないことを補填するという観点からは、共学別学どちらでも男女で学ぶ内容には若干違いはあるものの、まあそれぞれお互い共学と別学で補填はできるので、現状別学っていうのは存在意義がここにあるんじゃないかなと思う。

(G)

私も学びの面では、共学と別学で大きな違いはないと思いますが、家庭科の授業などで女性の社会的活躍をどう促していくべきかなどの女子教育が行われているのは、別学の良さとしてあるのではないかと思います。

もしかしたら少しズレてしまうかもしれないですが、海外で共学に行っていた経験からすると、やはり体育の授業とかはかなり違うなと思っていて、日本でも中学生は体育の男女共習が3年前から始まっています。海外の学校も体育の授業は男女共習でやっていました。その時は、バスケットボールとかバレーボールそういった競技全く関係なく男女一緒に行っていました。もちろん身体的、骨格的な違いもありますし、男子から女子への性的加害が私のクラスで起こってしまい、体育の授業に参加する恐怖心みたいなものをかなり感じてました。私のクラスにいた女の子は、体育の授業はほとんど参加できずに外で見ているだけになってしまっていたのがすごく印象的でした。日本の中学校における体育の男女共習化によって、どのような授業が行われているのか資料を確認してみましたが、私が経験したことに似た部分もありました。前提として、性別の違いによって起こる性的加害を防げないのにも関わらず、男女共習にして女子が体育に参加できないような環境ができてるのはすごく大きな問題だと思っています。それが中学校だけでなく、高校にも広がっていくと、女子校で女子だけの体育の授業を頑張っていきたいという生徒ももちろん増えると思いますし、今中学校で男女共習で体育の授業を受けていて、不快な思いをしている女子生徒、男子生徒どちらもいると思うので、そういった学生に対して別学校を選ぶ選択肢を奪っていくのはどうなのかと思います。

公立の学校から別学校がなくなると、私立の学校に通わなくてはいけなくて、経済的格差が生まれてしまうと思います。お金がある人だけが、私立の別学校を選べる環境になるぐらいだった

ら、公立の別学校を残して、そういった嫌な思いをしてきた生徒に対して、フェアで性的被害が少ない学校を提供していくのも、もう一つの社会的意義があると思います。

(依田 高校改革統括監)

大切な観点ですね。続けて、Aさんどう思いますか。別々なカリキュラムがあったり、別々な学びがあるってことについてはそれについてはどう考えますか。

(A)

私は、それは良いと思ったりします。私の学校も中学校の時は、Eさんの言っていたように、月経とか生理の話を男女別々でやっていました。高校生になったら、男女に分かれて講義をする時間が1回だけありまして、その時はデートDVの話を聞いたんです。その時女子だけだったんですよ。でも、デートDVの話は両方で聞いた方が良くないかって思ったりしました。あと、学びの違いとは外れますが、小中学校で仲良くしてた男女とか結構、隔たりがなく思春期とかなくて、そうやって仲良くしてる子とかで、そういうのが多いんですけど、それで高校になってくると、また違う子がいっぱい来ることになる。小中で男子が大丈夫だったから、高校も共学で大丈夫かなって思ったりしたら、なんか全然違ってたっていう子が結構いました。

あと私は、小中学校の方は話せてたんですけど、高校になったら変わったというか、男子と話したりもするんですけど、頻度は女子の方が多いというか、気楽に話せたりできるのは女子の方。男女の交流でストレスで不登校になっちゃうことがあるんだったら、私は救済処置として別学があってもいいんじゃないかって思ったりします。通信制とか定時制とかも、選択肢もあると思うんですけど、日中でみんなで、同じ時間でやった方が、同じ経験してた方が社会に出てもつながりがあり話しやすいでしょうし、それもいいかなって私は思います。

(B)

私は、教育やカリキュラムに対しては、共学の高校に通ったことがないので比較できないんで、教育の差があったりとかについて、言えることがない。今のお話を聞く中では、具体的なカリキュラムの差がなかったように感じていて、カリキュラム以外に何が違うのかって考えた時に、学校ごとの伝統だったりとか、部活動の選択の幅のところに、別学と共学を選択する時に重要視する点がそこにあるのではないかなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

先ほど、男子校での教育の違いがありましたけれども、そういう違いがあること自体、Dさんは良いと思っているわけですね。中学校の時の共学は一方でどうでしたか。男子と女子と一緒にいることで良いこととか、また良くないこととかってというのはありましたか。

(D)

自分が思いつくのは、共学だと体育の授業で、男子と女子で別々にやってるような感じなので、あまり一体感が持ててないっていう印象を受けるんですけど、別学校だと全員で同じ競技ができるので一体感を持てるのがよいと思う。

(依田 高校改革統括監)

お話を伺って、別の良さもあるというご意見は多かったと思いますし、一緒に学ぶことも大切だとのこと意見もあったと思います。県教育委員会の考え方を、皆さんにお話をしますね。

県教育委員会は、男子と女子とで同じ内容を学ぶことをよしとしています。男子と女子で違う内容の学びをよしとはしていません。同じことを学ぶべきだと考えています。先ほどカリキュラムの話が Bさんからありましたけれども、カリキュラム的には今男子と女子で目に見えて外形的に変わりがない形になっています。以前は、女子は家庭科、男子は技術科と変わっていた。以前は男性は、例えば、お金を稼ぎに仕事に行くためにこういう学びをした方がいい、女子は将来、家庭に入って子供を育てるためにこういう学びをした方がいい、別の学びをした方がいいという社会的な考え方みたいなものが、数 10 年前まではあった。県教育委員会も各学校にそういう学びをしてくださいねとしていた。

今はそれはありません。男も女も協力をして、男女共同参画という言葉がありますけれども、お互いにそれぞれの個性に応じて得意・不得意を補いながらまた得意なところを伸ばしながら、社会で活躍していこう、家庭でも男女が協力して家庭を作っていこうとの考え方で、同じ学びを学校でもした方がいいと考えています。

男女共学化を県教育委員会が進めようとしている一つの理由がそれなんです。男の人と女の人と同じ学びをするのに、男女の共学化は望ましいと思っているということです。それに対して、Gさんがおっしゃったように、弊害がないとは思っていません。共学の課題はたくさんあると思っていますけれども、ただ同じ学びをするのに同じ場所で、同じ人から、同じ時間に同時に学ぶことが、先ほど Aさんからデート DV の話もありましたけれども、重要なことだと思っているのです。それが共学化を進めていこうとしている考え方の一つです。

皆さんにいろいろなご意見があるように、県教育委員会の意見に賛同してくれとか、正しいと申し上げるつもりはないんです。県教育委員会の考え方、報告書の方針の一つの理由ということです。

生き生きと生活できる、共学校で、女子が嫌な思いをする、おそらく男子もあるのでしょうか。そういう話もありましたが、男はこうとか、女はこうとか、女子校だからとか、男子校だからという意識があるとすると、その意識自体が男子と女子を特性で分けて、能力とか、生き方の判断をする落とし穴に入っていく可能性があるのではないのかなと考えています。

男性と女性を特性に分けることは、性別にあった仕事だとか、女性はこのことに合っているととか、男性はこちに合っているととか、昔からある既成の概念に絡め取られてしまう、落とし穴がどこかにあるのではないかと思うのですけれども。そこについて、皆さんは男性と女性の特性があって、カリキュラムだけではなくて、校風とか伝統も含めて、女子には女子のやり方がある、男子には男子のやり方がある、これは必要なことなのか、それとも見直すべきものなのか。県教育委員会の考え方に拘る必要はありません。そこについて皆さんの話を伺いたいと思います。

男子校は男子校としての校風があるべきか、行事があるべきか。Dさんどうですか。

(D)

あるべきだと思います。自分が通っている学校では、入学してすぐに校歌応援歌練習があるが、校歌応援歌練習をやったりとか、集会で校歌を歌うときに、結構、気楽に肩を組んで歌うのがよいと感じています。

(B)

女子校だから、こういうものになったというよりは、一つの方向、一つの県立高校としてこういう伝統があるってということで、女子校っていう理由だけじゃないと思う。女子校という理由だけで、別学だけの行事があってはいけないってということではないと思います。

(依田 高校改革統括監)

それは女子校ということではなくて、学校の伝統であるとか、行事っていうのは個々の学校それぞれであるべきで、女子校だからとか男子校だからっていうことは望ましくないってことですか。

(B)

そういう考え方があってもいいと思いますが、そういう理由だけではないと思います。

(依田 高校改革統括監)

その理由も一つの理由であっていいとは思いうことですかね。分かりました。

(A)

校風とか、それならではの教育っていうのは、別に分けられるというのは、あるかもしれないんですけども、男子は仕事に行って、女子は家庭をもって子供を育てろっていう教育だったと私はそう認識しているんですけども、分けられた方が効率が良いついていう話は聞いてはいるのですが、それはそれでなんか違うよなっていう気がします。

自分でやりたいって、選択したことだと思うので、それも自分で見て、自分は、特化した話とかも聞いてみたいとか、興味があった上で入学してるんじゃないかって思っています。

女子校、男子校で別々で話があっても、食い違いとかあってもいいのではないかと思います。

(G)

先ほど、おっしゃったように女子校は一般的に見たら、静かって大人しい感じでイメージ持ってらっしゃって、男子校は割と騒がしい、そういったイメージを一般的に持たれてると思います。実際は、女子校から見ても別にそんなこともなく、それによって生まれた校風とかもそこまで強いのではないと思います。伝統というのも難しくて、女子校だから出来上がったものではないという、Bさんの考えに賛同しています。

ステレオタイプがそこにあるんじゃないかと言われると、外側から見てたら確かにそう見えるかもしれないけど、実際に別学校に通っていて、それを実感することはほとんどなかったように感じます。

(F)

基本的には、Gさんの考えと同じで、一つ付け加えることがあるとすれば、別学だからこういう教育、こういう校風というのは、絶対にないと言えるかと言われるら、100%ではないと思うんですけど、これは共学にもあることだと思ってて、皆さんの話とか聞くと、中学校時代共学では男は力仕事をやる、女性は家庭科の授業で頼りにされる、そういうのが共学でも実際にあったことなので、別学だからこうっていうわけじゃなくて、共学にもこれは実際ありえることだと思う。これは別学の話だけではなく、共学、別学を含めた教育全体として、考えるべきじゃないかなと思います。別学だからこうというわけではないと思います。

(依田 高校改革統括監)

男子は男子の校風があったり、学校行事があったり、学校生活がある、女子には女子に合った学校生活、教育、学校行事がある校風がある。それぞれ男子と女子で違いがあった方がいいのか悪いのか、皆さんの意見はどうですか。

(E)

私は、よくないと思っています。別学に通っていることで、男子はこう、女子はこうっていう、そのステレオタイプな考え方が膨らんでとは思わない。先ほどFさんやGさんがおっしゃったように共学だからこそできてしまうステレオタイプな考え方もあるとは思ってます。

ただ一つ私の経験から疑問としてあるのが、県教育委員会も男女のあり方、男はこう、女はこうっていうのはない方がいいっていう考え方なんですよね。私が高校で授業を受けた際に、これはたぶん女子がいっぱいいる環境だから言われたことだと思うんですけど、「皆さんは大人になったら子供を産もうね」って言われたことがありました。そのセリフは、女はこうって言われてるものでもあるけど、でも女性にしかない特性だからこそ、まあ言われたことでもあると思うんですね。

社会は女はこうだって求めている部分もあるし、少子化的な問題から考えると。なので、一概には言えないっていうのも少し思いました。

(依田 高校改革統括監)

その発言は、県教育委員会の見解は、適切ではないですね。女子に対して、「子供を産もうね」との表現をしたのは、適切ではありません。

(E)

これは女子校だから、できた落とし穴だと思いますか。

(依田 高校改革統括監)

女子校ではなくて、それは教員だと思いますね。適切ではないですね。

県教育委員会の考えをもう一度お話をします。女子とか男子とかではなくて、個々の生徒一人一人の個性にあった教育が必要だと考えています。それはその一人一人の能力もあるでしょうし、希望もあるでしょうし、そうしたものを踏まえて一人一人に合った教育が必要だと思っていて、男子校だからこうとか、女子校だからこうとか、共学だからとかっていう考え方を持ってはいないです。あくまで生徒一人一人個々を見るべきだっていうのが県教育委員会の考え方ですね。

その上で、県教育委員会が共学化を進めようとしているのは男子に合った教育とか、女子に合った教育とかではなくて、一人一人に合った教育をしようとした時に、男子と女子とを分けること自体に積極的な意味を持っていないのです。ただ、異性がないところで生き生きと生活ができるであるとか、また先ほどGさんからあった、性差別的な問題であるとか、これの存在を否定するわけではない。それは十分気をつけなくてははいけないし、配慮しなければいけない。今、現実に皆さんが通っている学校についてどうすると決めているわけでもなければ、いつまでどうすると決めているわけではないんです。ただ、県教育委員会は積極的に男女を分けて男女別々の教育をしようという考え方を持っていない。同じ勉強をしてもらいたいと思っているんです。

同じ先生から同じ場所で同じ時間に同じことを学んでほしいというのが県教育委員会の考え方なんです。ただ、共学は、現実、男子と女子が一緒に学ぶ中で、異性間で具体的に問題が発生する。別学には異性がない以上、具体的な生徒間の問題はほぼ発生しないと言っていると思います。なので、どうしても共学は課題が出てくるんです。共学のパラドックスという言葉があるわけですが、共学であるが故に社会にあるジェンダー観がそのまま学校生活に入ってきて、女子は、男子はといった教育が顕在化しやすいということはある。

県立高校は、90%以上共学ですから、十分気をつけなければいけないことだと思っています。

【休憩】

（依田 高校改革統括監）

続きを始めます。男性と女性、それぞれ学びに違いがあっているのかという話を、皆さんと意見交換してきたのですけれども、副参事の出井さんが共学校の校長先生をやった方なんで、皆さんから別学の話はいろいろ聞いたので、共学の話をしてもらおうと思います。

（出井 県立学校部副参事）

まずは皆さん様々のご意見をありがとうございます。一つの事例についてお話ししたいと思います。共学が良い、別学が悪い、という話ではありません。私の経験で事例としてお話ししたいと思います。

私がいた共学校は、私が赴任した時には、先ほどの例で言うと、ミスター、ミセスコンテストが文化祭の中でありました。

2年目のときに、二年生にいた女の子の弟が中学校3年生にいました。その子が入学したいと相談を受けました。自分は男の性なんだけれども、中学校時代からスカートを履いて、セーラー服で登校していたとのことでした。多様な場所に自分の身を置きたいということで、次の年に実際に入学しました。

その子が入学してくるとなった時に、問題とかそういうわけではなくて、子供たちもそうだし、先生方もかなりの時間をかけて話し合いをしました。どうしたらいいんだろうということ。先ほど海外への留学の例とかあったけれども、それを考えるべき時代なんだなと。次の年の文化祭がどうだったかっていうと、子供たちが、生徒会も含めてみんなで考えて、その子のことを考えた時に、ミスター、ミセスコンテストをやらない、いろいろな子たちがいるんだということになった。

一番重要だと思ったのは気付きでした。これまでの考え方っていうのはずっと変わらないのではなくて、いろいろな点で考えなくてはいけないっていうことですね。これはどっちが良い、悪いのでもない。子供たちの意見だって大事です。それを受けて大人が違うんだと蓋を閉めてしまうと変わらない。そうではなくて、みんなで考えていく。考えていくことによって、現時点はこうなんだからっていう話だけではなくて、次はどうしたらいいんだ、そこに一石を投じるのは気付いた皆さんなのではないかと思って聞いてました。共学校、別学校良い点がどちらにもあるし、悪い点もどちらにもある。事例ですけども、共学校でも変えられるっていうことです。

最後に一つ加えると、その子が昨年卒業していきました。その時にやはり来てよかったという話をいただいています。みんなと一緒に考えることができた。自分が、どうにかして社会を変えたいということを高校時代学ぶことができた。それは一緒に空間にいたからできたことであって、こういうこともあるという事例です。

（依田 高校改革統括監）

先ほど学校行事の話があり、出井副参事に話をしてもらったが、去年、報告書を作るに当たって、共学校にしても別学校にしても様々、例えば生徒会の役員の男女比とか、学校行事とか、ほかにもいろいろ、男女別学・共学に関わらず調査をしました。調査をする中で、県教育委員会が考えたことは、個々の学校行事について、男装コンテストが悪いとか女装コンテストが悪いとか、その行事自体悪いとかどうだとかは考えたことはないんです。県教育委員会では、それがどういう意味付けで行われている行事かというところに留意をしました。

男らしさとか女らしさを強調するが故にやっている学校行事だとすると、どこかに男女の特性に合った教育が必要だとか、女性に合った仕事、男性に合った役割とか、いわゆる性別による役割分担意識をすり込むことになってしまう可能性があるんじゃないかと考えました。個々の学校行事の善し悪しではなくて、その学校行事、校風も含めてですけれども、そういうものも含めて、特定の性別による役割分担意識をすり込むようなことになっていないですか、そこは各校、気をつけてください、必要な見直しをしてくださいということは伝えているんです。

別学・共学ではなくて、別学であれ共学であれ、それが行われている一つ一つの意味付けを、皆さんにも問いかけてほしいと思っています。男装コンテストが、男性の何を評価してそれをするのか、社会の文化の中に位置づけられた概念みたいなものに対し、自分たちが侵されていないのかどうなのか、女装コンテストって中で女性をどう評価するのか、社会的な観念みたいなものを生徒に植え付けるような要素になっているのかいないのか、そういったものをどう解釈しながらやっていくのか。女子の体育祭はダンスですね、男子は棒倒し、騎馬戦ですね、そのこと自体は別に問題はないわけです。ただ、それにジェンダーによつての役割分担であるとか、特性みたいなものを刷り込むようなことを意図してやっているとするのなら、そこについては考えていただく必要がありますということを学校には伝えているんです。県教育委員会の言っていることが正しいというように思わないで結構です。県教育委員会の考え方としてお伝えしているのですから。皆さんの中でもそういったことは考えていただいていいのかなと思います。それは、一人一人の特性に合った教育が必要だと考えているので、一人一人ダンスが得意な人もいでしょう、走りが得意な人もいでしょう、力持ちの人もいでしょうし、力のない人もいでしょう。様々な個性に合った教育をするためには、性別によって、こういう教育、男子校はこうだとか、女子校はこうだとかというのは、なしにして、一人一人合った教育を男子校にしても、女子校にしても、共学にしても、しないといけなと考へたところなのです。そこで皆さんにも先ほど伺って、男子校、女子校のお話っていうのは大変参考になったわけです。

私の話にしても、出井副参事のお話しにしても、皆さん思うことありますか。

【発言者からの申出により一部削除】

(□)

--

(依田 高校改革統括監)

--

(E)

もし、それを考えるのであれば、個人が行うことに意義を考えるのであれば、それは共学であろうと、女子校、男子校であろうと何も変わりがないですよ。それなのに共学を推進する理由は何ですか。

(依田 高校改革統括監)

男の人と女の人で同じ学びをしてほしいと思っていますと言いました。ただ、男子校と女子校については、そこに男らしさとか女らしさとかっていうのが忍び込みやすい環境にいるんじゃないかと考えているんです。忍び込みやすい。

女子校にはこういう学校行事や伝統があって、歴史があって校風があって、男子校にはこういう歴史があって校風があって学校行事がそれぞれ、皆さんがおっしゃったようにあるんだと思う。それにどういう意味付けをしてるのかを問いかけてくださいと、特に男子校、女子校には強く伝えています。共学では男女が一緒に過ごしているので、問題が顕在化しやすいし、分かりやすい。男子校、女子校には、それが伝統行事であったり、自分たちで良いと思っているまま、その行事の問いかけがなく、良いものとしてそのまま引き続いてる可能性がある行事があるのではないですかと言ってるのです。

(E)

それに関しては県教育委員会の方で、その学校の先生方にそういう校風とかについて、その男女の意義を出さないような行事にするようにっていうのを勧告してるって先ほど話をしているということでしたが。

(依田 高校改革統括監)

勧告っていうか、そういうことを県教育委員会は学校に伝えてるんです。男女共同参画社会にふさわしい教育のあり方を考えてくださいということ。

(E)

その結果、男子校、女子校はそれに伴ってない教育を今現在しているということですか。

(依田 高校改革統括監)

個々の個別のことを言っていない。例えば男子校のとある行事についてふさわしくないとか、これが良いとか悪いとは言っていないんです。ただ、その行事をどういう意味合いで皆さんはやっているのですか、生徒にどういう風に伝えてるのですか、生徒さんとどういう考え方でこの行事を引き続きやっているのですか、それをよく自分たちの中で点検をする必要があるということを書いてます。良い、悪いは学校が考えることですね。県教育委員会ではないと思っています。

(E)

男子校、女子校だと、それを伝えているけれども、それに対して、男女共同参画社会に対して今何か足りていないから、共学化を推進しているんじゃないかなって思ったんです。女子校、男子校、共学で平等なのであれば、それを先生方に伝えている時点で、それ以外のことは尊重すべきだし、結局それで男子校、女子校を無くすっていうのは個々に委ねられた考えを、切り捨てているように伝わります。

(依田 高校改革統括監)

E さんの質問はよく分かります。最初の方に話をしたんですけど、県教育委員会は、男女が同じ学びをすることをよしとしてきて、それは何十年前からそうなんだという話をしたと思うんです。ですから男女が同じ学びをする以上、同じところで学ぶのが望ましいと思っているんです。

ただ、今 E さんが言ったように、だからと言って県教育委員会がその個々の学校をその共学にしたってことはこれまでないんですよ。学校が主体になって、自分たちの学校がどうあるべきかを考える中で共学化をしたこともあるのですが。去年、県教育委員会がこれまでのスタンスの何を変えたかという、「主体的に共学化を推進する」というように変えた。今までは、県教育委員会は共学化を推進します。各学校もそれはよく分かってください。その上で、各学校個別の事情があるんで、それぞれ各学校ごとに考えてください。今残ってる 12 校はそのまま別学として、残っているわけです。学校で具体的に共学化を検討したことを県教育委員会に伝えたことがなかった。県教育委員会も各学校に共学化になるように頑張りをさいみたいなことを言ったことはなかった。これからは各学校だけじゃなくて、県教育委員会も主体的に考えるようにしました。

なぜなのかですよ。そこは、今までのジェンダーの話であるとか、そういうこととは違う話になるのだけれども。少子化の話になってしまう。皆さん、この後どのくらい、中学校 3 年生が減っているか分かりますかね。10年、15年で。

(B)

15%くらい。

(F)

去年の生まれた人数が確か 80 万か 75 万人くらい。

(依田 高校改革統括監)

具体的な数値を事務局に聞いてみましょう。

(事務局)

令和 6 年 3 月と令和 20 年 3 月を比較して、今後公立の中学校等卒業予定者数がどうなっていくかを出生の状況から推計したものです。

令和 6 年 3 月の約 58,900 人が、令和 20 年 3 月で約 44,100 人となり、約 14,800 人が減少することが見込まれています。割合で言うと、25%程度が減少していくという状況になっています。

地域ごとで見えていきますと、例えば東部・利根地域ですと、14,668 人が 10,349 人と、4,319 人の減少、30%程度減少していくという状況が見込まれています。

(依田 高校改革統括監)

令和 20 年に全県でいうと 25%程度、東部・利根地域でいうと、3 割程度減少する。単純計算にすると、学校を 3 割くらい減らさなければいけない話になるんです。小学校のように、2 クラスとか 1 クラスの学校にできるのなら残せるが、高校は 1 クラス 2 クラスというわけにはいかないのです。クラス担任の先生がみんな教えてくれればいいけれども、皆さんの学校には多くの先生がいるのではないかな。社会だと日本史の先生がいたり、地理の先生がいたり、理科だと化学、物理、生物など、それぞれで先生がいたりすると思う。それぞれの教科の専門性を持った

先生に教わりたいと思うと、学校の先生の数には法律で決まっています、一定の規模がないと、高校の学びのレベルは一定程度のレベルにはならなくなる。専門性を生かして先生に教えていただきたいということが高校の場合があるので、一定の規模の学校を残さざるを得ない。となると、学校の規模を小さくできない以上は、学校の数減らしていかざるを得ないことになる。

さらに、高校の数を減らす中で、高校ごとの学びがある。農業、工業、商業、普通科の高校もある。皆さんは普通科の高校が多いと思うんですけども。いろいろな種類の学校をバランスよく残して、学校を減らそうとすると、似た学びの学校を統合していく必要が出てくる。これまではまだ、皆さんのお住まいのところではない地域の学校が統合されることが多かったのかもしれないのだけれども、これからは県内全ての地域の全ての学校でどうするのかを、県教育委員会は、地図を見ながら、地域によって、行ける学校が極端に不利にならないようにしなければいけないし、工業も農業も商業も必要だ。

そうすると、確かに男子校、女子校も、大変意義のあるものだと言いますが、皆さんの話だとあるわけだが、同じ学びをする学校が近くにあった時に、共学、別学同じ話ですが、共学校も含めて同じ学びが近くにあった時に、どう整理するのかという、同じ学びをしている学校を統合したりしながら、バランスをとって再編整備を進めていかなくてはいけなくなってくる。

さらに今までない学校のタイプもこれから必要になってくる。例えば、中高一貫の学校も必要だとか、海外の大学に進学できる国際教育プログラムが導入されているような学校も必要だとか、定時制とか通信制といった多様なライフスタイルにあった学びのできる学校も作った方がいいとか、ほかにも、いろいろあるでしょう。そういう新しいタイプの学校を作るとすると、学校を整理しながら作っていかなくてはいけない。そうすると新しい学校を作って新しい学びができますよって言った時に、その学校にどちらかの性別しかというわけにもいかない。女性も男性も学べるようにしないと、男女の教育機会の均等が図られなくなってしまう。

そういうことを考えた時に、決して皆さんの学校一つ一つの話ではないですが、これからは今までのように県教育委員会が方針を出して、各学校で考えてくださいということではなくて、県教育委員会が全体の県内の学校のバランスを考えながら、その地域に残す学びの種類として残そうとした時に、どうしても別学校が共学化をせざるを得なくなってくるということも考えなくてはならない。

学校に考えてくださいって話ではなくて、県教育委員会が主体的に考えなければいけないので、子どもはもとから推進する立場だけれども、これから新しく再編していく学校も、男女の教育機会の均等ということを考えれば、新しく作る魅力ある高校は、男女が通える学校にせざるを得ない。なので県教育委員会の方で引き受けますということなんです。

ここまで皆さんと意見交換させていただいたことは別話として、県教育委員会が進めていかなければいけない再編整備と合わせて、共学化についても検討せざるを得ない状況になったということです。

教育内容であれば、別学だからと言って、男女共同参画社会にあった教育ができないと言ってるわけではない。それは共学も別学も課題がある。ただ別学には危険性があるから、より注意が必要ですと言ってるのに留まっていたんです。当然学校の中でも今後の学校を考えていかなければいけないんだけど、ただそれを飛び越えて、県教育委員会の方で考えて行く時代になってきたということ、昨年の報告書では打ち出したと理解してほしい。皆さんにとっては、残念な話なのかもしれないけれども。

共学別学の議論よりも、学びの確保、男女の教育機会の均等の確保を子どもとしては優先しますよってということを、報告書の中では言っていないんですけども、結論的にはそういうふうに捉えていただいていいと思います。それが正しいと言っているのではないですから。意見があれば

ば、お話しください。県教育委員会の中で共有をして、大切な意見として受け止めていきますので。おっしゃってください。

(F)

少子化に伴って、いろいろな高校を残して、いろいろな学びの種類を残すっていうことでしたが、5年、10年後で、未来の話なので、予想ができるんですけど、確実に分かることではないという前提で話をすると、10年後に、どういう高校の形態が必要があるのかは分からないと思う。例えば、工業高校に行く人たちが減るかもしれないし、その分、通信制に行く人たちが増えるかもしれないし、別学に魅力を持って別学に行く人がいるかもしれない。様々な需要がある中で、その需要に合わせて残す高校を合わせるっていうことはできないですか。

(依田 高校改革統括監)

大切な観点だと思いますよ。そこは重要だと思ってます。

(F)

今後、その別学校の倍率がしっかり1を超えている、つまり別学の需要があるっていう場合は、いくら少子化しても、これは別学が共学にしない、そういう考えでいいですか。

(依田 高校改革統括監)

そうではないですね。倍率は確かに一つの考え方だと思います。中学生が志望する学校とはあまり志望がない学校で違おうだろうというのは、Fさんがおっしゃるとおりだと思います。

ただ、私どもは単純にそうは思っていないです。例えば、もうすでに1倍を割り込んでいる学校は、たくさんあるんです。例えば0.5倍になってる学校もある。地域によって著しい学びの格差を生まないように考える、地域による学びの格差という意味は、いろいろな学びがその地域にあるということです。倍率だけで考えているのではなくて、社会のニーズとか生徒のニーズも重要な観点だと思っていますが、倍率だけではない学びの公平性は必要だと考えてます。

(F)

こういった学校が少なくなった地域とかに対して、例えば通信高校とかそういうのを例えばいろいろ誘致するなりして、ほかの教育形態、普通科高校と違う教育通信高校とかの別の変わった教育形態を提供するとか、そういう解決策はどうですか。

(依田 高校改革統括監)

あると思いますよ。大切なことだと思います。ただ、それと男女別学・共学はもしかしたら、別学校をそういう学校にしようということもあります。

(E)

となると、この共学化問題っていう名称があまり良くないのかなって思いました。その地域ごとに統合するっていう方を先に出していただいた方が、その共学化問題っていうと、その男女別学が悪いっていうふうに捉える人が多いと思うんですね。だったらその別に未来として別学がニーズとして残るかもしれないので。ほかの共学が潰れるかもしれないってのを考えるんだとしたら、私が別学もニーズにあると思ってる人の意見だからこう思うのかもしれないんですけど、

共学化という名称ではなく、地域統合化ですとかそういうふうに名称化して、また別の問題としてしっかり、それも意見を考えて討論してもらうのもいいのかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

Eさんのおっしゃることはよく分かります。ですが最後に少子化の話を持ってきたのは、今日の意見交換会の主題ではないからです。皆さんと一時間半ぐらいかけてお話をした方が今日の主題です。男子校、女子校、共学化、それと男女共同参画社会に向けての教育のあり方、そういったものを皆さんの意見を聞きたかったのです。

今、Eさんがおっしゃったように、男女別学が悪いように見られてしまうというところは気をつけないといけません。そこは気をつけます。私どもとして、別学は県教育委員会として、本当大切にしてるんですよ。

どの別学校も、決してこの学校が悪いとか、必要ないと全く思っていない。本当に大切な学校だと思っているんです。皆さんの通学している学校が問題があると申し上げているつもりはありません。今回の報告書の考え方を私はお伝えをしている。その考え方について、皆さん方は反対をさせていただいて問題はないですし、批判的に、県教育委員会とかいわゆる行政側が発信する情報に対して、批判的な目でその点検をする、意見を述べるということが、大切なことだと思うので、そのこと自体、私の言うことを聞いてくださいと、私は申し上げているつもりはありません。

(G)

質問いいですか、その先の少子化の問題で、その生徒のニーズに合わせて学校を調整して統合していくようになるとおっしゃってるじゃないですか。倍率以外でどうやってそのニーズを測るのかなってというのが単純な疑問としてあるんですけど、どうすればいいのでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

いろいろなニーズがある。中学生のニーズはあります。あとは社会のニーズもある。どういう人材が求められているのか。そういったものも考えなければいけない。倍率も、ニーズを測る上では大切なものの一つ。もう一つは、地域の産業であるとか、また世の中の社会の今後の行く末であるとか、今後の産業社会の中で、どういう人材が求められていて、それは社会に求められているからというよりかは、これからの社会を生きる、生徒一人一人がどういう学びを身につけた方がこれからの社会でより幸せに生きることになりやすいのかということを、ニーズとして県教育委員会は捉えて、学校の再編整備、統合だけじゃなくて、学科再編とか、学び自体も変えることも必要になってくると思っているのです。

隣の学校が変わった時に、その隣の学校がこのままでいいのか、この学校の学科・学びも変える中で、このように変えようとか、統合するだけではなくて、全体の構成を考えなくてはならない。地域であるとか、今後の社会であるとかを考えて見据えながら、学校の学びを作っていくのがニーズだと考えているのです。

それにはたくさんの人の意見を聞いたり、たくさん情報を集めることが重要だと思います。県教育委員会には、よく要望書が上がってきます。例えばこういう学校がほしいですとか、この学校にはこういう学科がほしいですとかですけど、そういうものにもよく耳を澄ましながら。毎年中学校3年生の10月や12月の調査や最終倍率なども万遍なく眺めながら、あとは他県の学びを見ながら、海外などは調べられていないんですけど。これからの時代は外国の情報も必要かもしれません。

(G)

中学校もやはり変わってきています。体育の共習など。そういうものに対してのそういう教育を受けた生徒たちが、どういう高校を求めているかっていうニーズもすごく変わってくるわけじゃないですか。それを共学校だけで、例えば性的被害を受けた人が女子だけの環境に入りたいっていうのができなくなる可能性もこれから出てくるわけじゃないですか。そういう人たちが共学校に入って、どうやって守られていくかっていうのもすごい大事になってきます。

(依田 高校改革統括監)

そうですね。Gさんがおっしゃったような中学校の時、小学校の時に辛い思いをしてこの学校に入ったんだという生徒さんの声を聞きました。そのほか、中学生、高校生のアンケートでも特定の学力がないと入れないような別学は不平等だという意見。中学校の時に学校に来れなくなっている。例えば、男の子にいじめられた女の子が、学力が低いわけです、不登校でいたわけなので。公立高校で女子校を一生懸命探してこの学校に2時間半かけて通学しているなど。今皆さんがおっしゃったような異性が苦手で、異性がいるところで学びたくない生徒さんの中においても入学できる学校がないと思っている人がいる。先ほどFさんがおっしゃったように、通信制や定時制や私学に通学しているのかもしれない。

根本的な問題は共学にあると思う。共学校で嫌な思いをしたわけです。共学校で異性との問題が起きた。共学だから起こったのですけれど、ここをどうするのかという課題に向き合わないといけない。共学校の問題。それは男子にとってもそうでしょう。男子校に行った時も共学校で女子にいじめられていたという男子の声は聞きました。男子も女子も一緒だと思います。共学校のこのパラドックスをどうすればいいのかをちゃんとしていかない限りは、根本的な問題解決にはならないと思っています。

12校が残る、残らないとはまた別次元の問題として、どう異性との関係を、その生徒間のトラブルを直していくのかは、学校にある根本的な問題だと思っています。

これは共学校で、取り組んでいるのだけれど、うまくいかない現実もあって、スクールカウンセラーを入れるという対応もしているけれども、たくさんの経費がかかったり、問題が起こってからのカウンセラー対応では遅いという話も聞く。

そもそも学校の教育をどうするのかとかという根本的な問題なんだと思っています。答えになっていなくてごめんなさい。Gさんおっしゃってることはよく分かる。それは男女別学共学の問題以上に大きな問題として県教育委員会は捉えています。

(G)

分かりました。ありがとうございます。

(依田 高校改革統括監)

時間が延びてしまったので、最後にどうしてもという方がいればお話しください。

(D)

ちょっと戻るんですけど、人口の減少に伴って高校再編していくって話で、最近では工業高校とか、商業高校なんかは需要が低くなってきていることを耳にするんですけど、その商業高校であったり、工業高校を先に再編するっていう形で検討してる感じなのではないでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

そこは、県教育委員会とはちょっと考え方が違うかな。県教育委員会は、商業高校とか工業高校のニーズが少なくなるとは思っていないんです。確かに倍率だけ見ると、商業高校とか工業高校の倍率は決して、高くはないことはそのとおりなんだけれども、工業高校や商業高校に対する社会的なニーズは高いものがある。工業高校の充実はいろいろなところから求められている。商業高校も、今、情報教育を中心にして、商業系の学科はより充実しないといけないと、多くの方が考えている。

国では普通科の学びを変えていく必要があると考えています。普通科改革と言っている。県教育委員会は地域でバランスよくいろいろな学びができる、選択肢を子供たちに与え続けることを優先的に考えているので、商業や工業を優先的に減らしていくことを考えてはいません。

(D)

分かりますけれど、最近では大学に進学しようって思っている子供の割合が増えている。それに伴って、工業高校や商業高校のニーズが下がっているのではないかと思った。

(依田 高校改革統括監)

工業高校や商業高校の進学率は専門学校も含めれば、半分ぐらいは行っていて高いです。いわゆるAI開発だとか、ロボット開発だとか、先進技術みたいな学びを専門的に伸ばそうという人もたくさんいて、そういった学びに対する社会のニーズもある。だから、Dさんの言ってる大学進学率が高いのは正しいんだけど、それは普通科だけの学校に求められていることではなくて、より高度な学びは、いわゆる産業系の学校にも求められている。普通科の高校も大学進学有形がだいぶ変わってきているでしょう。普通科の高校も今までみたいに、いわゆる知識を身につけて、受験に備えるのではなくて、設定したテーマから自分の考えを述べることができるとか、探究的な学びの中で何を探究してテーマを持って学んできたかどうか。そういうどちらかっていうと、産業系の学校で今までやってきたような学びがこれからの普通科高校にもどんどん求められてきているわけ。共学別学関係なく、皆さんの学校も今後は、探究的な学びがより重視されるようになってくると思います。Dさんの言うことは正しい部分もあるけれど、今の県教育委員会はそう考えてはいないです。

よろしいですね。時間ですので、皆さん熱心な意見交換、どうもありがとうございました。大変参考になりました。感謝いたします。

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(高校生の部・西部会場)

1 日時 令和 7 年 7 月30日(水) 14:00～16:00

2 場所 ウェスタ川越 第2・第3会議室

3 参加者 7名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

私の方で進行させていただきます。よろしくお願いします。

まず最初司会からありましたように、自己紹介と自分が伝えたいことを、簡潔にお話をいただき、その皆さんの意見を中心に意見交換をしていきたいと思っておりますので、お一人お一人自分の意見を、聞かせていただければと思います。

(A)

まずは県教育委員会の皆様、本日はこのような機会をいただいて本当にありがとうございます。今日はよろしくお願いします。

僕自身は共学化には反対していて、その理由は、今通っている男子校が好きだからということにつきます。100年以上、世紀を超えて受け継がれてきた校風の下、男子だけで過ごす日々が僕は本当に楽しいです。別学校に通っている多くの生徒は、僕も含めて、別学校に自分の居場所を持っていると思っています。

別学校の良さを分かっているのは在校生自身です。だからこそ、これからも自分の母校が男子校としてあり続けてほしいと考えています。僕が今日伝えたいことは二つあって、一つ目は「別学校＝男女の関わりを学べない」というわけではないということ。そしてもう一つが我々には別学という選択肢を選ぶ、守る権利があるということ。この二つを伝えたいなと思っています。今日はよろしくお願いします。

(B)

今日は、このような機会を設けていただきありがとうございます。

参加理由としては、別学には別の良さがあるため、共学化はしないでほしいってというふうに思っていたからです。私の考えとしては共学化には反対でその理由として別学だと異性のことを気にしないでいいので、新しいことに思い切ってチャレンジができるということがあると思います。異性の目があると、男子にはこのような役割が、女子にはこのような役割が、というふうに役割分担がなされてしまって、自分の思うことに挑戦できないのではないかなと思っています。

また、男子校には男子校の女子校には女子校の良い文化があると私は考えています。実際、私が通っている学校では、体育祭で、団チアというものがありまして、そこでは団の人は男子っぽい格好、チアの人は女子っぽい格好をして踊るというもので、私も実際に団に参加していたのです。

が、本当にそういう経験は今までなかったものなので、新しくとてもやりがいのあるものでした。

また、異性と過ごさなくてもいいという選択肢ができるというのも理由としてあります。実際私は、中学は公立だったので共学ではあったのですが、女子校に入ってからなんか気疲れしなくなっているのがあって、異性と過ごさなくてもいいという選択肢ができるのはすごく良いことだと思っています。

もし、共学化してしまうと、いきなり男女同じ比率にはならないのではないかなってというのが私の意見で、その少ない方、例えば男子校が共学化され、女子が行った時、その女子が肩身の狭い思いをしてしまうのではないかなってというのが少し心配しているのもあると思います。

繰り返しにはなるのですが、選択肢を増やして学校としての伝統を守るためにも、私は共学化に反対します。以上です。よろしくお願いします。

(D)

本日はよろしくお願いします。私は共学化には反対です。理由としては共学化もすごい大事だと思うんですけど、男女別学を必要としている人がいると思います。私の周りの男女別学の高校でも伝統を大切にしているところが多くあるので、私はやはり別学が大事だと思います。よろしくお願いします。

(E)

今回の参加した目的としては、単純に別学校がなぜ共学化が進められてるのかっていうのを知りたいというのが一番で、共学化に対する考えとして、自分としては別学校は必要で、そういう場だからこそ過ごしていける人がいて、実際に自分がそうですし、自分の知り合いもほとんどそういう人なので、そういうところだからこそ、自分がやりたいことができるということがあるんじゃないかなと思っています。以上です。

(F)

まずこの会に参加した理由として、私自身が別学に通っているので、在校生として別学の良さを伝えていきたいと思ったからです。私は共学化に反対です。理由として今年度から女子校に入学し、ものすごく充実した日々を送ることができたからです。その充実した日々を送れるようになったのは、まず異性がいなかったため、共学だった中学校の時よりも気を遣うことがなく、その自分を出すことができ、楽で疲れることがなくなりました。

二つ目は、周りが全員同性だとあらゆる点での男女のいざこざだったりとか、そういうものがないので、クラスの雰囲気がとてもよく、入学した瞬間から皆と仲良くすることができて楽しかったです。もし、共学化をするのならば、倍率が低くなった時、例えばその1倍を切ったりとか、周りからあまり求められなくなった時でいいのかなと個人的に思っていて、1倍を切ったり、倍率がとてつもなく低い別学っていうのはあまり見られないので、まだ反対していきたいなと思っています。よろしくお願いします。

(G)

私が今回、共学校に通っているのに意見交換会に参加した理由は、その問題が全国的にすごく注目されているものだと感じたとともに、日々共学校に通っている中で、別学の学校にしなくてよかったなというふうに感じているからです。ほかの県でも今公立高校の多くが既に共学校となっていて、私立高校でも校名とか制度を変更して共学化が進んでいる中で、埼玉県には別学の学

校が残っていてこのまま残しておくべきなのか、そうでないのかを日々考えていました。私は共学化に賛成していますが、埼玉県公立高校のすべてを無理に共学化にする必要はないと考えています。

男女別学校に通っている人の中には、異性とのコミュニケーションを取ることが苦手な人が多い印象があります。実際に別学の学校に通っている友人に話を聞いた時に、異性とコミュニケーションを取るのが難しいと考えている人が多いなと感じました。将来、男女問わず様々な人と関わりながら働いていくということを考えると、異性との関わりに高校生で慣れていくってというのは必要なことなのではないかなと思います。

埼玉県は男女共学も男子校、女子校も選べるようになっているので、中学校の時とか小学校の時とかに異性とのトラブルがあって、高校に通いにくいなっていうふうに考えている人のために、男女別学の学校を残しておくというのは必要なことだと思っています。本日はよろしくお願いします。

(H)

僕が男子校を志望したきっかけは、小学校・中学校で女子との関わり方が苦手だったからとかってわけではなく、学校の学校行事や文化祭が有名で、それ以外にも、競歩大会、球技大会とかの学校行事を全力でやりたかった。中学校でも球技大会や陸上大会もあったけど、女子の目があることによって、素の自分を出せなかった。女子の目があるから、少し格好つけちゃうかなっていうのが、自分にも少しあったし、周りにもあったりしました。周りがそうなっていると、みんなが学校行事に向かって、本当に全力を出し切ってできていなかった。その上で男子校だと、異性の目を気にせずに、本気で学校行事ができるのは、別学ならではのと思いました。

(依田 高校改革統括監)

一通りお話を伺うことができました。ありがとうございます。

共学化に賛成の方も反対の方も、賛成の方も全てではない、とのことだったかと思います。今皆さんが出していただいた意見を中心に、それぞれ考えを聞いていきたいと思っています。

まず、多くの方がおっしゃっていた、異性がない、同性だけの方が楽しい、居場所という表現もありましたし、やりたいことができるとか、トラブルがないとか、そのような趣旨の話がたくさんありました。そこで皆さんに伺いたいと思うのですけれども、学校で学ぶべきこととして異性がない方が学校の学びはよくできるのか、それとも異性がいた方が、よく学べるのか、その学校の学びにはどちらがよろしいと思いますか。同性だけの方がいいか、異性もいた方がいいのか。意見がある方はいますか。「いやささ」というのはよく意見が分かりました。学校で学ぶことについては、そこに違いがある、ないについて、意見がある人はいますか。

(H)

学校で学ばっているのが何について、学ぶのでしょうか。ただ授業を受けるだけのことや、学校生活で自己成長するのも含めてということなののでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

どちらでも。同じじゃないかと、違いがあるとか、どう思いますか。

(B)

元々共学に通っていて、女子校に通っていますが、グループワークとかをするのに当たって、共学の時には少し男子と女子の間で見えない壁のようなものがあって、互いに話しづらいとか意見が交換しづらいといったことがあったのですが、別学に通うようになってからは、そういった壁はないので、自由に意見を交換するようにはできるようになったと思っています。そういう意味では別学の方が学びやすい環境だなと私は感じています。

(A)

僕はどちらにも良いところがあると思っていて、例えば共学では男女が協力していろいろやっていくという場面が多いので、社会に出たら、自分の素を全部出せるわけではないですし、自分の素を全部出すのではなくて、ある程度周りに合わせるっていうことも必要なので、共学ではそういったことは学べると思います。逆に男子校とか女子校の別学校では僕の学校でも部活だったり文化祭だったり、もう本当に気遣いなしで本気でぶつかり合って、いろいろな学びができるので、そういった唯一無二の経験って、別学校で学べることができると思います。

(F)

私は中学校の時に、体育祭や合唱祭などの行事があるんですが、体育祭は男子がまとめるというイメージが強く、合唱祭は女子がまとめてとかそういうことがあったのですが、夏休みの初めの方に私のクラスで文化祭の準備をしたのですが、その時全員が女子なので、例えば女子がまとめる男子がまとめるというのがなくて、全員が積極的に活動を行うことができ、その面では別学の方が積極性っていうのは学べるのかなと思いました。

(G)

意見を交換するときとかに、同性だけで話し合った時に出てこなかった意見とか、こういう視点で見れてなかったなという部分を異性から指摘されて、確かにそうだなと新しい視点や違った視点で話を進めたりすることができるという点で、共学校というのは、有利だと思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。ほかにありますか。分かりました。

グループワークの話がありましたね。あとは、どちらにも良いところがあるというご意見もありましたし、女子校の F さんからは、共学の時には男女の役割分担のようなことがあったということ、女子校にはそれが無いという意見があり、一方で G さんの話では、異性との間での学びがあったとの意見がありました。

異性との間で壁があるとの話があって、一方で、協力をすることに学びがあったということもあれば、男女の役割分担意識のようなものが共学にはあるという話もありました。そこで、話を進めたいのだけれども、それは異性だからということなんだろうかというところについて皆さんの意見を聞きたい。一人一人の人間同士意見が違うこととか、役割分担が違うことがあるということと、異性というもので、学びの違いとか、異性によって何か違いがあることがあるのか。それは、学校のいわゆる教育活動、学校行事、授業とか、そういう中で男女で学びに違いがある、学び方に違いがある、男女で違いがあるのだろうか、どうなんだろうか、そこを皆さんどう考えているのか。皆さんの意見を聞きたい。教育活動の中で、男女で別な教育活動があった方がいいのかな。それとも男女と関係なく学校生活、学校の教育活動を実施した方がいいのかな。どう思うんだろう。考えてみてほしい。皆さんの意見を聞いた後で、県教育委員会の考えも話します。

(A)

違いは多少は僕はあると思います。その違いを言葉にするのは難しいですが、それを感じやすい、学びやすいのは共学だと思います。

(依田 高校改革統括監)

違いがあるけれども、という感じかな。皆さんどう思いますか。

男子用の教育活動、女子用の教育活動と、違う教育活動をやった方がいいと思うか思わないかです。みんなはどういう考えを持っていますか。

(D)

私は中学も公立だったので、共学校にしか通ったことしかないんですが、共学校でそれぞれいろいろな考え方があると思うんですが、私は社会に出てからはやっぱり男子、女子って分けて生活とかするわけではないと思うので、やはり男女一緒に学んだりすることが大切だと思います。

(B)

男子と女子で学ぶ内容を分けるっていうことはしない方がいいと思います。理由としてはこれは役割分担っていうのが進んでしまうので、男尊女卑というか、そういう風潮にもつながってしまうからだと思います。でもそれは国側の問題で、本人たちの感じ方として別学があるっていうことが重要だと思います。

(G)

私は男女別学でもいいですけど、男女別の教育をするっていう必要はないと思います。

理由は、多様な職があるので、無理に男女別れた職とかそういう部分とかはないので、男女別に教育をする必要はないかなというふうに思います。

(依田 高校改革統括監)

もう少し話を聞かせて欲しくなったんですが、男子と女子で違いは、あることはあるけれども、教育内容まで変える必要はないのではないかという意見が、今のお話だったと思う。同じ教育内容をしようとした時に、男子校と女子校で同じ教育内容でいいのだろうか。男子校と女子校は違う教育内容の方がいいのではないか。本音としてどうだろうか。女子校や男子校が大好きなのは、同性だけにいることの気持ち良さだけなんだろうか、それとも、教育内容とか、教育活動とか、男子校とか女子校の教育内容の魅力なのではないのだろうか。男子校は男子校らしい教育活動、女子校には女子校としての教育活動、教育内容があるべきだ、特に男子校、女子校に通ってる人、本音はどうなんだろう。

(A)

男子校と女子校で違う教育をする必要あるのかっていうことですよね。違う教育をする必要は全くないと思います。

ただ、例えば共学と別学があって、全員に同じ教育をした時に、別学は周りには同性しかなくて、共学には男女両方入るという、その違いがあると思っていて、だから同じく教育を受けたとしても、違う性がいるのか、同性がいるのかで変わってくるかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

こちらの発信の方は違わなくても、受信の方に違いが出てくるということですね。ほか意見ある人はいますか。

県教育委員会の考えは、男子と女子に違いがあるかないかは、いろいろな違いもあるだろうし、違わないところもあるだろうし、男子と女子が違うとか違わないとかとは関係なく、男子用の教育とか女子用の教育を考えてはいません。

男子女子に関わりなく、一人一人に応じた教育を進めようと考えています。今、県教育委員会は男子校も女子校も共学も大切な学校として設置しています。それを前提にして、教育の内容として、男子女子ということではなく、一人一人に合った学びを重視する考えです。そうしたときに、男女を分けて学ばせることに重きを置いていないのです。同じ教育をするには、一緒に教育していいということが、考えていることです。

そこで今皆さんが言ったような女子校では生き生きと過ごせるとか、男子校は思い切って素の自分が出せるとか、皆さんにとって大切な役割、学校の意義というものがあることは理解しています。

別学の意義と、一人一人に合った教育を男女別無く行うことと、両方を県教育委員会は考えました。そうした中で、県教育委員会としては同じ学びをするのに男子と女子を分けることに重きを置いていないということなんです。

ただ、男子校、女子校のそれぞれの意義があることは理解していて、設置をしています。

では、皆さんから最初に出してもらった意見の中から意見交換をもう少しさせてもらいます。最初に出ていた意見で、異性が苦手な人がいるから、男女別学の学校の意義がある、という意見があった。これはよくシェルター機能という言葉を使う人がいますけれども、そういう役割、意義はあると思っています。そこで皆さんに聞きたいのは、それが解決になるのだろうか、異性がない高校 3 年間で、生き生き伸び伸びと楽しく過ごすことで、その後、大学行く人もいるでしょう、社会に出る人もいるでしょう、異性との関係を高校で、どのように学んでいけばいいのか、また学ぶことはできるのだろうか、何か工夫が必要なのだろうか、皆さんどう考えているのかな。

(B)

一度逃げられる環境があるっていうことが大事なので、例えばそういう異性と関われない、関わりたくないっていう人が共学に行ったとしたら、多分その人は本当の自分を見失っちゃうんじゃないかなって思う。

(依田 高校改革統括監)

逃げられるところは大切だということだね。

(B)

吹奏楽部に所属しているんですけど、近隣の男子校と交流があって、定期演奏会を一緒にやったりだとか、ウィンターコンサートと一緒にやったりということがあるので、そういう高校同士のつながりってところで、異性との関わり方も学んでいけるんじゃないかなと思う。

(依田 高校改革統括監)

別学でも異性に関わることができるということですね。分かりました。

(F)

私は異性が苦手だから、女子校に通おうと決めたわけではなくて、その現在通っている高校に行きたいっていうなんか謎の意思があって入学したんですが、先ほど別学校には異性が苦手な人が知り合いに多かったという話を聞いて驚いたのですが、女子校に通ってると異性とあまり触れ合える機会がなくて、いきなり大学に入った時にちょっと苦手を感じる人は多いと思いました。

ですが、高校生というのは、いろいろな男女のトラブルが起こりやすい時期に、一旦離れて、冷静にお互いのことを見ることができると、大学に行った時にお互いを尊重することができるのではないかなと思いました。

実際に私の母が中学、高校と女子校で、大学から共学に行ったのですが、大学では男子の方が多い大学だったらしいんですけど、母は、女子校出身の方は積極性だったり、変に男子からの目を気にしないから、仲良くすることはできたと言っていたので、そういう面では女子校が必要なのかなと思いました。

(E)

男子校、女子校っていうのは、異性関係とか人間関係とかで悩んだ人とかにとっては、逃げ道としてはすごい優秀だっていうのは、入学して思ったことである。自分に関しては人間関係で、大したことじゃないんですけどトラウマがあって、そういう人にとっては、そういう場所って、治療っていうんですかね、そういうものとしては結構良いなと思っています。根本的に解決するかどうかは、本人の意思になるので、それは何とも言えないことなのではないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

皆さんの意見を聞くと、一旦離れてみるのが大切だとか、一度逃げてみることも必要だとか、そういう意見が多かったと思う。そのとおりの機能、役割が、実際あるのだと思います。

別学に通われている皆さんがおっしゃっていることはそのとおりと思っています。異性とのトラブルに限らず、人間関係のトラブルが学校生活において、様々な教育課題になっていると考えています。いじめになってしまうこともあるだろう。不登校の理由になってしまうこともあるでしょう。人間関係をどうするのかは、本当に大きな教育課題だと思っていて、男女間のトラブルを防ぐという機能が別学にあることはよく分かっていますけれども、別学があることで、解決できるとまでは思っていない。

そこで、例えば通信制とか定時制とか、フレキシブルな学校とか、本人のライフスタイルに合わせた学校を作っていく必要もあるのだろうと、様々な施策を講じる必要があると思っています。

別学にそういった役割があって、別学が異性の苦手な人にとって重要だと思っています。一方で、どうすれば人間関係のトラブルを教育課題として、改善を図っていけるのかは、新しい学校、特色ある学校づくりとか、また、日々の教育活動とか様々な対応をしていく必要があるというように思っています。

今別学が重要な役割を果たしていること、その機能があることは理解しています。皆さんの意見大変参考になりました。

あと少ししたら、休憩入れます。

次に共学について皆さんの話を聞きたいのだけれども、共学の時にその役割分担があったことについて話を聞きたいのだけれども。中学校時代とか今高校で共学に通われている人、共学でよくなかったと思うところとか、逆にこういう所はよかったと思うところを教えてください。

(F)

男子と女子って考え方が違うので、女子で出なかった意見、男子で出なかった意見というのを交換できたりするのが共学の良いところだと思います。

少し共学に対するマイナスなイメージなんですけど、去年、中学校に通っていて、いじめというほどではないのですが、少しはぶかれていた。その子はちょっと男子へのボディタッチが多いとか、距離が近いとか、そういう理由でほかの女の子から嫌われている感じで、それを見たときに、男子が悪いとか、そういうことではないのですが、男子がいなかったらこれ起きなかったのになっというのを思っていた。それは共学のデメリットかなと思いました。

(G)

実際に私も共学の学校に通っていて、役割分担というのは行事の時にあって、私の学校の周りが田んぼとかしかなくて、9割ぐらいの生徒がスクールバスで通ってる状況で、残りの何割かが学校の最寄り駅から自転車か歩いてきているのですが、その何割かについては男子が多い状況です。だから、男子たちに文化祭の買い出しを頼んだり、あと、重い荷物を持ってもらったりって役割分担はありました。

(依田 高校改革統括監)

それをどう思ったかな。

(G)

確かにその自転車持ってるから買い出し行ってきてっていう理由は良いんですけど、それがその男子とかその子ばかりに偏っちゃうと、その子の負担も増えちゃうし、その人は野球部で練習に遅れたらいけないんですけど、その買い出しで部活に遅れて、あとですごい文句言ってたなと思ったので、そういうのはみんなで協力してやるべきだなっていうふうに思います。

(H)

中学校の時に合唱コンクールがあったのですが、その時に曲名の「めぐり」っていうものを作ったりしてたんですけど、そこでまあ、1年2年、3年で3回だったんですけど、全部作ってたのが女子で、自分も作ってみたいなと思ったり、男子もいたんですけど、クラスによって違うんですけど、クラスによっては先生が得意そうな女子を集めていたり、クラスによっては話し合ったりとかっていうのもあったんですけど、そういう時に女子が多いと、男子がそこに参加するっていうのは容易ではないかなっていう部分があります。今男子校ですけど、文化祭の準備とか今やるんですけど、そういう芸術的なところとかも含めて全部自分たちで行っていて、女子から遠慮したりしなくていいんだっていうのがあります。

(D)

私は男女一緒によかったって思うことが多かったです。

中学時代に、体育祭で仕切るのも、女子がメインでやったりとか、あとは合唱コンクールの指揮者、伴奏者、どちらも男子だったり、結構みんな得意な子をやはりやった方がいいとか、そういう尊重ができる学校であったり、クラスだったので、そういう面では、そういう尊重し合えるのだったら、男女一緒にでもすごく良かったと思いました。

(A)

僕もさっきHさんが言っていたように、中学校では男女両方いるので、合唱祭だったらピアノ弾くのは女子だとか体育祭だったら力が必要なのをやるのが男子だとか、そういうバイアスがどうしても無意識にあると思うんですけど、別学校だったら全部男子でやらなくちゃいけないし全部女子でやらなくちゃいけないので、そういう状況に置かれた時に、男子でもこういうのが得意な人いるんだとか、女子でもこういうのできる人いるんだとか、自分の性のできる事がもっと広がるというか、そういうのは良いと思いました。

(B)

書類仕事というか、そういうものは、男子が女子に押し付けて、質疑応答とかがあるじゃないですか、そういうのは男子が仲の良い男子にするもので、1回だけ私も質問をしたことがあるんですけど、結構冷たい目で見られたというか、そういう感じだったので、そういうのがあるのはちょっと微妙かなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

それは、さっき壁があるとBさんが言ったようなことかな。

Dさんが言ったように、男女に分けずに一人一人が持っている個性に応じて教育活動が進められることもあればこれは女子ということで、女子だけ集められたとの話もありました。

県教育委員会は、男女を分けた教育を考えているのではなくて、一人一人の個性に合わせた教育が必要だと考えていますとの話をしたと思いますけれども、現実には、学校も社会の中の一つだから、社会のこれまでの男女の役割分担意識みたいなものが教育活動の中に入り込んでいることはあると思っています。特に、それは女子校は、女子が重いものも持つし、男子校は芸術的なことも、男子がやらなければいけないというところからすると、男子校や女子校はそういうことがあまりないけれども、共学校は、男女が一緒にいる社会の縮図なので、課題が顕在化してくることがあると思っています。

そこで、県教育委員会は、男女の役割分担意識を学校生活の中で一人一人に刷り込むことはよくないと考えています。Dさんが話してくれたように、女子も力持ちの人がいるでしょう、男の人だって重いものを持つことが苦手な人はいるでしょう。男の人だって美術や音楽が好きな人もいるでしょう。男子用、女子用と考えないで、生徒と先生が話し合いながら、自分たちの学校の教育を考えてほしいと思う。男子校だから、女子校だから、男子だからこの競技とか、女子だからこの演目とか、性別による役割分担意識を取っ払って、何をやりたいのか、自由に意見を出し合って、先生たちと生徒が話し合ってほしい。先生たちには、生徒に身につけてもらいたいものがあるから、生徒がやりたいことだけという訳には、いかないけれども、生徒一人一人の考えを集約する中で、先生たちと話して学校の教育活動を考えてほしいと考えています。共学も問題があるけれども、男子校や女子校にも危ないところが隠れているのではないのかな。それぞれが、気をつけていかないといけないと思っています。

【休憩】

(依田 高校改革統括監)

休憩時間を過ぎたので、話を続けていこうと思います。私の隣にいる出井さん、共学の校長先生をやっていた方なので、出井さんから少し話をしてもらおうと思います。

(出井 県立学校部副参事)

まず皆さんいろいろ意見ありがとうございます。

いろいろな皆さんからいただいた意見をお聞きしていて、そうだなと率直に感じました。私が皆さんにお伝えしようという視点は、学校は、校長として、先生方としてどんなことを話してるのか、どういう思いを持ってるのか、というところもお話しとかしなくてはいけないかな、というふうに感じたので、少しお話ししたいということです。

基本的には、学校は、男女で学びを分けようなんて考えは全くありません。目の前にいる子供たちに、平等に、同じことを教えていきたいというふうに思っています。

共学校では、男女が、同じ場所にいるわけで、その中で教育を受けていくことになるんですけど、一人一人に合った教育をしたいと思っています。

別学校でも共学校でももちろん同じ内容で学んでいかなければならないと考えていて、学校でも意識的に話をしている。学校の中でも、ちょっとおかしいなと思うことはあります。

例えば進路指導、面接指導で男の子はこういうふうにするんですよ。女の子はこういうふうにするのはこうやってやるんですよと、日本古来でそうやって教えてきたところがあるのかもしれないけど、今までの慣習で教えていくものなのかどうか話していました。それは、相手がどう受け取るかとか、女性男性みたいな話ではなくて、人として採用されるよう指導する点と考える。

例えばジェンダー平等もそうです。男の性をもちながら高校では制服は女性の制服を着て通学したいと学校に入学してきた子がいました。なぜ共学校に入学しようと思ったかっていうと、シェルター機能と先ほど話があったけど、共学校に行って、私が今感じていることを皆さんと一緒に考えたい、そういう思いで入学してきた生徒がいました。

それはその子だけの問題かっていうと、そうではなくて、やはりみんなの問題なんですよ。だから、クラスの生徒たちともそのことに対して考える時間はすごく持ったし、先生方も当然会議の時間をかなり使って考えジェンダー平等の問題を身近に考えることができた。先ほど言った進路のこともそうだし、ジェンダーのこともそうですけど、今まであったようなこと、これはこうではなくて、やっぱり多様な環境の中で一人一人に合った教育をしてやらなければいけない。これは男女別学校でもそれを学んでいるという話もあったし、その場その場で当然同じような学びをしていかなければいけないとのことをどの学校も考えてるんですけど、やっぱり変化に応じてそこでなければ学べないこともあるということも事実なんですね。

当然学校としても、一つ一つ問題を解決していきたい。シェルター機能となるよう、スクールカウンセラーとかを配置して、そういう場所を共学校の中でも作ったりしています。先生方に話せない子もいるし、いろいろな考えを持ってる一人一人がいるので、一つずつ解決していきたいというふうに考え取り組んでいます。

その学校に行きたい、その学校に入りたいんだと、どの高校もそういうような学校に、男女別学校、共学校と関係なく、していかなければいけないというふうに感じました。

(依田 高校改革統括監)

また意見交換していこうと思います。

休憩の前、共学校の課題も皆さんからお話いただいたようにいろいろなあるということです。別学校にも、様々な課題はあると考えています。

別学の皆さんに、学校行事であるとか、教育活動を通して見て、ジェンダーから見た課題についてどう考えているのか、順番に話を聞いていこうと思う。

Eさんは男子校だけれども、何か気付くことはあるかな。

(E)

自分が見てきた中で思ったのが、異性の目がなくて自由になるということが、それが必ずしも良いところに転がるわけではなくて、ちょっと危ない方向に転がっちゃうこともあって。というのも、簡単に言うと過激な人が出てくるんですよ。男子校だから、まあ笑い事、男子校の中だからこそ、まあ笑いごとで何とかなってるんですけど、服装ですかねやっぱり一番気になるのは。男子校あるあるなのか、うちの学校あるあるなのか分からないですが、体育着あるじゃないですか、これをなんかめくって、下の方もめくって、なんかもうほぼほぼなんか、それって大丈夫なのかな、倫理観って言うんですかね、大丈夫なんですかねとか。平気でなんか上裸になる人がいたり、普通にいろいろな、ちょっとそれ外でやったらまずくないっていうのもよくあるんで、そこは結構個人的には大丈夫なのかなと思って気になっている点ですね。

(依田 高校改革統括監)

具体的な話をしてもらいました。

やりすぎっていうふうに思うことがあるということだね。Fさんは気になることがありますか。

(F)

私も同じで、女子校でも、その体育着まくったりする人はいて、やっぱり体育祭とかで盛り上がってた女子しかいないしみたいな感じでタンクトップみたいにしてる人はいました。あと、さっき考えたのが、別学だと異性を理解するっていうことは難しいのかなって思います。理解できなかったとしても、気遣うとかだったりとか、やっぱり共学に通ってたなら実際に異性がいるわけなので、こういう時はこうしたらいいんだみたいな、勉強みたいな感じで覚えるとはちょっと違う、自分で感じ取るようなものが、やっぱり同性だけだと自分のイメージの、異性に対する理解とかになっちゃうので、実際に異性と関わった時に、あれなんか違うってなっちゃうのは問題かなって思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい。Gさんは共学校だけどう思ったかな。

(G)

私、共学なんですけど、さっきの体育着をタンクトップみたいにするみたいな話あったんですけど、共学でも普通に女子とか男子問わずみんなやってて、最近すごい暑くて、うちの体育着の生地がちょっと厚めな感じの生地なので、結構袖まくってる子とかいて、男子とかも結構、さすがに上裸になったりはしないんですけど。文化祭の中庭にステージを置くんですけど、そのステージ作業してる子が、普通にタンクトップ一枚で作業してる子とかもいて、それはうちの学校だけだと思うんですけど。

(依田 高校改革統括監)

中学校の時の共学と、高校の共学は、Gさんの中では違いがあるのかな。

(G)

中学の時は結構みんな遠慮していた感じがあるんですけど、私の高校は全然遠慮とかはない。仲の良い学校生活を送っていて、知り合いとかもほとんどいないので、またそれぞれ、館林とか栃木の方からも来ていて、全然知り合いがいないので、中学の時とか忘れて、みんな高校で楽しくやっているとします。

(依田 高校改革統括監)

ありがとう。

(G)

男女別学の学校のInstagramとか見てる時によく動画とかが流れてくるんですけど、なんか、異性の目がないからなのか分かんないんですけど、すごく楽しそうに行事を運営していたり、行事をやっていたりしてるなっていう現象があります。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。はい、Hさんどうぞ。

(H)

体育着とかの話で言うと、確かに体育終わった後とかは暑いですし、教室の冷房の設定温度も決まっているんで、暑いから授業と授業の間の休み時間の間だけは、上裸で過ごす人も一定数は僕のクラスはいるんですけど、次の授業が始まる 3 分前とかにはもうみんな、体拭いて服着たりしておしゃべりもしてますし、ほかのクラスがどうなってるか分かんないんですけど、1 年の時も 2 年の今のクラスもその辺をしっかりとっているってということと、あと部活、僕バレーボールなんですけど、体育館に冷房ついてはいるけど使えないので、終わった後本当に暑いんですけど。バレーとバスケットで女性の先生が顧問についたりするんですけど、この先生たちがいるところでは皆ちゃんと服着ているけど、終わって片づけのときとか暑いですし、その時だけ上裸になったりってことがありますけど、さすがに下まで脱いだりとかもしないし、体育館出るときにはみんなちゃんと服着たりしてるんで、その辺に対してそんな心配を僕はしていないです。

(依田 高校改革統括監)

女性の先生が行くところでは、みんなちょっと違ったりするかな。

(H)

さすがになんかまずいんじゃないかって。

(依田 高校改革統括監)

ジェントルマンなんだね。Dさんは共学だけど、なにかあるかな。

(D)

私の学校は、スポーツクラスって男子だけのクラスがあるので、なんか少し別学っぽい要素を見たりする時があるんですけど、そこを見ると、やはりなんか、さっきEさんが言っていたように、ちょっと過激過ぎる人もいます。やっぱりスポーツガチでやってるから、すごい燃えてるのか、すごい大丈夫かな、みたいな格好で歩いてる人とか、ちょっとあまりよろしくないような言葉を言っている人がいたので、ほかの学校には多分ないと思うんですけど、そういうちょっと、うん大丈夫かなっていう行動をしている人がいたので、それ見るとちょっと、うーんって、ちょっとなんか大丈夫かなって思っちゃう時があります。

(依田 高校改革統括監)

やりすぎということかな。Bさんはどう思うかな。

(B)

女子校になって男子の目がないからか、彼氏ほしいみたいな話する時に結構過激というか、え、理想が高くないかな、みたいな、そういう人が多くて、大丈夫かな社会に出てからってちょっと思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい。Aさんはどう。

(A)

自分の高校は男子校で、ノリが良い人も多いですし、結構なんか休み時間とかしょうもないこと言ってる人もいますけど。まあでも、皆がノリが良いわけじゃないというか、ちゃんと歯止め役の人もいるので、全体としてはうまくまとまりが取れてるかなと思います。

ただその男子校で男子しかなくて、そういう環境で本当にもう特殊で、大学からはもうほとんどが男女一緒に過ごすってところなので、自分の高校では、男子だけで3年間過ごして、その後社会に出ていくっていうのをリハビリって言ってるんですけど、だから大学に入ったら明らかに違う環境になるので、あそこに対しての慣れはちょっと大変なのかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

はい。共学についても、別学についても、ちゃんと考えていただいていて、とても嬉しく思います。今、皆さんがおっしゃったのは、自分の友人とかクラスの話が多かったと思うけれども、例えば学校行事などについて、自分の学校や、自分の心の中をちょっと見てほしい、男子校だからこれができて、共学ではできないとか、女子校だからこれができて、男子校ではこれは無理だとか思うような、教育活動があったら聞きたいのだけれども。

(F)

学校で球技大会と体育祭がもう終わったんですけど、やっぱりその、中学校の時と比べて、結構みんな全力を出してるなみたいな。私自身も共学に通ってた時は、走る時とかちょっと前髪を気にしたり、容姿を結構気にして、走ると顔がちょっと真剣になっちゃうので、あんまり本気で走れなかったりとか、下を向いてたりとかしたんですけど、女子しかいないから、そういうの気にせず、リレーとかも全力で、もうどうなってもいいみたいな感じで走ることができたので、その楽しさっていうのは女子校の生徒が、まあ別学ならではなのかなって思いました。

また先ほどBさんが言ってたように、通っている女子校には団チアというものがあって、私も実際に団に属してダンスをしたのですが、やっぱり共学だったら、ちょっと異性の目を気にして、私ダンスが苦手なので、共学だったらできなかったなってちょっと思ってた。だけど、あんまりまとまらないんですけど、団チアに入って、苦手だけど挑戦をするっていうことができ、実際にダンスし終わった後にやってよかったな、楽しかったな、もっとやりたいなって思うんですよ。そういう思いが出てきたっていうのは実際に女子校に通ってよかったなって思っています。

(依田 高校改革統括監)

今良い話を伺いました。例えば球技大会とか、体育祭の話があったけれども、これは共学の時と変わらない種目だったり、競技なのかな。

(F)

はい、同じ感じですよ。

(依田 高校改革統括監)

それは、Bさんもそう思うかな。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

ほかの人はどうかな。Eさんどう。

(E)

ほかはどうなのかちょっと分かんないんですけど、文化祭とかでうちの学校、女装コンテストっていうのがあって、少なくとも自分も小学校、中学校は共学だったんで、共学の中でそういう女装コンテストってのはなくて、やっぱりそこは、極端な話、そういう女装とかやってみたいよって人が、男子校でそういうものがあるからこそできて、共学ではなかなかそういうはないからできないっていうのはあるんじゃないのかなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

はい。ほかにもありますか。

(B)

新入生歓迎会のときにちょっと衝撃を受けたのが、自分の友達とかがそのステージに出てる時に、その人の名前を呼んだりとか、キャーキャー言ったりとかっていうのが女子校で文化としてあって、ペンライト振ってる人とかもいてすごく良い文化だなんて感じなのと、あと共学だと、そういう盛り上げ役っていうのはやっぱり男子が主にやるような感じだったので、新鮮で面白いなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

そういう文化があるんだね。分かりました。学校での学びは、いわゆる教育制度とか教育のシステムとしては、男子校であれ女子校であれ共学でも、同じ学習をすることになっているのです。ですから外形は、同じ勉強ができるようにはなっているけれども、一方で、システムとか制度になっていないところで、隠れたカリキュラムという言い方もされるけれども、男は汗かいて汚くてもいいとか、女の人はおしとやかでみたいなことを、男女で分けるような教育を、一人一人の個性ではなくて、性別の属性によってするようなものが、忍び込みやすいというようには思っています。そこは、みんなが話しているように、共学だと遠慮するとか、共学だとできない、別学だからできるとの考えの中に、もしかすると、女子だからとか男子だからとかといった思いが、女子の役割、男子の役割、将来の仕事も男子はこういう役割の仕事、女子はこういう役割の仕事とかという思いが、自然のうちに忍び込んでくる可能性があるなど、そこに気をつけていけないといけない。共学の課題と別学の課題と、どちらも気をつけていけないといけないと思っています。

さっきの話の女装コンテストが決してよくない行事だと言うつもりはありません。ただ、女性の評価の価値観のようなものが、例えばみんながこの後、数年経って仕事をするようになって職場に行きます。男性も女性も協力して一緒に仕事をする中で、男の人の女の人を見る評価が、仕事の評価ではないところで女の人を見る評価をするような文化は、これは職場としてはよくないですね。そういうところで女の人を見る評価が、女装コンテストをする中で、自然と刷り込まれてしまうとするのだったらそれは気をつけた方がいい。

だけど、女装したって良いわけだね。男の人だって、スカート履きたい人だっているでしょう。いわゆる多様性をみんなで認めよう、いろいろな考え方やいろいろな人がいることをみんなで認めようという中で、みんなで楽しく文化祭の行事としてやっているのだったら、良いとか悪いとかということはない。行事自体が良い悪いではなく、どういう考え方でやっているのかによる。自然と3年間過ごす中で刷り込まれていってしまうことを気をつけようと、それは共学校も一緒です。

残り30分を切ったんで、今日の最後の話題になっていくんだと思うんだけど、さっき、Fさんが、倍率の話をしたと思う。これはこれまで意見交換をしてきたこととは別次元の話として、意見交換をしていきたいと思っています。

最初に県教育委員会の考え方を言うと、男女別学の共学化に関連して、倍率のことを考えてはいないことは、まず申し上げておきます。最初の方で言ったように、男とか女の人用の教育をやっていることはなく、同じ教育をやる中で、一緒に同じ場所で、同じ先生から学ぶことが基本的には県教育委員会の考え方なんですということで、男女別学の共学化を、総合的に別学の意義も含めて、別学の大切さも十分理解をしながら、共学化の推進という立場なのですとの話をしてきました。それとは全く別の話として、Fさんが言った話っていうのが、絡んできってしまうところがあると思っています。

今、例えば女子大でね、武庫川女子大という関西の方の大きな女子大が、この後学生が集まりづらくなることを大きな理由にして、共学になることを発表して、大きな話題になっていたりする。県教育委員会は、直接、男女別学を共学にするのに、倍率が低いからとの理由で考えているのではないことを前提にした上で、まず、どのくらい子供がこの後減るかをみんなと共有したいと思っているのだけれども、例えば高校入学とすれば今年生まれた赤ちゃんが15年後ですから、15年後でもいいんだけど、中学校3年生の数がどのぐらいの割合で減っていくと思うかな。

(H)

10%ぐらいですかね。

(依田 高校改革統括監)

10%ぐらい。Dさんどのぐらい減ると思う。

(D)

同じくらい。

(依田 高校改革統括監)

10%ぐらいだと思う、大体みんなそれくらいだと思うかな。

(G)

30%くらい。

(依田 高校改革統括監)

うん、3割ね。Fさんも30%くらい減ると思う。

県教育委員会の将来推計があるので、事務局ちょっと教えてください。

(事務局)

はい。こちらの資料は県教育委員会が作成した資料です。公立の中学校等卒業者数について、令和6年3月から令和20年の3月までの14年間で、約58,900人から約44,100人、約14,800人減少することが県全体で見込まれています。割合でいうと約25%程度が14年間で減少していくという状況です。

(依田 高校改革統括監)

埼玉県全体で25%ぐらいの中学3年生の数が14年間で減る。特にこの辺の西部地域はどうか。

(事務局)

はい。4地区に分けて、この西部地域は「南西部・川越比企・西部」としてはいますが、18,042人が12,807人と、5,235人の減少となります。割合でいうと、約29%の減少という状況です。

(依田 高校改革統括監)

そうですね、3割って答えた人はあってるかもしれないね。南西部・川越比企・西部地域については3割。

皆さんにここで理解をしてほしいことは、高校に入学する生徒が減ってくるとなった場合にどうするか、二つやり方があると思う。一つ一つの学校の規模を小さくして、学校の数を維持する考え方と、あとは学校の数を減らすという両方の考え方があると思う。小学校だと、1学年で1クラスという学校もあると思う。

学校は各地に残して、クラスを減らす考え方もあるけれども、高校だと難しいと思っています。小学校だと、担任の先生が国語も算数も、大体教えてもらえるけれど、高校は、国語の先生が数学を教えるのは難しい。世界史の先生が物理を教えると言ったら、ちょっと頼りない。学びの質、皆さんの能力に応じた学びを、その高校では提供しないといけない。みんなの能力に応じた学びを提供する必要がある。となると、先生の専門性が求められる。専門的な資格を持った先生に教えてもらう必要がある。そうすると、先生数を揃えなければいけなくなってくる。先生数は、法律で生徒数に応じて決まっていて、教育の質を担保するため法律で決まっている先生数を確保しようとしています。

とすると、一定の学校の規模を可能な限り残したいと思っています。そうしたときに、学校の数を減らしていかなければいけなくなる、さらに学力だけじゃなくて、高校には農業や、工業、商業を学びたい人も、普通科の教科を中心に学びたい人も。自分のライフスタイルに合った学びができる定時制とか、通信制とか、いろいろな学びの種類がそれぞれの地域に、なるべくバランスよく、自宅から通える範囲に配置できるように努力をしたいと思っています。

学校の数が減る中で、学びの種類を残しながら、学力と、学ぶ内容の選択肢を、学校を減らす中で、バランスを考えながら配置していく必要があって、生徒が南西部・川越比企・西部地域なら

3 削減の中で、再編整備という言葉を使うのだけれども、どうしていくかを考えているところなのです。

そうしたときに、似た、同じような学びをしていて、学力にも大きな差がない、ある程度同じ学びが提供できる学校を、その地域にどれだけ残していくかという議論がこの後出てくるということが、さっきFさんが言った倍率の話にリンクしてくるところだと思います。

さっき倍率とは関係ないと話をしたんだけど、全く倍率が意味がないってことを言っているわけじゃなくて、多くの中学生が行きたい学校と行きたい人が少ない学校はあるのだけれども、それ以外に、一定の地域に学びの内容と学力による選択肢の提供を考える際には、共学も別学も関係なく、再編整備を考えていかないといけないと考えている。

県教育委員会は、何十年も昔から共学を推進していきまうという立場を持っていて、一方で別学の意義もあるし、別学の重要性も、皆さんのご意見があったように、しっかり受け止めています。これまで県教育委員会は推進すると考えながら、各学校それぞれの事情があったり、地域性があったり、生徒や卒業生の考えもあるから、各学校それぞれ、今後の学校のことを考えてくださいと、共学と別学の選択を学校の考え方を尊重してきた。

県教育委員会が主体的にこれから共学化を検討しますと言っているのは、そこに大きな理由があります。共学も別学も、地域の中で、どの学校をどうしていくのか考えなければいけない時に、各学校に考えてくださいとは言えないので、県教育委員会が主体的に考えていく方針を打ち出したところなのです。

今の私の話について、皆さん意見ありますか。

(H)

農業高校とかを増やす際に、今そもそものくらいの人が農業高校を志望しているか分からないけど、割合としては絶対に普通学科の方が多く中で、それに3割とか減っちゃう中で、各地域に1校ずつ作ったりした時に、そこに本当に人が集まることになるんだろうか。作った方がいいけど、人も減ってくし、元々割合が少ないしって時に、そこにも教員の数を増やさなきゃいけないとすると、なんだかなと。

(依田 高校改革統括監)

そのとおりだと思います。生徒が来ない学校を残してもしょうがないからね。ただ生徒の意思だけではなく社会で何が求められているのかも重視しなければいけないと思っていて、農業は皆さん生きていく上で絶対必要なことですよね。農業を今後担っていく人材をどう育成するかという視点で、農業高校の学びも、コンピューターだとかAIだとか、バイオテクノロジーだとか、昔とは違う学びが求められている。

そういう中で中学生に農業高校の学びを理解してもらえるようにしていく必要があると考えています。魅力化とか特色化と呼んでいるのは、そうした新たな学びのことです。この地域であれば、昔川越農業高校という学校がありました。今川越総合高校になって、農業を学びながら、自分の進路を様々な学びとミックスしながら学んでいける学校になっています。従来の学校にはなかった学びを合わせて、新しい学びのある学校にして、中学生に魅力を打ち出すことで、将来必要な産業に携わる人材を育成していきたいと思っています。社会にとって、将来にとって必要な人材をどう育成するのか、学びたいと思ってもらえる学校をどう作るのかは大きな課題だと思っています。

普通科も、これからはいろいろな普通科がある。地域に出て学ぶような学びをする普通科があってもいいとか、ボランティアなどをしながら、机上の、教科書中心の学びではない学びができ

る普通科もあっていいとか、消去法で選ばれている普通科を、この普通科での学びをしたいと思ってもらえるようにしていくことも必要だと思っています。

例えば中高一貫高校とか、海外の大学の入学資格が取れるような、国際理解教育を学べるプログラムがある学校とか、特色のある学校を作った時に、男子だけしか学ばせんとか女子だけですというわけにもいかないと考え、男子校女子校の役割を理解しながらも、県教育委員会がどう再編整備を進めていくのかを考えていく必要がある、去年の報告書の中で、県教育委員会が主体的に推進する立場を打ち出したということです。

今の話について、意見はありますか。

(A)

今少子化もあって、県教育委員会の方々も本当にいろいろな視点から、高校の再編作りを考えている中で、僕としては農業だったり、商業だったり、いろいろなことを学べる学校があって、いろいろな選択肢があるじゃないですか。そのいろいろなことを学べる選択肢の中に別学があってもいいんじゃないかなと思っていて、現に今ここに在る生徒の中でも、別学に通ってる人がたくさんいて、別学を求めている人も多いので、だから数ある高校の特色の一つとして、別学がこれからはあり続けてほしいなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

はい。分かりました。どうぞ G さん。

(G)

再編整備とかで男子校とか女子校が、人が少なくなって、もし合併するっていう選択肢が出てきたら、私の意見なんですけど、女子校同士を合併させるとか、男子校同士を合併させるとかっていうふうにした方がいいかなっていうふうに思ってます。

(依田 高校改革統括監)

そうしたら男子校も女子校も、少しずつ残すことができるという考え方かな。

(G)

通にくい人も出てきちゃうから、例えば同じ電車の路線の中で合併するとかっていうふうにした方がいいのかなっていうふうに思います。

(依田 高校改革統括監)

はい。D さんどうぞ。

(D)

さっきのGさんの、人数が少なくなってきた時に、女子校同士を合併する、男子校同士を合併するっていう意見で、私は男子校と女子校、近いところが合併して、男子部、女子部って作ってもいいのかなっていうふうに思って、やはり別学っていうものは大切にしていきたいなっていうふうに思ったので、そこでやっぱり少し合併するにはちょっと遠いとか厳しいところもあると思うので、なら男子部女子部って作って、そういうふうにしてもいいのかなっていうふうに思いました。

(依田 高校改革統括監)

さっき、男子クラスがあるとかって言っていたね。

県教育委員会の意見は、男と女それぞれの性で分けて教育をする必要を考えていません。一人一人男女関係なく、個性にあった教育を提供したいと思っている時に、男女が一緒に学ぶことに意義があると考えています。

ただ、皆さんの今日の意見についてはしっかりと受け止めて、教育委員一人一人にちゃんとお伝えしますので、安心をしてください。

(H)

令和6年の8月22日に出た措置報告書のところの、中学生の「男女別学校は、共学化した方がよい」ってところの理由で、三つまで選択できるんで、22.6%の人が「異性を理解して認め合ったり仲よくできる、又は、ジェンダー平等に対する理解が進むから」ってあったんですけど、まずこのアンケートがどこまで県教育委員会の考え方に反映されているかは別として、「異性を理解して認め合ったり仲良くできる」っていうのと、「ジェンダー平等に対する理解が進む」っていうのが「又は」って同じように扱うのはどうかなと思って。

男子校とか女子校だと、よくも悪くも同じ性別しかいないわけだから、ジェンダー平等も何もその人の個性で、その人の能力を見たりして、じゃあこういう分担してやっていこうっていうのがあったりするんで、「異性を理解して認め合ったり仲良くできる」のは、その共学の良いところだと思うんですけど、「ジェンダー平等に対する理解が進む」っていうのは、むしろ別学の方ができるんじゃないかなっていうのがあります。

(依田 高校改革統括監)

今Hさんがおっしゃったことは、今日皆さんと意見交換をしたように、共学によくないところはあったと思う。女子と男子で役割分担があるという話だった。

一方では、Dさんがおっしゃったように、共学であっても、男子女子の区別なく、一人一人自分の得意なことができていたとの話があった。共学とか、別学の良し悪しより一人一人の考えが重要だから、学校の先生に注意をしてもらう必要があることが、今日皆さんからの意見を聞いてよく分かりました。また、別学の方が「ジェンダー平等に対する理解が進む」という意見も多くあります。特に女性の社会進出を女子校こそ担っていると、お話をする方がいらっしゃいます。

私どもとしては、別学、共学のどちらも気をつけなければいけないところもあるし、良いところもあるという認識でいます。Hさんがおっしゃったご指摘はよく受け止めていきたいと思います。

今日の感想などがあれば、皆さん一言お願いします。

(E)

この会に参加して、いろいろな考え持っている人もいて。男子校とか女子校の共学化をどうするかっていう考えに、いろいろな視点から見れて結構有意義だったなと思いました。

(F)

私の母が自分の学校のPTA本部で役員として活動してるんですけど、その時になんかもう共学化がもう決まってるみたいな話を聞いたらしくて。

(依田 高校改革統括監)

どこで聞いたのだろう。

(F)

うちの母も聞いただけなので、今度PTAの会長になるっていう方が、今のPTA会長の人から聞いたっていうのを聞いて。

(依田 高校改革統括監)

個別の学校が共学になることは決めていません。共学化を総合的に検討しながら推進していきますという、今後の方向性を打ち出しているということです。別学の意義はいろいろな方がおっしゃっていますので、これからも伺っていきますということも併せて言っています。

(G)

私は共学の目線から結構お話ししたんですけど、実際に男女別学の学校に通ってる人とかの話聞いてすごく良い機会になりました。友達からだ結構意見が偏ってしまうので、今日まで知り合いとかじゃなかった人から、直接話を聞くことができたのがとても良い機会になりました。ありがとうございました。

(H)

今日こうやって共学の人からの意見とかも聞いて、自分が今まで思ってたこととちょっと違うところもあったりしたんですけど、それでも高校再編とかの話もあって、男子校女子校とかって別学を残すのも大変だなと分かったんですけど、例えば自分が通っている男子校だったら、音楽部、吹奏楽部、古典ギター、弦楽、合唱、あと軽音楽なんですけど、そういう音楽系の部活がたくさんあって、それに対して在籍してる人も多くて、そうやって、とりあえず共学とかだったら女子が多いような部活とかでも、とりあえずチャレンジしてみるってことができる環境は大事だと思うので、これからは残していってほしいと思います。

(D)

自分は共学の目線からいろいろお話することができて、別学の方からのいろいろな意見も聞けてとても良い機会になりました。ありがとうございました。

(B)

私は女子校に通っているのでも、女子校の生徒としての目線でしか話せなかったんですけど、共学の人とか、男子校の人とか、色んな視点から話を聞いたのはすごく勉強になったのと、あと単純にこういう機会を設けてくださって、県教育委員会とかの方に自分の意見を忌憚なく話せたっていうのがすごく良い機会だったなと思います。ありがとうございました。

(A)

今日は本当に別学校、男子校女子校、そして共学校の生徒が一同に会して話すという、とても貴重な機会でも、こちらも本当に楽しかったですし、何より我々の学ぶ場所である別学は、どういう形であり、これからは残していってほしいなと思いました。今日ありがとうございました。

(依田 高校改革統括監)

こちらこそありがとうございました。

共学、男子校も女子校も県教育委員会はその学校も重要だと思っています。大切な学校だと思っていますので、そこは皆さん理解をしてください。今日は本当にありがとうございました。

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(高校生の部・南部会場)

1 日時 令和 7 年8月6日(水) 14:00～16:00

2 場所 県民健康センター 中会議室

3 参加者 15名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

それでは最初に簡単に自己紹介とご自分のこの件に関してのご意見があったら、伝えていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(A)

よろしくお願いいたします。

私は一昨年の9月から新聞部に入って、共学化の話をいろいろと担当させていただきました。その中で、依田さんとかにお話させていただくこともあったんですけども、今回、部活も引退の時期になりますので、卒業、引退する前に話をしたいと思い、本日参加したところです。

共学化は人権的に制度の中で関心が高い話だなと思いますし、どのような話し合いが進むかっていうところで、県教育委員会に対するイメージだったりとか、各学校に対するイメージだったりってところが変わってくる部分があるかなと思うので、学校として、もっと言えば、県教育行政として共学化の問題をどう考えていけばいいのか、どう捉えているのかというところを県教育委員会の皆さんと一緒に考えていければいいかなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(B)

今までできる限り、意見交換会だったり、アンケートだったり、署名提出だったり、全てに参加して、立場としては主体的な共学化には反対という立場を取ってきました。いろいろな意見を持っていて、それをお伝えしたいということで、今回参加しています。よろしくお願いします。

(C)

私自身としましては、共学化には少し反対なんですけれども、社会の流れ的にはとてもしようがないのかなと感じております。後戻りのできないような、このような難しい決断に対して、行政

の側はどのように意思決定をしていくのかという過程に興味があって参加しました。よろしくお願いいたします。

(D)

私自身としては、県教育委員会の主体的に共学化というところに反対という立場です。理由は、別学校は時代の流れ的に共学化という話が出ていましたが、男女共同参画社会の中にも別学が有意義なところがあるのではないかと思います。

例えば共学校の音楽系部活とか見てみると、女子の方が多い傾向にあるんですね。男女関わらず異性の方が多いい部活に入ってくるっていうのは簡単なことではないと思います。別学校においては、そういうハードルは存在なくて、これまで男性、又は女性が多い傾向の業界に、逆側の性別の人が入りやすくなるんじゃないかなと思います。

それはむしろ男女共同参画社会に寄与する形になると思います。それが私が男子校に入学して感じたメリットの一つです。このような素晴らしい環境を、公がその存在価値、意義を保証してほしいと思うので、公立の別学校には残ってほしいと思っています。以上です。

(E)

私は現在令和7年度の前期の生徒会長を務めております。私はこの後、述べる意見は生徒会を代表する意見ではなく、あくまで個人として話させていただきます。

私は県外の中学校を卒業し、自分の学校の魅力に惹かれて、県外受検を中学3年生で決めて入学しました。その高校が共学化を経てなくなってしまうというのは少し寂しい思いもあります。この良さを後輩らに残すために、今回参加させていただきました。よろしくお願いします。

(F)

自分の学校に入学してからは、自然とどんなことにも楽しむことができるようになりました。自分を変えることができるのが別学校だと思います。それを共学化でなくしてしまうのはもったいないと思い、今回は参加しました。

(G)

私も立場としては共学化というのは反対であります。別学校の良さを知った今、別学校が必要だと思います。別学校の良さの一つが、異性がいる場よりも委縮せずに、積極的な姿勢を取ることができます。もし男子校に僕は通っていなかったら、この場に立って、積極的に、意見を発していこうという気になっていなかったかもしれません。そういった人々の居場所が一掃されて、男

女共同生活を強いられてしまうというのは非常に本人にとってもつらいし、もったいない思いもあるので、断固やめていただきたいなと思っています。

(H)

私は、今、共学校に通っていて、共学化すると知ったとき、共学校に通うものの意見や考えも取り入れてほしいと思い、参加させていただきました。

共学化については、いくつかは残すべきだと考えております。理由といたしましては、性別にとらわれずできる部活があったりとか、学校の文化がとてもよく残っているものがあると感じています。

共学校にはできない、性別にとらわれない活動ができなくなってしまうのは、少し寂しい思いがありますので、反対という考えです。

(I)

私は共学化には反対です。私が高校に入る前の中学時代では、異性と話すことはあまり得意ではなかったのですが、別学校に入ってから活発に話せるようになってきました。共学ではなく別学校でしか得られない積極性というものがあると思うので、このような点から別学を残してほしいと思います。

(J)

僕の考えといたしましては、別学維持を求めるということです。先日、僕は吹奏楽部コンクールに行った際、その時の投票用紙に男らしさとエネルギーがあるいうふうに書かせてもらいました。それってやはり別学校だからという一つの利点ではないのかなと思います。本日はよろしくお願いします。

(K)

私は共学化には反対の立場を取らせていただきます。理由としては、共学化するという話を学校から聞いた時に、理由として別学に通っている場合、将来的に異性との関わりに何かしらの障害が生まれてしまうのではないかという考えを持っている方がいるという話を聞いたんですけど、本来の雰囲気としましては、異性がないからこそ、校外活動とかでももちろん同学年の方がいない場合もありますけど、異性と何かしらフィールドワークを行ったりとか、近くの男子校の方と校外活動を通して、関わりを持つことができます。女子校だからといって異性と全く関わらないというわけではないし、積極性が失われるというわけでもなくて、むしろ個性が磨かれていく場として最適なのではないかなと思います。私の学校はそういう別な可能性を生み出せる場所

なんじゃないかなっていうふうに感じているので、共学化は反対という意見です。よろしくお願いします。

(L)

別学の良さをお伝えしたいと思い、今回は参加しました。本日はよろしくお願いします。

(M)

私は共学化に反対であります。

まず最初に申しておきますと、私の意見では誰でもヤジを飛ばしていただいて構いません。また、県教育委員会様に申し上げた質問は最後にまとめて御回答願います。私の意見としましては、共学反対の理由として大きく分けて三つございます。一つ目の反対理由としては、募集人数より出願者人数の方が多いいということが挙げられます。

令和 7 年度埼玉県公立高等学校における出願者数、令和 6 年度埼玉県公立高等学校における出願者数、令和 5 年度埼玉県公立高等学校における出願者数、令和 4 年度埼玉県公立高等学校における出願者数において、出願者数と募集人数を、男子校、女子校それぞれ計算しましたところ、男女合わせておよそ 4,500 人の出願に対して、募集は 3,800 人ほどしかないということが分かりました。このことから言えることは明らかに、出願者数の多いということです。ここで皆様に考えていただきたいことが一つありまして、世の中の風潮に合わない学校なのであれば、出願者数よりも募集人数が絶対多くなるはずなんです。でも現状としては 4 年連続、過去まで戻ればもっと長い年で、出願者数の方が募集人数より多いということが予測されますし、実際データとしてなっております。ということは、時代の流れとしては間違っていないものであるから残すべきなんです。

また、県教育委員会としてはどのようなデータを基に共学化が必要であると考えたのか、誰かからの勧告を除き、具体的な数値を基にお答えいただきたい。

二つ目は学部の問題でございます。確かに男女共同における上で、男子校にしかない学部はないんですけど、女子校にしかない学部は確かに実際にございます。しかし、これを理由にして共学化というのは早計かなと私は考えます。なぜなら、入学試験の平均点が低い学校で、普通科であり、倍率が1倍を切っている学校がございまして。そこを何校かまとめて統廃合をして、余った予算余った校舎で新しいその女子校にしかない、学部を共学校だったり、男子校で作る。又は、倍率を1倍を切っている学校に新しく普通科の枠を削って、40 人ぐらいの 1 クラス分を設けるなどをするのがまず先にやるべきことなのではないか。また、女子校、男子校を共学化する上でも、トイレだったり、更衣室であつたりの製作費用がかかります。ここに関しては予算がいくらぐらいかかる試算が出てくるのか、数値をお願いいたします。

三つ目、これが一番重要なことになります。正確な数字は、申し訳ないのですが、調べたところ出なかったんですが、埼玉県では、およそ 5 万から 6 万人の中学 3 年生がおります。そのうち、毎年毎年調べていくと、4, 500 人ほど、パーセントでは、男女合わせて 9%ほど、女子校又は男子校に行きたいという人がいます。異性が苦手や同性だけがよい、共学校は嫌だ、など様々な理由をもとに共学校ではなく男女別学校に行ってる人もいます。中学 3 年生っていうのは、今後の日本の未来を背負う人たちで、その人たちの共学化をするということは、その男女の男女別学校に行く 9%の思いを潰すことになります。これが教育の形としてあっていいのか。上からの圧力によって変わっていいのか。そういうことはどうお考えなのか。そういうことを考えまして、県教育委員会としては少数派の意見を押し潰さないということは、考えたのか、はいかいいえでお答えください。私の主張は以上となります。

(N)

自分は生徒会の人間です。自分の高校の生徒会は、中立の立場で今やらせてもらってます。理由としては、自分の高校の全員意見を取り入れようとしますと、別学にしても、共学化にしても、どちらにしても反対派が生まれてしまうため、今は中立の立場でいます。ただ、この意見交換会でどちらかが納得できるような意見が出れば、それはもう素晴らしいと考えます。個人の考えとしては反対派です。自分の高校っていうのは近隣の女子校とよくセットにされることがあるんですけど、近隣の女子校は駅から徒歩 1、2 分なんですけど、自分の高校は駅から 30 分かかります。どちらも共学化すると、近隣の女子校の方が人気が出ると、自分の高校はとても不人気で多分、倍率的にも下がってしまう。そうなってくるとだんだん、自分の高校は行きたかったんだけど、学力が少し達していない人たちも、それが悪いこととは言えないですけど、来てしまうと、そうするとだんだん学力が落ちていって、自分の高校の校風である自由っていうのが少し曲解されてしまって、自由な校風がだんだんと制限されてしまうような形になってしまうのではないかという不安もありまして、共学化には反対という立場で今個人としてはあります。今日の話し合いでは、生徒会長だからといって来てるわけじゃなくて、個人として来ています。共学化には反対っていうのは生徒会の立場としてではなく、個人の立場として、今日話をさせていただきます。

(O)

僕もA君と同じように、新聞部として、一昨年の、苦情処理委員の勧告から今年くらいまで、引退するまで、いろいろ共学化について取り上げてきて、あくまで新聞部としては、賛成派も反対派もどっちの意見も中立的に取り上げるっていうことを目指してきました。

今回は 3 年生で、もう引退も近くて、共学化に関する、いろいろな議論とか、そういうのを参加できる最後の機会だと思います。ここからはあくまで新聞部じゃなくて、僕個人としての意見な

んですけども、私としては、一度、別学校の価値について、もう一回再考してみるのが必要だと思います。

苦情処理委員は、別学校に入りたいのに、入れない性別の生徒に対する、差別になってるのではないかと、そういう意見があったと思うんですけども、僕はむしろ、ここまで、日本の高校に占める別学校の割合は、多分10%に満たないと思っています。本当に共学校だと、3,400ぐらいある高校の中で、別学校は本当に数えるほどだと思うんです。

でも、実社会では、やっぱり未だ男女共同参画が、十分実現されてるとは、管理職の割合とか、そういうところを見てもまだ言えないんじゃないかなと思うんですね。だからそんな中でただ単に別学校を共学にすることで、男女共同参画に大きく近づくというのは、なんかちょっと違うかなと思っている。

別学校っていう片方の性しかないっていう環境の中で、例えば、ジェンダーバイアスは共学校だと、やっぱりどうしてもどっちの性もいる中で、そういうのを持ち込まれてしまうと思うんですけども、別学校だとそういうジェンダーバイアスを取っ払って、例えば女子校でも、女子がリーダーシップを取らなきゃいけないし、男子校でも、例えば女子がやるっていう固定観念が持たれてるようなことを、男子がやらないといけない。

そういう点ではむしろ、一人の人間としてジェンダーバイアスにとらわれることなく自立した人間っていうものを生み出せる教育として、別学は価値があるんじゃないかなと思う。その点では、一度その辺のことをよく考えて見た方がいいんじゃないかなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

皆さんにいただいた意見の中から、私の方でいくつか話題を提供させていただいて、意見を交換しながら、理解を深めていきたいと思いますので、ポイントを絞って話をまたさらに聞いていきたいと思います。

何人かの方が男子校、女子校は男女共同参画社会を推進する中でも意義がある。今、Oさんからジェンダーバイアスの話が出ましたけれども、そういうことにおいても、別学校の方が共学に比べて優位性があるのではないかなというような趣旨だったと思います。男女共同参画社会を推進していく上で、男女共同参画社会に資する人材の育成も目指して高校教育も進めていくことについては反対の方はいらっやらないと思います。その上で別学の優位性について、具体的なご意見をいただきたいと思います。

(B)

さっきどうしてもこれはっていう意見を伝えるっていうところかと思ったのですが、簡潔にということだったんで、伝えたいこと伝えてないんですが、今話してもいいですか。

(依田 高校改革統括監)

いいですよ。

(B)

私は、県教育委員会が進める主体的な共学化に反対の立場を取ります。

県教育委員会が進める共学化方針について、私は疑問と懸念を思っています。大きく三点に集約されます。

第一に説明責任を果たされていないことです。「措置報告書」「魅力ある県立高校づくりの方針」には、共学化の方針を「主体的」にするという結論の明確な根拠や客観的なデータは、ほとんど見られません。文章は抽象的で解釈次第でどうしても取れる内容となっていました。また、これまでの意見交換会などの場でも、こちらの問いに対して確信を避ける返答や話題のすり替え等が見られました。発言と報告書の内容が一致しない点、発言同士が矛盾する点もありました。よって説明責任が果たしてるとはいえないと思っています。

第二に進め方が適切でないということです。当初は女子差別など理念的な問題が中心でしたが、途中から高校再編だったり魅力ある高校づくりといった別の論点が追加され、議論の軸がすり替えられてしまっています。これらは本来苦情処理の過程でなく、別の場で議論されるべきものであったはず。さらに主体的に共学化を行うという結論が先に出された後に、地域や性別による教育機会の格差拡大が今後起こるのではないかということについて、地域、学科、高校など具体的な予測が示されて検討が始まりました。

本来将来の状況を具体的に明らかにしてから、その手段として、主体的な共学化が検討されるべきであったはず。結論ありきで理屈は後からつけるような進め方に大きな疑問を感じています。

第三に生徒の意見が政策決定に反映されていないことです。

県教育委員会は県民の意見を丁寧に聞いていくと説明していましたが、実際に中高生から寄せられたアンケート、署名、意見書を見る限り、共学化に反対する声が多数でした。にもかかわらず共学化の推進を主体的にするがどうかについての結論に反映されませんでした。一方で、県議会最大の自民党の考えに結果的に沿う形で主体的な共学化推進が進められています。

大多数の生徒には選挙権がありません。議会に直接働きかける手段がない中で、意見交換会、署名などを通して声を上げたとしても、結論に影響を与えたことは、今までできる限りの会議に参加した身としては一度もないと感じています。若者や子供の意見を尊重するというこども・若者基本条例の趣旨に反しているという指摘をよく見かけます。県教育委員会が真に生徒の声を聞く姿勢を持っていたとは到底思いません。以上の三点より、私は主体的な共学化に反対の立場を取ります。説明責任をはたさず、結論先に決め選挙権を持たない私たち生徒の意見を軽視する、そのようなやり方で、多くの生徒の進路や生活に深く関わる重大な決定を進めるべきではあ

りません。さらにこうした策には多額の公費がかかります。なおさら慎重であるべきです。まずはこれまでの意思決定の過程を明らかにし、情報を自ずから開示すること。そして結論ありきではなく共学化について議論をやり直すこと。これを強く求めたいと思います。

繰り返しますが、我々中高生の大多数ほとんどは選挙権がありません。ですから、我々の意見は県教育委員会によるあのアンケートで、あの署名で直接表明したんです。県議会に我々の意見はありません。しかも、あれは大人による間接的な意見です。生徒による直接的な意見と真逆である主体的に共学を推進するという結論は、生徒の意見を見做していることと同じと捉えています。教育行政としてそれで良いのでしょうか、というものを思っております。よって、議論のやり直しを求めます。以上です。

(依田 高校改革統括監)

先ほど、私の方で、皆さんの話を聞いて、いくつかポイントを絞って、意見交換をしようと言ったのですが、Bさんから御意見、質問をいただきました。もし、皆さんもBさんのように県教育委員会に対して御意見や質問をされたいというならば、とりあえず私の提案は後に置いて、皆さんと意見交換をしていくことに切り替えても構いませんが、どうでしょうか。

皆さん、県教育委員会に対して御意見があるようなので切り替えましょう。私の方で提案するのはやめて、皆さんの方の話を中心に、県教育委員会と皆さんとの間で意見を交換していくこととします。

今、Bさんから何点か意見があったけれども、まずはその件で、皆さん、意見交換をしていくのでいいですか。Bさん、この中で、今日のテーマとしてどうしてもやりたいことがあれば、絞っていただきたいのですが。皆さんと話をするテーマとしてはどれがいいだろう。

(B)

私としては、これを県教育委員会の議論している方々に伝えていただきたいというものがあるだけなので、ここで意見を聞きたいということでは、はっきりはないのですが、挙げるとするのであれば、意見が反映されていないことなのかなと思ってます。

(M)

先ほど言った意見が反映されてない、確かに最もだと思うんですよ。どこを見ても私たち生徒の声を少なくとも検討をしましたよ、上の方で目視して確認した結果の回答がこれですよという記述がどのネットを探しても見当たらないんですよ。県教育委員会はそこの生徒の目を単なる下の動きとしか見てないのか。それとも目を通して何か思ったのか、まずそこについてどう思ったのかっていうことをご回答願いたいなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

中学生や高校生の意見をどう反映したのかということについて、県教育委員会の考え方も含めて話をするということでもいいですか。

今、BさんとMさんの意見はありましたが、このことについてほかに意見がある方はいますか。

(F)

2024年 8 月に行われた意見交換会において、各地域で性別にかかわらず、生徒が学びたい学びを学ぶ機会を公平に平等に確保する必要があるっていうのを、別学校には別学校の意義があると捉えているという発言がありました。また、別学・共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢だと思っているという趣旨の発言もありました。学科の学び、別学校での学びの意義をどちらとも認めていますが、別学共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢であるとする根拠は何でしょうか。

(依田 高校改革統括監)

質問会だけになってもいけないと思っています。今のFさんのお話は分かりました。BさんとMさんが今お話になられた子供の意見を反映する、中学生、高校生の意見を県教育委員会はどう反映したのかということについての意見がある方はいますか。

(A)

どう反映したのかって、すごいアバウトではあるんですけど、個人的にはどう反映したのかっていうところがすごくこう疑問点というか、論点として上がるのはその県教育委員会が最終的に報告書を作る過程でどういような議論というか、プロセスを踏んで、あの文章を作ったのかというところが、見えてこないなっていう部分がこう大きい、言ってみればちょっと不信感のようなものがあるのではないかなっていうふうに個人的には感じています。もちろん県教育委員会の教育委員の方が議論するところに一般市民が入るとするのは難しい話だと思うんですね。なんですけど、例えばその議論の過程でどういった意見があって、例えばこのこういう部分については県教育委員会の方で拾いましたよとかっていう部分が何か、議論のプロセスが見えれば多少どういうふうに反映されたのかみたいなものが見えてくる。

そうすると、私たちとしてもここを反映されたけど、ここが反映されてないんだったら、どうしてこっちを選んだんですかみたいなもっと先の議論ができるので、どういう議論のプロセスを踏んでいったのかっていうところが見えるっていうところが第一に大事なんじゃないかなって個人的には思います。

多分全部公開するのは難しいと思うので、例えば一か月後ぐらいに主な発言みたいな感じでいくつか出すとかいろいろやり方あると思うんですけど、何かしらそういう議論のプロセスを見

えるようにする。全部じゃなくて、少しでも見えるようにするっていうのはこう全く反映しないっていうふうに感じる側からすると、多分、良いのではないかなっていうふうに個人的には思います。

(G)

加えてですね、埼玉県にこども・若者基本条例っていうものが存在してると思うんですけど、こちらにはこども若者からの意見の聴取及びその他の必要な措置を講ずるときちゃんと明記されてるんですね。こちらの条例の内容に対しても、今の現状のこう、意見が無視されている、反映されていないということが全くもって反していると私は考えているんですが、その部分に対しての考えもお聞きしたいです。

(M)

まず、県教育委員会の方からのお話があって、今、意見交換会ではなく、質問会になっているという話があったんですが、当たり前じゃないですか。それだって、こっち側としては反対又は少し反対か学校としては中立の立場。それなのになんで賛成側からの、指示というか、話を受けて意見交換会しないといけないんですか。我々は、私だけかもしれないですが、あくまでこうだから反対だよって言うてるのに、それをここで議論しましょうといっても、反対派なんだから意見が出ないのは、決まってるじゃないですか。それに対して適切な説明を求めるっていうことが意見会じゃなかったら、どうなるのか。あくまで私たちが出した、質問に対して県教育委員会から返ってきた。それに対してもう一回私たちがその出てきた意見をもう一回再検討して言ったら言い方がよくないですけど、もう一回そこで出た話題を改めて話し合う。これがこの反対派、一般的に言えば反対派、賛成派、これの正しい意見の交換の仕方なんじゃないんでしょうかというところをまず質問として挙げさせていただきまして。先ほどの質問にかぶってしまうのですが、Bさんも言った通りないですよデータが。Bさんも G さんも、言っていましたが、データはないんですよ。

データがないのになんで進めないといけないのか。それはポピュリズムとか単なる大衆派の意見の押し通しじゃないですか。それに対してもどう考えてるのか。ポピュリズムだったり、一方的な圧力ということに対して考えはないのか。賛成派はそういう考えがないのかということについてお聞きしたいのと先ほども言いましたが、当たり前ですよ、反対派が多いんですから。ここで意見を出してください。これに対して意見ありますかって県教育委員会が言っても反対なんだから、あーそうだね、で終わりますよ。それに対しての私たちがあーそうだね、ではなくて、県教育委員会がどんな見解を持っているのかというところに対しても、できれば細かくあの開示できる限りでお答え願いたいと思います。以上です。

(C)

私としましては、県教育委員会さんたちを責め立てるつもりはなくて、今回、反対派しかいない感じなんですけど、私としては共学化に反対というわけではないので、皆さんに問いかけたいんですけど、現在、埼玉県の東大の合格者とか、医学部の合格者に関しては浦和高校がやはり抜きん出て一番良いじゃないですか。そこに女子が入れないっていう状況は、普通に見たらおかしいと思うんですよ。公共的なお金の使い方として。そこをどう考えて反対派としての意見を送っているのかというのを皆さんに聞いてみたいなと思って今日来ました。

(依田 高校改革統括監)

今日は皆さんと意見交換をする中で、お互いに理解が深められればと思ってやっています。皆さんに私が言ってることに賛成してほしいとか、説得に応じてほしいとかっていう場ではないと思っています。県教育委員会はこういう考え方ですよということは私から述べさせていただいて、それに対してまた意見があればお話いただければ理解がお互いに深まるだろうと思っております。

議論があまり拡散しないうちに、県教育委員会の考え方をお話します。アンケートの結果や意見聴取の内容についてどう反映したのかというところです。Aさんからそのプロセスの話もあったかと思います。報告書の中には、アンケートの結果や意見聴取の内容について、8ページぐらいしかなかったかと思いますが、補助資料としては、大分膨大に資料として添付しています。

それについては本当に細かく、教育委員の全員がしっかり目を通していただいています。アンケートでは、記述の部分がありましたが、私は全てに目を通していただき、ある程度、類型化をしておりますが、全部教育委員に伝えております。県教育委員会の会議の中でも当然それについて、意見を交わしておりますし、県教育委員会の会議の外でも勉強会という形で実施しております。それについて、Aさんの方からプロセスが見えないという話もありました。

確かに全部見えるようになっておりません。勉強会の資料については、公開の文書、行政文書ですし、県教育委員会の会議の内容についても、情報公開に適さない部分を除いて、全て公開をしているものですので、可能な限り努力をしているつもりです。ただ、それでも納得がいかないという声はあるかと思いますが、不十分だという御意見については受け止めさせていただければと思いますが、今回のことについては、県教育委員会では開かれた議論をしたつもりではおります。

今日の意見交換会についても、なるべく開いた形で目に触れるようにしたいと思っておりますので、皆さん方にご理解もいただきたいと思っています。

今の私の話についていかがでしょうか。

(E)

Mさんが一番聞きたかったこととして間違えていたらごめんなさい、議論プロセスについてAさんの話があって、Mさんは報告書とかで結果だけが記載されてて、結論にいくプロセスが分からなかったっていう事かと思います。

依田さんがその議論、そのアンケートなども全部目を通してくださったとおっしゃってくださいました。そこはありがとうございます。

疑問があるんですけど、埼玉県に伝えたという発言がありましたけど、どのような内容を伝えたのかっていうのと、Mさんもおっしゃっていたように、どのような議論のプロセスを経て、今回のような結果に至ったのかというその回答が伺えれば幸いです。

(依田 高校改革統括監)

埼玉県に伝えたのではなく、県教育委員会の中で共有をしたという意味で申し上げました。教育委員に対して、県教育委員会の事務局職員から伝えました。先ほど言ったように勉強会もありましたし、教育委員会という、公式な会議もありました。

県教育委員会の会議も複数回実施しました。そこでは報告、協議など、様々な議題の出し方で、複数回行ってます。勉強会も複数回行ってます。県教育委員会の資料についてはホームページに載せておりますので、中身の議論の内容も可能な限り分かるようにしてます。

勉強会についても、行政文書として、資料が残っておりますので、公文書開示請求で対応できます。令和6年 1 月から報告書を提出した令和6年 8 月の下旬まで断続的にいろいろな方の意見を聞いたり、アンケートを取ったり、調査を行ったりして、その都度実施しているので多種多様です。私としては、頂いた意見やアンケートや調査の結果を私の主観を交えないで教育委員に伝えております。その上で教育委員の中で検討いただいたというのが、令和6年 1 月から 8 月までの間のプロセスです。

(E)

わかりました。

(J)

先ほど、目を通していただいたりとか、いろいろな会を設けていらっしゃることは私どもはよく分かったんですけど、その中で教育委員さんがそのアンケートの結果を見て、どのようにお考えなのかっていう県教育委員会さんのご意見を聞きたいなっていうふうに考えてるんですが、それは会の趣旨に合っていない感じですかね。

(依田 高校改革統括監)

結局それが報告書の内容になってきていることなんです。県教育委員会の中では、教育委員一人一人が話をするわけですが、県教育委員会としての見解は、最後一つにまとめた結果、それが報告書になったことなんです。それまでの一人一人のプロセスの中の意見は、県教育委員会の会議の中のやり取りを確認いただくことになります。

(B)

すみません、あの僕が意見を最初に言わなかったことで、大分趣旨が分からない方向になってしまって、本当に申し訳なく思っています。

(依田 高校改革統括監)

大丈夫ですよ。

(B)

会議の趣旨を私は間違えて理解してしまっていたということだと思うんですけど、この会議で意見を聞いたことによって、県教育委員会の主体的な共学化を推進するってことの、この方針は基本的には変わらないということによろしいですか。

(依田 高校改革統括監)

今日のこの意見交換会で出た御意見も今後の参考になっていくものなので、変わる、変わらないということは、この場で申し上げることはできないんですが、私としては、この場では県教育委員会の考え方について述べさせていただきますが、皆さんの御意見は、全部教育委員にストレートにお伝えしようと思っています。

その結果、教育委員がどのように考えるかというところは、その後の話になります。

(B)

意見を集めてるってことは何か進めるのにおいて情報がほしいということなんですけれども、県教育委員会が今議論してるのは、主体的に共学化するというのは決まってる上で、その上で合意を得ずに共学を推進するのは決まった上で、その中でどう学校を配置していくのかの中で情報がほしいのか、そもそも主体的に共学化を進めていくっていうところの議論において情報がほしいのか、それはどちらの方ですか。

(依田 高校改革統括監)

両方です。県教育委員会が主体的に共学化を推進するということから、こういう意見交換会を実施しているわけですが、皆さんの意見を聞いた結果、主体的が取れるとか取れないとかは、今後、教育委員がどう判断するのかということになります。

(B)

主体的に推進っていうのは合意を前提としない推進ということでしたよね。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会は、以前から共学化を推進するという考え方でした。約20年前に出した報告書には、県教育委員会は、共学化を推進するという考えでしたが、各学校が共学化を推進することになった際に、それを県教育委員会は支援するという立場でした。

よって、共学化した学校もこれまであったのですが、現在残っている別学12校については、これまで、学校において共学化を推進するという検討がされてこなかったもので、県教育委員会も特に学校を支援することはなかったのです。今、Bさんが、私に対しての主体的に共学化を推進するというのが、変わるのか変わらないのかということで、お話がありましたが、共学化を推進するという考え方は、以前からそうだった、だから変わらないというように申し上げるつもりはありません。

今後どうなるのかというのは、意見交換をしながら、皆さんの意見を参考に、県教育委員会全体として考えていくことになります。皆さんが共学化を主体的に進めるべきではないという意見をお持ちならば、ぜひおっしゃっていただいて、それを教育委員に県教育委員会の会議の中で主観を交えずに共有をさせていただきます。

(M)

何点か疑問があったんですけど、県教育委員会に私たちの意見を伝えるって言ったじゃないですか。そしたら意見交換ではなくて質問会じゃないですか。私たちは、各個人だったり、生徒会でこう思ってますよとっていて、それを県教育委員会に伝えてくださいねって話なのに、意見交換会なんですよ。おかしくないですか。矛盾が生まれてませんか。だって、私たちの意見がどうかじゃなくて、それは私たちの中にも話し合ってくださいってことになったじゃないですか。でも、私たち一個人と違うのに、では、それをまとめました、はい、え、じゃないですか。あくまで質問会になってしまいますけど、なんでもいいんですけど、県教育委員会に対して、県教育委員会の事務局に言う、それを県教育委員会に持っていく。プロセスがなんか二つ今見たんですよ。

(依田 高校改革統括監)

Mさんの意見は分かりました。質問をしたいんですね。Mさんは。

(M)

質問をしたいということではなくて、矛盾があるんですよ。

(依田 高校改革統括監)

矛盾があるという意見ですね。ほかの人の意見はどうでしょうか。

(N)

意見交換会の趣旨が分かってなくてですね、意見交換会というのは、教育局と我々の学校の生徒が意見を交換するのか、それともこの学校の生徒と学校の生徒が意見を交換するのか、それとも両方なのかというところでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

私たちは、一人一人個人として参加をしていただいていると思っていますので、高校生と話をしているとってます。

(N)

さきほどのCさんが出したトピックに対して、我々の学校が議論するっていうのではないということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

学校に持ち帰ってくださいとは思ってません。あくまで個人として今日は出席をしていただいています。私からは県教育委員会の考えをお伝えして、それに対して反対意見、賛成意見、いろいろな意見を出してもらって、その意見を県教育委員会全体で共有をする中で、今後の県教育委員会の取組の参考にさせてもらおうと思っているわけです。

(N)

さっき進めていた我々がトピックを出して、我々の意見をこう話し合うってっていうのは趣旨として合ってるんですか。

(依田 高校改革統括監)

合っていると思います。誰が出してもいいとは思っていますので、私が出すことも可能ですし、皆さんが出していただくことも可能だと思っています。

(N)

はい、分かりました。では、トピック変えてもいいですか。

(依田 高校改革統括監)

とりあえず、今の話題はいいですか。先ほど、Fさん、Cさんなどいただいていたものがあるから、先にその話をしてからでいいですか。

まずFさんから。

(F)

2024 年の 8 月に行われた意見交換会で、各地域で性別に関わらず、生徒が学びたい学びを学ぶべき機会を公平に平等に確保する必要があるってという発言と、別学校には別学校の意義があると捉えているという発言がありました。また、別学・共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢だと思っているという趣旨の発言がありました。学科の学び、別学校の学びをどちらとも認めていますが、別学・共学の選択肢よりも大切なのは学びの選択肢である、そうする根拠は何でしょうか。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会の別学・共学の考え方、男女が共に学ぶことには意義があるとの表現を報告書の中ではしていますが、それについてお話しします。

まず、県教育委員会の考えとしては、男性用の教育と女性用の教育というものを考えていません。男性も女性も同じ教育内容を実施したいと思っています。そうした時に、男女がそれぞれ分かれて学ぶと、自然とその学びが男用の学びとか女用の学びになってくる傾向もあるかもしれないと考えています。あるいは、少なくとも一緒に学んだ方が男の人と女の人で同じ学びができるのではないかと考えています。だから、別学の意義がないという話ではありません。別学には先ほど皆さんからお話しいただいたように、様々な良いところがあると思っております。

そこで、今Fさんが言った男子と女子との教育機会の平等とか学びの選択肢というところは、例えば男の人しかこの教科が学べないとか、ということにならないように、しなければいけないと考えています。それは教科だけではなく、あくまでも本人の能力と希望に応じた学びの選択肢があるようにしたいと思っています。自分の能力に合った学校の選択肢と農業とか工業とかそういう学びの内容、それが男女で平等である必要があって、県教育委員会としては男性用と女性用に分けた教育を行っているわけではないので、男女がともに学ぶ方が意義があるというような考え方なんです。

Fさんいかがでしょうか。

(F)

共学化して、その学びを機会が公平に平等になるっていうのは分かったんですけど、それによって別学の選択肢は潰れてしまうじゃないですか。それをなぜ別学の選択肢をなくして、その共学化して、学びの選択肢の機会をもっと公平に平等にするというのを選んだのかのその根拠が知りたい。別学・共学の選択肢と、共学化して学びの選択肢をその男女同じにしようっていうものの二つがあって、どうして共学化するということを選んだのかっていう理由とか根拠を教えてください。

(依田 高校改革統括監)

Fさんが言ってるのは、どうして県教育委員会が主体的に共学化を進めるということになったのかという質問でしょうか。

(F)

少し、考えます。

(依田 高校改革統括監)

あの議論をまたしながら、Fさん、いつでもいいからね。

【休憩】

(依田 高校改革統括監)

それでは、Cさんのお話だね。

もう一度、先ほどの話をしてもらっていいですか。

(C)

ちょっと感情的になりすぎてるなと思ったので、少しデメリットを踏まえての話も聞いていきたいと考えていて、今、県立高校は、税金からの運営になります。そこで浦和高校に女子が入れない、男子しか入れないという状況に関しては、その先ほどおっしゃっていた、能力に合う高校とか希望に合う高校っていうところには明らかに反することだと思います。そこを踏まえて、皆さんがなぜ共学反対、別学維持を論じているのかっていうのを少し聞いてみたく、話題を振っていただきたいなと思いました。

(O)

先ほど、Cさんが、医学部とか東大とかへの進学実績が、高い浦和高校に、女子が入れないのが、どうなのかなっていう話があったと思うんですけども、その理由で共学化っていうのは違うと思うんですよ。男女平等がっていう、理念的な問題だと、変わってくると思うんですけども、学校のカリキュラムって公立高校である以上は、教員の異動とかも、全部、県教育委員会が、管轄してるわけじゃないですか。その中で、浦和高校だけに、優秀な教員と言いますか、独特のカリキュラムだとか、そういうのを作ってるっていうわけじゃないと思うんですよ。どちらかという、優秀な生徒が入ってきてるから、優秀な大学に行っている、そういうことが大きいんじゃないかなって思ってるんですよ。

そこで公教育において、優秀な学校に女子が入れないという指摘は、違うんじゃないかなって思っている。

(J)

浦和高校は夜の 9 時頃まで、高校自体は開いていて、各自が勉強に励むことができる場を設けさせてもらっているっていうのが今の浦和高校となっていて、それがあっていうことは、浦和高校は一人一人が受験に対して努力をしようという意識があるからなのではないかなって思います。

受験は団体戦という言葉もありますが、最終的には一人で机に向かって解答を書くっていう、個人戦でもあると思うんですよ。その中でやはりこう一人一人の努力が、高校選択よりも一人一人がここに行きたい、だからこれぐらい勉強するんだっていうこの努力があつてこそその大学合格ではないのかなって僕なりに考えていて、実際僕も高校受験がそうだったので、個人の努力があつての高校もしくは大学合格っていうふうな捉え方が一般的なのではないかなっていうふうに、僕なりに考えました。以上です。

(依田 高校改革統括監)

女子の話なので、女子にも話を聞いてみたいと思うけれども。意見述べてもらえる人いますか。

(K)

私の知り合いの方の話なんですけど、東大を目指してる子で、その子も女子なので、浦和高校とか東大実績がすごいある男子高校には入れないんですけども、その子なりに、一番の自分が目指すのに適したことが学べる場所を選択した結果、今、私から見たら、とても優秀な高校に入っているんですね。だから、何人かの方の意見にかぶってしまうかもなんですけど、実績の高い

高校が男子校で女子がそこに入れないからっていうので、共学化っていう意見は別に、大して関係がないんじゃないかなっていうふうに思いました。

女子は女子でも、女子校でもレベルが高いところは浦和一女とかもちろんありますし、実績が浦和高校に少し届いていないってだけで、別に目指してる人が多いよっていう学校は、女子校の中にもたくさんありますし、共学の中にもたくさんあるので、選択肢的に別に共学化っていうふうにそこでつなげる必要はないのではないかなと、私は思いました。

(依田 高校改革統括監)

ほかに女子の方はいかがですか。

逆に、女子校に男性が入れないということをどう思いますか。例えば、女子校の学校行事をやりたいという男子生徒がいたときにどう思いますか。

(K)

例えば、文化祭に来てもらって、それを自分の学校のイベントに取り込んでもらいたい。

学びたいことがあって、男子だから入れないっていうんだったら、共学化につなげるのは結構強引かなっていうふうに思うんですけど、確かにそういう意見がある場合には、こういうふうな意見交換会、それこそ学校内とかで設けて、あっちの学校ではこういうことやっていて、こっちの学校でもこれをやりたいですっていうことを話したら、共学化にしなくても別に、別学でもいいと思うんですね。うちの学校は女子校だから、男子校のことは分からないし、共学の男女の関わり方とかいうのは、中学校の時の考えで止まっているので、合っているとか分からないんですけど、その分近くに共学校や男子校もあるので、文化祭とか遊びに行ったりして、話聞いたりすることも可能っていうのを友達から聞いたので、そういう場で自分の学校でやりたいこととかいうのを、積極的に生徒会に自分から伝えることができるんだったら、学校の人に提案してみたらいいのではないかと思います。

(D)

なぜ浦和高校ばかり、そんなに東大合格者出してるのかというのは、Jさんが言ってたとおり、9 時まで残れるっていうのもあるのかもしれないですけど、他校と比較したことがないので、そういうところは、県教育委員会の方がやりやすいのではないかなと思ってます。

あともし僕が女子だったら、どこの高校に行ってたかなっということを考えていて、多分性格が今のままなら、東大合格者数が多い所に行きたいなっていう感情になるのは頷けます。

(O)

さっき、女子校に入りたい、男子生徒っていう話はあったと思うんですけども、一つこれはどうなのかなって思うのがあって、普通科があれば、どの高校も理論上は全て同じ教育を提供できる訳じゃないですか。どここの高校だけにしかできない教育っていうのは、基本的にはないと思うんですよ。

例えば、鴻巣女子高校の保育科ですかね。これは男子校にも共学校にも存在しないわけで、女子しかいけない学科っていうようになってる。そういうのに関してはどうなのかなって思うことあります。

この前まで、常盤高校も看護科が女子校にしかなかったという状態だったので、最近、共学化されましたが、そういう点については少し考えていかなければならないのかなとあります。

Cさんとの質問についてですが、浦和高校で東大を目指す人が多いっていうのも多分合格者が多いっていう一つの要因ではないのかなっていうふうには考えていて、目指す人が多い分、その分受かる人もいるっていう、このような関係性があるからこそ多いのではないかなっていうふうには僕なりに考えています。だからその、目指す人が多いから、その分、受かる人も多いという考え方が正しいのではないかなと思っていて、だから浦和高校のみやっている、特別やっているものっていうのはおそらくないと思うんですよ。だから結局は、その目指す人が多いからっていう理由で多くなっているんじゃないかなっていうのも一つの要因ではないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

Cさんに話を戻します。

(C)

今回の話題振りに関してはこれ私が思った訳ではなくて、一番初めのきっかけとしてあった話題だと思ったんですよ。苦情処理委員に入った話題として、浦和高校に女子が入れないってのがあって、そこで皆さんにお話しいただいて、とても参考になりました。

県教育委員会に対しましては、やはり別学校では、カリキュラム以外の課外活動という点で、少し特色が皆さんの学校で違いますので、そこは配慮する必要があると思うんですけども、カリキュラムに関しましては、先ほどおっしゃってた通り、県としては男女分けてるつもりはないという話ですので、そこを踏まえての議論をお願いしたいなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

今、Oさんの方で鴻巣女子高校の保育科の話があったと思います。

県教育委員会としては、一人一人男子と女子を問わず、男女が共に自分の能力とその希望に応じた進路を選ぶように、努力をしていくということを考えています。ただ、Oさんの話にあったように、完全に能力と希望に沿った選択肢を提供できているかというと、そこは努力の途中だ

と思っています。Cさんがおっしゃった、学びについては、おそらく男子校と女子校で均衡している地域が、ある程度はあるところはあると思うんですけれども、学力以外のところにおいては、いろいろ学校によって特色があったりするということと、先ほどの学科についても、今、普通科でも、保育のことを学んだり、ほかに保育が学べる専門性のある学校がいくつかありますが、鴻巣女子ほど専門的に保育のことを学べる学校がないという意味では、完全に男女の機会が平等になってるわけではないということになります。そこは、引き続き努力する必要があると思っています。多分皆さんから反対論が出てくるところなんです、その努力の中で共学にしても別学にしても私たちは、その別学だから何も手つけませんとか、共学だから手付けますということではなくて、別学も共学も同じ土俵の上で、男女の教育機会の平等と、それぞれの希望と能力に合った学校が県内の地域で見て、できるように工夫をしていこうと考えていて、そのために県教育委員会が主体性を持つようにしたということなのです。各学校では自分の学校については一生懸命考えるけれども、隣の学校と比べてどうだとか、この地域の学校の中で自分の学校がどういう学びで、どうすればいいのかというところは、考えることができないので、そこは各学校にお任せするのではなく、県教育委員会が主体性を持って、その学校の再編整備を考えなければいけない。そのため、共学化についても主体性を持たせていただくと、昨年度、報告書で申し上げたところです。学びを変えなければいけないという意味では、新しい学校になっていただく可能性は共学校も別学校も両方あるということですね。そこは男女の教育機会の公平性・平等性というものは十分私たちの努力目標としては持っているという、そういう考え方です。

(E)

すみません、Cさんの件から少し離れますが、今回の意見交換会で自分の高校の生徒会であまり長時間かけられないので、事前に生徒会内でどのようなことを県教育委員会にしたいかというのを事前に話し合っています。

先ほども依田さんがおっしゃってくださったように我々の意見、反対の意見もしっかりと捉えて、その県の方にえっと反映させていただくという意見がありましたので、これまであまり意見が言われていないと思うので、生徒会として、意見を述べさせていただきます。

以下に述べる文章は生徒会内で議論しました。生徒会としての意見として述べさせていただきますので、個人としてではなくて、生徒会として述べさせていただきます。よろしくお願いします。

昨年度出されました措置報告書には男女が互いに協力して学校生活に送ることは意義があるというふうにおっしゃっております。このように判断した根拠がそこにはあまり示されていません。我々別学校の生徒から見れば納得が少しいきませんでした。

また男女が互いに協力して学校生活を送ることには意義があるならば、合意を前提としない共学化の方針になるのかが不明です。少し重複する内容も含みますがよろしくお願いします。そ

ここで意見を述べさせていただきます。我々が不明であるとする根拠、原因は措置報告書において結果しか記載されていません。その結論に至った客観的根拠だったり、議論内容が提示されていないことに起因するのだと。我々生徒会は思いました。

判断材料として用いた根拠やデータと合わせて、結論に至った議事録、共学化関連の議事録の開示を我々は求めております。先ほどにもあったように、本日の意見交換会においては、様々な生徒が共学化に対する県の意向に対し、非常に多くの疑問点、また反対的な意見を抱いております。そこから我々には県教育委員会から十分な説明が果たされていないと感じるには十分であり、勧告書や報告書の中に、その結論に至る議事録だったり、そういう開示を求める行動は我々にとっても納得がいくものだ我々は思います。

加えてこれまでに質問があるようにアンケートを通して別学校のニーズがありますと判断できております。それなのになぜ共学化を推進しているのか、それに関係する話し合いだったり、議論の内容が我々にとってとても不明瞭である。いわばブラックボックスのようなものであり、議論の進行に問題があるのだと思っております。よって我々は透明性、また客観性を持たせて共学化に関する議論のやり直しを我々は提案いたします。

さらに、今後も別学校だったり、共学校関係なく、このような直接生徒の意見を受け止めるような意見交換会を実施することを望みます。今後ともよろしくお願いします。

要約しますと、以上の三点、結論に至った議事録や共学化関連の議事録の開示を報告書の中に同封してもらう。二点目に共学化に関する議論をもう一度、透明性だったり、客観性を持たせて我々が納得のいくような形で議論をやり直すということ。三点目にこのような今後も直接的に生徒から意見を取るような意見交換会を実施すること、このことを生徒会、また会長を代表して、生徒会から提案させていただきます。また、県教育委員会の方に伝えていただければ幸いです。よろしくお願いします。

(依田 高校改革統括監)

今、E さんの方から、生徒会からということでしたけど、意見をいただきました。時間も限られているので、ここで皆さんに最後、全員に今、E さんのようなものでも結構ですし、ほかでもいいです。意見なり、感想なりをお話いただきたいと思います。これまでお話されていない方もいるので、ぜひ話をしてほしいと思います。E さんはいいかな、今のお話で。

(E)

はい。生徒会としての意見でよろしくお願いします。

(依田 高校改革統括監)

それでは、Oさんから行こうか。

Oさんの、意見とか感想とかでいいので、一言ずつお願いします。

(O)

僕は共学化に関して思うのは、さっきも言ったように、鴻巣女子高校をみたい等特殊な事例はやっぱりある程度是正していく必要があると思うんですけども、普通科におきましては理論上は、別学校だろうと、共学校だろうと全て同じ教育を提供することが、県教育委員会の裁量次第でできると思ってるんです。それができる以上は、別学校に対するニーズも一定あるわけですし、それを残していくっていう選択肢も十分にあるものじゃないかなと私は思っております。

また、彼らが言ったように、議論の透明化といいますか、そういうのもぜひお願いしたいですし、これからも、県教育委員会の方と直にお話できる場を、これから入ってくる生徒のためにも開催していただけると嬉しいです。

(N)

自分の高校は西部地区の方だったんで、なぜ南部地区の方にしたのかっていうと、南部地区の別学校さんがいろいろ考えてくれているのかなと思って。結果としてよかったと思います。

最初から最後まで報告書の透明性であったりとか、報告書関連の話が多かったと思います。私は報告書に対してあまり目を通していなかったのですが、先ほど 5 分間の休憩があったので、そこで目を通していただきました。これですと、共学化に関心のある人だけが、見るという形になってしまいますので、共学化に、少ししか関心がないような人でも見れるようなものをホームページなり簡単に、分かりやすいものをつけていただいてやっていただくのがいいのかなと思いました。ありがとうございました。

(M)

私は、提案、そして感想の順番に発言させていただきたいと思います。

まず、提案といたしましては、共学化をする際に、どのようなデータを基にして、共学化の必要があるのか、具体的な数値が用いられたデータをぜひご開示ください。

これが一つ目の提案です。

二つ目は先ほども言いました。共学化する際の施設改装費、これはいくらかかる予定なのか、円安円高ございますので、ぴったりにという数字は出せないにしろ、およそどれでもいいです。円でもいいですし、どれぐらい今の現状でかかるのかというものを開示してください。

三つ目、予算がかからないように、今現状のある学校に新しい学部を追加するなどの考えは出たのか。はいか、いいえでこれは答えられると思うんで、これも開示をお願いいたします。

四つ目、共学化する際に、今、男子校、女子校に望んで行っている人たちの意見が踏み潰されてしまうということを考えたのかどうかお答えください。

以上のことを、開示、又は適切な処置で公開することを求めます。これが以上提案となります。

感想といたしましては、私は最初から一貫して、共学は反対でありましたし、ほかの高校の生徒会さんの意見なども聞いて、より一層共学化はしてはいけない、するのは適切ではないというものであると改めて判断いたしました。本日はありがとうございました。

(L)

私も反対の意見を持っていたのですが、ほかの方のようにすごい強い根拠があるという訳ではないのですが、別学で希望してる生徒が少しでもいるのなら、少数派の意見も大事にしてほしいなっていうのを思っていました。

感想としては、今回は意見を言うのではなくて、ほかの学校の生徒の話とか県教育委員会さんのお話とかを聞きたかったので、今回参加できてよかったと思います。ありがとうございます。

(K)

私が思っていた意見交換会とは、印象が始まった感じが違って、面食らったりしてたんですけど、ほかの学校の方、特に男子校の方の意見を聞く機会がなかなかないので、今回参加したことで、皆さんがどう考えているのかということを聞けたのはとても良かったと思いました。

高校選択っていうのは、中学受験していない人からしたら、最初の進路選択となることが多いと思うんです。その選択肢を共学化することで減らしてしまうっていうのはやっぱり悲しいなっていうふうに思いました。あとは、女子校出身の方、大人の方がどう思っているのかっていうのを、もう少し女性の方の大人の目線からの話も聞いてみたかったなというふうに思いました。

(依田 高校改革統括監)

それでは、女子校に勤務経験のある女性の職員から聞いてみようか。

(事務局)

私は女子校で教頭として勤務をさせていただきました。

皆さんの共学化アンケートの中にもいろいろ書かれていたと思うんですが、女性とだけというところで伸び伸びとですね、中学校時代に男子生徒とうまく馴染めなかったりとか、いろいろ嫌な思いをしたというような生徒さんも、自分なりの居場所というか、自分なりのそういったものを見つけて、ほかの生徒さんと、仲良くですね、やりたいことをこうやっていると、自分なりに活発に、中学までは人前でできるということができなかったけれど、そういうところも、非常にでき

たというふうなお話も聞きました。女子校なりのその良さというか、そういった部分は、2年間勤務してる中で感じた部分があります。

一方で、共学校でも、教員として働いている部分もありますので、やはり女子と男子が切磋琢磨して、女子・男子だから言えないとか、女性だから言えないとか、そういうことではなくて、お互いの良さを認め合いながら、意見を出しつつ、例えば行事などとか協力をしてやったりですとか、あと、学習面においてもですね、どちらかということではなくて、お互いの良さをとか意見交換をしながら、やはり男女共同参画という視点で行けば、今後ですね、社会に出たときに男女でということも必要になりますので、そういった意味ですごく切磋琢磨しながら成長しているという部分もありますので、両方の高校でそれぞれにやはり良さがあるというところは私自身感じている部分はあります。

(K)

ありがとうございます。

(J)

今日、お話をお伺いすることができて、県教育委員会の方では、やはりその学科の選択という面で、やはり共学を推進していくっていう考えはあの重々理解できました。

その一方で、別学校の人々は、理由は何にしろ、例えば中学校時代はほとんどの中学校が共学だと思うんですけど、そこでやはり女性と馴染めなかった、もしくは男性と馴染めなかった、そのため別学を強く希望するっていう人の声が同時に叶わなくなってしまうんじゃないかっていうことを私たちは懸念していて、そこに対しては、県教育委員会さんにも、やはりそこに対してもしっかりと目を向けてほしいなっていうことはあります。

僕の願いとしては、このような会をもう一度なり、これからもやはり設けていただいたり、後はまあ今回意見交換会という会議だったにも関わらず質問攻めになってしまったことっていうのも多々あったと思うので、質疑応答の会を別で儲けるっていう手も、選択肢としてはあるのでないかなっていうふうに、今日この会を通して深く考えさせられました。

あとは、僕の意見でいうと維持で、県教育委員会さんの考えていうと、変更だと思うんですけど、変更する側というものが変更するに当たってのメリット、こうだから変更したいです、でも、これをするに当たってデメリットが生まれてしまうんですよっていうのを、しっかりと私たちに公表するっていうのも、その変更する側の義務ではないのかなっていうふうには僕なりに考えていて、それが最終的には、こども・若者基本条例の第14条の理解促進、第13条の情報提供等につながるのではないかなと考えているので、アンケートの結果のみではなく、県教育委員会さんのご

意見というものを積極的にそれらの報告書、もしくはまた別の機会に開示していただくことを私たちは強く求めます。本当にこのような会を今日は開いていただき、ありがとうございました。

(I)

偏差値が高い高校ならではの進学の問題なども今回知れたのは良かったと思います。それでも男子・女子だから入れないということで困る人よりも、別学の良さに惹かれてわざわざ遠くや県外から通うって人もたくさんいるのが現状なので、そのような人がいるという事実や別学に行きたいという人の気持ちも尊重して行ってほしいと思っています。

今回参加して反対であることは変わりませんが、共学化の必要性も理解できましたし、ほかの高校の意見も聞けて、とても有意義な時間を過ごせたと思っています。ありがとうございました。

(H)

まずはこのような貴重な機会をありがとうございました。皆さんの話を伺って、女性だから男性だから、教育機会を失われるようなことはなくしていただけるようお願いいたします。

あと別学を選ぶ人たちの声も、これからも続けて聞きていただくようお願いいたします。

私自身、私が共学校から来たので、周りの人と言いますか、私の友達とかはすごくこの話題に関心が薄いんですね。ですから私がこのような機会をいただいて、このお話を持ち帰らせていただいて、より多くの人たちに、関心を持っていただけるよう努めさせていただきます。今回ありがとうございました。

(G)

今回の会を通して、今まで曖昧だった部分っていうのがすごい見えてきた。主な問題はやはり学科という部分と、個々の学校のそれ以外の特性という部分にあるっていうふうに、お見受けしたんですけど、常々思ってるというか、個人的に思ってることがあって、学校の個々の特性っていうのは、共学化したら、消えてしまうのではないかと非常に単純な話なんだと思ったんですよ。我々の学校で言ったら、非常にスポーツの行事が盛んで、そういう特色って結構知られてると思うんですけど、そういうところ共学化したら、一斉に消滅してしまう。それこそ、浦和高校に入りたい女子、そういった方々は、こういった特色に惹かれて目指すと思うんですが、こういった特色も全部、共学化してしまったら消えるわけで、そういった方々の男子校に入りたい、浦和高校に入りたいという動機も、その瞬間に、意味をなさなくなってしまうとか。本末転倒というか、そもそもこれは成立していないことなのではないかと僕は考えました。これは非常に、僕の単純な考えなので一斉に共学化ってのは、やはり早計なのではないかと思いました。

あとは、私は、来年選挙権を得るんですけど、我々はまだ子供なわけで、意見を伝えられる場ってというのが、特に行政に意見を伝えられる場は非常に少ない。そういった我々の意見を反映してほしいというか、聞いていただいてるっていうのは非常に伝わったんですが、聞いて、噛み砕くプロセス、流れっていうのも、少し不透明なところがあるかなと思ったので、そういったところの開示、ひいては積極的な反映っていうのもより一層強くお願いしたいなと思いました。今回はありがとうございました。

(F)

今回はありがとうございました。先ほど質問が終わってしまったので、また次回の意見交換会を楽しみに待ってます。あともうちょっと時間長く設定しただけなら嬉しいです。ありがとうございました。

(E)

先ほど生徒会としての意見を述べたので、私の個人の意見をお願いします。僕は先ほど言ったように、県外から中学校の時に受検を決めて、とてもきつい思いをしました。本当に大変でした。やっぱり共学化してほしいっていう思いもありますし、男子校に 3 年間通ってこの報告書だったり、いろいろ目通したんですけど、その議論の進め方において、例えば皆さんも物を買う時とかあるじゃないですか。それでメリットだったり、デメリットがあったり、そういう部分を比較して物とか買ったりとか、今後の大きな選択肢とかやと思うんです。それで、今回の埼玉県の別学校の共学化っていうのは、メリットとデメリットを比べて、メリットが明らかに小さい。デメリットがものすごく大きい、だから今後の社会のあり方的にもこれを改善しなければまずいよねっていうのがちゃんと客観的なデータだったり、数値だったり、そういうのに示されていれば我々も今後、社会を見たらやっていかなければいけないねというのは納得できると思うんですけど、現に今違う。メリット、デメリットがわからないという。どっちかっていうと、我々は今の埼玉だったり、埼玉は女子校、男子校、共学校っていう、三つの選択肢があるわけで、もし全部共学化してしまったら、もうやったら戻れない。なので今回のその判断の比較で当たるそのデメリットっていう部分をより慎重に考えなければいけないと思うんですよ。

今回もアンケートを通して、我々の意見を聞く会としてこのように設けてくださいましたが、やはり判断材料として比較するっていうのがとても大切だと思います。こういう我々の意見だったり、なので、今後とも共学化する、しないっていうことも大事ですけど、議論の進め方において比較っていうそのメリットがあるデメリットがある、デメリットがとても大きいから、今後の社会的にも変えないと大変だよね、駄目だよねっていうのをしっかり我々に示してくれれば、我々も納

得いくような形でいくと思います。現在、我々は納得してないから、こういうふうに意見述べてると思います。

私も個人的に述べたいのが、僕は自分の高校に通ってて、その生徒会長になれたことに、本当に心から誇りに思っていますで、その大好きな高校がなくなるっていうのは本当に辛いことなので、共学化だったり、その伝統だったりの良さがなくなってしまうのであったら、私は今後もしっかりと意見を交換して取り組んでいこうと思います。すみません、長くなりました。ありがとうございました。

(D)

まずは、今日の内容を、教育委員さんの方に伝えられるようお願いします。

そういえば、今回、少子化の話が出なかったなっても思ひまして、そういうその辺りのお話も質問も議論もたくさんしたいので、また設けていただくか、それともあの生徒からお願いして設けていただくかというふうに、またお話ししたいと思いますので、その時にはよろしくお願いします。

(C)

このような意見交換会を開催頂きとてもありがたいなと思ってんですけど、近県の例を見ますと、やはり共学化という波は押し寄せてきていますね。そのような中で、こういうふうに主体的ということで、議論する余地をいただけてることにはすごく感謝しなければいけないなと感じています。

我々のOBも活動してるんですけど、その意見、我々がOBの意見を話すのではなくて、もう少し、我々として高校生としてピュアな意見をもう少し届けられたらなと思い、努力していきたいなと感じました。あまり感情的な話をしていなかったんですが、やはり、自分の高校は男子校で今まで脈々と受け継がれた伝統があります。そのような男子校としての伝統が共学化で失われてしまうというのは、感情的にはすごく悲しいことですので、そういうことも鑑みて、慎重に議論して、共学化にするにせよ、別学を維持するにせよ、慎重に議論していただきたいなと感じています。ありがとうございました。

(B)

最初だいぶ混乱させてしまったんですけども、その意見の聞き方として、話が上がった話題から意見を聞いていくというやり方、話題が何でもいいという点でかなり面白いものかなとは思っているんですけども、具体的な根拠が上がらなかったりとか、深い議論にならないといった点から、県教育委員会の人に意見を聞いて持って行った時に、何かやろうとしている施策について結論が変わるほどの力がないなというのを感じています。なので、今までいろいろな意見交換会にできるだけ参加してきましたけれども、今まで結果は変わってきてない訳ですから、主体的

に共学化という結論に関しては、選挙権のない我々にとっては、何もしようがないといったような無力さをだいぶ感じています。

今までの意見交換会が、ほとんど質問会でしたので、そういう感じで来るかなと思ったんですけど、ほかに似たような感じの人もいたと思うんですけど、その想定で来てしまって、結果、場を混乱させてしまって、意見を話した人が話せなかったということになってしまったと思うので、そこは申し訳ないと思ってます。すみませんでした。

(A)

先ほど E さんが「生徒会として」っておっしゃったんですけど、「生徒会執行部として」ということですか。

(E)

そうです。すみません。誤解がありました。生徒の意見を全部総括して我々が代表してということではなくて、生徒会の組織内として議論した結果として、生徒会内の代表としてやりました。

(A)

そこが気になったので聞かせてもらいました。ありがとうございました。

個人的には県教育委員会が主体的に共学化推進するっていう方針については、なんとなく、どうしてそういう結論になったのかっていうのは理解できるような感じがしていますし、県全体で少子化がこれから一気に進んでいくということを考えれば、県教育委員会がいわばこう中央集権的に物事を決めていくっていうことも、方針としては理解できる部分かなというふうには個人的には思っています。

ただ、「はい、決まりました。何年後から共学化です」と言われても、受け取りにくい部分っていうのはあると思うので、どういう形でそういうふうに決まっていったのかっていうところが、こうやはりある程度分かるとか、後はこういった形で県教育委員会の側がどういうことを考えているのかっていうことを示していただくっていうようなことを、繰り返しながら話を進めていくっていうことが、県教育委員会の信頼にもつながると思いますし、私たちがそのようになりますとなったときに、受け入れやすくなるかどうかというのが変わってくると思うので、こういった直接が一番嬉しいかなと思うんですけど、そういったやりとりっていうものが今後も続いていくといいなというふうに個人的に思っています。

個人的には別学校には、今の社会で果たせる役割って残ってんじゃないかなって思っているのでもあ、残ってってくれたら嬉しいんですけど、仮にそうでないことを最終的に県教育委員会が目指しているとしても、そこについては、生徒側の思いとか、そういうものを、私は卒業してしまいましたが、生徒側の思いも理解する努力を県教育委員会の側が続けていただけたら大変嬉し

いなというふうに思っております。今回はこういった会を開いていただきましてありがとうございました。

(依田 高校改革統括監)

時間がもう10分ほど過ぎました。進行が悪くて申し訳ございません。私が最後に話をさせていただきます。

先ほど D さんから話がありましたけれども、今日皆さんからいただいた意見については、私の主観を交えずに教育委員にしっかりお伝えします。また、今日、いろいろ皆さんからいただいたことについて、この場では、時間の関係もあって、一つ一つ細かく答えることができなかったことがたくさんあると思います。

一つ一つ本当はじっくりとそれについてご質問に答えるなり、またもう少し質問の意図みたいなものを細かく伺った上で、お話ししなければいけなかったこともたくさんあると思います。

そうしたことについては、この後、よろしければ、私のところにいらっしゃっていただいても構いませんし、いつでも県教育委員会は開かれておりますので、個人でも結構ですし、お仲間と一緒にでも結構ですから、もし、直接お話をしたいということがあれば、話し合いはいつでも持たせていただきます。

また、今日なかなか、お話ができなかった人がいると思います。本当はもうちょっとこんな話があったってこともあるかもしれません。皆さんからあったように、意見交換会について今後も実施してほしいというお話がありましたので、そういったことも、県教育委員会の中で共有いたします。

今日はいろいろな意見を聞けて、大変嬉しく思いました。私の方も、皆さんの意見を聞いて、理解を深めることができました。本日は大変ありがとうございました。

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会（高校生の部・北部会場）

1 日時 令和7年8月21日(木) 14:00～16:00

2 場所 熊谷文化創造館 さくらめいと 会議室2

3 参加者 7名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

進めていきたいと思います。先ほど司会から、話がありましたように可能な範囲で自己紹介をいただくとともに、ご自分のお考えについて簡潔にお話をいただいて、そのお話を基に、これからの意見交換を展開していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

では、Aさんからお願いします。

(A)

埼玉県の共学化に関して様々な意見があるかと思うんですけども、よくネット上に出ているのが、異性がない環境で勉強に集中ができるとかありますが、正直つまらないので別の理由を持ってきました。設備に関してなんですけれども、本校に限った話ですと共学化すると大変設備が脆弱になるのではないかと思います。例えばプール棟ですと女子更衣室は存在するんですけど、教室棟に関しては男子トイレしかもちろんないので、仮に共学化した初年度に50%の女性が入ってくるっていう計算をしても、大体男子トイレのトイレの個室の数が80人に1個という計算になるんですよね。現状は大体53人に1個なんですけれども、昼休みだと待ってる人がいたりするのをよく見るので、それが、さらにきつくなるっていうのは、正直勘弁だと思います。

あと、部活動の種類です。別学では、男子〇〇部、女子〇〇部のように、分ける必要がないので、部活動の種類が豊富であるというのは、需要としても存在するのかなと思っています。

あと同じような理由で、行事に関してです。男性は男性にあった、女性には女性にあった教育ができるので、きめ細かい教育っていうのはできるのではないかと思います。

以上のことから、別学校を潰してまで、将来男性と女性が結局接するのだから共学化をするというのは、大変許し難いものがあるんじゃないかなと思うので、私は反対いたします。

(B)

自分は県立の男女別学校の共学化に断固反対します。

(C)

私も先の2人と同じく、私も共学化には反対という形を取らせていただきます。理由としては、市民の血税を払ってまで共学化するメリットよりも、私はデメリットの方が大きいと思っているので、このような意見とさせていただきます。

詳しいことは長いので、後程の意見交換でお話しします。私としては、男しかないとか、女しかないっていう、今では珍しい環境の中で、普段から伸び伸び生活して、それで同性しかないからこそ話せる話題で、一緒に話したりして、中には共学校の人たちだったら、なかなかみづらいようなところまで、そういうふうに入話を入れられるっていうのも、別学校の良さだと思っているので、お互いをよく知れて切磋琢磨できるのが男子校の魅力なので、残していただきたいなと思います。

(D)

私が意見交換会に参加したのは僕は男子校なので、共学とか女子校の人たちと関わる機会というのがあんまりなかったんで、そういう人たちと意見交換できる機会があればいいなと思ったからです。私の気持ちとしては感情論になってしまうのですが、男子校は楽しいので、そういうのを後輩たちにも味わってもらえるような場所があってもいいんじゃないかなと思います。しかし、やはり少子化っていうのは本当にもう目をそむけようとしても、どうしようもないような状態だと思っていて、特に県北は少子化が早く進んでいるところであると思うので、将来もしかしたら共学化になってしまうのかなと思いながら、でも残してくれるとありがたいなと思います。

(E)

私も共学化の推進には反対の立場をとらせてもらいます。埼玉県教育制度として、今のような共学と別学の両方選べるところが魅力だと思っているので、それを無くすのはやっぱり将来の後輩とかにもよくないと思うので、今日は女子校が一人なので、女子校の良さを伝えられるように話していこうと思います。よろしくお願いします。

(F)

自分も男女共学化には反対の立場であって、今選挙とかのニュースとかもよく見るんですけど、その中でもジェンダーとか、そういう話題も多く取り上げられている中、埼玉県には男子校、女子校があって、その良さを発揮できるような意見交換会にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

(G)

本日はこういう機会を設けさせていただいてありがとうございます。共学化が良いとか、別学が良いっていう2極端で意見を出すのではなくて、せっかく県教育委員会と話せる機会を設けていただいたので、どっちが良い、どっちが悪いという意見ではなくて、中立の立場で今日は話したいと思います。よろしくお願いします。

(依田 高校改革統括監)

一通り、皆さんからお話を伺いましたので、今お話をいただいた内容を中心にこれから意見交換を展開していこうと思います。今、意見いただいた中で設備の話が出ました。今まで東部、西部、南部の順番で話をしてきたんですけども、設備の話は南部で少し出ましたが、あまり設備の話について言及がなかったので、聞いてみたいと思います。

男子校の話は今、Aさんから聞いたから、女子校の状況を聞いてみたいと思います。女子校はもし男子が50%入学したすると、男子のトイレというのはどのくらいあるのかな。

(E)

何人に1人か分からないのですが、女子校も結構休み時間は、男子トイレが少ないにも関わらず女子は結構並んでいるので、それを踏まえて男子が増えるとなると厳しいところあるのかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

AさんとEさん以外にも、今の学校の設備の中で、男子校であれば女子が入学すると難しいというようなことはトイレ以外にありますかね。

例えば部活動をやる際には、校庭の広さだとか、あとは体育館だとか、そういったところは男女が共に揃った時には男子校や女子校ではどうでしょうか。設備的にここは難しいとかっていうことがあれば、教えてもらえると嬉しいです。

(E)

実際自分の高校にはラクロス部というのがあるんですけど、放課後は、小学校の校庭を使って練習をしているので、今ある部活を残して男子が入ってきて、また部活を増やすとなると校庭は結構いっぱいになっちゃうと思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。男子校の方は、もし女子が入ってきたら、ここは困るという事はあるかな。

(G)

今、体育館は、バスケットボール部とバドミントン部とバレーボール部が活動していて、3部活で使っていて、二面しか使えないのでローテーションしてるんですけど、仮に男女の部活ができて6部活となるとローテーションとかが難しいと思う。

(依田 高校改革統括監)

Aさんが言ってた部活動の種類がという話だね。結構どちらの学校も比較的規模の大きい学校だから、部活動の種類が増えることは厳しいということかな。ほかの男子校ではどうだろう。

(C)

バドミントン部の人に聞いたんですけど、今でも体育館が制限されて使えないので、40～50分ぐらい歩いたところの体育館で活動しているという状況です。

(依田 高校改革統括監)

今でも難しい状態なんだね。そういう話は具体的な話として大きい話だなと思いますね。分かりました。設備の話は、これでAさん、お話伺ったということでいいかな。では、次の話に行きましょう。

男子校と女子校の特長について先ほどお話があったと思うけれども、学校行事であるとか、男性に合った教育ができる、女性に合った教育ができるというようなお話があったと思うんですけども、もう少しそこについて、皆さんのお考えを具体的に聞かせていただいていいかな。

男子に合った行事とか、男子だからの教育活動とかというのは、Dさんから見て、自分の高校にはあるかな。

(D)

体育祭は男子でないとできないものがあると思います。

(依田 高校改革統括監)

もう少し具体的に、例えばどんなことかな。

(D)

騎馬戦があるんですけど、女子だとできなくはないですけど、男子と比べてどうなるかというのはよく分かりません。男子の方が盛り上がるような気がします。先入観ですが。

(C)

そういう男子しかできない行事というと自分の高校では、体育祭で入場行進をやるんですけど、1、2年生は普通に入場するんですけど3年生は別で、なんか渾身の劇みたいなものを作ってきて、それを公開して、そこから入場するっていう形になっている。その内容も、共学だったら多分絶対見ないようなものとなっている。

あと、新入生歓迎会とか、よく言ったら男子校らしいものをやってるので、そこは共学化したらきついのではないかと思います。

(依田 高校改革統括監)

言いづらいかもしれないけど、共学では難しいというのはどういうことかな。

(C)

例えば、入場行進だったら、学歴ネタとか、時事に対して風刺したりとか、いろいろありますね。

(依田 高校改革統括監)

それが先ほど、話せる話題とか、踏み込みづらいところまで話せるとかとCさんが言った中の一つのエピソードかな。

(C)

一見ちょっとやばそうとか、デメリットっていう意味ですけど、思っちゃうかもしれないんですけど、個人的には青春の3年間はいろいろな踏み込んだところまで行くっていうのも、今後の人付き合いとか、様々な話題とか、そういう風にやることで、皆和気あいあいするだけでなくONとOFFを切り替えるというか、逆にそういうのに通じるんじゃないかなって思っています。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。羽目を外すようなことも高校の3年間では大変貴重な経験だってことだね。

(B)

男子校だからというか女子校もそうなんですけど、共学化してしまうと、それぞれの良いところがなくなるというか、本当に異性がないので、自分のやりたいことに成長できたりとか、そのところに力を入れられることができる。行事もそうなんですけど、仮に共学化してしまうと、高校生活の魅力がなくなってしまうと思います。

(A)

私から話しておいて、ちょっと説明が足りなかったかなと。男子校に合った行事っていうので、僕が考えてたのが、例えば40キロハイクとかラグビー大会とかで、これを共学化した上で行うのは、難しいのかなと思います。特に、ラグビー大会とかは脳震盪を起こす人が出たりとか、とても激しいスポーツなので、そのようなことができなくなるのかなと思います。40キロハイクは男子でも結構きついので、共学化した上でできるかって言われると、僕はできないんじゃないかなと思います。

(G)

行事について話すと自分の高校は40キロハイクというものと、臨海学校っていうものがあって、この二つをやり切ると、真の〇〇高校生って言われるんですけど共学化になった時に、その2つができるのかって言ったら、僕はできないと思っています。

例えば、臨海学校を例にしているって、共学化になって男子と女子と一緒に海に行きますってなった時に、女性はやはり危ないじゃないですか。みんなで仮に行くとしても、できないこともありますし。40キロハイクなんか40キロを8時間以内で歩かなくちゃいけないんですけど、それで完歩できるかって言われたら、共学化になったら難しいかなって思います。

(F)

自分も自分の高校の臨海学校っていう行事に着目したいなと思ったんですけど、本当に自分も一年生で行った時に臨海学校は最初にみんなで一緒にバスで行って、向こうに着いて、新潟に行くんですけど、新潟の場所にある民宿に泊まらせてもらうんです。ずっとお世話になってるところなんですけど、そこでも男子ならではというか、夜もみんなで騒いだりで、民宿の方もそういうのは分かってるから、この時はこういう対応しようとか、そういうのができてと思っています。

あと女子は中学の時もプールの授業があって、結構泳がない女子が多かったんで、そういうのもあって、臨海学校だと女子は結構厳しいんじゃないかなって思います。

(E)

行事の面から言うと、言いたいことは想像つくと思うんですけど。男子がいると本性を現さないというか、女子校だからこそ、叫びまくったりとか、すごい全力でやってるイメージがあります。

あとは、教育面でいうと、女子校なので、女子大からの説明会がよく来たりとか、そういうので私大を志望していたりとか、そういう子は結構ありがたいのかなと思います。

あとは、最近女子の理系の子が、大学的女子枠とかがあったりとかする関係で、理系を選ぶ女子は共学よりも女子校の方が多いというのがあるので、そういうところが女子校の教育面の良さだと思います。

(依田 高校改革統括監)

学校行事の話もありましたし、学校生活に関するお話もあったと思います。ここで皆さんにまたお話を聞いていきたいのだけれども、今、男子校で、騎馬戦の話とか、臨海学校の話とか、40キロハイクの話とか、ほかの男子校であれば、入場行進の際の話であるとか、新入生歓迎会の話とかいろいろあったけれども、これは女子はそういうのはやっぱりやめた方がいいと思うかな。今男子校で行われているような行事は女子にとってはどう思うかな。

(E)

男子校だからこそその行事だとは思いますが、勧告書の言葉を借りると、男女の役割についての定型化された概念、共学化してその行事をやるってなったら、共学だとやっぱり意識しちゃうところがあると思うので、そういう行事について楽しそうだと思いますけど、男子校だから楽しいっていうのが一番かなって思います。

(依田 高校改革統括監)

それは女子にとっては好ましくない感じかな。共学であっても女子がやるべきではないと思うかな。こういう行事が男子校の魅力だっていう話がありましたが、それは男子のもので、女子のものではないとか、女子は好まないとか、やりたいとか、どう思うかな。

(E)

私は、好まないと思う。共学で行事があってもその学校は志望しないと思う。

(依田 高校改革統括監)

騎馬戦とか、40キロハイクなどは、女子校や共学校にあったとしたら、よくないかな、又はやりたい、やりたくないどちらかな。その行事は、女子は男子ならではのものと思うかな。

(E)

騎馬戦だったら、女子と男子は体の作りが違うので、男性だからこそ盛り上がるっていうか、共学で男女一緒にやったとしたら、それはもう体格差が出て面白くないだろうし、女子校にあったら、それはそれで楽しいかなと思います。共学だったら難しいなって思います。40キロハイクもきついと思います。

(依田 高校改革統括監)

今度はAさんに話を聞こうか。先ほどEさんは、女子校は女子大からの説明会とか、理系の女子大希望者が女子校の方が多いのではないかという話があったけど、男子校は学びの方で言えば、何か男子校の特徴みたいなものはあるのかな。

(A)

男子校だから〇〇があるみたいな、そういうのは、多分、そんなことあんまりないのかなと思うんですけども、よく聞くので言うと、男子校の、理数教育というのは、結構レベルが高いというふうには聞くので、男子校だからこれがあるっていう感じではないと思う。男子校だから、結果的に、理数系の学習のレベルが高くなるっていうのはあると思います。意識してやることではないのかもしれないけれども、そういう感じです。

(依田 高校改革統括監)

はい、分かりました。

学校行事と今学びの話を聞いたのだけれども、そのほかに雰囲気みたいな話があったよね。例えば、伸び伸びできる環境にあるとか、後輩たちにもこの楽しい学校生活を残したいというような趣旨のお話があったりしたけれども、それはやはり同性だから楽しいということなのだろうか。もし同性だからだとすると、それって異性がいると楽しくないということなのだろうか。そのこのところをもう少し皆さんの話を聞きたいんだけど。同性だから楽しいとすれば、それは男の人と女の人では違うからなのかな。そのこのところを皆さんの意見を聞いていきたい。

(F)

高校生は、やっぱりモテたい人がいると思うんですね。異性からかっこよく見られたいとか、そういうのを気にしていると自分の本性が出せないっていうか、心から楽しめないんじゃないかっていうことだと思う。男子校だからこそ、その価値観を分かち合えたりとか、自分の思ってることをどんどん言えて、心が楽しめる場面が中学の時より多かったなと思います。

(G)

僕、中学校は別学でなくて、女性と一緒にいる公立の中学校だったんですけど、異性がいるってなると、例えば自分が発言したことに対して、気になってる子が、いや、それないわーみたいになって嫌われちゃったりみたいな、そういうことをどうしても考えてしまう。別学校に通い始めてからは、自分の意見をすんなり言えるっていうか、そういう環境づくりがされているので、自分の意見を発しやすいっていうメリットがあります。

(D)

中学は普通の公立の共学校だったんですけど、少なからず異性の目を気にする人は多いと思う。実際、全く気にならないということはなかったですし、別学に行くと、やっぱり同性しかいないっていうので、心をさらけ出せたり、男子校の場合は物理的にさらけ出せると思う。そういう雰囲気の場所っていうのもあっていいんじゃないかなと思います。

(C)

自分も中学は公立で共学でした。中学は中学で楽しかったです。ただ高校は高校で楽しいんですよ。中学の楽しいと高校の楽しいはちょっと違う。中学時代は、例えば共学校ならではの恋愛の話とかして盛り上がりたりもたくさんしましたし、高校は高校で同性しかいないから、全力でいろいろなことをさらけ出したり、皆としっかり打ち解けているっていう感じが、共学に比べてあるなという感じがします。中学時代の人たちは、一緒にいて楽しかったんですが、女子がいるからスカしているっていうか。それは多分普通にしょうがないんだろうなっていう感じがあるし、それが嫌いというわけではないんですけど。男子校は良くも悪くもそういうことがないので。

(B)

自分も共学の公立の中学校だったんですけど、さっき話にあったように、うまく本音がいえなかったりとか、異性からかっこいい、可愛いと思ってもらいたいみたいな感じがあった。

男子校に来てみて、本音で語りある友達っていうのが多くできて、みんな本音に話すんですね。本性とかわかりあえるし。本音で語り合える、切磋琢磨できる仲間が、共学校よりも多く別学校ではできます。

(A)

別に男子は男子でやってるんですよ、裏で隠れて。共学だとそれが隠れてこそそなんですよ。ちょっと過激な話をしたりというのは、僕の近くではありました。それでもその話が別学になると、表全面でやるようにはなりました。多分そこに関しては、別学校の人と共学校の人で違いはないかと思うのですが、別学校の方が踏み込んだ内容にはなるかと思うんですけども、それが裏じゃなくて、表全面でできるようになるので、100%の力が120%で発揮できるようになるとか、環境がそうさせているのかなとは思いますが。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。できる、できないというよりは、裏か表かって話かな。

Eさん、女子校ではどうかな、今の男子校の話を聞いて。

(E)

単純計算で女性の数が2倍になるので、例えば、学級内での仲の良さだったりとか、共学の時よりもよくなっていると思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。話を続けるね。

男子校だと女性にモテたい気持ちがあるとか、女性に異論を言われたくないとかという意見が何人からかあったと思うけれど、女子校で女性が本音で話せるとか、本性が出せるとかという話は、そこは同じかな、それとも違うかな。

(E)

同じだと思います。

別の問題になってきちゃうかもしれないんですけど、中学では共学だったのですが、やっぱり男子がいるからこそこのいざこざだったりとか、陰口だったりとかがあって、媚びをうっているとか、そういったものが関係なくクラス全体で仲良くできます。

(依田 高校改革統括監)

皆さんの話を聞くと、異性がいることで遠慮があったりとか、あと、同性の中でも、異性がいることによって摩擦があるってということなんだね。そこはよく分かります。今皆さんからいろいろお話をいただいて、大変勉強になりました。現実として女子校、男子校にいる皆さんがお話になっていることは、そのとおりだと思います。今までにいただいてきたアンケートの結果とか、様々な意見聴取の中でもお話をいただいてきたことと同様のお話もありますし、もっと深く、直接的にエピソードも含めてお話をいただいたので、よく分かりました。

別学の楽しいところとか、メリットというのは理解をしているつもりなんだけれども、共学の時に男子がいるから、同性の中での摩擦があったというような話であるとか、共学であったからスカしているという話もありましたけれども、中学校時代の共学の話を、続けて伺いたいと思う。

今、皆さんがおっしゃっていたこと、同性だけなら楽しいとか、異性がいると自分がさらけ出せないとかということについて、なぜ異性がいるとそうなのかという時に、環境の話なんだと思うんですね。ただ、学びは先ほどAさんは変わりがないという話をしたんだけど、実はそこに県教育委員会は、視点を持っていて、別学の意義とか意味とか、皆さんがおっしゃったことは分かるけれども、県教育委員会は、男性と女性で違う学びをしようとしていないというところがあります。男性用の学びとか、女性用の学びとかを考えていない。先ほど、40キロハイクの話とか、ラグビー大会とか騎馬戦とか、女子についても女子大からの説明会の話とかいろいろあったけれども、例えば、男子校であっても、きっと40キロハイクが苦手な男子がいると思っています。臨海学校でも泳ぎが苦手な男子はいると思っています。女子校においても、女子校として大切にしている学校行事があるんだと思います。それが苦手な女子もいると思っています。

逆の立場もあると思います。男子校であっても、女子校のような学校行事に参加したいと思っている男子はいると思っています。一方で、女子校であっても、騎馬戦や40キロハイクをやってみたいと思う女子はいる可能性があると思っています。どちらも県教育委員会は男子、女子と考えることではなくて、例えば40キロハイクに挑戦したい人は女子でも男子でも挑戦をしてほしいと思いますし、自分の体力だとか自分に合ってなければ、先生と十分話し合った上で、違う体力の付け方があると思っています。臨海学校での泳ぎについてもそうだと思っています。どうしても泳ぎが苦手な子は違う体力の付け方もあると思っています。例えばここではなく違うところで、女子校の行事で、ダンスなどの話題が出たことがあるけれども、別に女子だけだと思ってはいなくて、男子だってやりたい人がいると思います。

それは、県教育委員会は女子用とか、男子用の教育ということを考えていなくて、一人一人がやりたいこと、能力と希望に合わせた学びを男子校であれ、女子校であれ、共学であれ、どう提供できるのかを考えていきたい。

ただ、皆さんが別学校の今のその行事をとっても自分に合ってるもの、自分としてこれをやりたくて、これが良いと思うこと自体を否定しているわけでは決してありません。自分がこういう行事で自分自身を鍛えよう、自分がこれによって〇〇高校生として成長できるものはそれで良いと思っていますけれども。ただ、それを全員が共有することではないとも思っています。学校それぞれ、どの学校であっても、一人一人に合った学びをどう提供できるのかを重視しなければいけないと思っています。男の人用と女の人用の教育を考えない時に、別々に分けて学ばせることに積極的な意味を持っていないんです。

別々の学びがあると思っていないので、別々に学ばせることに積極的な意味を持っていないんです。ただ、環境としてね、皆さんがおっしゃったのは雰囲気だとか、生き生きとできるとか、異性がいなくて本音がさらけ出せるということを否定してるわけでは決していない。それはそれで別学の魅力だと思っているんです。ただ、学校の学びとして考えた時に別々の学びをやろうと思っていないので、別々に分けて学ばせるということを、私たちは積極的に考えていないということが県教育委員会の考え方なんです。

ここからまた話を変えたいんだけど、中学校時代を思い出していただいて、共学のどこが良いのか、悪いのか。皆さんの意見を聞きたい。

共学の具体的な学校の行事であるとか、そういったところで男子と女子と共学で、ここは共学の悪いところだよというところがあれば、教えてほしいと思う。こういうところ改めた方がいいと思う、だから別学の方がいいという意見でもいいですよ。共学の問題点あれば教えてほしい。学校の行事であるとか、学校の教育活動であるとか、そういったことの中で、

男子と女子との区別みたいなものが共学校にあるんだったら教えてほしい。共学校で、男子と女子の関係で首をひねるようなことがあったことがある人はいるかな。

(A)

男子と女子と一緒に生活するのが共学になるので、中学の時とかだと、係活動を決めていたのですが、そういう時に教室を装飾したり、黒板のチョークを補充する係とか、この発言をしたら、多分今のご時世的にアウトになるのかもしれないんですけど、女性らしいことは女性がするみたいなそういう雰囲気はあったと思います。

ここから別学の話に展開をさせていただきたいのですが、前は世間的には女性がよくするものとされていたことも男子校では男子がやらなきゃいけないし、逆もしかりです。

前は例えば虫の退治は男がするものだとなっていて、女子校だったら、多分そういうことは女性がやらなきゃいけない。そういうのはあるのではないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、分かりやすい意見ですね。そのほか、具体的なエピソードみたいなものもあれば教えてもらおうと嬉しいです。

(C)

自分は今吹奏楽部なんですけども、元々音楽が好きで入ったんですけど、音楽は生まれた時から好きだったので、本当は中学の時に吹奏楽部に入りたかったのですが、圧倒的に女子が多いから、めちゃくちゃ入りづらい雰囲気があって、自分は別の運動部に入ったんです。それもさっきの話の通り、暗黙の了解というか、女子の方が吹奏楽の人数は多いから、吹奏楽は女子がやるものというか、そういうイメージができちゃっています。自分は高校こそ音楽の活動をしたいと思ってたので、それで私は男子校に進学しました。

(依田 高校改革統括監)

それはとても残念だったね。分かりました。

(G)

さっき依田さんが言った言葉なんですけど、40キロハイクをやりたくない人もいるみたいなことをおっしゃってたじゃないですか。例えばなんですけど、卒業式準備をします。そこで男子は椅子並べとかをして、女子は飾りを付けをします。女性でも椅子とかを運んでやりたい人だっているし、男性でも飾りとかつけてやりたい人があると思うんですけど、どうしても共学校だとそういうことが男性だから、女性だからって分けられちゃうところを、別学校だったら男性だから全部やんなくちゃいけない。そういった部分は、共学のデメリットかなと思います。

(E)

皆さんが言ってくれたことに本当に共感なんですけど、私の中学時代はサッカー部と野球部があって、男女で別れてはいなくて、どちらも入っていいよって感じだったんですけど、サッカー部と野球部に入っている女子は本当に少なく一人だった。私の友達にも実際それでサッカー部に入るのをやめたという女子がいました。

別学だとやっぱり力仕事も女子がやらないといけないけど、でもそれがあってこそその楽しみっていうのもあるので、それは逆に別学の良さです。

(B)

今、埼玉県で、管理職の男性割合の話が出ています。県教育委員会の教育長は男性ですし、そういうときに別学校は、高校で例えば生徒会で考えると、女子校であると生徒会は女子で構成されます。今、埼玉県の管理職の男性割合の高さっていうのを打破するのは、自分は女子校だと思っています。女性にもそういう機会が与えられるのが女子校っていうか、女性しかないないので、基本的に女性の割合が100%になるため、そういうところも利点だと思います。

(F)

中学の時、女子の友達で体育館で同じ部活の中に男子が多いから最初入ったけど、ちょっと行きづらくなってやめてしまうみたいなこともあったんです。自分は野球部に入っていたのですが、女子は確かに少なかったんですけど、ほかに比べたら三人ぐらいいたんですけど、人によるというか、一人女子が途中一回抜けてしまうみたいなことがあって、そういうところがあるとやりづらい人も出てくるのかなって思いますね。

(D)

女子校の利点の一つとしては、女子が生徒会長とかそういう役職に就くのは良くも悪くもやらざるを得ないんで、男女共同参画という観点から見ると、女性のリーダーの経験っていうのは結構大事で、その後にも繋がってくるのかなと思います。

女子校でリーダーを経験した女性と、共学でリーダーを経験した女性では、どっちが将来役職に就いている人が多いのかっていうことは調べきれなかったんですけど、その結果次第だと共学もありかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

様々な観点からの話があって、いろいろ考えさせられました。その装飾の係であるとか、黒板のチョークの話とかね、そういうことは女性でということが共学ではあるということや、Cさんのその部活動の吹奏楽の話っていうのは本当に残念だったと私も思いますし、Gさんの、椅子並べの話であるとか、飾り付けの話なんかも、共学校でありがちな話だと思いました。

共学校というのは男子と女子が一緒にいるので、社会の縮図なんです。社会にある男性と女性の役割分担意識というようなものが、学校の中にも入り込んでくる。学校も社会の中にあるものだから。それが男子と女子がいるから顕在化してくるんだよね。だから皆さんがおっしゃったように、女子ばっかりの部活に男子が入りづらいとか、椅子は男子が並べて飾り付けは女性とか、こういうようなことが往々にして共学校では出てくる。

今はまだ多分、男性と女性の役割分担意識というのが皆さんがおっしゃったように、学校でも残っているように社会にあるんだろうと思います。けれども、先ほど言った県教育委員会が男子用と女子用の教育は考えてないという話のその一つの大きな理由は、今私たちが目指そうとしている男女共同参画社会を、これは皆さんどこかで聞いたことがあると思いますが、男性と女性が協力をして、社会でも家庭でも活躍をしていこうという社会を皆で作っていこうと考えていて、学校の教育もそういう社会の中で皆さんが活躍していけるような教育

を進める必要があると思っているからです。ですから、今の共学校の話に出てきたような、いわゆる典型例というか、男女の役割分担意識みたいなものは、私はこれからの学校教育ではよくないものだと思っています。

先ほど教育で男性と女性を分けていないという説明をしましたが、要は男性らしいとか、女性らしい役割ということではなくて、一人一人の希望と能力にあった学びをどう提供できるのが重要だと思っているんです。なので、共学校の今の課題は、やはり大きな課題だと思います。埼玉県は県立高校は137校あるんですけども、そのうち別学は12校です。90%以上の学校は共学なんだよね。その共学の学校がそういう課題を持っていることは、高校教育全体として課題だと思っています。

そこをしっかりと気をつければ、共学化を推進するという県教育委員会の考えに疑問符がついてしまうことになると思っています。皆さんのご意見はしっかり受け止めて改善を図る必要があると思っています。

【休憩】

（依田 高校改革統括監）

先ほど生徒会の話がでましたが、生徒会については、昨年度、県教育委員会で共学校の何校か抽出で調査をしてるんです。参考のためにということで、事務局の方で情報提供があるということなので、説明をしてもらいましょう。

（事務局）

令和5年度の男女共学校における生徒会等の主要役員の男女別数について調査しました。別学校12校の近隣に所在している、在校生の居住地や進路状況が重なっている共学校11校のデータです。在籍する男女比は各校で異なりますが、合計すると半分半分ぐらいの数でした。

生徒会の会長の副会長については、会長は男子10人、女子8人。副会長は男子15人、女子16人でした。次に委員会ですが、委員長は男子が71人、女子50人、副委員長は男子97人、女子98人。部活動ですが、部長は男子147人、女子151人、副部長は男子143人、女子200人となっています。

（依田 高校改革統括監）

ありがとうございます。先ほど男子校、女子校は男子なり女子なりが絶対やらなければいけないって話があったけど、共学はこういう状況だということです。多い、少ない、意外だっていう人もいれば、こんなものかなと思う人もいるでしょう。現状はこういうことです。

では、話を進めたいと思います。別学の話をしていただきます。共学は社会の中にあって、男子と女子がいるのでどうしても男子と女子の間の様々な摩擦が顕在化してくる、明らかになってくるってことがあって、そこについては十分注意をする必要があるということです。

一方で、では別学はそういったものがないから、良いのかということになると、やはり課題があるのではないかなと思っています。今まで皆さんと話した中で、環境の話は別だと思います。異性がいるから気になるということも、それは自然なので、そのこと自体は何らここで課題だという話ではないです。そうではなくて、例えば、先ほどあったこの行事は女子には難しいとか、これは女子向けだとかという意識が別学の中には隠れている、潜んでいる

可能性があるのではないかなと考えているんです。もう少し具体的に言うと、男子校は男だから、男としてのその学校行事をやる、女子は女子だから、女子としての学校行事をやる、女子だから女子の学校教育、男子だから男子の学校教育という考え方が、もし、別学校の生徒の中に潜んでくるとすれば、それは大人になった時に、男子らしい役割に則った仕事、女子らしい役割に則った仕事というふうに、意識をしない中で、課題や問題が顕在化しない中で、自然と男らしさとか、女らしさとかというものが役割分担にまで意識の中に入っていく。その意識が社会に出た時に、男なんだから家庭のことは考えずに土日もあるのが当たり前だろうとか、女性なんだから残業をやめて早く家に帰って子供の面倒見なければいけないとか、それは一人一人の希望とか、個性とかとは関係なく、性別によって役割が決められて、生き方が性別によって決めるような意識が、隠れて染み込んでいくことがあるとすると、気をつけなければいけないと考えているんです。

こういうことが県教育委員会の中で考えられたことなのだけれども、皆さんの中には反論もあるだろうし、考えるところもあると思います。皆さんの意見を聞きたいのだけど意見がある人いますか。

(B)

男子校だと女性がやるべきとされていることを全部やっていて、女子校だと男がやるべきとされていることも女子が全部やっていて、結局全部やることになるじゃないですか。社会に出た時に、無意識のうちに自分が男だからこれをやるって言うんじゃないくて、自分は別学で育ってきたから、女性がこれをやる、男性がこれやるということに関係なく全部やるっていう人が育つと思う。

(A)

ちょっとこの場所での発言が偏りすぎてしまったのかなっていうそこは反省ではあるんですけども、もし無意識にあの男子と女子の差が、男子校に入り込んでるとするならば、その高校は既に僕は終わってると思うんですよ。なぜかっていうと、もちろん、世間的にはですよ、一昔前までは男性がやるべきもの、女性がやるべきもので分かれていたのならば、男子校に無意識にでも、これが男がすべき、これが女がすべきみたいなことが入り込んでるとすれば、それをやらないと思うんですよ。意識に入り込んでいたら。力仕事をする人しか集まらないと思うので。教室の装飾をやってみるとか、一昔前は言われてたことをやる人がいなくなったら、その学校は崩壊すると思います。ということは、そのようなことはそんなにないと思っていて、全てやらなければいけないので。

正直、県教育委員会の皆さんが言ってることはよく分かるんですけど、僕としては、机上の空論ではないのかと思います。

(E)

別学でその男女の概念が密かにあるっていう話をされたと思うんですけど、逆にそういうのが顕著に現れているのは共学なんじゃないかなと思います。さっき社会の縮図が共学校であるっていうふうにおっしゃられたんで、私たちは共学校には男女の固定概念があったよねっていう話もこの議論の中で出てきたので、そういうのが今現れてるとしたら共学なんじゃないかと思います。

(F)

少し違う立場です。潜在的になんか染み付いてるみたいな、そういうことを考えた時に、少なからず、男子校、女子校の中にあるんじゃないかなと思いました。同性が集まっている中だと異性のことを偏見までではないけど偏った考え思ってしまったたり、そういうことが実体験として少しあったんですね。そういうことを改善していくことを大事なのかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

皆さんの言っていることはそのとおりだと思います。共学は先ほど話したように問題が顕在化するっていう、それはもしかしたら、共学の良いところかもしれない。別学の方も全てやるから、そういう意識は別学にはないんだっていうことも、それもそういう考え方もあっていいと思います。Fさんのようにやはり少なからず思うってこともあると思います。

私がここで申し上げてるのは、そういうことを考えることが、共学にも必要だし、別学にも必要だと私は考えているということなんです。やはりどこかにそういうことがあるとすれば、それはしっかりと認識をして直していこうとする姿勢が双方に必要なんだと思っています。学びはどちらかが100%良くて、どちらかが100%悪いということは多分ないんだと思います。人によってもあった環境というのがあるでしょうし、希望もあるでしょうし、ですからそういった意味ではどちらかが良いとか悪いとかと簡単に片付けられることではなくて、そこに潜んでいたり、顕在化しているものに気づいていくことが、これからの男女共同参画社会に進んでいこうとする皆さんに必要なんだろうと思います。皆さんがおっしゃっていることはどちらも正しいんだと私は思っています。県教育委員会は、男も女の人も全てやらなくてはいけないということは別学の特長としてよくわかっているつもりです。一方で、潜んでいるという意見もあると思っています。だから良いところ、悪いところをしっかりと認識をして、気づいていくことが重要なんだろうというふうに思います。こちらからの話は以上にして、質問に切り替えましょうか。

(E)

こういうような話し合いをしてきて、今までも署名提出とか、いろいろ別学を残したいっていう方々が活動を結構してきたと思うんですけど、それを県教育委員会は受けて、共学化を取りやめるってことはあるんですか。

(依田 高校改革統括監)

今日の会も含めて、私たちはお互いにその認識、考えを深め合いたいと思っています。ですから一緒だと思っています。Eさんも考えを変えることがありますか。

(E)

あると思います。

(依田 高校改革統括監)

その考えと同じです。県教育委員会も、一人の高校生も同じです。

お互い認識、考え方を深める中で、考え方が変わることもあれば変わらないこともあるかと思っています。そこはお互いがいろいろ話をする中でどのように考えていくのかということだと思います。

皆さんと話し合った結果は、県教育委員会に全部にお話ししたいと思います。教育委員の方々全体にお伝えをして、今後の県教育委員会の仕事を進める上の参考にしてもらうようにします。なるべく私の主観を交えないで、客観的に皆さんとの意見交換の内容をお伝えするようにします。

(G)

6月13日に県教育委員会から令和8年度公立入試募集人数が発表されましたが、募集人員を減とする高校が12校あるんですけど、その中に熊谷高校と熊谷女子高校っていう名前があって、ほかの高校を見てみると、例に出して悪いんですけど、上尾橘高校とかは、倍率が1.00倍を割っている高校なんですよ。熊谷高校は僕が知っている限り、ここ3年間ぐらいは1.00倍を超えている訳ですよ。定員が320人に対して、熊谷高校に行きたいって思う人が20人ぐらい多いわけです。それなのになぜ募集人数をわざわざ40人も減らすのかっていうことを聞きたいと思い質問しました。

(依田 高校改革統括監)

今のGさんの質問は大きな話なんですね。今後の生徒数の推移を県教育委員会がどう見るのか。

事務局に話をしてもらいましょう。今、熊谷高校の話だったけどだったけれども、とりあえず県全体の今後の生徒の動きと、北部地域の中学校3年生の状況について事務局から説明してもらっていいですか。

(事務局)

中学校卒業者数の見込みの数について説明します。公立の中学校の卒業者数を県教育委員会の方で推計しています。令和6年の3月から令和20年の3月までで比較しています。令和6年3月の公立中学校等卒業見込者数は、約58,900人、ここから14年後は、約44,100人となり、約14,800人の減少が見込まれているという状況です。

地域別の状況ですが、その一つである北部・秩父地域では、令和6年3月には4,915人から、令和20年3月では、2,989人となり、1,926人の減少となっています。割合で言うと、約39%の減少となります。

(依田 高校改革統括監)

中学生の減少の話をしたんですけども、今後の生徒の減少、令和20年3月までで約4割、この北部・秩父地域で減ってしまう現状です。

一方で、その1倍切ってる学校もある中でという話なので、もう少し話をしますと、1倍を切ってるその学校のクラス数は、5クラスとか4クラスとか大体そのくらいです。熊谷高校は今8クラス。熊谷女子も8クラスです。その8クラスを今回7クラスにするわけですけども、これから子供の数が減っていく中で、学校をどうしようかというときに、学校の規模を小さくするという考え方と、あともう一つは学校自体を減らすという考え方がある。今Gさんが言ったのはどっちかという、1倍切ってる学校を無くすという方向があるという考え方だったと思う。ここで、その二つのやり方があるけれども、県教育委員会は、どちらも必要だと思っているということがまず考え方です。ただ、どちらも必要なんだけど、今1倍を切っている、例にあげた学校は4クラスだと思うんですけど、高校はいろいろな教科がある。数学もあれば物理もあって、英語もあって国語があって、それぞれ専門の先生が

教えていると思うけれども、先生の人数は、学校のクラス数に連動して法律で決まっている。小さな学校になってくると、学校の先生の人数が少なくなってきました。小学校みたいに担任の先生にたくさんの教科を教えてもらえれば、問題ないけれども、高校で、専門性の高い先生に専門性の高い学びを皆さんに提供しようとする、一定程度の学校の規模を維持して、先生の数を維持していかなければいけなくなる。そうすると、今Gさんが言ったように、学校の数を減らす必要が出てくる。一方で、一定の地域に農業も、工業も、商業も必要だと思っている。そのほかにも、学びの選択肢として能力に合った学びをできるかぎり提供していきたいと思っている。そうした時に能力に合った学びと本人の希望に応じた、様々な内容の学びとを、その地域に維持しようとしたときに、1倍を切っている学校を残すか残さないかというのは微妙です。

1倍を切った学校でも生徒の能力に合っている学びがあるならば提供をする必要があります。さらに様々な種類の学校も一定の地域に維持しなければいけないといった時に、結局、学校の数を減らす必要があるけれども、もう少し減らしてもその高校での学びが損なわれない場合、クラス数を減らしていく学校の必要も出てくる。そうしないと、学校の学びの選択肢を失わせることになってくる。生徒が減っている中で同じクラスをずっと維持するということは、学びの選択肢を逆に失わせることになると考えているんです。当然、倍率も考えるわけだけれども、単純に1倍を超えている、超えていないだけでクラス数を維持するということを検討しているわけではないということです。

県教育委員会が、別学の共学化を推進しますと言っているのですが、何十年も前からそのように言っています。去年言い始めたこととこれまでとで、何が違うのかということ、主体的に県教育委員会が総合的に検討する中で推進しますと言っている、主体的という言葉が入ったのがこれまでと異なる部分です。今までは各学校で教育改革を推進する中で、各学校で考えてください、各学校が共学化を推進する際には、県教育委員会はそれを支援しますと言ってきた。それを切り替えて県教育委員会が主体的に推進するとしたのは、これからの生徒減少と、様々な学びの選択肢をもっと増やさなければいけないと思ったからです。北部地域だけではなくて、様々な地域で、例えば、海外の大学の受験資格が得られるような教育プログラムを導入する学校も必要なのではないかとか、普通科の学校でも今までの普通科の学校だけではなくて、地域に出てフィールドワークを中心に学ぶようなことができる普通科、これ普通科改革という言葉を使ったりするけれど、そういう普通科も必要だとか、総合学科ももっと必要ではないかとか、中学校と高校が6年間一貫で通して学べる学校のニーズも出てくるのではないかなど、今までにない学校の形態も必要だと考えています。学校の数を減らす中で、学校の種類をさらに増やして行こうとすると、似たような学びがある学校については、一緒に統合する必要のある学校も出てくるだろうと思っているんです。共学も別学も一緒に変わりがなくて、それは各学校が考えられることではなくて、県教育委員会が一定の地域なり、全県を見ながら、この地域に一定の学びの種類と希望と能力に合った学校を配置していくとすると、共学も別学も、再編整備という言葉を使うんだけど、その対象にしてい

く必要があると思っているんです。そういうことで、各学校ではなくて、県教育委員会が主体性を持たせてもらうことにしたところです。Gさんの質問は話が広がってしまったんだけど、結論的に言うと、1倍超えてても1倍を超えてなくても、多様な学びの選択肢を生徒に残すために必要なら学校の数も減らすし、クラスも減らす必要があるとの考え方ですね。

(G)

例えば、1.00倍を超えて、募集人数を減らすとするじゃないですか。そうすると熊谷高校でいうと、熊谷高校に行きたくても行けなかった人がさらに増える状態じゃないですか。それって県教育委員会が言ってた自分のレベルに合った高校にはいけないことになるじゃないですか。

(依田 高校改革統括監)

生徒数の減少によってそうならないと考えています。

(G)

滑り止めっていうのは基本的には自分行きたい高校より、大体下を選ぶじゃないですか。それは果たして自分のレベルにあった高校なのかって言われたら微妙ではないですか。

自分が行きたかった高校より、滑り止めっていうのは大体基本的には下のレベルで、募集人員減によって、滑り止めの学校に流れていく人が多くなるわけじゃないですか。

例年通りの定員に人数が来たとするとです。

(依田 高校改革統括監)

先ほど20人ぐらいオーバーしているという話があったけれども、県教育委員会は1クラス減らすことで、今まで以上に、滑り止めに移る生徒が増えるとは思っていません。

このままのクラス数がもう維持できなくなるという推計をしています。そのぐらい子供の数が、14年で40%というインパクトはやはりあるということです。4割の学校が減るとは思わないでいいんだけど、先ほど言ったようにクラス数も減らすし、学校も減らしながら学びの選択肢を残そうと思っています。生徒数の減少のインパクトというのはかなり大きいものがあります。細かい話が聞きたかったらいつでも聞いてください。

(A)

単刀直入にお聞きをしたいと思います。共学化することでメリットがあると考えていますか。

(依田 高校改革統括監)

共学化することは望ましいと考えてます。それは男子と女子との学びについて違う学びをさせようとしてないから。男の人でも女の人でも同じ学びをしようとする以上、一緒の場所で一緒に学んだ方が同じ学びがしやすいと思ってます。

(A)

多様な高校づくりに注力をされてるかなと思うのですが、極端な話をしてしまうと男子校、女子校という選択肢を無くすと、多様性がある意味失われてしまうのではないかなと、そういうところを危惧してるんですけども、その辺はどうでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

教育の環境として同性のみで、生き生き、のびのびと生活ができるという、そういう環境が別学がなくなることによって失われる恐れはあると思っています。ただ、それ以上に考えているのは、先ほど言った希望と能力に応じた学びの提供の方を優先的に考えているということです。皆さんが生き生き、のびのびできるという、その別学の環境は理解してます。それは不

必要だと思ってはいません。別学の特長の一つとして私は理解はしています。それ以上に私たちが考えているのは、男女の教育機会が均等に学びの選択肢があることだということです。

(A)

極端な話で共学化を全校で実施したとすると、大体志望できる学校の数で5%ほど増えるんです。これをお小遣いにちょっと当てはめて考えてみると、大体僕月々五千円ぐらいもらってるんです。親から5%増やすよって言われても250円なんです。それが嬉しいかって言われるとどうかなとは思ってしまうんですよ。仮に全てを共学化した場合です。必要な分だけ共学を行うとしたら、選択できる高校の数の増えるパーセンテージ自体は減ってしまうので、正直、男女が均等に教育を受けるためという名目で共学化を行ったところで、お小遣いに当てはめると、250円しか増えない。

そう考えると、それにかかるコストとかもありますが、ちょっと費用対効果がよろしくないのではないかなと思うのですがどうでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

そこは具体的に考えていく中で必要なことだと思いますね。先ほど設備の話をね、Aさんがされたと思いますけれども、そこはどのぐらいのコストがかかるのか、学校によっても大分違うし、結局先ほど言ったように、共学と別学が一緒になることもあれば、別学同士が一緒になることもあるでしょうし、一緒にならないこともあるでしょうし、そういう中で費用対効果というのは行政ですから、当然しっかり考えていかなければいけないと思っています。

それは個別の話としてです。考えはAさんがおっしゃるとおりで、十分必要なことだと思います。

(B)

令和6年10月18日に公布された、埼玉県こども・若者基本条例について、県教育委員会はどのような位置づけをしているのか、どのような意義を持っているのか、考えを教えてください。

(依田 高校改革統括監)

条例は守らなければいけない義務があります。位置づけとか意義というのは県教育委員会が考えられることではなくて、条例は尊重義務があると思っています。

(B)

令和6年12月に県教育委員会と浦和高校関係者で意見交換会を行っています。そこで県教育委員会から別学には別学の意義や大切なところがあるという発言があった。令和7年7月に県教育委員会と東部地区の中高生との意見交換会において、男女を分けて教育することに積極的な意味を持ち合わせないという報道がされていて、完全に別学NGと受け取れてもおかしくない内容だと思うんです。

(依田 高校改革統括監)

今日、皆さんと話している時と私は同じ話をしたと思う。Bさんはそう思わなかったかな。

(B)

そう思ったんですけど。整合性があんまり取れてないと思いました。

(依田 高校改革統括監)

違う話をしているのではないかな。別学には意義があって、良いところも分かっているという話を今日はしていますよね、一方で男子と女子を分けて教育することに積極的な意味を持っていないっていうことも、今日話したと思います。そこは対立していないような気がするんだけど。

(B)

自分は違うと思っています。なら、別学校を主体的に共学化推進するっていうのには、反対です。

(依田 高校改革統括監)

Bさんの意見はよくわかります。Bさんとしては、別学の意義ってものをもっと尊重してほしいという考え方なんだよね。

(B)

熊谷には、別学の熊谷高校と共学の熊谷西高校があって、偏差値でいうと、同じぐらいなんです。昨年度の入試倍率でいうと、熊谷西高校の方が倍率が低いんです。熊谷にあって、同じ偏差値帯で、共学の熊谷西高校の方が倍率が低いっていうことは、男子校である熊谷高校の方が望まれている、多くの受検生に望まれているっていう数値的な表れなのではないかって思うんです。

仮に、ここで熊高と熊谷女子が合併して共学化になったりとか、熊高、熊谷女子を共学化したりしたりしたときに、今の状況から考えると、倍率が上がったとか、志望者数が上がったというのが期待値として望めないじゃないかなっていうふうに思いました。

(依田 高校改革統括監)

今Bさんがおっしゃっていることは、単年度的に見れば、そういう考え方もあるかもしれないけれど、熊谷西高校の倍率が高くなる年もあったり、熊谷高校の倍率が低くなった時もあるし、熊谷女子の倍率が低くなったりする時もある。この熊谷の3校は、学校が一生懸命、PRをして努力をしています。どの地域のどの中学生がどこの高校を選ぶのかは、その年その年でだいぶ違って、そこについては、長いスパンで見えていく必要があると考えています。だから単年度的に見れば、Bさんがおっしゃってることは間違ってることではないと思っています。ただ、県教育委員会は先ほどGさんの質問の時に言ったように、倍率だけで見ていくのではなくて、その地域が男女の機会が均等に学びがどういうバランスで配置されているのかを見ていくので、さらに新しい学びの学校もこれから導入しようとした時に、どの地域に学校を配置していくかというのは、倍率だけで考えることではない。だから倍率が高い学校が、再編整備の対象になるということはこれまでもたくさんあります。1.3倍とかの学校が再編整備の対象になったこともあります。そこは様々です。倍率だけではなく、逆に良い場所にある学校というのは、生徒が通いやすい学校として注目されやすいし、公共交通機関が比較的不便なところにある学校というのは、もしその学校が人気があったとしても、将来的にももう少し遠方から来れるようにした方がいいのではないかと考えることもあり、ほ

かの場所に移転するということもある。高校には、近くに新興住宅地ができて自転車通学でたくさん生徒が集まっていた学校があるけれども、そういう学校も、この先の中学生数や小学生数を見ていくと数年後の状況が見えてきて今後の再編整備の必要も出てくる。交通機関の問題もあるし、学びの選択肢もあるし、新しい学びを導入する際に、バランスを考えないといけない。Bさんが言ってることも、一つの意味としてはよく分かるんだけど、それだけでもないと考えています。

(B)

自分は生徒会長をやっているんですけど、公約の一つに男子校としての〇〇高校を守る別学維持活動をあげて当選したんですよ、生徒会長として。これって、自分の高校の生徒が別学維持を望んでいるということの現れだと思うんです。ほかにも自分の高校は生徒会で、共学化に関するアンケートを独自でとって、共学化に反対という生徒は86.5%でした。この数字も、依田さんもそうですけど、日吉先生にも大野知事にも郵送で送ったんですけど。あと、共学化反対ウォーキングというそういう民意、実際に社会で働いている人たちの意見っていうのは承知しているのか、把握しているのかというところは、音沙汰がなくて心配しています。

(依田 高校改革統括監)

把握してます。皆さんからいただいたアンケート調査だね。

3月くらいに実施していたよね。女子校も実施していたよね。今このパソコンに入っています。見えています。分かっているけれども、ただそれだけがニーズだとは捉えていない。皆さんの意見も一つのニーズとしては、決して軽いものだと思いません。十分受け止めたいと思っています。ただ、それだけがニーズではなくて、例えば、中学生からのアンケートもあるし、あとは社会のニーズもあると思います。県教育委員会の方では、これからの学びのニーズというものも考えていかなければいけないと思っています。ですから、一つのニーズとしては、しっかりと理解し受け止めていますけれども、ほかのことも合わせて私どもは考えさせていただくということです。それは承知しており、受け止めております。

(B)

分かりました。

失礼に当たったら申し訳ありません。依田さんもそうですし、出井さんもそうなんですけど、厳しい立場にいらっしゃるかなと思っています。どういうことが厳しいかっていうと、日吉先生の意見も聞きながら、中高生、保護者の話も聞きながら、本当になんだろう、言いたいことも言えない状況かと。

(依田 高校改革統括監)

日吉教育長と私は同じ意見です。そこは齟齬はないと思って大丈夫です。

(B)

分かりました。日吉先生と話しても、依田さんと話しても、受け答えに齟齬はないという事です。

(依田 高校改革統括監)

違う人間なんで、言い方は違うかもしれないですけど、考え方、話す内容は変わりません。

(B)

分かりました。

(C)

一番最初に意見発表をする時に言った、共学化してまでのメリットですね、税金を使ってまで共学化するメリットはないということについて、それを具体的に深堀していきますと、前半の時間でジェンダーについて話したと思うんですけど、男子校にはそういう偏見がなく、全ての活動ができたり、それは共学は共学で異性とたくさん交流してるわけですから、単純に見て、男女共同参画とはつながるとは思っているんです。つまり別学であれ共学であれ、そこは一長一短です。

次にニーズについてですが、春日部とか浦和とか川越とかは、県内有数の倍率がまだ残ってると思うんです。例えば大阪とかって、今もう公立はすごい人気がない状況。進学校だった高校がもう倍率1倍を切ったりとか。そういう現象が全国的に見たら公立離れが進んでるんですよ。これからそういう公立高校っていうのは少子化とも戦うだけじゃなくて、私立との戦いっていうのが重要になると思うんですよ。公立は残念ながら設備は完全に私立に劣っているんです。甲子園とか昔は、例えば大宮工業や熊谷とかが行ってたにもかかわらず、今は、叡明とか浦和学院と比べると完全に施設面で負けている。公立は倍率も0.4とか0.5とかで。それでも税金払ってる県民側からしたら、私立に負けない高校づくりをしてほしいわけです。

埼玉県がほかの県と違うのは、公立の人气が中学校ですごいあるんですよ。それはなんでかって思うと、そういうふうに元々の別学とかの幅広い選択肢っていうのが残ってるから、まだ戦えてるんだと思ってんですよ。例えば、宮城県は昔、共学化しましたが、あれって仙台一高に仙台二高、仙台三高みたいな感じで、上位校が全部別学なんですよ。あれは正直ニーズには応えられていないだろう、全体のニーズとして共学校っていう選択肢もないから、それは確かに、共学化してもしょうがないんじゃないかと思ってるんですよ。

埼玉県は違って、浦和高校だったから、同じレベル帯に大宮高校や市立浦和とかあります。春日部だったら、越谷北とかは偏差値も似ています。こういう風にいろいろな選択肢が選べる。公立の共学だからできること、男子校だからできる伝統行事とか、別学ができる伝統行事とか残ってるから、教育とかスポーツとかの面で私立に劣ってるにも関わらず、埼玉県の公立っていうのは人気があると思ってますよ。ただ、それにもかかわらず、共学するっていうのはそれはめちゃくちゃ設備投資もかかることですし、それで税金も払うことにもなる。プラスで今後先、位置付けが中和されてしまう。今までの別学の魅力が逆に中和されることによって、埼玉県の公立の進学校自体の人气が下がって、より私立に流入しちゃうんじゃないかって個人的には思ってるんですよ。

別学の生徒だからとかでもなくて、県民としてでも、いろいろな人は税金払っているから、そういう面でもやっぱ戦ってもらわないといけないと思っているので、だからそういう意味でも無理に共学化すべきではないっていうふうに個人的には思っているんですけど、どうでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

そのコストの件については先ほどAさんに話したように、大切なことだとは思いますが。個別にコストについては、しっかりと検証する必要があると思います。

選択肢については、ニーズについてもいろいろ考え方があって、別学と共学の選択肢に二重があるという考え方もあると思うんです。それは、先ほどから私が言ってることの繰り返しになるのだけれども、県教育委員会は、同性のみの環境と異性もいる環境といった環境ということよりも、男女の教育機会が均等で、さらに学びの選択肢をどう用意するのかを考えた時に、その選択肢という意味で、男女の別学という選択肢よりも学びの種類だとか、能力と希望に応じた選択肢、希望というのは同性のみという教育環境ではなくて、学びの中の希望に応じた選択肢を優先的に考えているということなんです。

私学の話が出たんで、Cさんのおっしゃることについては、これはよく承知しました。私学に対しての魅力がないことについては大変申し訳ないと思うし、これはしっかりと私学に魅力が劣らない学校にしていかなければいけない。Cさんのおっしゃってることについては、謙虚に受け止めさせていただきます。県教育委員会としては男の人と女の人の学びが同じ学びをしようとしている中では、選択肢という中に別学、共学というものを今は考えていないということです。先ほどのGさんの話にもあったように、倍率とかそういうものが全く関係ないと思っているわけではないです。それはそれで一つ大切なことだと思っています。今Cさんがおっしゃったような別学の学校に、そういう倍率があることもしっかりと理解をしなければいけないし、それが関係ないって話では決してなくて、そこに求める生徒さんがいることは、しっかりと考えなければいけない。ただそれだけではないというのは、先ほどBさんにお話ししたように、それも一つで大切なことだけれども、ほかにも考えていく必要があるっていう考え方を持っています。私学については謙虚に受け止めます。

(C)

言いたかったことは、別に私学が設備がよくて公立が悪いって言いたいんじゃないくて、言い方が悪かったと思うんですけど、それにも関わらず公立っていうのは人気があるんですよね。だから、そういうところを謙虚に受け止めてほしい。県教育委員会の方針としましては、男子校、女子校みたいなハード面とかじゃなくて、もっと中身の教育ということをおっしゃっているんですね。

(依田 高校改革統括監)

男子校と女子校の特長というのは異性がない中での、その一人一人の、学校生活に大きな理由があると思っているんです。学校が行う教育活動にあるとは思ってないんですね。男子校と女子校のメリットにしるデメリットにしても。それは異性がないという環境の中で育まれているものだと思っています。ただ、そこには、皆さんがおっしゃられたように良い面と、先ほど私と少しお話をさせていただいた、気をつけなければいけない面はあるんだと思っています。それは共学にないという話ではなくて、共学でもあるというふうに思っています。それはしっかりと気をつけなければいけないこととして認識をしていく必要があるということですけれども、県教育委員会は男女で違う教育をしようとしていない中では共学化を推進する立場を今持っています。それでさらに子供が減る中で、希望と能力に応じた学校の選択肢を、男女ともに平等に公平に提供しようとした時に、県教育委員会は、今まで通り学校に主体的に教育改革を任せているだけではいけなくなって、私たちが主体性を持って考えていきますっていう意味からすると、魅力ある県立学校を作るということは、大きく言えば、Cさんがおっしゃってることは、私のお話しした中に含まれていると思っています。私

学に対して、魅力ある学校にしていくというのは、学びの選択肢という中ではあるんだと思っています。例えば、中高一貫校であれ、国際教育プログラムであれ、普通科改革であれ、そういったものは、県立学校に必要なことだと思っています。対私学という意味においても、私たちは私学に対抗しようという考え方を持っているわけではないです。生徒にとって私学も公立も含めて、しっかりと選択肢を用意してそれぞれ自分が行きたい自分の能力に合った学校の選択肢があることが重要だと思っていますから。私学に負けないとか、負けたくないとか、そういうことではなくて、私学と県立とで両方がしっかりと生徒に対しての学びの選択肢を用意していく、いわゆる両方が協力しあっていくものだと思っています。だからと言って県立高校が私学に対して魅力が劣っていいとは逆に全然思っていないです。しっかり私学と合わせて選択肢になる学校にしていかなければいけないという意味では、Cさんのおっしゃったような話というのは、私が申し上げていることと重なってるのかなと思います。

その中で、別学・共学というのも、どうしても絡んでくることもあるので、主体的に進めていく、そういう判断を打ち出させてもらったということです。

(C)

学びの均等というのは分かったんですけど、それでいろいろな教育の幅を充実させていくということなんですが、高校って別にそういう教育の中身よりも、行事とかそういう表面的なものの方が中心적だと思うんですが。

(依田 高校改革統括監)

そこは、優先順位が多分皆さんの言ってることと私が言ってることで、違いがあるのだと思っています。皆さんは、同性のみの中で生き生きと学ぶその環境こそ重要だということを伝えたいという事はわかっています。そこは間違いなく、県教育委員会の中で皆さんの意見をしっかりとお伝えします。皆さんの意見が強くあったことは承知しました。

(C)

理念は良いと思うんです。

でも、税金払ってるのを私たちじゃないですか。親ですけど。

それに対して県民の理解はなかなか、推進はまあ理解できると思うんですけど、なかなかあんまり、それに費用とかも考えていったときに、あんまり意識されないんじゃないかって思います。

(依田 高校改革統括監)

県民の理解は重要ですよ。県民の理解が得られないような教育政策というのは、Cさんの言うように進められないでしょうね。県民の考え方、意見は、皆さんの意見も含めて。今週の土曜日には、県内在住の方からの話も伺っていきますし、そういった方の意見はしっかりと聞いていく必要もあります。私たちは行政ですから、県民の意見は無視できないというのは当然のことだと思います。

(C)

はい、ありがとうございました。

(A)

よく言葉にされてたかなと思うのですが、男性と女性で別々の教育をするという考えはないと、このご時世におそらくあのそのような発言をせざるを得ないと思うのですが、男性と女性って、体の作りとかでやっぱり性的な違いっていうのはあるわけじゃないですか。その上でも同じ教育ができると考えているということで大丈夫ですかね。

(依田 高校改革統括監)

考えています。男性と女性のそういう体の違いであるとか、男性のと女性での違いというのはある部分もあるし、ない部分もあると思っています。学校教育を進める上では男性、女性という属性で分けるのではなくて、個々人一人の能力と希望を踏まえるべきだという考え方を持っています。

(A)

はい、ありがとうございます。

(G)

本日の議事録はどこに公開されますか。

(依田 高校改革統括監)

おそらく県教育委員会のホームページになります。県教育委員会の教育委員には議事録を当然読んでもらうわけですが、皆さんの意見を中心に、私たちが教育委員の方々に報告をする場がまた別にあります。個人情報や伏せた公開するものについて、皆さんに見ていただくことになります。正式な議事録は、BさんはBさんのままですけども、個人の名前が記載された正式な議事録が県教育委員会に保管されます。

ホームページに載る時には個人情報がない形のものが載ります。

(E)

男女別学にも意義があるし、共学にも意義があるっていうことでしたが、それを比べた時に、共学のほうが意義があるということで大丈夫でしょうか。

(依田 高校改革統括監)

意義が大きいという言い方はしていないのだけれども、結論的にはそういうことになります。県教育委員会は男女がともに学ぶことが望ましいと思ってます。それは男女別の教育をしないで同じ教育をするのに共に学んだ方が同じ教育ができるからだと思ってます。

(E)

別学校でも同じ教育をすることは、可能だと思うんですけど、それは県教育委員会側に委ねられてると思うんですけど、別学を残した上で同じ教育をするっていうのは不可能なんでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

今そういうふうになっていると思っています。

(E)

同じ教育はできているということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

できてるかできていないかは、皆さんの方がよく分かっていると思いますが、県教育委員会は男子校も女子校も共学も別の教育をしていると思っていません。

(E)

私は、女子校しか知らないので、男子校については知らないし、共学についても知らないです。

(依田 高校改革統括監)

できていると思います。

同じ学びをするのに、男子校と女子校に分けて学びを提供することに、積極的な意味を持っていないと考えている、ということです。男女が共に学ぶことが望ましいと思っているのですけれども、別学に意義がないとか意味がないなんて思っていないですし、別学の意義はあると思ってますし、別学の特長も理解をしています。今日もたくさん皆さんから別学のお話を聞いたことは、そのままそのとおりだと私は思います。ただ共学も別学も課題はあるので気をつけていきたいと思っています。いいですか。

(E)

大丈夫です。

(依田 高校改革統括監)

はい。時間をオーバーして申し訳ございませんでした。今日はありがとうございました。

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会（保護者の部）

1 日時 令和7年8月23日(土) 9:30~12:00

2 場所 県民健康センター 中会議室

3 参加者 18名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

進行をさせていただきます。先ほど司会からありましたとおり、皆様の自己紹介に合わせまして、お一人お一人のお考えについて、まずは簡潔にお話をいただいて、そのお話を元にまた意見交換を展開していこうと思っておりますので、よろしくお願いします。

(A)

本日はこのような会を設けていただきまして、本当にありがとうございます。男子校3年の保護者でございます。今、息子は3年生ということで、二年半、男子校で元気に過ごしていて、そういう姿も含めてですね、お話させていただきます。

私は、生まれも育ちも埼玉県でございまして、共学の学校に在籍しておりました。私は、トラウマなんです、男子がどうしてもですね、頼りなく映ってしまった高校3年間なんです。どうして男子はっていうことがありまして、また就職氷河期世代ということもありまして、その後も男子も非常にですね、苦しそうだったんですね。

私はそんな、男子のように育てたくないっていう思いで、どうしたらいいんだろうっていうところから始まりました。私はパートで大宮のあるところで、働いてたんですけども、皆さん、先輩ママたちが私立中学校の話ですごい盛り上がってたんですね。ただ、経済的に無理なので、どうしても、また生まれてきた息子も同じように育ってしまうんじゃないかっていう本当に悲しい思いをしたんですね。

そんな中、こちらの中学受験をしない選択っていう本を目にしました。私は、これを開いた時に、本当に今でも思い出すんですけども、息子も助かるというか、もっと幸せになるかもしれないっていうヒントがたくさん書かれていました。

その中にですね、県立浦和高校と県立浦和第一女子高校の記事がありました。これを見て、自分が通っていた共学校とどう違うんだろうということで、研究し始めたところから始まり、小学生講座を男子校が実施されていて、息子を連れて行ったところ、息子は本当に興味を持ってとても楽しくて、僕もあの、〇〇高校生みたいになりたいっていうことで、一年生の時から、憧れて頑張って入学したって感じなんですけれども、簡潔に申し上げますと、男子高校っていうのは女子の目がないので非常にですね、自分らしく全てのことに熱中できるという環境が揃っているということです。女子がいると、斜めに構えてしまうんですね。男の子っていうのは。なんです、オタク的なものも発揮できますし、いろいろなイベント、文化祭とかも男だけの熱量でできるし、あとは、マラソンとかあいったものも、女性がいると

肉体的には不可能なものなのですが、男だけだから、十分、ギリギリの体力、精神力までもっていった行事も開催できるということで、そこで学力ではなくて、結果的には人間形成が、受験だけではない人間形成ができて、全てのことに全力でできるという力がついてくるのかなってというのが実感です。なので、私は大学がどうか、どこの大学に行きたいとか、そういった羅列、〇〇大学に何人いたとか、そういったことは本当に全く興味がなくて、その後の力、強く生きていけるっていう土台ですね。そういった魂が育てられる部分で、息子が通っている男子校を維持していただいて、本当に感謝しております。埼玉県文化遺産だと思っておりますので、引き続きですね、これからもぜひ残していただければと思っております。よろしくお願いいたします。

(B)

本日はありがとうございます。都内の男子校の保護者です。私は男女共同参画を望んでいる者です。男女別学校は男女共同参画に有意義であり、特に県北では重要性が高いものです。この問題では浦和高校の話題は多く出るようですが、女子校はあまり取り上げられません。女子校関係者の大多数が共学化反対にもかかわらずです。これはメディアによる女性軽視であり差別です。これを行政が黙認するのであれば同罪だと思います。また、苦情処理委員による勧告書は国連の女子差別撤廃条約の和訳を変えて使っていたと新聞報道で知りました。このように共学化は理念も進め方も間違っていますので、措置報告書の撤回を求めます。

(C)

うちの子は中学生でして、今回、(冒頭の挨拶が高校生の保護者向けだったことを踏まえ)中学生と高校生の保護者対象という形になっていたかと思います。私自身は埼玉県立の男子校の出身です。よろしくお願いいたします。本日、いろいろ教えていただきたいことですか、私なりの考えとか、いろいろあるんですけども、一番に申し上げたいことはということですね、まず男女共同参画の視点に立った教育について、今日のテーマ4点の一つだと思うんですけども、ここで言う男女共同参画ってなんですかっていうのを確認したい。具体的にはですね、高校生が高校に在学中、まあ男女が一緒にいた方がいいねってことを言ってるのか、それとも、大人になってから卒業後に困るよねという話をしたいのか、どっちなのかなってというのが分からなかったです。

分からなかったので、両方を考えてみたんですけども、在学中の話だとすると、同じ通学圏内、ここから通える範囲で、教育水準、例えば偏差値とかが同じぐらいで、教育内容が同じ、例えば普通科とか、その中で男子校、女子校、共学校の選択肢が確保されている前提において、いわゆる公平性とか代替性っていうんですかね、そういうことが確保されている前提においては、男女共同参画と別学との関連性っていうのは、無いのかなというふうには思っています。例えば、商業施設とかビルの中でもいいんですけども、男子トイレと女子トイレがありますと。で、1、3、5階が女子トイレ、2、4、6階が男子トイレだとして、同じ階に男子と女子トイレないのはけしからんという人もいるかもしれませんが、世間一般的には許容されている。そういうのが、代替性がある、公平性が確保されている、そういう観点なのかなと思っています。

逆に言えば通学圏内で代替性がない教育内容、特長的な教育をしている県立の別学校、そういったようなところは、共学化を念頭に置くのもやぶさかじゃないのかなと私は思っています。

先ほどお話があった県教育委員会の報告書の中で、男女共同参画社会の中において、高校3年間で男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があるという記述がありますが、少し私懸念してるところで、県内に別学の私立の高校ですとか、県外には国立の別学校もあります。そこに通ってる生徒とか卒業生、私も含めて、意義のない学校生活だったのかということになりませんか。そういうことを懸念しています。

それからもう一点、大人になってからの話だったとした場合なんですけれども、別学校の出身か、共学校の出身かで、男女共同参画社会、いわゆる大人社会に影響を及ぼすってことはありえないんじゃないかと思っています。もし、影響があるとしたら県内の別学も私立高校が10校ありますけども、卒業したら男女共同参画社会に悪影響ということになってしまいます。私立の学校法人も公の公教育ですので、子供の立場からすると、県立も私立も関係ないわけですね。さらにはですね、東京都内に行きますと、私立の別学校は100校ぐらいあります。東京都内の学校に通ってる方も埼玉県内にいるかと思う。私立を無視していいのか、ちょっとナンセンスな話かなと思っています。国立の別学校も東京都内にありますよね。これは男女共同参画社会に悪影響なんですかということからすると、男女共同参画というのと別学、共学というのは無関係なんじゃないのかなというふうに思いました。

今ここで検討されるのは埼玉県立高校が管轄だからってということだけ、ということだからだと思うんですけれども、子供の立場で考えれば、私立も国立も関係ないわけで、埼玉県内も東京都内も関係ないわけで、もうちょっと荒川の向こう側を見ていただきたい。もうちょっと広い目で見ていただいたら、自ずと答えはでるんじゃないかと思います。

さらに広い視野で、海外も見えていただきたいと思う。私は、仕事で海外に住んでいたことがあるんですけど、調べたところ、イギリスの高校の約2割が別学だそうです。イギリスってというのは男女共同参画後進国なのかということ、いわゆるジェンダーギャップランキングでは、イギリスはトップクラスで、日本は主要国の中で最下位クラスとなっている。相関関係があるのかということ、ないような気がします。先ほどの東京の話をもても、ジェンダーギャップ指数ランキングでは、東京は教育分野で上位7位ぐらいだったと思います。埼玉県は42位ぐらいです。では、東京を見習うとしたら、別学校をもっと増やした方がジェンダーランキングが上がるんじゃないかという話になってくるので、そこって相関関係があるんでしょうかということを一歩知りたいなというふうに思います。ちょっと長くなってしまいました、すみません。以上とさせていただきます。

(D)

お願いします。私自身は、田舎の方ですね、県立の共学高校出身で、息子が男子校の2年生に今在籍しています。

私は、この春にですね、息子の高校の文化祭に行き、すごく盛り上がっていましたが、ちょっと驚いたのは、皆Tシャツをいろいろクラスで作っててですね、「漢」で「おとこ」という文字が入っていたり、「共学反対」みたいな文字が入っていたりして、なんかセンセーショナルなTシャツをみんな着て普通に過ごしてるので、大丈夫かなと思って。息子の代弁をすると、息子は別学維持です。母校を残してほしいということなのかなと思うんですけど、私の母校は田舎の方なので、少子化の煽りで、実はもう消滅ギリギリのところにあります。対極的なところで、少子化も考えてですね、学校をいろいろ再編するっていうのも、県教育委員会としては必要かなと思っています。

ちょっと、息子の高校の文化祭に行って、違和感を覚えたのは、その高校は夜間は共学なんですよ。女子生徒が通ってるにもかかわらず、「漢」とかいうTシャツとか「共学反対」

Tシャツを着て、息子は昼の方なのですが、昼の方がマジョリティなのに、もう少し〇〇高校生、想像力持ってほしいというのが正直思いました。それもあって、私ちょっと今回出ようと思ったのが、一つあります。

それからですね、私はこの近くに住んでるんですけども、学区で言うと□□中というところに息子は通ったんですけど、実は□□中から一番近いのが女子校なんですね。やはり一番近くの学校に通えないと不思議な感じで、我が家のややこしいのはですね、妻は女子校出身です。妻も別学維持派で家庭内で私だけマイノリティになってるという感じなんですけども、埼玉県は長く住んでいるんですけども、20、30年ぐらい前は、偏差値が下のランクの方にも男子校、女子校がありましたよね。少子化の中でこれがなくなってなぜか不思議にトップ校だけ、別学になって、ちょっと不思議さが私には実は非常にあります。

それが埼玉の不思議さなんですけど、福島や宮城も共学になったようで、特に問題が起っていないので、共学になってもそこまで問題ではないのではないかなと思っています。

憲法の条文がですね、憲法14条で全ての国民は法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分とあって、人種、信条、性別と3つ目に性別が来るんですね。そこにおいて差別されないと書いてあります。人種差別は駄目ですね。黒人学校、白人学校作っちゃ駄目ですし、信条、キリスト教学校、仏教学校で分けちゃ駄目ですし、性別も基本的には分けてはいけないと思うんですよ。ただ私は絶対反対とは言いません。きちんとした理由が説明できれば、私は別学も可能かと思います。ですので、浦和第一女子高校の女子のみの夜間部で、中学校時代に男性とトラブルがあって、男性にアレルギーとか恐怖感がある方がいらっやって、そういう方のシェルターとして夜間みたいな形であるのであれば、おそらく存在する理由があると思うんですけども、しかし、そういう理由があればですね、私も納得できるかなと思います。伝統と言い始めると、戦前の男女不平等が温存されているような気もしまして、納得できないところがあります。今のところあの文化祭行った感覚の違和感で、私は共学に少子化もあわせて再編された方がいいかと思います。以上です。すみません、長くなりました。

(E)

今日は出席させていただきありがとうございます。子供は、共学校に通う2年生です。

私自身も共学の高校に通っていて、楽しく問題なく過ごしておりました。私自身は別学賛成の立場から参加させていただいています。勉強不足で、男女共同参画のという観点から、この話が進められている事を知りませんでした。少子化や財政困難が理由だと思っていました。私の家の近くの高校も合併されたりしていますので、そういう観点から合併や、共学化が進められていると思っていました。今、少子化は深刻な問題です。政府の対応も遅れていて、一向にそれが止まっていない状況です。その中で、子供一人一人、今生きてる一人一人を大事にさせていただきたいという思いがあります。あえて選択肢を減らさないでほしいと思っています。共学化にまとめるのではなくて。高校だけの話ではありませんが、10代の子供の死因の原因の一位が自殺です。そんなところから、もう既に教育という現場が成り立っていないのではないかと感じています。ぜひ、一人一人の子供の意見も大事にさせていただき、選択肢を減らさないでほしいと思います。よろしく願いいたします。

(F)

今回、暑い中、また何回もこういう意見交換会を局の方、開いてくださってありがとうございます。

私、息子が二人おりまして、今次男が男子校2年生に在学しています。長男も男子校でした。二人とも男子校なんですけれども、男子校に入ったアプローチが違いまして。長男はとにかく家から近いのがたまたま男子校だったから行ってみた、次男は中学生の時に、ボス格の女子に睨まれてしまって女子が怖くなっちゃったらしく、女子を一生避けられるとは思ってないけど、高校は男子だけで行きたいんだってということで二人とも男子校に行きました。違うアプローチで行ったんですけれども、二人とも大満足で伸び伸びしてるんですね。行ってよかったというのがあります。

今回一律共学化っていうことが出てきて、子供たちもちろん反対してますし、丁寧に生徒の意見とかも聞いてくださっているので、署名が約34,000件集まったり、こういう会、いろいろな高校で聞き取りをしてくださって、別学を維持してほしいっていう声から一定のニーズはあることは実感されてると思うんです。なので、先ほどの方もおっしゃってましたけど、埼玉は共学もあるし別学も選べる。別学がたくさんあるわけじゃなくて、県立高校137校あるうちのたった12校で1割にも満たないですね。選べる自由を大事にしてほしいって思います。

ほかの県の話が今出ましたけれども、宮城と福島が2006年、2000年頃から共学化してまして、宮城県なんですけれども、調べたところ、進学校とかが女子に押されちゃって、男子が少ないとか、進学率の低下とか、進学校だけじゃなくて女子校を共学にすると、男子が入りづらくて、部活とかでも非常に困ってる、施設もなくて、お金もかかるっていう問題が出てるんで、そのこのところもよく見ていただいて、埼玉県男女共学もあるし、別学もある、選べるっていう理由も大事ですし、ほかの県がみんな共学化してる中、埼玉県の無形文化遺産、レガシーぐらいに考えて残してほしいと思ってます。

措置報告書の撤回は難しいと思うんですが、出ちゃってるんで、是正といいますか、丁寧な聞き取りをした結果、別学のニーズが高かったことが分かったので、一定を維持するっていう追記みたいなのをしてほしいと思ってます。以上です。

(G)

お願いします。子供が今中学3年生と1年生がいます。3年生の方がお姉ちゃん、1年生が弟です。

共学化に関しまして、自分は皆さんのような高尚なことは言えないんですけど、単純に言えば、今、この間、ずっと話にでてくるのが、男子校、女子校のいわゆる優秀校ばかりの話になってしまっている中で、そうじゃない人から見れば、ただのブランド力の維持じゃないかっていう印象を正直受けざるを得ない。自分たちのネームバリューの維持みただけで、別学維持をやるのであれば、それは教育としてどうなんだいという思いもあって今回参加させていただきました。

正直言ってしまうと、埼玉県高校に男女別学がありまして、全国で見れば、別学があるという都道府県というのはむしろ少数派となっています。30を超える高校が公立に関しましては共学が進んでいる中で、お上が言ったからやれっていう考え方はちょっと埼玉県の風土としてはそぐわないと思います。畑知事の頃から自主独立みたいな要素もありますので、そういう風土で頑張っていくんだっていう気概があつての別学の考え方としては、埼玉県の県民性としては非常に優秀なのかなと思うんですが、一方で具体的な名前を出してしまいますと、松山高校、こちらなんかは男子校ではあるんですが、ここ数年、定員割れを起こしております。偏差値教育じゃないんでしょうけど、偏差値も25年前、30年前ぐらいの頃から正直下がりました。今の松山高校は普通科が定員割れして、理数科に落ちた方が第

二志望で普通科に行くということで、受け皿になっているという状況で、要はネームバリューを維持するために、高校自体が没落していくってということが目の前で起っているという現実があります。一方で熊谷高校も来年度は募集人員を減らすということで、レベルを維持するためには定員を減らしてでもやっていくってことがはたして、県の教育としてレベルを維持するっていうのは大事ですけど、そこまでしてやっていかなきゃいけないところなのかと、公立高校がそこまでしてやっていかなきゃいけないのかという、というところまで差し掛かっているのではないのかなと一方では思っております。

また、これは申し訳ないんですけど、職場の人に松山高校や熊谷高校の方もいましたので、自分は共学だったんですけど、男子校の出身の方に聞いてみたんですが、正直感じたところでは行って楽しかったと言っていました。一方で話を聞いてみると、行くまでの経緯としてはその当時の学力に見合ったところが丁度そこだったと。頑張って受検して行ったところがそこだったと。たまたま行ったところが男子校だったと。行って楽しかったというコメントは聞いたんですけど、一方でそれが共学だったら行かなかったって聞いたら、そうでもなかったなという話をしていた。高校を卒業して大学行って社会出た時、社会の仕組みというのは基本的には男性と女性、いろいろな性がありますけど、ざっくりこの場で言うなればその男性と女性っていう中で、様々な性別の方たちが共に共存してやっていく社会を作っていくというのが本来あるべき社会の中で、高校生も教育が終わって、学校も社会の一員なんだと思った時に、共学というのはその社会の一部として提供する学ぶ場としては、必要なのかなというところでは、今、学力のあるところは別学校が多いです。大宮高校は共学だが、要は実験場になっちゃうのかもしれないですけど、共学でも埼玉はちゃんと実力のある学校がある。そういうのをちゃんと今後は示していかなければ、傍から見れば遅れている県って思われてしまうリスクも背負うし、そういうのを考えてた時に、ここは一步進んで踏み込むことを考えていくところじゃないのかなというところで、今回あの参加をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

(H)

男子校の2年、公立中学校1年生の保護者です。

私の息子が高校に入学する前後から共学化問題については騒がれています。共学化反対の声というのも、多く届いていて、埼玉県の方にも届いていると思います。皆現役の高校生さんとか、保護者さんとか、その他の方たちが反対意見を押し進め、意見を言っているんですけども、ちょっと民意を反映していないような政策をしているんじゃないかというふうに私は疑問を感じています。

自分自身は別学の維持を求めています。うちの息子も男子校に入りたくて、一生懸命勉強して高校に入って、今世界一の青春を送っています。本当に男子校に入ってよかったって言って、毎日部活をやって朝から晩まで勉強して、満足した顔で帰ってきて、お風呂に入らずに寝ています。それでも最高の青春だって言っております。いろいろな意見もありつつも、私はやはり伝統のある素晴らしい学校は、埼玉県の財産だと思っています。歴史だと思っています。これを壊すことを強く反対します。

今日は、県教育委員会と県知事さんたちは、共学化について推し進めているようなスタンスをどうしても私は感じてしまうのですけれども、県民が納得できる説明っていうのがやっぱりないなって思っていて、国立の高校、私立もそうですけれども、実際に別学の高校はあって認められています。憲法違反でも条例違反でもありません。それは、前回の資料とかを見てみれば分かると思います。なので、例えば、上皇后の美智子さまとか、皇后の雅子さま

とかは女子学校出身です。そこの学びとか、彼女たちの素晴らしい生き方とかを否定するような県政にはなってもらいたくないなとは思っています。

民意を無視して、県政や政策を強行すると信用問題に発展します。埼玉県は今いろいろな問題が起こっています。外国人問題とか、八潮の事故のこととか、いろいろ解決しなければいけない問題はいっぱいあるんですけれども、それはどうなのって、多分埼玉県民の方、今回のこの共学化問題に関しても、ここまでの反対意見が、もちろん賛成の意見も出ていますが、出ているのにもかかわらず、知事もすっきりしない発言をしていたりだとかっていう形で、ちょっと、私たち県民に対して分かりやすい形で説明していただきたいなとは思っています。

自分の息子もちなみに男子校を目指して、今一生懸命頑張っているんで、私の息子たちと、やっぱり別学を、行きたい子供たちの未来を潰さないでいただきたいと思います。

措置報告書の方も読ませていただきましたけれども、私もちょっとどうかなと思っていて、撤回できれば撤回、又は是正を求めさせていただきます。あと、可能であれば、県知事や県教育委員会の教育長とかとも面会できるチャンスを私たちに与えてください。

同じ学びとは言いますけれども、男女でやっぱり差別じゃなくて区別、特性に合わせたあの教育とか指導というのは必要になると思っています。共学に行きたい人は共学に行く選択をする、男子校に行きたい人は男子校に行く選択をする、女子校に行く人は女子校に行く選択をするっていうのが埼玉県の魅力だとは思っていますので、私はそこを強く訴えたいと思います。

(I)

私自身は共学の出身です。

男子校に行った息子と女子校に行った娘とまだ中学生の子供がおります。いろいろな経験もしくは見方から考えると、やっぱり別学の存続に賛成します。埼玉県独自で特色を出して工夫して行って長年さしたる問題のないことに、なぜ急に外部から文句を言われ、一方的に変えられる方向に従わなければいけないのか。それがずっと埼玉に住んでいる自分の実感です。

いろいろなご意見、皆さんと被りますので、自分の話から考えると、なぜ女子が女子校に行ってはいけないのか、なぜ男子が男子校に行ってはいけないのかって。この話の発端の一つに、なぜ女子が男子校に行ってはいけないのかという一通の手紙ですかね、があると聞いています。その少数意見をこんなにも重く見てくださるなら、私たちのこのなぜ女子は女子校に行ってはいけないのか、なぜ男子は男子校に行ってはいけないのか、この思いも同じぐらい重く取っていただきたいです。

もう一つ経験があります。自分は共学に行って失敗したという面があります。私になっちゃいますけど、やはり思春期の成長過程において男子は時に脅威です。そして学校というのは結構、目が届きません。学校というのは、そういう男女の性被害の場所にも、あの頃デートDVとかそんな言葉がなかったですけど、そういうこともあります。自分が中学の時に、学校の男子に被害を受けたので、ぜひそのための女子校に行きたいと。ただ勉強したいけど、相手が学校にいるから学校には行けない、不登校という言葉もない時代ですけど、そういうときに埼玉には鴻巣女子高校とか久喜高校とか、そういうトップ校ではない女子校という、そういう選択肢がありました。これ、ごめんなさい、私の話ではないのですが、あとから聞いたものなんですけども、女子校に行って、ここを卒業して大学も出て社会人になって結婚して子供も産みました。リハビリできたんです。親にも言えなかったと言っていました。心配

するから。教員にも言えなかったと言っていました。ただ一人で抱え込んで。だから私はこの話を聞いたのはもうずっとずっと後の話です。そういう経験をした子もいるということです。

なんかいくつか話がありましたけども、こんな問題は表に出せるもんじゃないと思います。問題はないとおっしゃいますが、問題を出さないようにしてだけだと思います。ただもちろん人数は分かりません。こんなのは少数に過ぎないだろうと言われたらそうなのかもしれません。でも、そういう少数もいる、いろいろな子がいろいろな理由で女子校、男子校、そして共学を選ぶ子もいると思います。例えば、女子校に行ってる子達がこんな女子校はいやだとか内部分裂を起こして倍率が下がってというんだったら、私も、それが子供たちにおまかせしますけど、倍率が出ている、つまり行きたい子たちがいる、そういう子たちのことと、それから偏差値割れをしているところ、ここはまた別の話だとも思います。でも男子だって性別のためリハビリが必要な子もいるでしょうし、とにかくいろいろな子のために開かれた公立高校であってほしいと思っています。

(J)

今日はよろしくお願いします。

うちには今息子が二人いまして、二人とも男子校の方に通っています。実は私も、女子校の出身でして、家族四人なんですが、主人だけが共学。そんな、お宅がどこかにあったと思うんですけれど、うちの主人は一人共学校、大賛成ということで、まあ、3:1に分かれている状況です。うちの息子も男子校に行ってる保護者の方が言ってたように、とっても楽しく行っています。

元々、長男が男子校に行きたいってということで、私が、女子校の話もしたってことも、影響があったんかもしれませんが、男子校に見学に行って、とても楽しかったと、その姿を見てたからなのか、お兄ちゃんと同じところに行きたいと、そんな感じで二人とも今お世話になっています。

多分この話、一番最初の発端が、女子生徒が男子校に行けないのがおかしいんじゃないか、そんなことだったと思うんですけれども、そもそもこの女子生徒がなぜその男子高校に行きたかったのかってところ、その理由が私には読み取れなかったというか分からなかったもので、男子校に行きたいのか、要は女の子なんだけれども心が男の子で男子校に行きたかったのか、そもそもその学校の校風がよくて行きたかったのか、これによって男女共同という考え方が少し変わってくるのかなっていうふうに思います。あの本当にその女の子が男子として男子校に行きたかったとするならば、共学にしたことでこの問題が解決できるのかなっていうところに私はちょっと個人的に疑問を持っています。

それから、熊谷高校、熊谷女子高校も来年、定員が280人になるということで1クラス分減ると、先日新聞記事で見ました。いずれ共学になってしまうのではないかと心配しています。先ほど、ブランド力の維持だけじゃないかとか、いろいろなご意見があって、仕方がないかなと思うんですけれども、私立は別学、まあいいんだけども、県立はやっぱり公なので、別学駄目じゃないのっていう意見っていうのは、それはどうなのかなっていう、なんで県立だったらだめなんですかっていうところが、ちょっと私の疑問であるのと、あと、たくさんの方がおっしゃってましたけど、男女共同ということをやれば、選択肢があってもいいのではないかというふうに考えてます。前の方もおっしゃってましたけれども、男子校に来たければ、男子校に行けばいいし、共学がよければ共学に行けばいいということで、選択肢をたくさん与えることで、救われる生徒だとか、子供たちがたくさんいてですね、充実した高校生活が送れるのではないかというふうに考えてます。

ぜひ県教育委員会の方におかれましては、男女共学とか別学だとかってということよりも、どうしたら子供たちが3年間貴重な高校生活を楽しく過ごせるのかってところもぜひ念頭に入れていただいて、この問題について考えていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(K)

本日はこのような場に参加させていただき、ありがとうございます。

私は埼玉県外の高校に通っておりました。息子二人いるのですが、上の子は共学校出身です。中学受験をして中高一貫で通いました。下の子は埼玉県にある私立の高校に今通っておりまして、こちらも中学受験をして中高一貫で通っております。

息子それぞれの話を聞き、男の子は20名いるかいなかったというような学校でほぼほぼ女子校です。その中で、男子20人の中で、本当に団結力は今すごく、高校卒業した現在でも、何かあると男子の集まりがあり、男子の中で相談をする。女の子っていうほどではなく、ただ女の子のすごく多い部分、嫌な面を高めてしまってる、だから、ちょっと女子は怖い、そのような意見も息子から聞いております。

下の子は、中学校に見学に行った時に女の子が怖い、それ一言で私立の男子校を受験することを決めました。地元の中に進むってこともあったのですが、やはり女子が怖いということで、男子校を選択したっていう次第です。

その中で、男子校を選ぶに当たって、私自身が共学校出身だったので男女一緒にいなくていいのかなっていう思いもあったのですが、先生方の話を聞いて、それぞれ男子女子の中学校、高校の活動の仕方、やはり思春期っていう難しい時期で、やはり育て方っていうことも親も大変ですっていうところで、先生方がそちらの方は学校の方でカバーして、それぞれの特性に合ったことを学校で指導をしていきます、ということで、やはり男の子っていうと、男子校に行かれる保護者の方も多いとこの場で思いましたが、育てるのが難しいんですね。なのでその部分を、先生方がサポートしてくださったので、今高校二年生ですが、本当に息子は、のびのびと育てております。こちらの男女共同参画っていうことを理由で、共学化を進めてしまう、もうほぼほぼ強制的な感じで押し進めてるような気もするんですが、なんか違うような気がするっていうことも私は一つあります。だから、子供の人数が本当に減っております、高校の統廃合もありますし、定員割れしてる高校もあり、また定員を減らしていくという高校もある。その中で男女別学をこのまま残していくのもどうなのかなっていう気持ちも正直あります。ですので、急にこの年から全て共学化しますっていうのではなく、やはり子供たちの意見も組みながら、保護者の意見も組みながら、少しずつ周りの、このようなところは潰せるかな、このようなことは進めていけるかな、そのような考えを持ちながら進めていっていただきたいなと思っております。以上です。本日はよろしくお願いします。

(L)

息子は男子校の3年生、皆様には息子が大変お世話にもなってると思いますけども、何度かこういった会に息子に参加させていただいております。今日はちょっと初めて私が参加させていただきます。

私は皆さんとちょっと違う角度の話になっちゃうんですけども、息子が何度かこうお伺いして話をしますので、中身自体よりも、先日8月6日の高校生の会でも出たと思うんですけども、共学が良い別学が良いというお話よりも、今回のお話の進め方ですね。

もうかなり強引に来るっていう進め方に対して、本当に別学を全て否定して無くす必要があるのかというところの意見に対する県教育委員会の中での議論の進め方に対して、ちょっと疑問があるんですね。

昨年からいろいろな意見交換会が開催されていて、その資料を見てきたんですけども、一番多いのは、要望として、今まで共学化を進めるという方向になっていく過程の中で、いろいろな根拠になるお話だったりとかデータだったりとか、説明が理論的なところっていうのがちょっと欠けているというか、ほとんど出てこないっていうお話がいろいろな議事録に出てくるんです。大体回答されているのは男女共同参画社会の中で男女が協力していくということに意義があるというのが、その一本がずっと出てくるんですよ。それが、言いたいことなんだと思うんですけども、その一本が出てるだけで、生徒だったり、今までの保護者だったりの質問に対する回答がそれしか出てこないの、ほとんど質問と回答がちぐはぐで合っていない状態なんですよ。先日は8月6日の際にもいろいろな生徒からいろいろな要望ですとか、意見があったと思うんですけども、あとお願いみたいなのがあったと思うんですけど、そういったものに、皆さんは別学で学ぶことにも意義があってニーズがあるということも、理解されているということと、共学でも別学でも同等の教育がもう現時点でできていると、今後も続くようであればできるということですので、そういったことを踏まえる状態でのこういった結果になるということの、進め方がどうしても結果ありきで進めてるんじゃないかってみんなには見えてるんですよ。そういったものに対する根拠ですとか理論ですとかデータをちゃんと示してほしいです。学生だったり県民が、こうだったらしょうがないよねっていうような、ストーリーになるようにちゃんと説明をしていただけないと、県民が納得しないと思うんですね。なんだか分からないけど、強引に押し切られたという印象だけが残るという気がするんですね。ですので、特に生徒ですね。8月6日の生徒は、学生ですので、しっかりあの回答してあげてほしいなと思います。

あと、共学化勧告に関する協議、審議を合計3回されてると思うんですけど、その議事録も全部読んできたんですけども、その中で議論されているのが、別学の良いところはどこで、共学の良いところはどこで、という議論がほぼないんですよ。最初のところで、県教育委員会としてはもう平成14年度の時から共学化を推進することを方針としてますよっていうことが前提で会議が始まっちゃってるので、それに乘せて共学化の勧告に対する、回答をどうやって作っていかうかっていう、体裁を整えていくとか、てにをはですとか、この順番の方が分かりやすいよとか言う議論がされているだけなんですよ。ですので、本当の意味での別学、共学、どうして共学だけにしなきゃいけない理由というのが議論が県教育委員会の会議で全くされてない議事録だったんですけども、これだとやはり納得性がいかないですよ。議論をされてない、理論もちゃんとしてないという状態ですので、そういうことからやっぱり納得いくようにちゃんと説明ができるようになっていないといけないと思うんですね。これ多分8月6日にも出てたと思うんです。同じような納得がいかないから要求が出るんだという話をされてた生徒さんがいると思うんですけども。そういったものがちゃんと分かるようにですね、理論が通るように説明をしていただきたいなと思います。

おそらくこの3回の会議以外にも勉強会をしてるみたいなフレーズが書いてあったんですけども、その勉強会に対する情報が全く分かりませんので、そういった勉強会のところの資料ですとか、内容っていうのは開示していただきたいと思います。

あと、今回のこの7月から一連の意見交換会をされていると思いますけれども、この意見交換会で意見を皆さんが出したものを県教育委員会の方に伝えていただくんだと思うんです

けれども、それを伝えた結果、どういう会が開催されて、どういう議論がなされて、どういう結果になっていくのかっていう、意見を聞いただけでは意味がなくて、それをどうちゃんと県の中で話し合いをするんだっていうことが見えるような状態にしていきたいですね。その議事録のようなものを細かく見たいと思うんですけども。先ほどお話の中に、どなたか、教育長ですとかそういった方と意見交換がしたいっていう話ですとか、知事さんとの意見交換がしたいという話が出てたと思うんですけども、私もぜひそういった教育長さんですとか上の教育委員の方ですとか、そういった方々との話し合い、意見交換会というのを開催していただきたいなと思っております。県知事さんとか。以上です。長くなりすみません。

(M)

こんにちは。今日はこのような会に参加させていただき、ありがとうございます。

男子校の1年に息子がおりまして、弟がその近くの中学校に通っております。

私自身が県外の出身なので、県外の共学の高校、田舎というか高校に通っておりまして、大学は女子大でした。

正直私は、申し訳ないことに皆さんのように予習をしておりませんで、普段からそのことについていろいろ調べたりだとか、意見をしっかり持ったりだとかっていうことがあまりなくて、どちらの意見もあるだろうなというふうに、この件に関しては共学化に関してはどちらの意見もあるだろうな、どちらも良いことなんだろうなっていうふうにはちょっと思っていて、ただ、自分の息子が男子校を選んで入りましたので、男子校の利点というか、よかったところを、意見交換会でお伝えして、逆に共学が良いとおっしゃる方の意見を伺って、実際ここで語られたことがどのように生かされていったのかということを知っておきたいみたいなつもりで、すごくライトな感じで今日来てしまいました。

息子が男子校を選んだ理由ですが、元々別の男子校に行きたかったんですね。小学校の時からその別の男子校に行きたいと言ってたんですけども、その学校の地域の塾に通っているのがもう辛すぎて、電車はもう嫌だっていう理由で、近くの男子校を選んだんですね。たくさんの方の選択肢のある中、別の男子校は遠すぎて嫌だ、じゃあ今の高校にするということで、結局男子校だったんですね。男子校を選びました。

男子校の保護者の方おっしゃっているように、伸び伸びと、身なりにも全然構いませんし、女子の目がないってこういうことなのかなみたいなのをすごくひしひしと感じるんですけども、私は今回皆さんの、ご意見を意見交換会で伺って、もし仮に共学化が進められてしまったとしても、それになってしまった経緯をちゃんと自分の肌で自分は参加して見ている中で進んだんだよっていうことを実感できれば、もしどういう結果になったとしても、まあ納得せざるを得ないかなというふうに思っています。

ただ、やはり一番は、子供の選択肢を残してあげてほしいということだけは思います。結局行くのは子供なので、子供が選べるところに、それがある。私は県外の田舎の共学の高校でしたけど、そんなに選択肢がないんですね。そんなたくさん選択してないので、どっちみちそこに行くんです。偏差値これくらいとなるとここに行くとなって、ほとんど決まっちゃっていて。埼玉県にいて、こんなに選択肢があるんだ、こんなたくさんの中から選べるんだっていうことを、素晴らしいことだっていうふうに思っているの、その選択肢の一つとして、そんな無理やり潰さなくてもいいんじゃないかなと思います。男女共同参画とかという問題は抜きにして、すごくライトに残してもいいんじゃないかなというふうに思いました。

息子は、学校行ったら帰ってこないです。午後10時とかまで学校にいます。なんでそんなにいられるのかなって思うと、学校が開放されていて、そこで勉強しようが、寝よう

が、ゲームをやっている子もいるみたいなんですけども、なんで夜までいられるかっていうと、女子がいないからなんだよっていう、女子がいたら危ないじゃんねって。子供なりにそういうことをすごく考えていて、そういう自分の選択した学校で選択した生き方ができているっていうことを、大人たちが忘れないでいられたらなというふうに思っています。すみません。あまり本当にかっこいいことが何も言えなくて、ただ思いだけで来ているので、申し訳ないんですけども、皆さんの意見をまた聞かせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(N)

うちは子供は、中学生に通ってる男子です。私は県立の共学校出身で、夫が男子校出身で、家族全体女子は別学維持、共学化反対っていう立場を取ってます。子供にもこういう意見交換会があるから、行ってみるといいよっていう話はしてみたんですけど、そうそう変わんないでしょうっていうので、参加はしなかったっていう感じですね。実際、今開催予定とか見ていると、中学生参加の会が一回中止になったりとか、やっぱり現役の中学生にとっては急に変わる訳がないと思ってるところがあるのかなと。変わる時には変わるから、こういう時には意見を言うのは大事だよっていうのは話しております。

夫は、男子校に通ってたんですけど本人に言わせると何も考えてなかったようで、別学が良いとか共学が良いとかじゃなくて、偏差値的に合うところがそこだったからそこに行ったということでした。私は共学に行ったんですけど、ちょっと変わってて、私が通ってた時、男子クラスがあったんです。共学っていう中であって、男子クラス二つあって、そこに男子が入られるんですよ。1年生の時は全体で男女一緒だったんですけど、2年、3年の時に男子クラスが突然発生されて男子たちが戦々恐々と共学に来たのに男子クラスとはみたくないそういう感じになってて、そういった意味では、選んで共学に来たはずなのに、男子クラスに入れられたっていう、そういう人たちもいるっていう感じですかね。

中学校ぐらいまでっていうのは、学区が決まってて、基本的に家から近いところに通うっていうのが義務教育の場合はそうなんだと思うんですけど、高校になって自分の好きなところに通うことができるようになって、地域から飛び出して社会が広がるんですよ。そういう時に選んで入ってくるって、それなりにすごく意味があることで、あえて別学を選ぶっていうのはそこに多分、夫の場合は、イレギュラー中のイレギュラーだと思うんですけど、なんとなく入っちゃったので。やっぱり選んで入ってくるっていう子が多いということは、そこにちゃんと意味があるので、その意味をなくしてほしくないっていうのは感じています。

あと、気になったんで調べてみたんですけど、進学実績をいろいろな高校が出してて国公立大学の合格者数のうち、浪人の割合を見てみると、浦和高校って浪人率がすごい高いんですよ。半分近くが浪人です。一方で、浦和第一女子高校だと浪人率13.8%ぐらいで、下がるんですね。さらにびっくりしたのが共学になると、市立浦和高校で浪人率が7.1%で下がるんですよ。これなんだろうなっていう。

別学と共学に関して言えば、共学を押す必要は、無理には埼玉県に関してはないかなと。同じ京浜東北線上に大宮高校もあるし、浦和高校もあるし、浦和第一女子高校もあるし、市立浦和高校もあるし。そこで共学も別学も両方あるわけです。その中で選べる行きたい方に行けるっていうのはやっぱり機会均等という意味では残しておいていただきたい。

男女共同参画もそうなんですけど、男女共同参画って男子と女子って、こういう属性でこう一生懸命合わせようとしてくるんですけど、私はその前に個人だと思ってるんですよ、

私は個人として尊重されなければ相手を尊重することは絶対にできないので、ほかの方も何人かの方おっしゃられてたんですけど、ほかの性別の目がないことで伸び伸びできる。男子と女子を同じパッケージのところに置いたときに起こることってというのは、男子に対して女子は一步引けなんですよ。大体出てくるのは、学校の先生からして。小学校なんか特に校長先生の男性率が異常に高いですよ。すごく力がある女の先生とかいてもなぜか管理職にはいかないんですよ。それはもちろん、女性の方にいろいろな家事育児の比重が強いとか、いろいろなことがあると思うんですけど、その人の能力で見れてないからこそ起きてることだと思うんですよ。そういった意味では、なんでも一緒にして、ジェンダーの不平等さみたいなのを内在させていくぐらいだったら、別にしておいて、それぞれが自分の能力をフルに生かしきれた方がプラスになるんじゃないかと思います。あと子供を育ててて思ったのが、やりたいってのを否定しないのはもちろん大事なんですけど、子供にとっての嫌っていうことを絶対に否定しないってのはすごく大事なことで、別学に関して、共学が嫌だっていう明確な子が確実にいるんですよ。そういう子のために、共学大事だからね、これ議事録とかでもちょいちょい流れてくるんですけど、一緒にいることが大事だからね、お互いに協力するのが大事だからねって言って押し込むんじゃなくて、嫌っていうのをちゃんと聞いてあげないと、多分その子が成長してきた時に、今度はほかの人の嫌を否定するっていうことになってしまうのではないかなって感じがしています。

社会に出たときに困るということに関して言えば、別学だろうと彼女、彼氏を作る子は作りますし、共学に行っても彼女、彼氏を作れない子は絶対にいます。これは絶対です。それはもうその子自身の資質なので、パッケージを入り口とか学校とか別にしてしまったからその出会いがなかったです、悔しいですとかっていうのはありません。

あとは、今日のこの意見交換会とかが、一応皆さんの意見を聞きましたよ、方針はもう変わらないけど、でも基本変わらないにはしても、一応ちゃんとかいう場を設けました、聞きましたっていうアリバイのために使われないことをとにかく望みます。

私個人としては、伝統があるから別学を維持してくれという意味では今回は参加していません。伝統関係ないです。その子にとって必要だから、その学校があり続ける以上、そこを潰してしまっちはいけないっていう立場を取ります。以上です。

(O)

子供が今、共学校に1時間かけて通っています。今回、共学化推進ということで、子供の選択肢ですね、高校を選ぶ際に自分がどこの方向に行きたいのか、例えば男子校に行きたい、男子校で男子の異性の目を気にせずに勉強したい。例えば、女子校に行って、女子らしさ、個人の方を磨きながら社会に向けて社会でも活躍できる女性になりたいとか、そういった子供が選択できる幅を縮めることはしない方がいいのではないかなというふうに考えて、今日は参りました。今回提案したいなと思ってるのは、県教育委員会が発表したように、主体的に共学化を推進していくという部分に関しましては、公的機関が発表している、県教育委員会が発表している中では多分引き下がれないと思うんですけども、ここは今一度立ち止まって再検討してみる必要があるんじゃないかというふうに考えております。

これは当然、各説明会でこの前回のですね、以前から続いている中での討論会におきまして、県教育委員会の方から出ているのは、少子化の流れは止められないと、その中で、新設の男女別学は難しいという形で発表されてると思うんですけども、当然、少子化の流れは止められないと、なおかつ、学校の統廃合も止められないと。そういった中で、今回発表した後にですね、公立高校の併願制導入とかですね、新たな子供の進学先を選ぶ、進学を勉強す

るための場がいろいろ変わってくるという形になってきてます。なので、子供が例えば共学に行きたいのか通信に行きたいのか、男子校、女子校に行きたいのか、それをですね、選べる幅をですね、ぜひ残していただくという形で考えていただければと思っております。

今回、別学廃止を進めている中でですね、少子化の流れの中で統廃合は避けられないという発言が県教育委員会の方から出てと思うんですけども、これは我々が結局メディアから聞いている情報だけなので、実際どうなるか分からないんですが、多分これはあるんでしょう。その中で、もし男子校、女子校を残すのであれば、特に今ある埼玉県男子校、女子校というのは、すごくバランスよく各地区に配置されてるわけです。例えば県南、西の方、あと北を含めても、各主要の昔の旧市政の主力の場所に、男子校、女子校が配置されていると、それを今後全て廃止してしまうということは、男子校、女子校のその良さですね、今回教育っていう部分では特色のある学校づくりを進めていくという教育方針があると思うんですけども、それを一つなくしてしまうんじゃないかと考えています。この少子化が原因で、男子校、女子校がなくなってしまうのであれば、例えば、統廃合で新しく作るだけではなく、ダウンサイジング、規模を小さくして男子校、女子校を残していく。実際、現状、男子校、女子校というのは、ほかの県立高校と比べても、志願倍率があり、高校に行きたいという生徒がいるわけですね。それをなくしてしまうのはちょっと残念だなとちょっと方向性が違うんじゃないかなというふうに考えています。

実際、今回、クレームがあったということで、男女共同参画、共学化を推進していくっていう部分があるんですけども、それによってジェンダー平等が改善されていくかという部分なんですけども、実際社会において、女子の方でも、今すごく努力されて、会社の役員とかマネージャーとかやっています。実際に共学化して、10年ぐらいでしょうかね、このジェンダーという言葉がこう出てきて、多分、西日本の方からどんどん共学化が進んできて、今、残ってるのは関東、以前は東北方面が多く残ってたと思うんですけど共学化したという中で、実際には現状、ジェンダーの国連の部分っていうのは多分47位だったかと思うんですが、変わっていないという状況です。もしその共学化によって、そのジェンダーのその意識が変わっていく、教育の質が変わってくるというのであれば、共学に進めるべきだと思うんですけども、実際、共学化することによって、そのジェンダーが解決できるというのはそこではないと思うんです。それというのは、小学校、中学校、そして家庭の部分、社会全体がジェンダー平等を意識して変えていくということで、認識して変えていかないと、多分、世の中社会に出た時に変わらないじゃないかと考えます。

今、男子校、女子校の生徒の方々というのは、学力の高い方々が今通ってると思うんですけども、意外と男子校、女子校の中でも、そのジェンダーという部分が、逆に普通の高校に通ってる子よりも意識が高いかもしれません。ただそれが今、我々が知る以上に子供たちはいろいろなことから情報を得ているからなんですね。ジェンダーに関する情報についても。

我々親世代が社会に出たときの男女平等の部分よりも、かなり今、浸透してきています。まだ足りないとは思いますが。しかし、子供たちは我々親以上に、ジェンダーに関してはすごく意識しているし、多分大事にするし、異性のことを大事に育ててるんだと思います。なので私から伝えたいっていう部分で言うと、一度共学化の推進に関しては、止めていただいて、再度その見直しをかける。理由としては公立高校の併願制の導入制とかもあると思うんですけど、いくらでもあると思います。なかなか県教育委員会の方として一度出したものを下げるということはなかなか難しいと思います。ですが、今、こういったアンケートとかこういう討論会、マスメディアも含めてですね、共学化に関しては、今一度見直すべきでは

ないかという流れもある意見もあるということを今回伝えさせていただければと思います。
以上になります。

(P)

本日はこのような場に参加させていただきまして、ありがとうございます。

私の子供は女子校の1年生なんですけども、ここまで話を聞いてくると、皆さん本当になんか勉強していて、私はその共学化のところは反対意見があるってということで、そのことは伝えたいなっていうことと、子供と話していてやっぱり別学を残してほしいっていう思いを伝えてきてほしいということで参加をしました。

皆さんの前で話すのが苦手で、すみませんが、上手に話せないかもしれないですけど。

私は保護者の立場であるんですけども、仕事としては養護教諭をしています。保健室の先生を30年ほどやってきています。小学校、中学校で働いてきて、高校生の子供を持って、先ほども、なんかこう意見としてはなかなか表に出せないような声があるっていうお話とか、自殺の話題なども出てきましたが、選択肢を残すことが、子供の未来を守ることなんじゃないかなと思います。たまたま、うちの子は女子校に受かったんですけど、別学を選択しても、なかなか行きたい学校が偏差値のせいでいけないとか、なかなか体調が整わなくてということで、いろいろな子供がいると思うんですね。なので、なんかこう仕事をしていても、埼玉県の様子をなんとなく見ている、共学が決まっていて、意見を聞いてますみたいな感じの空気を感じて、でも何も言わないまま、埼玉県が共学化を決定してしまったっていうことは、ちょっと嫌だと思ってたので。うちの子は中学校の時、男の子とトラブルがあって、女子の学校に絶対に行きたいっていうことで、本当に勉強して合格は手にできたものの、通いながらすごく勉強を毎日大変そうにやっているところです。なので、程よい学力のところにも多様な選択があったらいいっていうのも子供の様子を見ていて感じます。あと、子供が入ってみて気づいたんですけど、女子校だからって、すごくセパレートされて、女子に特化したっていうところではなくて、大学に行かせていただいたり、交流とかそういう場で、女子の学校ではあるけれども、男子との繋がりを絶ったような教育がされているっていうわけではないと思うんですね。なので、環境としては別学とか共学とか、何か保育に特化した学校とか、いろいろな学校が埼玉県にはあって、こんなに選択肢が残せるっていうのは、やっぱり私も埼玉県の財産だと思うので、選択肢があるけれども、そういう学校に入ったけれども、別の形で共学に勝ち負けじゃないですけど、共学と同等のような教育の内容ですとか、教育の活動内容でクリアできる部分があると思うし、子供も女子校に行って、日常の集中しなければいけない場所が、これまでは中学校の時は、男子にいろいろがんがん言われたり、男子と話していると付き合っちゃえばとか、なんか茶々を入れられて、学習が集中できなかったところが、高校に行って、安心して勉強に集中できるし、生活の安心で本当になんか幸せだと言ってっているので、そのベースになる部分は、安心感をあげるような環境を残して、教育の内容で、いろいろな活動ができるんじゃないかなと思います。学んでいる子供たちのパフォーマンスが大きく育ってほしいし、発揮できるような学校にしたいと思うので、残っている学校の内容とかということで、どんどん変わってきているので、全部を共学化するの私は反対です。

先ほど養護教諭として仕事をしているってお話もしたんですけど、学校では例えばなんですけど、女の子の生理の話を、昔は、男の子は別室に行ってください、女の子にお話をしますとか言って、なんか配り物を隠して持って帰りなさいみたいなふうに指導してたんですよね。でも、今は、男の子には男の子の体の変化があって、男の子も女の子も平等に指導して

いって、その子たちが男の子のことも知って、女の子のことも知ってっていう子供たちがこう今育っているところなんですね。その子たちが学校を選ぶ時に、どういう学校選びたいかなって意思を持って選んでというわけなので、そこで全部共学ですって、選ぶ選択肢は偏差値と内容がどうなってるのかなっていうところあるんですけども、本当に意思を持って別学が良いとか、偏差値はここだとかやっているの、その選択肢が狭まるようなことをするのは、やっぱりおかしいんじゃないかなと思うので、私は別学について賛成します。ありがとうございました。

(Q)

共学化に賛成です。うちの子は共学の学校に通ってます。子供二人です。この二人、どういうわけか同性と折り合いが悪く、同性のみの学校に通うのは断固拒否してました。私も同じです。そういうわけで、私自身は共学校に進んでいます。

子供の学校ですけど、この学校は選挙についても話し合ってます。選挙権について話をしています。そしてお米の値段、お米高いよねっていう話もします。高校生にしてはちょっと庶民的ですね。その子供たちの周りではこの話題について一切出ないそうです。とても関心が薄い学校ですね。

個人的に別学校の浦和第一女子高校、浦和高校、それから大宮高校のホームページを調べました。留学交流制度については、浦和高校が突き出ていました。これはトップです。また、これはちょっとゴシップですけどある女子高校は難関大学に合格すると、報告会というものがあるんですね。それで生徒とその合格者が直接お話できる、そういう生徒にとって、とても有益な会があるんですけど、これに塾通いを公言してる生徒、これは参加できないっていう噂があります。この噂はとっても根強いです。

全国的に知名度があって幅広い層に支持されている学校というのは多分浦和高校で問題がないと思います。これは男子校なんですね、当然ですけど。この男子校が高校の教育の天井だとすると、女子に残されているのはガラスの天井なんですよ。もしくは、短いはしご。これを改善してもらいたいと思います。以上です。

(R)

よろしくお願いします。息子がおりまして、男子校に通っています。片道1時間50分かけて、それでも絶対男子校に行きたいということで、毎日通っております。その子が高校受験の時に絶対男子校が良いものですから、滑り止めの私立も男子校選ばなければいけなくて、東京の私立男子校を受けたりだとか、男子校を求めて、結構いろいろ受けました。そんな感じで、とにかく男子校っていう子です。

どうしても女子との生活が嫌みたいで、思春期なので自分のルックスや喋り方、行動、何を取っても、女子からの鋭い意見というか、視線だったりだとかが来るのが嫌みたいで、男子校に行って伸び伸び過ごしたかったらしいです。今とってもものすごく大満足で、生活してくれています。

私自身は、女子校、女子大出身で女子だけの生活をしてたんですけども、これはこれで女子しかないからこそそのジェンダーの平等性っていうか、男女の役割分担だとかを感じずに過ごしてきたので、大学卒業して社会に出た時に、もうどれほどびっくりしたことか。男性が求める社会って、細かいことでも全て女子だけで過ごしてたもので、男性はこういうことを女性に求めているんだということがひしひしと分かって、おそらく共学で過ごした人よりも、敏感に察知してたと思うんですけど、とにかくびっくりしました。そのくらい、別学で

過ごしていた方が、きちんと人間としての平等性を確保できるのかなっていうふうにも、そういう考えもできるのかなと思います。

知り合いで、中学校の教育相談室で働いてる人がいまして、心の教育相談です。その人がもう絶対に共学はやめてほしいと言っていました。高校の教育相談に来てる生徒たち、教室に行けない生徒たちを見てる先生が、とにかく共学だけにしてしまうと、本当にもう救いようがないからやめてほしい、別学の選択肢を残してくれないとこの子たちが、通いたいところに通えなくなってしまうってということで、すごく反対をしておりました。

そういう意見もありますし、別学だと偏差値的にちょっと高くなるっていうのを伺って、県外なのでよく埼玉県の場合は知らないのですが、偏差値が高くなってしまふとかいうのは、それはそれで、残念なことだなと思って、それだったらバランスよく、共学一本なんて私の中ではもってのほかで、別学も偏差値バランスよく残して、それで、男子校、女子校、共学校の3種を残して、それこそ多様化の社会なんじゃないかなと思うので、偏差値が届かなくて通えないっていうのはちょっと可哀想で、もうちょっと偏差値が低くても小規模で残してあげたらいいんじゃないか、とにかくバランスを考えたらいいんじゃないかなと、思います。

埼玉県、栃木県、群馬県におそらく別学校が残ってると思うんですけども、これが本当に全国から遅れを取ってるっていう見方をしているのかしらって思います。逆に、東京で私立で、別学がたくさん残っている、世界でも別学がきちんと価値あるものとして残っている理由を考えると、埼玉県、群馬県、栃木県が残ってるのが遅れているのではなくて、意義があるから残しているんじゃないかなと捉えていただきたいなと思っています。

なので、多様性っていうことを考えると、本当に別学を残していただけたらなと思います。よろしくお願いします。

【休憩】

（依田 高校改革統括監）

一通り、皆様から多様なお考え御意見を伺いました。ありがとうございます。これからの進め方ですが、今まで県教育委員会に対しての意見、疑問や質問もあったわけですが、そのうち、いくつか論点を絞った上で、意見交換をさせていただこうと思います。私の方で絞らせていただいてテーマとさせていただくのがよろしいのか、それとも皆様の方でこれはぜひ意見交換をしたいということがありましたら、そちらの方でもよいので、いかがでしょうか。

それでは、私の方でテーマを何点かに絞って意見交換のテーマにさせていただきます。

いただいた中で、比較的多い意見としては、男子校、女子校の別学校の学校行事であるとか、生き生きと生活できるであるとかという特長のお話が多くあったかと思います。合わせて、男女共同参画の視点についてのご意見もそれと連動する形であったかと思いますので、まず男女共同参画と別学・共学双方の学校の教育活動についての意見交換をさせていただきたいと思います。皆さんからの意見をもう少し詳しく伺いたいと思うのですが、県教育委員会の男子校、女子校、共学校の教育活動と男女共同参画の視点についての考え方を簡単にお話をさせていただいて、それを種にしてお話を伺うことで行きたいと思います。

県教育委員会は、男子校と女子校と共学校とそれぞれ教育活動の内容に差を設ける考えはなく、男子用、女子用の教育を県教育委員会としては提供することは考えておりません。共学校も男子校、女子校も、同様の教育活動、教育内容を前提に考えております。その上で、男女共同参画の視点ですけれども、私どもは、男女共同参画社会を共学化で推進するという考え方ではありません。男女共同参画社会の中で、今後生きていく生徒の教育の在り方とし

て、男女共同参画社会の視点を持ちたいという考え方です。男女共同参画社会の中で生きていく子供の教育のために、どのような教育をという考え方の中に男女共同参画の視点をしっかり持とうという考え方です。別学校を共学校にすることで男女共同参画社会が推進されるということを、今回の報告書の中で謳っていることはありません。その上で、県教育委員会は、男子用、女子用の教育をしようとしておりませんので、男女が共に学ぶことを積極的に考えており、別に分けることに、積極的な考え方を持っていないというのが私どもの考え方でございます。簡単にお話をさせていただきましたが、今の私の話も含めて、また、今まで皆さんが話されてきたことも含めていただいて、学校の教育活動のことと、男女共同参画の視点について、皆様からご意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(A)

では、男女共同参画の視点でお話しさせていただきたいと思うんですが、まず、別学は男女差別ではないということを認識しておりました。というのは、第147回国会でですね、小渕内閣総理大臣のときですね、憲法第14条の趣旨を踏まえて、教育基本法で、別学はですね、教育上、男女の共学は認められなければならないことが定められているが、これは男女に対し性別に関わりなく学校における教育を受ける機会を均等に付与し、男女共学を一律に強制するものではないと、小渕さんがおっしゃっていただいたんですね。それを踏まえて、先ほどお話ししてしまったんですけれども、埼玉県の方で、男女別の教育をこれからも設けることは考えてないとおっしゃられたんですけれども、まさにそのとおりだと思いますし、息子が通っている高校もどちらかというと、人が育つ、そのような学校を作ってるんですね。人というのは生徒です。息子ですね。それぞれ一人一人の生徒が先輩も含めてですね、最後まで全力で出し切る、失敗しても失敗を恐れない、それはまた行事の話になってしまいますが、マラソンとか文化祭、あと、一部でオタクと言われてしまうような将棋やクイズとかそういったことにもですね。全力を出し切ってっていう、先輩たちが作り上げてきたその校風の中で、大学受験に向けて頑張るっていうところなんですけれども、特別何かしてもらってるわけではないんですね。特別なことしてもらってるかもしれないんですけれども。どちらかというとですね、精神を作り上げて、精神ですね。ちょっとうまく言えないんですけれども。なんで浪人なのかっていうこともおっしゃられたんですけれども、失敗を恐れず、全力を尽くして、入れる大学ではなくて、チャレンジしようじゃないか、仲間とともに3年間、いろいろな荒波を超えて、台風が来ても雨の中ドロドロになって裸になって、それをですね、外の水道で体を洗ってギリギリのところの精神状態の中で、俺たち体育祭やったじゃないかっていうその精神ですね。それを大事な人生の岐路に立ったところで、ぶつけるっていうそこなんです。なので、もし息子の男子校に女性が入ってきたら、おそらくそういった校風がなくなると思います。おそらく、浪人率も下がると思います。もっと現役でいけると思います。ただ、難関大学とか、そういった自分のちょっと背伸びした、挑戦しようっていう文化はなくなるので、おそらく均一化した普通の高校になると思います。それを皆さんが望むなら、それでいいと思います。ただ、男女差別っていうのは、多様性の意味では逆だなと思っていますので。男子校、女子校、共学校の中から自分に環境にあった学校を選ぶっていうことが、本当の平等だと思いますので、よろしく願いいたします。

(B)

私は男女共同参画を望む人間です。ただ、男女別学校が男女共同参画に有意義だっていう議論があまり出てないような気がしますので、特に女子校が有意義だというようなことには

なってしまうんですが、いろいろな教育論や新聞記事などでも、女子校が有意義であるということの記事はよくあります。例えば朝日新聞さんなどで読んだ記事なんですが、性別によるあからさまな差別は減っているが、アンコンシャスバイアスはまだ残っている。女子校で多くのロールモデルに出会い、女性のキャリア形成を支援する教育を受ける意義があるなどという意見もやっぱり専門家からあります。

また、ジェンダー論やフェミニズムの本なども私読みましたが、女子が自立心やリーダーシップを養えるっていう女子校の場合は利点があるという意見もあります。

いろいろなそういった事例、研究がありまして、別学校でこれくらい、こういった良い点がありますというような、そういったものを出している学者さんも世の中にはたくさんいらっしゃるし、そういったような状態、世間一般ではそういった賛否両論と言いますか、そういったことになってると思います。

そして、埼玉県の場合はですけども、県立女子校が昔は特に男女共同参画の担い手となっていたように私は思います。現在は昔に比べ影響力が小さくなってきたかもしないのですが、男女共同参画の象徴であるとは思っております。そういったものを仮に無くすという場合は男女共同参画が弱体化するのではないかと考えております。

また、人口密度が低い地域では、今でもそういったジェンダー的な意識が人口密度が高いところに比べて低いというのがありまして、私自身も県北で仕事をしていたこともありますので、そういったことがあると思いますので、県北でもやはり女子校、男子校は存続させるべきである、その方が有意義であるとは私は思っています。ですので、男女共同参画の面から男子校、女子校を残したら、利点があるという議論もしてほしいなと思っております。

(H)

さっき、男子と女子で同様の教育内容を目指しているとおっしゃっていましたが、やはり、男子の体格、女子の体格、あとは、頭の脳の違いっていうのも明らかに男子脳、女子脳の違いがあります。その中でまるで同じような人を、口が悪いかもしれないけど、つまらない人間を生み出すような教育になってしまう、可もなく不可もなくみたいな教育を生み出してしまいう教育方針を推進しているのかなという意見を私は持ちました。つまらないんじゃないかっていうところです。

私は、職業は看護師をやっているんですけど、10年間救急診療科で働いていました。1年前から今産婦人科で働いていますけれども、子供の自殺率本当に高くて、中学生の自殺は私も何人も見えています。県北です。やっぱり子供が安全に生活をする場所として、家庭もそうですけど、学校もそうです。学校に行きたくない、だったら死んじゃうとか。だから、夏休み、や春休みに自殺が多いってそういうことですね。行きたい学校を作るという方にシフトしてもらいたいと思います。あと産婦人科で働いてるって言うていましたけど、人工妊娠中絶もすごく多くて、その人の育ったバックグラウンドとかもありますけど、それによって学校に行けなくなっちゃう子供もたくさんいるので。一律に同様の教育をするっておっしゃいましたが、「同様の教育をする＝男子校、女子校を無くす」というのはイコールではないとは私は思っています。もちろん男女共同参画で、男子も女子も同じような機会をっていうのは分かりますけれども、では一律にそれを押し付けて生きにくい子供がいる。結構、私は深刻な問題だと思っていて、やっぱり親の貧困と学力にも影響しますけれども、そういったようなものにもちゃんと目を向けてもらいたいと思います。あとは、新聞報道とかでもいっぱいありますけど、なんでいつも浦和高校が叩かれるのかっていうのもすごく疑問に思っています。これ多分同意していただける方がたくさんいるんだと思うんですけど、何かこう裏の

力が働いてるんじゃないかとか、後はちょっともしかしたら私学の方に学生を増やしたい、少子化があるので、やっぱり利益優先をしている私学の方に学生を増やしたいっていうような意図もあるんじゃないかと私は思っていますけれども、その辺も聞いてみたいなとは思っています。

(Q)

私は他県出身なんですけど、ここの地区で分かりやすくてとえて言うと、浦和の男子校が共学化した高校の出身になります。そういう感じの高校を卒業しました。なので、男女が同じような教育をまさに受けたわけです。それで大学に進学しました。ちなみに私の学校の浪人率もすごく高くて、共学化して30年くらい経っていましたが、4年生高校って言われてまして、当時、団塊の世代ジュニアですけれども、大学ヘストレートで進学したのは推薦の人、短大の女子、それからほぼ私だけですっていう脅威の浪人生の多さでした。だから女子にも同じ環境を与えればガッツがあると思います。そして、マラソンをありましたけど、男女別のマラソンなんですね。私たちの時代は。体育は男女別だったと思いますね。でも今は体育はものによっては男女共同のはずですよ。

それから、男子校のマラソン、持久走がありますよね、タイムトライアルみたいな。あれもなんか、連帯責任が問われるみたいなのがちょっとあったりなかったりするみたいな噂も流れてますが、女子でもいろいろな女子がいて、例えば陸上で一番早い女子もいるって感じで、平均的な女子、平均的な男子でまあまあできると思いますけれどもね。

先ほど女子脳、男子脳の話もありましたけど、理数系に強い脳が男性に多いっていうだけなんですね。女子は違う能力が強い人が多い。もちろん別の人もありますし。

一つ聞きたいことがあったんですけど、今、自分のお子さんが別学を希望されてる。男子校だったり、女子校だったりする。そのお子さんがもし別の性別でも、やっぱり別学を希望しますかね。

(H)

選んでもらえばいいと思います。だから選択肢を残せばよい。

(Q)

山形にあるんですけど、形式的には共学化したんですよ。そしたらそこに入る生徒が男子しかいなかった、女子しかいなかったという状況だった。そういう学校があるんですね。実際に今もそうです。なので、一旦形態を共学にしてもらっても、実質男子校だったら、機会を与えてるわけですよ。だから問題ないような気もしますけど。それは生徒自身が共学化された浦和第一女子高校に通いたい生徒は、女の子だけ。でも制度上は共学である。浦和高校も川越高校も制度的には共学だけど、女子トイレもあるし、だけど通ってる子は男だけ。そういうことも全然ないわけではない。実際にそういう学校があるんだから。そういう事例もあるってことをご紹介しました。

(I)

先ほど県教育委員会の方は、別学も共学も同じ内容教育してるとおっしゃってました。それは本当にそうだと思います。今もそうだと思うんです。ただ、実際通っている生徒に生物学的に差があるので、若干特色が出る、生徒の実態に合わせて、個々の特色が出たりとか、そういうことはあると思いますけれども、例えば、男子校を教えている先生に男子はここまで

は教えなくちゃとか、女子校で教えてる先生に女子だからここまででいいやとか思ってる先生はいないと思います。みんな先生方は平等に目の前の生徒に対して最高の教育をしようと頑張っていると思います。ですから、今までなんか問題があったのかなってことです。最高の埼玉県教育に。

今回、つまり共学化の波がどうしても外から、国でもお上でもなく、外部団体から共学化した方がいいと言われて、もしかしたら埼玉県や県教育委員会も困ってるんじゃないだろうかと逆に心配になってしまうくらいです。言われてからどうしようもなくって言うんじゃないかと。

先ほど、行きたい学校を増やす、生徒の多様化に合わせるというご意見、それに合わせて、むしろ男女別学校をいろいろな偏差値帯に作ったらいいのではないかと、これは活気的な意見だと思いました。不登校の子が通いやすいの学校を作ろうという流れもあるくらいです。いろいろな学校ができる可能性を、親の貧困も考えれば、むしろ公立がそういうことすべきです。公共の福祉のために。多様な選択肢の中から、未来の国民、県民になる子供たちが選んで、自分を伸ばしていけるというのができたら素敵だと思います。日本の未来も明るいと思います。

共学化の中に男女がその間に過ごすことに意義があるってことの中に、男女の理解が進んで、結婚率が上がるとか、その辺による少子化が解決するとか、そこまで考えてたら、それがちょっと違うかなと思うんですね。今非婚化がどんどん進んでますけども、正直、今のその結婚世代っていうのは、むしろ学校がどんどん統合されて、私立女子校が共学化になるとか、それから公立でも維持できなくて、学校でも手放していくとか、そういうことの流れの中でむしろ共学は増えてると思うんです。それでも非婚率が上がっているっていうのは、これは高校世代で全部共学化にしたところで、少子化の問題、非婚化の問題は解決しないってことではないかと思います。よって、3年間、生徒の多様な可能性をまた、さらに公立だからこそ税金で、いろいろな学校を用意すべきっていう意見は、画期的だと思いますし、でも財源には限りがあるので、だったらせめて現状維持でという考え方もあるんじゃないかと思っています。

あと、こういう議論はもう10年も20年も長く続けていく、結論はその間に出てくるかもしれません。早急に決めることでもないのではないかと思います。以上です。

(C)

今、依田さんからいただいた話っていうのは、教育活動としてどういうことをやっていくのかって話だと思うんですけれども、それはどの学校に対しても同じような教育方針の教育活動をやっていきますということだと思うのですけれども、それは当たり前だと思うんですね。それに対して、今日の参加者の方々の多くの認識としては、各学校の在り方、姿の話をされてるのかなと思って。そこはちょっとなんか論点にズレがあるような気がしています。

多くの場合、今の別学であるという状態そのものが、各学校の特色であったり魅力であったり、アイデンティティになってるのかなと思います。あるいは倍率など見てもある程度のニーズがあるといえるのかなというふうに承知をしています。そういった在り方、姿を変えろという場合、何で変えるんですか、そのメリットは何ですか、デメリットは何ですか、問題点は何ですかっていうようなところをきちんと説明していくと、そういう視点が必要なのかなというふうに思っています。なのでちょっと視点が違うのかなというふうに感じました。ということと、今の話をもってしても、いわゆるその各学校において教育活動として落とし

込もうとしている男女共同参画の視点とは何か、というのがよく分かりませんでした。なので、そこをきちんと説明する必要があるかなというふうに思いました。

あともう一点だけ。私は、宮城県の出身でして、途中埼玉に引っ越してきたんで、宮城県の共学化のこともよく知ってます。先ほど私も、公平性、代替性の観点もっていうふうに申し上げたんですけど、私、仙台市に住んでましてね。仙台って一高、二高、三高ってありまして、男子校、女子校それぞれあったんですよね。でも、仙台市って、太平洋側の海沿いから山形県の県境辺りまで全部仙台市なんです。電車とかバスの交通網があまりありませんので、子供が通える範囲は、仙台と言っても限られるのですね。それに対して、埼玉県は、幸いなことに、地域にもよりますけれども、一般的に通える範囲っていうのはかなりあって、これは公平性、代替性の観点っていうことだと思うんです。その選択肢の範囲内において、男子校、女子校、共学校がそれぞれ存在するということは、全く理に適っているということだと思っています。宮城県の状況とはちょっと違うんだと思うというところが、実際住んでたんで分かるんで、その辺もご認識いただけるといいのかなというふうに思います。以上です。

(G)

今、いろいろ聞いてて、最初、県教育委員会の方から教育活動に差を設けるつもりはないということで、共学化は、共同参画を推進する道具ではないよということをお話いただいたと思います。では、どうしていくかっていうところで、今ここで多分議論して出てくるのは、どうするのが見えない中でやっていくとなると、先ほどQの方が言っていた箱は共学だけど、実際は男子しかいません、女子しかいませんっていうのは実際あるわけで、具体名だと盛岡にある確か県立盛岡第二高校ってところがあるんですけど、こちら共学校なんですけど、女子しか通っていないんですよ。もう50年ぐらい女子しか通っていない共学校の公立高校。実際あるんで、そういう考え方はあるのかなっていうことを、Qの方に言ってもらってその手はあるよねっていうふうに思いました。

また、今回の話に来て、新聞報道を見ていると、県中心部の浦和高校とか名だたるところばっかの中でやっている取組だったので、どうしても一部の人がやっているっていう印象が強い中で今日来たんですけど、Iの方が、鴻巣女子高校とか具体名を出していただいたということで、本当にこれは大事なことだと思います。被害が起きるっていうのは、これは絶対ないとは言えない、悲しいけどあることで。そういうことのシェルターとして鴻巣女子高校の存在っていうのは自分も必要だと思っています。久喜にもありますけど。そういう学力ではない、シェルターとして。変な言い方ですけど、上尾市には上尾橘高校があるんですが、こういう高校がなんで必要かってなった時に、とりあえず中学を卒業して、親だって心配するし、本人だって高校は行きたい、でも、どうしたらいいんだって時に、そういうセーフティネットとしての高校っていう選択肢としての役割を上尾橘高校が担ってると思うんですよ。たまたま仕事で上尾橘高校の生徒と触れ合った時に、本当に失礼な言い方ですが、この子、本当に大丈夫かなと不安になっちゃうような子だった。でも高校生として学校行くわけですよ、電車、バスを使って、駅から遠いから。それでも学校に行く、社会として関わっていきたいんだと、そういう中でやっていくってなった時に、今皆さん、自分の子供が通ってるから、そうなってくると、浦和高校とか熊谷高校とか、春日部高校、浦和第一女子高校とか、そういうところに名前がちよっと出ちゃうから、自分みたいな人間からすれば、ちょっと上ずっているように見えちゃうけれど、そういった視点から見た時には、鴻巣女子高校とかそういうセーフティネットとしての別学、これは県教育委員会が言った教育活動に差を設けるつもりもない、男女共同参画で共学化を推進するわけでもないって言った時に、ここは警告

を受けても自信を持ってやっていくという、腹は据えてもいいのかなというのは思います。たまたま今回この議論の俎上に載っているところは、たまたま学力が上のところが集まってしまったがゆえに、変な格差を生む道具として、起きているんじゃないかと、そうなってしまっているのであれば、それは県教育委員会としてどうしていくか、別学はもう作る予定がないんだったら、共学の進学校で肩を並べるようなところを今ある既存校から、私立じゃないからいきなり学力に力入れますとかも言えないのかもしれないけれど、そういうのをやっていけばよいと思います。そのガラスの天井というのは本当はこれ良くない問題です。たまたま浦和高校が埼玉県立高校でトップが故に、浦和高校行っちゃったから、男子が上に見えるように見えてしまう浦和第一女子高校が浦和高校に勝てないってなってしまうたら、ガラスの天井になってしまう。それを回避するために私立都内へ行く。そんなことやっていたら、埼玉県の教育としてももったいないだろうし、そこは県教育委員会が、ただ共学化を進めるではなくて、別選択肢を設けるというところで、これは考えられる選択肢を県教育委員会も考えていて、ただ共学ではなくて、そういうところを作っていけばいいのかなというのは思いました。以上です。

（依田 高校改革統括監）

時間が残り僅かとなってきましたが、この後、選択肢の話であるとか、学校の特色の話とか、そちらの方にも話を向ける必要があるのかなとは思ったんですが、とりあえずこのまま行かせていただいてよろしいでしょうか。それでは、進めさせていただきます。

（K）

先ほども私は県外出身ということだったんですけど、実は浦和高校、浦和第一女子高校が県外から見ると男女別学だったんだというような思いしかないんですね。実は、箱物っていうことで、高校の方も箱物なんだろうなっていうこともありまして。ただ、埼玉県に住んでる方も思いを聞くと、浦和高校、浦和第一女子高校、レベルの高い高校ですけど、いろいろな指導方針があって、いろいろな先輩方の思いもあって、様々なところで築き上げられている高校なんだろうなってことを、県内で初めて住んでみて知ったっていう思いもあります。ただ、先ほどGさんがおっしゃっていたように、やはりレベルの高い高校だけ別学で残すというのではなくて、うちの近所には鴻巣女子高校もありますし、また県北に行くと熊谷女子高校もあります。やはり公立高校に行きたいっていう子供はいると思うんですね。その中で別学に行きたいけれども、レベルが高いから自分は無理。埼玉の高校受験の仕組みが私も全然分からなくて、私立に行かしてしまった方が早いとか、中学受験させてしまった方が、手っ取り早いなということで受験をさせてしまったんですが、子供を受け入れる受け皿っていうものをもうちょっと広く持ってほしいっていう思いもあります。また多くの子供が生きにくい社会にはいけないなっていうこともありまして、子供に選択肢をたくさん与えることが大切だと思います。埼玉の私立とかだと、確約制度というなんかよく分からない制度があって、ほかの県の人から見ると、何それっていうような、業者テスト、何それっていうような思いなんですね。そういうところから、毎月毎月業者テストを受けて、学校の説明会に行って、今の成績こうだから確約くださいねっていうような社会って、私の中ではちょっとおかしいと思うんですね。これから埼玉県も受検制度がどんどん変わってくっていうことも聞きましたので、そのような形で、差別のない教育っていうのは本当に必要なもので、その部分を埼玉県教職員の方も、すごく自信を持って、埼玉県は別学で良いんだとか、そう

いう方向で、別学ということをお子さんが希望しているのであれば、そのような方向で考えを進めていただきたいと思います。以上です。

(L)

議論が戻っちゃうところもあるんですけども、男女共同参画って、男女が共同で何かをするっていうことに対して、男性と女性が全く同じことをするっていうわけではなくて、男性と女性がそれぞれの特徴っていうのをちゃんと認識して、違いをしっかりと把握して、協力できるところを最大値で協力して良い世の中を作っていこうということなんだと思うのですけれども、高校の3年間で別学の学校に入った際に、男子は男子、女子は女子のベストの状態、自分たちの限界はどこなんだということを認識することができると思うんですよね。その限界、自分たちはここまでできる、自分たちはこれはちょっと苦手だっていうところが認識された状態で、再び男女が一緒になった時に、一番高い質同士で共同することができるんだと思うんですよね。なので、共学で学ぶことを否定してるわけではないんですけれども、別学で学ばっていうと、なんか男子は男子で、女子は女子でこう離れていっちゃうようなイメージを持たれてる方が結構いらっしゃると思うんですけども、そうではなくて、しっかりと人と人との違いを認識して、その違いをちゃんと埋められると、ベストな状態で埋められるっていう状態が別学っていうのはその機能があるんじゃないかと、私は思ってるんですね。

県教育委員会でも、共学化の今の問題点として、男女の役割が自然にこうすみ分けられてしまっているっていうのが大きなデメリットだっているのを認識してるとお話が以前あったと思うのですけれども、それはそれで、今後、解決していく課題にはなると思うのですけれども、どちらもメリットとデメリットが存在するので、共学一本化にするっていうことは必ずしも男女共同参画に進んでいくっていうことにはならないのと思っています。

別学があるのがもう数県しかありませんので、無理な話なのかもしれないですけども、別学と共学でどういう特性が出てくるのかとか、どういうパフォーマンスが出てくるのかというのをむしろ別学がある状態の時にデータみたいな取って検証してみたらどうなのかなってことだったりするんですよね。どこをエンドポイントにするのかというのはすぐには分からないんですけれども、そういったものもやれるといいんじゃないかなって一つ思ってます。

あと、先ほどGさんの話にありましたけど。浦和高校が今一番高い学校だという認識が、伝統があるので、そういう認識がされてるんだと思うのですけれども、実際、おそらく共学の大宮高校がもう浦和高校と肩を並べていると思うんですよね。現役の難関大学への合格はもしかすると、もう大宮高校の方が上なんじゃないかなと。大宮高校の中でも理数科というのがあって、そこはもう抜いていると思いますね。共学校の中にもそういったところが県教育委員会の中でも努力をされていて出てきているんですよね。共学されいてる学校の中でも、そういったところが、今後も多分出てくると思いますので、その問題というのは、おそらくクリアできるんじゃないかなと思います。県教育委員会の方で頑張ってください、並んでいる状態っていうのがだんだんできていくので、それはあまり問題ないんじゃないかなという気はしています。

(D)

すみません、時間を超えてるところ申し訳ないです。今日お話を聞いて、非常に大変勉強になりました。ありがとうございました。

おそらく別学維持したいという方々の趣旨はよく分かるんですけども、小中の義務教育も別学にしようと思わないですね。高校３年間だけ、なぜ別学にするのかっていうのは私の中でどうしても、私が共学なので違和感があるので、もう少し納得できるような理由について示していただきたいというのが一点です。

それから、別学に通わせてるにもかかわらず、私だけ共学の方がいいと思ってるんですけど、多分この急激な少子化の中で、おそらく高校もかなり統合してきて、息子の高校もおそらく統合みたいな話が多分出てくる可能性が十分ありえて、最後に残ったのが浦和高校、浦和第一女子高校みたいな。そこになる前にやっぱり県民の決断として総合的にぜひ考えてほしいなと思います。以上です。

(F)

今日こういう機会に皆さんの貴重な意見を聞くことができ、本当に有意義だったと思います。これだけたくさんの意見があって、それは今後の行政というか、教育行政に反映っていうのはどういう形でされていくのかっていうのが知りたいのと、あと、こうやってお話しすることによって、分かったこともたくさんあると思うんですね。実際に、教育委員５人いて、教育長が一人いらっしゃると思うんですけど、その方と話す機会っていうのは設けることは可能ですか。というのは生徒が、部活に勉強に忙しい中、一定の想いを持ってこういう会に出てきたり、署名やったり、ウォーキングもやったりとかしてるので、その思いを直接伝える機会をぜひ作っていただきたいです。教育委員の方５名、教育長、大野知事が最終決定権者だと思うので、そういう機会のアレンジをぜひお願いしたいと思います。

(依田 高校改革統括監)

おそらくもう１０を超える県教育委員会へのご要望やご質問があったんですけども、なかなかお答えする機会がありませんで、申し訳ございませんでした。

一方的な最後の話になってしまうかもしれませんが、いくつかの点で、県教育委員会の考え方についてお話をさせていただいて、締めくくりとさせていただきたいと思います。

先ほど、簡潔に県教育委員会はこういう考え方だという方をお話させていただいたんですが、さらにその後いただいた意見を踏まえてお話をさせていただきますと、男性と女性のその特性についてですが、男性と女性の特性は、ある部分もあるし、ない部分もあるということはこれは事実だと考えております。一方で県教育委員会は、その特性に基づいた教育を進める考え方を持ってはいません。男性、女性の特性よりも、先ほどもお話がありましたが、一人一人の個性、特徴に合わせた教育を優先したいと考えております。男性でも、例えば女子校の行事に参加したい人がいる、女性でも男子校の行事を好む女性がいる、そうした一人一人の特徴、個性というものを考えながら、生徒と教員が学校の教育活動、校風、伝統を作り上げていくものだと考えております。

もう一点、選択肢ということと、広い受け皿というお話が皆様からありましたが、県教育委員会は、男子校、女子校、別学校の意義は、今日、皆さんからお話いただいたお話は十分理解をしております。また今日のお話も十分受け止めさせていただきます。それは一つの学校としての男子校、女子校ということが特長というものは認識しておりますが、県教育委員会はその選択肢という部分で、例えば農業であるとか、工業であるとか、普通科の中でも特色のある普通科といった、学びの内容と、個人の希望と能力に応じた選択肢というものを県教育委員会は優先的に考えております。

別学の意義は理解をしておりますが、今後の少子化に当たっての、高校の再編整備などを踏まえると、私どもは主体的に学校の再編を進めておりますので、共学校と同様に別学校も、今後の再編整備の対象となっていく必要があるという考え方で、主体的に私どもが今後の共学化も学校任せにしないで進めることとしたところです。

その他、様々多様なご意見をいただいたところです。最後、今後どのように生かしていくのかというお話もありましたが、どのようにということではっきり申し上げられることはありませんが、私が県教育委員会を代表して皆様と意見交換をさせていただいております。教育委員5人も、日吉教育長も全く私と一緒にございます。私が話した内容が県教育委員会の考え方でございますし、私が伺った皆様の話は、しっかりと教育委員全員で共有をして、今後の県教育委員会の事務の参考とさせていただくこととしますので、そこについてはご安心、ご理解をいただきたいと思っております。

時間がオーバーしてしまいまして、進行が悪かったと思います。^{かっかそうよう}隔靴搔痒の部分も皆様お感^{かん}じな部分が多いと思います。この後アンケートなどでそのような部分をお示しいただければ、今後こうした様々な会を持つ上での参考にさせていただきます。また、時間の関係上、言えなかったことなどもありましたら、そういったことも含めてご記入いただければ、そういったことも含めて全部教育委員と共有します。

(保護者・発言者不明)

教育長には会えないということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

会えるとか、会えないとかをここでは私は申し上げないです。ただ私がお話することは教育長と一緒にだということをお話申し上げました。

(F)

そういう要望があったってことはお伝えいただけますか。

(依田 高校改革統括監)

もちろんです。あの、今日皆さんがお話いただいたことは全て教育委員全員に、共有をいたします。

(F)

フィードバックもできればしていただきたいです。どういう形になりそうですか。

(依田 高校改革統括監)

フィードバックという形では難しいんですが、県教育委員会で報告をして、教育委員の方に伝えるようにいたします。

(保護者・発言者不明)

要望の結果っていうのは、私たちに開示されるのでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

結果というものはないです。

(保護者・発言者不明)

では、質問しっぱなしってことですか。

(依田 高校改革統括監)

意見交換を参考にさせていただくので、結果として、今後別学が残るのか、それとも別学の中で共学になる学校があるのかが結果になってくるとは思いますが、これが直接的な結果になるわけではございません。様々な所で意見交換をしたり、様々なお話をしている中で総合的に勘案していきますので。

(H)

私たちの声が届いたっていう事実だけは、教育長には伝わるということですよ。

(依田 高校改革統括監)

今日の議事録も全部全て読んでもらいます。私の方も直接、全員と話を何度もしたいと思っています。

(H)

知事には、この話は行くのですか。

(依田 高校改革統括監)

知事は県教育委員会ではございませんので、知事に、どうするのかは私の方で判断をしますが、知事は直接的にこの件については関係をしておりません。学校の教育内容は、県教育委員会が責任を持っております。

(O)

意見交換会が一通り終わりましたが、この後、県議会の教育部会とかがあると思うんですけど、そういった中で、今回シェアした意見とかは当然、発表された中で議論をされると思うんですけども、今後の予定の中で、共学化の推進について、県議会で議題になるのかといった予定はあるのでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

私が今伺ってるところでは、そういうような議題になっているという話は、私は伺っておりません。そこは議会の判断になります。

(O)

県教育委員会の方から、意見交換会をやりましたよということを、教育部会の方々にはシェアされるということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

文教委員会というのがありますが、今回こういう意見交換会があることについてはお話ししております。ただ、議会ですので、私どもが議会で、進行役を務めているわけではござ

いませんし、議会の議事、議題、報告内容も議会が何をしたいかですので、そこは議会次第です。

(○)

できれば、その我々が、今後どういう形で進むのかのプロセスが見える形にさせていただきたいので、県教育委員会が発表するとか、県議会に出すとか、そういった共学化推進に向けた形を、どうしていきたいのかを出していただければ、発表という機会を県教育委員会で作っていただければなと思います。

(依田 高校改革統括監)

県議会については私がお話をできることはないんですが、県教育委員会については、なるべく開示をして、見える化を図っていくように考えております。

本日はどうもありがとうございました。

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会（県内在住の方の部）

1 日時 令和7年8月23日(土) 13:30～16:00

2 場所 県民健康センター 中会議室

3 参加者 17名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

それでは私の方で進行をさせていただきます。先ほど司会からありましたように、今日お集まりいただいた皆様から自己紹介を可能な範囲でお願いをします。その上でお一人お一人のお考えについて、簡潔にお話をいただければと思っております。それでは始めさせていただきます。

(A)

母校の同窓会の役員をしております。大分卒業して経ちましたけれども、同窓会の会議のために定期的に母校に出向くことがあり、生徒の様子も拝見しています。私達の立場としては、ぜひ別学維持をしていただきたいということです。

特長のある学校づくりを進めてくださっていて、今回も丁寧に意見を聴取していただいたりして、大変ありがたく思っていますけれども、別学校は伸び伸びと、男の子はこうだ、女の子はこうあるべきだということから解放されて、とても生き生きと活動してる様子を拝見しています。今は、文化祭の準備をしていますけれども、もちろん、女子だけで畳を運んだり、大工仕事をしたり、それから当日使う電気の量を全部割り振ったりとか、男性の力を借りたのかなと思うようなことも、女子で全部やり抜いています。そういう意味では、自然にバイアスがかからないで、自分たちでやっていく力が、付いているのかなという気がします。

それからもう一つは、思春期の多感な時期ですので、高校生という一時期は、異性がいるのを辛く感じるような方もいらっしゃるのではと思います。私の女子校、女子大学の友達も、小学校を卒業して早く女子だけの学校に行きたかったと話していた人もやっぱりいるんですよね。そういう人も、今では、団地の大規模改修の役員をして、大きなことに関われるのも楽しみと話しています。

それから、中、高、大学と10年間別学で学び、「大学を卒業する時に、男性にできて女性にできないことは何もないと思って卒業した」という友人もいます。そういったたくましい人もいますので、別学の良いところもあると思いますので、ぜひ選択肢の一つとして、残していただけたらなと思っています。

(B)

私自身は共学に行っておりました。夫そして四人の子供が別学ですね。三人息子、そして娘が一人おるんですけれども、家族の中で共学は私だけで五人とも別学です。私自身の経験

としては想像の域なんですけれども、子供たち、夫の意見を聞いてまいりましたので、今日はですね、その辺の話を交えてさせていただければと思います。

私自身としても家族に聞いたら別学が良いと言っておりましたので、やっぱり男子と女子の脳の違いがあるので、その辺のことを鑑みると、例えば、息子は塾講師をしておりましたが、その時に、特に国語の教科は、女子に教える時と男子に教える時とで教え方を変えたっていう話も聞いてきておりますので、その辺のところを話していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(C)

私は生まれも育ちも埼玉県です。独身でここまでやってきました。女一人で頑張ってきたと思っております。今は、東京に住んだり、海外に住んだり、自由に生きさせていただいたのは、今、改めて思うのは日本は、本当に平和で外国から尊敬されている国です。だから、私はこれまで自由に生きてこれたんだなと思っております。

これから残りの人生はなんかどうにかこの国とか地域に何か恩返しをして生きていきたいなって思っていた矢先に、こういった共学化の話がありました。遡ってその前から、LGBTとか、諸々、埼玉県の左傾化というところに関して、久しぶりに日本に帰ってきて、埼玉県どうしちゃったの、何が起きてんの、っていうのが正直な気持ちでした。

今までそういうことに一切ノータッチで政治のこともノータッチで興味もなかったし、どうせやったら何も変わらないしと思ってきたんですけれども、そのままじゃいけないよね、だって、自分の住んでる街がどんどん生きづらくなってる。多様性って言いながらマジョリティが生きづらくなっている街になりつつある。それって民主主義なのって思っています。

もろもろの事が、いくら声を上げても、選挙の公約にさえしていないことが、どんどん県議会で決められていって、声を上げてもガス抜きとしか意見として受け取ってもらえていない県の方で。次は何かと思ったら、浦和高校を共学にする、何なのだろうと。私からしてみれば、浦和高校は本当に憧れの高校ですよ。浦和高校の人と付き合いたい、そんな感じですよ。私が高校の時に思っていたのは、やっぱり自慢ができる高校で、他の人からも、埼玉県で浦和高校と浦和第一女子高校があるよね、すごい伝統があって良い学校だよと皆さん揃えて言ってくれます。私の地元にはすごい立派な学校があるんだなって、改めてこの歳になると思っていて、それを無くす、何の冗談の話かと思いました。

いろいろ調べたら、汚い紙の一言、なんだか日本語が通ってないような紙で、女子が浦和高校に行けないのは差別がどうのこうのと。たった一枚の紙で、マジョリティの意見がひっくり返る。これはいかんと思って、私は独身で子供がいませんけども、未来の日本の子供たちのこれからを憂えて、本当に胸を張って生きてほしい子供たちに、そして住みやすい日本をこのまま本当に守っていきたくて思っていて、まずは選択として、共学と別学があって好きな方に行ける、それが多様性だと思っております。それをどうにかして、守ってあげたいな、後ろにいる子供たち、この日本を背負っていく埼玉県の子供たちのために守っていただきたいなって。なんか大層なこと言っているんですけど、そういう気持ちで今日は来させていただいております。明確に反対です。以上です。長くなりました。失礼いたしました。

(D)

私は、元県立高校の教員でした。

出身高校は、県北の外れの共学校です。教員として勤めたのが合計9校ありまして、最初に臨任教諭っていうんで、人が足りなくてという時に、熊谷女子高校に行けと言われました。

その前に実はいろいろな経緯があって、免許状がないのに免許状なんていないから、すぐ浦和高校に行って数学を教えろと教育局に言われたんだけど、そういうのを断っていたら、川越高校の話も断っていたら、とりあえず熊谷女子高校に行けと。そういうことから始めて、熊谷女子高校に行ったら20時間の授業を！ということで。行ってみたら、そういう経歴の人が来るという事であれば、私たちは教えられないとなって、教えていた先生がみんな逃げちゃって20時間の授業を持つことになりました。次に浦和市立浦和高校に6年、県立浦和高校に15年、それから新設校で狭山経済高校、和光国際高校、それから教頭で三郷北高校、伊奈学園総合高校、それから校長で羽生高校、最後は越谷北高校でした。

それで定年になって、教育界にいるのは拒否しまして、いろいろ話があったんですけど、他のことに生活やっています、過去の学校に、それぞれ思い入れてやったんだけど、先輩面して、校長とかそういうのに会うということも一切しないで。教員関係で付き合っているのは、退職校長会の囲碁の集まりで、私が一番強いもんですから。人数は少なくなりましたが。昔はメンバーが30人以上いたのが。集まるのがたった6人ぐらい。若い人が全然入らない。

そういうふうに教育関係の人ともほとんど付き合っていないんですけど、今付き合っているのは、高校の同級生。食事会をやったり、今度9月にやるんですけどね、15人ぐらいで集まってやってるんですけどね。男性が8人、女性が7人ほどです。

あとは、浦和市立浦和高校の担任をした、私より6歳年下の生徒が私を囲む会などもやってくれたり、浦和高校の卒業生、これが一番多いですが、いろいろな関係で呼ばれて話す、あるいは一緒にご飯食べるっていうのがあって。後は学校関係では、25年前に退職したのに、越谷北高校のPTAの方々が、私が妻を亡くしたもんだから励ます会っていうのを去年、今年とやってくれています。

実は教育関係のことを退職後はほとんど知らないんですが、今話した交友関係の人は、ほとんどがですね、今のままの体制を残せ！と、こういう意見です。私の出身校の友達もみんなそうです。

私は、共学が良いとか、別学が良いとかっていうことにね、元々、こだわらないんですけど、今でもそう思ってるんですけど、勤めた学校の経験からすると、どの学校もね、特色があってね、女子校は女子校、男子校は男子校、浦和市立浦和高校は経験の中で一番良い学校だと思うんだけど、最後の学校も共学で理数科がありましたけどね、それぞれ工夫して、良い学校なので、長い歴史と伝統もあるし。それを他所から、意見言われて変えろ！っていうのには反対なんですよね。そういう意味で、共学化には反対なんです。今の一律共学化にする！っていう意味はね。

一つだけ申し上げますとね、私は高校というのは大学進学だけが問題じゃなくて、全人教育が問題なんだっていうのが基本的には思っています。部活動の問題もあるしね。しかし、データとして集めることができるのは、進学成績しかないんです。数字で言えるのが。それでサンデー毎日で、いわゆる難関大学にどの学校から何人入ったっていうのが毎年出てるんですけど、それで集計してみると傾向がはっきりしてるんです。東京都が一番激しいんだけど、都立は学校群制度以降没落して、凋落に行ったんだけど、なんかいくつかの学校だけについては、特別な対応をして、やや生き返ってきたってのがあるんだけど、都立は人気なくて私立になってる。圧倒的にね。それで私立の中でも、共学と別学があって、有名校は大半が別学なんです。だから大きな、都市部の流れは、公立は信頼を失って私学にシフトして、住民とか中学生はね、しかも、共学でなくて別学という大きな流れが、そうい

うふうになっている。埼玉もいろいろな事情で別学が残ってきたんですけれども、それを廃止するっていうのはなんか間違いじゃないかなって思います。

(E)

元埼玉県県の県立高校の教員です。

お隣のDさんの話を共感を持って聞かせていただきました。ただ、私は共学化に賛成です。働いていたころも、今、外国人の子供たちの学習支援をしておりますが、今も共学化に賛成しています。共学化に賛成する県民の声は大きくないんですけれども、埼玉県内に多数いることを県の方に是非聞いていただきたくて、参加することにいたしました。

現場で教員をしていました時に、別学でも勤務経験がありますし、どの学校でも気持ちよく仕事をさせていただきましたが、公立高校では、性別は入試の受検資格に入っていません。15歳以上で、埼玉県の場合は県内在住であって、そして中学校を卒業していること、それが受検資格になっております。性別要件はありませんし、願書にも性別欄はありません。大体20年くらい前から、受検番号も男女別に番号を変えることもしておりません。入学者選抜においての合否基準にも性別は一切ありません。学校では、性別が生徒の進路、合否に関わらないように、非常にセンシティブにやっております。ところが一方では県の方の正規の受検資格にはないにもかかわらず、募集人員の段階で、男子をゼロとか女子はゼロという県立高校があるのは、やはり法律としてどうなんだろうかと。公権力が公共サービスを提供する時にやはりそこで性別というものを出していくことは、やはりおかしいんじゃないか、法律的にも問題です。本来これは、1949年の高校改革の段階でクリアすべきだったんですが、伝統という名前で来る中で、やはり愛着もありますし、いろいろな事情は分かりますけれどもどうなんだろうかと思います。

次に、男女共同参画の問題として、昨年の内閣府の男女共同参画週間のスローガンは、「誰でもどれでも選べる社会を」となっております。実際は選べるんじゃないくて、チャレンジできるところということですが。

実は、これの資料は、昨年、「埼玉県の公立高等学校入学を希望する皆さんへ」という、総合教育センターが中学生に配っていた資料なんですけれども、この中にも、「県内どこに住んでいても全ての県公立高等学校に志願できます」とあります。それが毎年毎年配られていた。全県一律になってから、それが当然だっという感覚が受け取る生徒も、配る中学校の教員も、実はあるから配ってきたのかなと。これはある意味で男女共同参画の基本に即したものです。

埼玉県は、全国で一番最初に、埼玉県男女共同参画推進条例を作った県なんですね。誇るべきことだと思います。

2002年の最初の勧告の時には、条例は出たけれども、まだまだ、私たちの間に十分浸透していなかった。今、正確な理解になってるかどうかは、まだまだ微妙なんですけれども、私個人としなくても。男女共同参画って言葉も、ジェンダー平等という言葉も、人々の意識に確実に入り込んできています。そういう中で、やはり長年の伝統であるからといって、例えば今、おっしゃった本当に進学実績で全国にその名がとどろいている高校に女性はチャレンジもできない、それは不合理なんじゃないかなと不公正なんじゃないかなってというのがあります。

あと、性の多様性の観点です。別学校ができた当時においては、性別は男と女の2種類しかないというのが当たり前のこととされていまして。また、男女は同権である平等であるという意識のない時代に、それでも学びたい女性の学びを保障するために女学校があり、普通

科は旧制中学しかない、それが出発点としてあります。今、実は性別は男女に二分できずグラデーションであることが分かってきています。だからこそ、某男子校の共学化の問題を話し合う同窓会の中で、同窓生たちの中からも、「性の多様性を分かっている現在、やはり別学校の存在意義はどうなんだろうか」という意見が出ています。その意味でも、誰でも受検できる共学化という方向に、県教育委員会が舵を切ろうとされていることに賛成しています。そのことをお伝えするために参加させていただきました。

(F)

私自身は関西出身で25年ほど前に埼玉県の方に主人の転勤でやってまいりました。子供たちは長男は男子校を卒業して、次男は私立高校を卒業しました。よろしくお願いします。

私自身、魅力ある高校についてというのを考えさせてもらいました。変えんでええもんは変えんでええ。私は別学は必要であると考え、3点をお話させてもらいます。

1 埼玉の公立高校は自分の行きたいところに行ける。しかも別学があり選択できるというのがとても魅力的で素晴らしいです。埼玉の公立高校が人気のある理由だと思います。私の住んでいた地域では、今でも総合選抜制で校区によって、通う高校が決められていて、行きたいところに進学できません。それゆえ、公立高校は人気がなく、私立の高校へ進学する人が多いです。それゆえ、魅力があると全国からも言われている伝統のある進学実績も高い人気のある別学校をわざわざ共学にする必要が全く分かりません。

2 異性と関わるのが苦手な人にとって、共学校で思春期の盛んな時代を3年も過ごすのはとても苦痛だと思います。それゆえ、別学という選択肢はとても素晴らしいです。人生100年時代、高校の3年間だけ、男女別の学校生活を送るというのはそれほど問題があるのでしょうか。私立高校でトップと言われている学校は全て別学です。もし全て共学化してしまえば、県立の魅力ある別学高校に通うはずだった生徒たちは、無償化された私立高校に当然流れてしまうと考えるのが自然です。

3 共学化の議論はジェンダーどうとの視点だけではなく、共学化することで学校の教育目標や教育課程、伝統的な行事がどうなるかを考えた上でしていく必要があります。共学化して果たしてそれらがうまくいくのでしょうか。100年以上続いた伝統はとても重いものです。別学校が存在し続けることは、社会全体にとって意味のあるものだと思います。変えんでええもんは変えんでええ。でも変えねばならぬものは変えていく。令和8年4月からの八潮フロンティア高校のビジネス探究科などはとても良いんじゃないかなと思いました。

未来を作る子供たちに未来を育てる私たちができることは、子供たちに共学、別学が選択できるように魅力ある別学校を残すことではないでしょうか。ぜひお願いします。

(H)

私は男子校の卒業です。

まず、勧告書を読まさせていただきました。当県の別学校出身者は、すべての段階及びあらゆる形態の教育における男女の役割についての定型化された概念を持っているとして、人格形成からも問題であるとまで書かれていまして、男女共同参画を標榜する現代社会では害悪であり、存在してはならないと言っているようにも読み取れました。

さらに言えば、共学校出身のOG、OBにはこういう概念の持ち主はいないと言っているのに等しいと。これは自分を含めて全ての当県の別学校のOG、OBひいては在校生を侮辱するものであり、甚だ心外であります。ここまでおっしゃるのであれば、きちんとした調査の上の統計に基づいたエビデンスを明示していただきたいと考えます。

また、相当数の文字数を使って教職員の男女の構成比について言及がありますが、それは別学、共学を議論する上で何の関係もないものだと考えます。あくまで県立高校の人事の問題にすぎません。そこにこの話を接続すること自体、全く的外れだと思います。

大変恐縮ですが、自分について述べさせていただきます。自分が別学校を選んだのは、異性の目を気にせず学習に没頭できる環境が欲しかったからです。長い人生のうち、たった3年ですが、こういう貴重な時間は必要だと思ったからです。加えて言えば、異性のいない環境に置かれることで、その異性がどれだけ重要で尊重しなければいけない存在であるかということ客観的、俯瞰的に見ることができ、社会人としての基礎づくりの場として、とても貴重な時間であったと振り返ることができます。

もう大昔の話になりますが、異性が苦手というやつ、それから同性の方が好きだという今でいうジェンダーレスのやつも実際にいました。今は多様性の時代です。進路というものは全ての生徒の意思を尊重できるよう、複数の選択肢を設けるべきであり、共学しか選べなくすることがまさに時代に逆行していると思います。

しかし、この問題の発端とされる男子校に入りたい女子が本当に存在したのでしょうか。今の子供たちはとても冷静で利口です。このようなおかしい意見を県に苦情を入れるなどということはちょっと考えられません。どう考えても当県の別学校に対して、コンプレックスを持ち、極端な偏見を持つ、ごく一部の大人の策略ではないでしょうか。重要なことは、当県の別学校が排出している人材が、現代の男女共同参画を推進している立場にたくさんおられるということです。事実、この勧告書の筆者の中にもいらっしゃいます。つまり何が言いたいのかといえば、男女共同参画推進に対して、別学校の存在は決してマイナスではないということです。

中学3年生という多感な時期に、自分の行く道を選ぶことはなかなか大変だと思います。しかし、大人はそれを強制してはならないと考えます。選択肢を揃え、彼らの自由で自発的な発想、まさに人格を尊重することが何より大切だと思います。以上です。

(I)

私はですね、男子校のOBというぐらいなんですけども、最初に勧告の話を見た時にですね、先ほど話がありましたように、男子校に女子が入れないことだということで、私が気になったのは、逆に今回の勧告に関して男子がそういう女子校に入りたいと思った時に、それは何とかしてくれるんですかっていう。私個人としては自分の母校がそのまま残ってくれた方が良くかなという意味で、今回別学に関しては、個人的には反対を標榜してます。

ただ、今の子供たちがほぼほぼもう共学でいいんじゃないかっていうのであれば、それは時代の流れとして仕方ないかなと思うところもある種あります。ただ、アンケートの結果とかを軽く見させていただいて、それもないなっていう所感なんですけども。

その中で、今回、自分もですね、学校のOB会とかで反対を一緒にしませんかみたいな案内が来たりして、自分の周りの意見がですね、皆反対ばかりでですね、賛成の意見を聞くっていう機会がなかったので、今回この場で賛成の方がどういう意見をお持ちで、それと自分の意見ということで、どっか歩み寄れるところがあるのか。方向性を決めるという意見交換の場で、自分も埼玉県民としてですね、また、別学校のOBとして、僅かでも貢献できるところがあればと思い、今回参加させていただきました。

(J)

よろしくお願いします。私は、現在、埼玉県のと時的任用教員としてやっているんですけども、埼玉のと別の出身です。その中に同僚の先生方に、別の出身の方もいらっしゃるんですけど、皆さんから話を聞くと、今のままの方がいいという意見があります。私の自宅の近くに、春日部高校があります。男子校とか女子校に特に疑問を持ってはいませんでした。男子校、女子校のままで残していくっていうのは私自身は今のままでいいっていう考えです。仮に共学になったとして、そのままでどうせ駄目でしょうし、また共学になったからといって、例えば春日部高校に女子が入学してくるんだらうか、春日部女子高校に男子が入学してくるんだらうかっていうことはなかなか考えづらいですね。私としては、現状維持で良いと思います。

(K)

私、男子校を卒業いたしております。当時の高校を選んだ理由は男子校であったからであります。中学時代の自分を振り返ってみて、同じ教室で女子がいる、非常に、女子の目を気にした堅苦しさがありません。高校は絶対男子校を選ぶんだということで、私立も全部男子校を選びました。男子だけの環境は非常に心地よく伸び伸びした環境でありました。埼玉県には伝統的に県立浦和高校を筆頭として、川越高校、春日部高校、熊谷高校、浦和第一女子高校、男女別学校の名門校のピラミッド構造があるわけです。その下に共学校が存在しておりますが、最近、共学の大宮高校がすごく躍進しておりまして、県立御三家などとも塾業界では称されておりますが、県立浦和高校、県立浦和第一女子高校、大宮高校、これらの高校が躍進しております。やはり、県立浦和高校を筆頭として、明治から続く、浦和高校は130年の歴史があります。我が母校も長い歴史があります。尋常中学校から戦後の学制改革で高等学校になりましてもう明治からの伝統校であります。大宮高校は今年100周年を迎えます。やはりですね、別学校は埼玉県のですね、いわゆる、ピラミッド構造になっておりますが、別学校は名門校が多く、いわゆるナンバースクールなわけですね。この体系を、これは別学があるから、男子、女子それぞれ能力を伸ばしている面が多いと思うんです。これが共学化されてしまったらですね、それぞれその学校の個性が失われてしまう。ちょっと言葉が悪くなってしまうんですが、女子は男子の足を引っ張ってしまう可能性があるんです。県立浦和高校の東京大学への進学はですね、男子だけの環境の中で育まれているものであります。これが女子が混ざってしまったら、県立浦和高校の東大進学率は明らかに下がります。浦和高校はですね、あれだけの東京大学の進学率を保つには、浪人を辞さない教育方針があるんです。浪人をして、高校3年間、エンジョイして一年浪人してでも東京大学に入ろう、こういう男子生徒の塊なんですね。共学の大宮高校は逆に現役が多いです。ですから自分のお嬢さんが浦和高校に入れないという苦情があったようですが、そこまで見てるんでしょうか。やはり女子のお子さんは、現役合格を望まれると思うんですね。それだったら大宮高校に進んでください。せっかく共学の御三家と言われている学校があるわけですから、何も浦和高校ですね、共学化する必要は全くないです。

我が母校もですね、男子高校の中で、非常に、女子が入らないですね、環境というのは非常にですね、能力を伸ばす意味でもこれ重要なんですね。これ女子が混ざったら絶対足を引っ張られます。進学が落ちます。これ明らかです。ですから、この伝統あるですね、県立の別学校、これ絶対に維持してください。

それと、今、私立高校でですね、男女別学校が存在してます。これ、例えば埼玉県も私立高校で別学校が存在します。ところが今、学費の面で言いますと、私立学校助成金ということで、私立とはいえ、かなり公的資金が入ってるわけです。それで学費の負担がかなり少な

くなっています。昔は私立高校は学費高くなってことで、県立に行った面があるんですが、今は高校無償化の路線ですね、私立高校といえ学費がかなり抑えられています。そういった中で、私立高校は共学化せよという方針が出ないのが不思議でたまりません。公的資金がお互いに入ってるわけですから、公立も私立も公的資金が入っているのに何故私立高校には共学化せよという指導が入らないのか。何故県立高校だけ共学化せよと。男女共同参画という金科玉条のもとにですね、公立だから、男女共同参画に従えというのはおかしいですし、私立にも公的資金が入ってるんですから、公教育を担う私学もですね、私立学校はそのままでもいいんですか。おかしいですよ。全然声上がってこないじゃないですか。私立高校も共学化せよ、こういう意見があればまだそうなのかなと思う。公立だけなんですよ。なんでですか、おかしいです。これアンバランスです。

それと例えば、我が母校は質実剛健、文武両道です。この校訓に女子が馴染みますか。質実剛健ですよ。どんな女子が育つんですか。校訓は絶対に崩したくありません。我が母校は長い歴史があるんで。校訓を崩してまで、共学化する必要は全くないです。母校は、1. 2 倍の競争率もあります。進学も頑張ってます。こういった学校ですね、あえて共学にする意味はない。それと、私、この前高校野球の夏の野球の応援に行ったんですけども、スタンドがもう超満員で、我々勝ちましたけどね。やはり母校の男の応援団と、男性の大きい、まあ、お母さん方もいましたけどね。やはり男性が多いですよ。野球の応援もですね、男の応援ってすごく良いんですよ。男の友情。すごく良いんですよ。私もなんか泣けてきましてね。良い学校出たなってことで。だからこういうのをね、崩してほしくないんです。応援のね、すごく良い男の友情を感じて、すごく良かったんですよ。これを絶対にですね。崩さないでください。明治以来の伝統を崩さないでください。もしも、男女共同参画の下に進んでおるので言えば、各校に選択権を与えてください。男女共同参画の下に共学を推奨しますが、ただ実現は各校に任せますと。こういう選択もあると思うんですね。絶対にこの埼玉県の良き伝統を崩しちゃダメです。

共学化するに当たって、例えばトイレを直すとか、いろいろ出てくると思うんですけども、そういうところにお金を使うのであれば、貴重な税金をインフラ整備に当ててください。学校の設備を直すようなところに、税金を使わないで、もっと公的なインフラ整備にお金を使ってください。

偉い先生が男女共同参画とおっしゃいましたが、私が在学していたときは、男の先生ばかりでした。女の先生が養護の先生と図書館の方ぐらい。生徒も男、先生も男。こういう世界です。ところが、今、女の先生が入ってきてるんですよ、別学校にもね。そういった意味では、教育の面では男女共同参画は取り入れてるんですよ。ただ、最後の砦、生徒は絶対に別学の方が良いです。埼玉県の良き伝統を守って、私立に負けないように。大野知事は男子校の慶應義塾高校ですよ。大野知事が一番男子校の良さを分かってらっしゃるんですよ。なんでね、共学に舵を切るのか全く分かりません。良き伝統を守って、公的なインフラに税金を使ってください。あと、各校の判断を優先すると。共学化された浦和第一女子高校に男子が行きますか。考えられないですよ。女子校が共学化して、男子が入るなんてことあり得ますか。私は、そういうとこに税金は絶対使って欲しくない。公的なインフラ整備、八潮市のああいふ陥没が起きないように、公的なところに税金を使ってください。よろしく願いいたします。

(M)

女子校出身で、同窓会役員を17年間務め、その後12年間ブランクの後、また2年間ほど同窓会の役員を務めております。相変わらず生徒ははちきれんばかりに生き生きしております。

私の考えをお伝えしたいと思います。私は埼玉県から別学をなくしてほしい。それが願いです。理由は大きく二つあります。

一つ目は、今、埼玉県は特色ある学校づくりを目指しています。まさに別学を残すということも、特色ある学校づくりのそのものの一つと考えます。

二つ目は、子供たちにとって選択肢を狭めないでほしいということです。共学の方が優れているとか、別学の方が優れているとか、という優劣の問題ではないんです。それぞれにそれぞれの良さがあるはずですよ。子供たちの声に寄り添う真の教育改革をお願いしたいのです。

少子化による教育行政上、たとえ別学校の数が減ろうとも、埼玉県が誇れる特色ある学校づくりの一環として別学校を残すっていうことは、埼玉県の財産でもあると考えます。以上よろしくお願いいたします。

(N)

私の意見はとにかく子供たちの意見を聞いてください。尊重してください、ただ、その一点です。

私には2歳の孫がいるんですが、孫の同期は70万人ですよ。我々の時代とは100万人以上違います。だからこそ子供は大切にされなきゃいけないし、子供にとって何が良いのかってことを真剣に考えなきゃいけない。そのポイントは子供の意見なんですよ。ですから、共学が良いのか、別学が良いのか、我々、大人の論議は、2歳の孫には、全くこんなことは分からないですね。ただ、孫が15歳になって、どういう状況が一番孫にとって幸せなのかと考えた時、その時の子供たちが、共学が良いよってなれば、それでいいでしょうし、別学に行きたいなということであれば、別学があってしかるべきだと思います。

私は東京出身なんですが、学校教育制度改革の被害者で、教育長のスタンドプレーで取り入れられた学校群制度、これが本当にひどい制度で、行きたい学校に行けるか分からないんですよ。群を受験するだけで、群に受かって、そこからまた行ける学校は勝手に指名されて。お前当たりだな、俺ははずれだなという馬鹿な話があって。先ほどの方がおっしゃったように、都立高校は目を覆う惨憺たる有り様になりました。この時に子供たちは学校群を望んでいたかといえば、当時の日比谷高校の生徒会活動でも大反対でした。最近で言えば、いわゆる宮城の名門校も子供たちは反対していました。にもかかわらずということで、全く大人の持論で子供たちの意見も聞かずに強引に進めるということに対して非常に憤りを感じています。私は、都立ですから共学です。娘は埼玉なんですが、残念ながら女子校に行けるだけの学力が足りず諦めて共学に行ったんです。女子校OGの方々の話を伺うと、それは素敵な青春時代だったんだらうなと非常に羨ましく思います。あえて個人的感想をいうなら、もう少し入りやすい女子校を作ってくれよということなんですけども、子供が減っていく中で、新たに何かをやるっていうのはとても努力がいることなんで、それは難しい。ただ、今あるものを失くした後に復活はもうこれは絶対できないので、これからの子供たちの中でどうしても別学が良いなって言った時に、受け皿というのはやはり残しておくべきだと思います。

埼玉県のパブリックコメントも読みました。パブコメで「共学化推進項目の全文削除」という意見に対しては、少子高齢化の中で、これはなかなか難しい問題だというような却下、Dランクをつけていましたね。ただ、その補足として、十分に意見を聞いてまいりますとい

うことで、お願いしたいのは、拙速に過ぎないでくれと。勝手な思いで、一部の声のでかい勢力が早めろと言ったからといって、今の日本にはその傾向があるので、嫌なんですけれども、今、この交換会の中でも、ほぼ意見の流れというのが見えてくるわけで、少なくとも、今は全校共学の時期にあらず、それは、今後も意見交換の機会を増やしていったって、全校共学が良いんだよという流れが起きてくるのであれば、そこで始めて共学を検討すべきではないかと。それも子供たちの意見としてです。既に、もう子供たちの会が始まっていますけれども、ぜひ共学を進めてくださいという意見は少ないように感じました。子供たちは別学も残してほしいという意見。極端な話、それが一人だけだったとしても、同じ問題なんで、その子の意見は尊重されるべきだと思いますから、断じて拙速に走らないでほしい、それだけをくれぐれもお願いしたいと思います。以上です。

(O)

よろしくお願いします。まず、この会のここまでも感想なんですけれども、共学化に賛成されている方はお一人しかいらっしゃらなくて、他の方、みんな反対なんですけれども、予めアンケートを取っていたと思うんですけど、ちょっと人選に疑問を感じたというか、ほとんど全員反対の方の意見を聞いてても、私あんまり正直言っても思ひようがないというか、ほとんど私の言いたかったこと全部おっしゃってるんだけなので。ここに参加させていただいた基本的な動機としては、自分と違った意見の方の意見を聞きたいなというふうに思って、参加させていただいたので、正直言ってここまでの話は全くつまらないです。別にそのとおりって思うだけなので。

ただ、せっかく来たので、私の意見を言わせていただくと、私は県立高校の教員を、44年間勤めまして、そのうち20年間を別学校で勤務させていただきました。女子校も男子校も経験しております。

どこの学校にも、必ず、この子はやっぱり別学に来てよかったな、共学に行ったら潰れちゃったんじゃないかなっていう子が一定数いました。それは男子校も女子校もです。なので明確にいじめられたとかいうのではないにしても、からかわれた、うまく馴染めなかったみたいな形ですね。別学校に来て、生き生きとして、まあ、逆のパターンもあったのかもしれない。それから私の知らないところで別の流れもあったかもしれませんが、私としてはそういうふうに思ったので、結論から言うと、別学校の維持をしてもらいたいというふうに思います。

それとは別の話として、発端となった苦情なんですけれども、苦情の開示されている部分だけを拝見した段階で、あまりにも漠然としていて、具体的にどういう事情があって、どうだったのかっていうの全く分からないので、あれだけ見ても判断のしようがないんじゃないかなと思っていたら、苦情処理委員から勧告書が出てきて、あれを読むともうあたかもその全国でも数少ない埼玉県公立の男子校数校がですね、我が国の男女共同参画社会の推進に大きなマイナス要因になっているかのようなんですね。さっきHさんもおっしゃいましたが、そこまで言うんだったら、ちゃんと数値的なものを出してくれと。例えば全国の都道府県の中で埼玉県だけが、男女共同参画に対する意識が明らかに明らかに低いとか。その明らかに低いことの原因は公立の別学校出身者の意見が明らかにマイナスしてるからみたいなことが出てきていれば別なんですけども。でもそんなこと出しようもないので。そういうことが明らかにあるのであれば、別に公立とかって言ってないで、国立だとか県公立だとか私立だとか全ての学校を共学化しなければ、男女共同参画社会の推進には繋がらないんじゃないのと思うんですね。数校しかない埼玉県の別学校を共学化したところで、その大きなプラス

要因にはならないんじゃないかなというふうに思います。そういう我が国における別学校がその男女共同参画社会の実現の足を引っ張ってるかどうかに関しては、鈴木宗男議員が政府に昨年質問をしていて、正式な回答としてはそうではないと。国立の学校で別学があるので、もしそうであるってことになっちゃったら大変な問題だと思うんですけど、そうではないと。別学が存在しているからって、世界の潮流である男女共同参画社会の実現にはマイナスにはなっていないというのが政府としての公式の見解だと思います。ですから、それをですね、しかもなんかよく分からない、事情の分からない苦情を処理したことで、ああいう答えを出すっていうことに、まず、疑問を感じて、もっと納得のいく事情があって、例えば生徒募集の問題であつたりとかそういう問題で、仕方なく共学化せざるを得ないみたいなことになるんだつたら、まだ納得できると思うんですけど、今の流れで、あの苦情とあの苦情処理委員の勧告で、分かりました、共学化しますというのは賛成できません。以上です。

(P)

私も、多くの皆さんと同じで、生まれも育ちも埼玉で、非常に愛着がありまして、皆さんのご意見、どれになるほどと伺ってきました。

私は二人子供がいますけれども、娘の方が共学、息子の方が男子校に行きまして、どちらも非常に良い高校でした。埼玉県の高立高校の素晴らしさというのを実感している者の一人です。

今日こちらに伺った理由ですが、私は研究者としてジェンダー平等などについて研究をしまして、先ほど世界の潮流という話がありましたけれども、世界の男女別学、共学についても関心がありまして、そういう立場からも、埼玉県のいろいろな方のご意見を伺いたいと思っております。

既に上がっている論点ですけれども、やはり私はジェンダー平等ということは非常に重要だと思っています。そして、子供たちの希望や自由に選択ができるという権利というのは一番大事で、だからこそ、埼玉県の男子校も女子校も共学校も選べる、今の状況というのは非常に素晴らしいと思っております。拙速な共学化には反対です。

ただ、先ほどどなたかがおっしゃいましたけれども、別学校は、成績といいますか、偏差値という言い方をしますと、偏差値の比較的高い学校に限られていますので、選択肢ということであれば、もうちょっと幅広く女子校、男子校が選べる方が理想的だと思います。しかし、今から新しく別学校を作るというのは、やはり、難しいと思いますので、せっかく今残っている女子校、男子校があるのでそれらは残すということでもいいのかなと思います。

先ほどから「苦情」の話が出ていますけれども、今回の苦情というのがやはり大人の一人の方の目線だけであるというのが問題であると思っています。中学生、あるいは、現役の高校生の意見を聞くことが大事だと思いますが、アンケートをされたということですが、そのアンケートで中学生に共学化についてどう思いますかと聞いても、現状では埼玉県のほとんどの中学生は共学校を受検して進学するのが普通ですから、そのようなことを聞いてもあまり意味がないですね。例えば、浦和高校に行きたい女子中学生がどのくらいいるかのアンケートは取ったことはないと思うんです。もしそれが、たくさんいる、ないしは一人でもいるということであっても、真剣に考える必要があると思いますが、子供たちの側から、子供の希望として、男子校に行きたいという女の子が、いるのかいないのか、まだはっきりと分からない状態だと思います。それで大人がいくら話をしても理想論に行くと思いますので、そのあたりの確認を、共学化を進めるということであれば、そこをきちんと調べていただきたいなというふうに思っています。以上です。ありがとうございます。

(Q)

県教育委員会の方、こういうふうに意見を言える機会を作っていただいて、ありがとうございます。

私は県民として、あと男子と女子の子供を持つ保護者として、本日参加させていただきました。県教育委員会による共学化の推進に賛成です。別学校の維持に、部分的に反対です。

詳しく説明いたしますと、男女っていうもので、大雑把に区切って男はこう、女はこうっていうものを埼玉県として、公的に決めるのは、今の保護者の感覚としては乱暴だと思われる。私も娘を育てていますが、お前んちの娘はこうだからこの学校にはいけないって言われた時に、ちょっと困るということがあります。どういうことかと申しますと、私は、男子校の卒業生でございます。母校は男子校であるんですが、そこに女子が入ってきても、全く問題ないと思います。

例えば、母校は、マラソン大会とかいって50キロぐらい走るんですけども、女子が来たら女子が来たで距離を調節するとか、そういう生徒に即した先生方の工夫っていうのは、別に女子が入ってきても、こなくても毎年、毎年、ちょっとずつやってるはずで、県立高校っていうのは変化し続けなきゃいけない。よりよく先生方は現場で工夫されていますし、女子が入ってきたら、それに合わせて対応すれば素晴らしい母校っていうのは別に変わんないというのが私の意見です。逆にですね、男子だけだったとしても、先生方は生徒一人一人にいろいろな細かい工夫をされているはずだと思うんですよ。それは男子だから女子だからっていうよりは、生徒は多様だから。女子が入ってきたら、別にそれに対して適切な教育をベストな教育をするっていうことが県教育委員会っていう公的な機関が考えるべきことだと思います。それを男子だからなんとか、女子だから何とかっていうのはちょっと乱暴すぎるっていうのは私の意見でございます。

県教育委員会に考えていただきたいことは、ランキングとかピラミッド構造とか、ヒエラルキーっていうお話であって、結局、県教育委員会としてはそういうレベルのことってあんまり言えないと思うんですけども、県民の側からすると完全に偏差値とか入るときの難易度とか、どういう大学実績を持ってるかっていうことに関しては、県民はセンシティブなので、トップの成績が良い側の学校が男子校の女子校だっていうところに問題があると考えて、私はそういう意見を持っていますので、浦和高校が埼玉県内トップだと、それで男子校だということになると、やっぱりジェンダー格差を再生産してしまうっていう可能性に県教育委員会は気を遣っていただく方が良くないんじゃないかと思います。

まとめますと、今子供さんがどう思ってるか、男子校、女子校卒業生の方がどう思ってるかとかということも当然あると思うんですが、それとは別に、県教育委員会としてどういう人を、高校生を育てるかっていう、未来のことを理念的に考えていただく必要があると思いますので、男女共同参画っていうこともありますし、ジェンダー格差っていうことを考えると、県教育委員会が男はこう、女はこうと決めてしまうような今の状態はよくないんじゃないかというのが私の意見です。以上でございます。

(R)

県立高校に勤めております。

自分の意見は別学反対、共学賛成。

0-100だから、そういうふうに言わざるを得ないので立場はそういうことです。

皆さんの今の時間を見て、同じぐらい喋っても大丈夫だと思うので、書いてきたものを読まさせていただきますと思います。

誰しも、自分の経験で自分の価値観で意見を言いますので、皆さんにとって不快にならないように気をつけて発言したいと思うんですけれども、先ほどのピラミッドだとか成績ってというのは、私は公立の教員という立場を表明しましたので、個人的にそう思っている、そういうことは言いません。

それから、私自身、男子校の卒業生でありまして、高校時代は結構、みんな強気な学校ですね。男子校のエリート校ですから、そういった中で育ってしまったので、自分も決して、良い人間だとは思っていないというか、どっちかっていうと、イケイケに近いのかもしれませんが、浦和高校内で共学化の報道で何か内部で議論があった時に、共学化を賛成の人に黙れっていう発言がありましたけれど、今日、発言を考えた時に、自分も高校生だったらそうやって言ったかもしれないというふうに思うくらい、そういう雰囲気は自分自身にもあることは否定できないっていう感じがします。

5点に分けて考えてきましたので、お話をさせていただきますけれど、1点目は共学化に賛成の立場です。別学の廃止です。これはオールオアナッシング、0-100なので、そういうふうに言わざるを得ない。しかし、とても自分の経験としても男子校は楽しかったです。素晴らしい学校だったと思ったし、今もその観点は変わりません。否定するつもりは全くありません。

2点目です。自分の語りになります。埼玉県東部出身なものですから、ちょうど校内暴力の時代ですね。父親は都立なんですね。東京だから共学なんですけれども、母も別学、弟、妹も別学です。理由は簡単ですね。成績が上位なので県立では別学しかないからです。

しかし、そうは言ってもですね、私、一つの例で、私は思春期だったので女性との付き合いが苦手だったので、実は男子校を選びました。入学時の自己紹介でその旨を紹介すると、クラス中がどよめいたのです。お前は変なやつだと、なんで男子校なんか選んだんだと、来たくて来てねえよという発言が非常に印象的だったんですね。

もう一つ、当時の高校の雰囲気っていうのは、あまり学校とか先生とか関係ない、みんな気が強く、すごい自信を持ってるのは、みんな勉強で頑張ってるからだというふうに思います。本当に切磋琢磨してました。大学進学で言えば、私の隣が早稲田、早稲田、東京学芸、外大、外大、早稲田、早稲田、立教、立教、明治みたいな。隣に座ってたのは明治を出て自民の国会議員やってますけれども、非常にそういう切磋琢磨してる環境だったので、みんなすごく自信を持って楽しかったです。

みんなからも学べたし、すごいと思いました。3年間本当に充実して個性豊かで良い友達ができました。でもそれが別学だったからなのかは分かりません。共学でも楽しかったかもしれない。しかし、いた面子はとても面白かったですね。

昔の人は別に浦和高校に対する競争意識はあまりなかったということがあります。女性との付き合いがないので、文化祭は燃えますし、交換会という名前の女子校との交流会も実施し、私自身も部活動で各校、女子校との交流をしていました。女性が学校に入ってくると、授業中も総立ちで窓際に並ぶというそういうこともよくあったわけですね。私ですから、そういうふうに捉えてですね、現在、別学の維持を言ってる高校生諸君も多いんですけど、私には強がりにも思えるんですよ。当時の高校生の時に、男子校は面白いけど、別に女子がないことに対してはなんでいねえんだよ、ふざけるなよっていう雰囲気の方が強かったんで、もうちょっと素直になった方がいいんじゃないか、高校生諸君、と言いたいところがございます。だから、当時、共学化の話題が上ったら在校生は反対したか。浦和高校だって15%

ぐらい、なんか賛成の方もいるような感じですけど。ただ、自分のこの楽しい学校がなくなるって言われれば、それはふざけんなと思うのはあるだろうと思います。しかし、私の隣の方が言っていましたけれど、どうして女子と一緒にもっと素晴らしい学校を作れるって発想にならないのかなってというのが残念なところですね。女の子と一緒に楽しんじゃえばいいのに。だから異性がいていいじゃん。こういうふうにして学校の中でなんないのかなって、誰か言わないのかなというところでございます。

3点目、やはり共学化というのは理念なので、理念理屈があるわけですよ。別学の今の伝統とか良さは、どうして共学化の中で活かさないのかなと。楽しい学校であることは変わらないんじゃないかなって思うわけです。この間、県教育委員会の方で行った意見交換会の報道を見てみると、生徒さんが県教育委員会の説明を聞いて、非常に勉強になったというふうに答えてるから、やっぱり子供たちに対しても共学化の理由、なんでなのかってことは、啓発をした方がいいだろうなというふうに思うところです。そして、これが私の意見としては決定的なところですけども、多様性が求められる時代になってるのに、男性、女性だけの学校を維持する必然性はない。つまり、多様性の一つの極である異性がいないということは致命的な問題だと思います。これはだから理屈です。別学校が楽しくないとかってことじゃない。そうじゃない。理屈としておかしいんですよ。駄目なんです。だって異性がいないんだから。多様性の時代に、多様性をだって守ってないでしょ。異性がいないっていうのは。それは決定的に駄目だと思います。

4点目、そうは言っても、私は県立高校共学校でしか勤務してないですけど、共学校だって同じですよ。ジェンダーギャップはものすごくあって、何も解決されてないですよ。男の子は重い荷物を持ってね、女の子は椅子とかね、机は男子ねとか、こんなの普通にやって、教員もそんな意識してないですよ。だから、別になんか共学校になったから、ジェンダー意識が進むとかっていうのもそれは別の話かなと思います。うちの息子の成績が良かったら、私は浦和高校を勧めましたけれど、レベルに達しなかったんで別の県立の共学に行ったんですけど、どうだったと聞いたら、中学校の時も男は威張ってるし、女子はなんか目立っちゃいけないっていう感じがあったんじゃないのなんて言っていました。そういうもんじゃないですか。共学化したからって、問題が解決するわけじゃないですよ。だから、ジェンダーの問題もあるけど、もっと共学校においてさえ、啓発は必要だというふうに思ってるんですね。

5点目の結論です。最近のニュースでも、教員のわいせつのデータベース、それからカメラ設置が昨日あたりの新聞出てたと思うんですけども、20年前ぐらいは学校におけるスクールセクハラっていうことは、全く県教育委員会は消極的でした。当時、どっちかという男性の教員ですけど、男性教員の女子生徒に対する云々が問題になるんじゃないのと言っても県教育委員会は、全然、いや、そんなことないですよと言っていたが、20年で時代が変わったなということですよ。20年前の共学化については、県教育委員会は方針としては掲げてなかったわけだから、今回は県教育委員会のスタンスとしてやるということで、本当に大きく時代が変わったなと思います。

そのようなときに、先ほど言った通り、20年前の報告でも、学校から共学化が出てくればやるって言っていたのだけれども、全然各校やってないでしょう。だから、別学校の中においてのジェンダー教育とか、そういうのをやっぱり推進していかないと雰囲気変わんないですよ。私の知り合いの男子校に勤める若い教員が、生徒と議論したら、みんな、やっぱり共学良いじゃんってなりましたよって言っていましたもん。だから、そういうことが全然聞こえてこないんですよ。例えば、5月にニュースになったある女子校の校長先生はラジオの

番組に出た時に、ジェンダーを意識しない環境にあるから、女子校は良いよねって言ってましたが、そういうこと言っちゃダメなんですよ、校長が。ジェンダーを意識しない環境にあるのは当たり前ですよ。異性いないんだから。では、なんでジェンダーを意識しないといけないぐらい、社会全体が大変なんだって、そういうのを放置して言い方悪いけど、女性専用列車みたいなもんですよ。全部女性専用列車作れないんだから。現実対応としては、男のどうしようもないのがいるから、避難所として女性専用列車作るけど、学校は避難所じゃないんだから。学校っていうのは、様々な失敗があって、社会に出るための練習をするところでしょう。そういうふうを考えなきゃいけない。ある寺院の修行僧は、今回、みんなに言われているけれど、あれは修行僧なんで悩んでるからやってしまったんでしょう。悩んでいた者を何とかしてやるっていうふうには考えないと教育じゃないんですよ。教育ってのは指導するんだから、啓発していくんだから。だから、県教育委員会の方針がそういうふうになってんだから、私は別学校において積極的に管理職や学校の先生がもっと啓発していけば変わっていくんじゃないかなっていう期待をするところであります。

(S)

男子校の同窓会の会長を務めております。実はこの同窓会ですけども、数年前に議論がありまして、一般社団法人になっております。これはなぜかという、やはり同窓生2万人以上いて、それについて議論をきちっとしていこうというときに、社団法人化して理事をそれなりの推薦母体から推薦して決めていき、社員というのをきちんと作って、法人化しました。

それができて、今回の共学化勧告があったんですけども、やはりその時社団法人としてどうするかということで議論がありまして、これは理事会、それからその後の臨時総会を開きました、社員総会です。いずれも圧倒的多数で、別学を維持すべきであるとの意見でした。私が、その代表者なんで、ちゃんと代表として活動せよということを強く背中を押されて、今やってるところです。個人的にも実は私は別学校の存在があっていいんじゃないかなというふうに思っております。

今までお話してきた中で、Oさんから、国会議員による質問主意書に対する内閣総理大臣の回答、あの時は岸田さんが答えてますけども、埼玉県において共学とするか別学とするかについては学校の特色、その歴史的経緯等に応じて判断すべきと、それがちゃんと文書の答弁書に残ってますよね。これは明らかに別学校の存在を認める答弁です。実際にも国立の高校においては、ご存知のように筑波大学附属駒場高校、それからお茶の水女子大学附属高校ということでね、この、2校について、特に大きな批判っていうのは聞かれないんじゃないかなと思います。それだけ、国の高校でも別学が維持されていると。

あと、海外に目を向けると、韓国、アメリカ、あるいはイギリスニュージーランド、そういったところで研究者が別学校の教育の在り方に、実証研究されてて、その結果を見ると、多くのところで教育効果が別学校の方が高いということで、むしろ別学校の優位性、あるいは有用性っていうんですか、そういったのが出ているという評価ですよ。だから、今後はもう少し別学校にシフトしていくべきじゃないかといった意見だと思います。こういった研究成果が出てるのは、やっぱり発達段階における男女差、男女差は当然あると思います。要するにそれを無視して、男女一律に同一教育をしていくと、そっちの弊害の方がずっと大きいことだというふうに思っております。

次に、多様性ダイバシティっていう時は一人一人がいろいろな意見を持って、それを尊重すべき社会にしていくものということになるのかなと思いますので、その中で別学は良いんだという考え方の者が受け入れられる。それがまさに多様性ある社会かなというふうに思い

ます。それからもちろんよく言われているように、個人の選択肢を広げるという観点からも必要な存在です。

一番今回の件で問題として大きいのは、昨年、県教育委員会が何万人ですか、大規模アンケート調査を実施して、その結果、現役の高校生、その保護者、共学校も含めてですが、そのうち、実に５７％強が共学化に反対、それに対して共学化賛成はわずか７％強、この差は調査アンケートを求めた中の結果なんでね、もうこれをもってしても、県民の大多数が別学維持なんですね。共学化なんか認めるべきではないと。県教育委員会さんの方は、県民の声をね、多様な声をいろいろ聞くといいながら、そのアンケート結果を全く無視して、共学化を推進する。もうそれ自体が理解できません。どうして多数の県民の声に耳を傾けないのでしょうか。

あとは、共学化の火付け役の苦情、これは男子校が女子であることを理由に入学を拒んでいるのは女子差別撤廃条約に反する、というものですけれども、もちろんこれ、この苦情自体が形式的要件を整えてないんですよ。だって女子差別撤廃条約に違反してないんですから。それは苦情処理委員も認めてるんですよ。ですから、苦情が成り立たないのにその苦情を受理したこともおかしいし。それで、さらに苦情処理委員が勧告書において、女子差別撤廃条約は、教育の上で共学化が奨励されているとまで断言してるんですよ。条約についてはね、疑義が生じないように内閣府で正式な和訳が出てますよね。その和訳に反した主張を平気でやると、共学化のみが奨励されているかのような言い方を平気で出すっていうこと自体、これは意図的に解釈を曲げて受理して、それで共学化に持って行こうという、そういうことしかちょっと考えられないのかな。もしそうだとすれば、虚偽の事実に基づいて勧告をしているという、そういうことになろうかと思います。

だから、それに則って、大野知事のことはあまり言いたくないですが、大野知事は教育に口出ししないとおっしゃりますが、県教育委員会の共学化推進っていうのはあんまりにも偏って、主張的にも極めて問題だというふうに思いますんで、その場合は教育行政のトップである知事が、是正措置をしないとイケないんじゃないかとそういうふうに思っております。以上です。

【休憩】

（依田 高校改革統括監）

一通り皆様のお話を伺いました。この後の進め方なんですけど、どうしましょう。振り返ってみても様々な論点のお話が出てまいりましたが、進め方として一つ、私の方で皆様から出た論点の中から選択をして、それを中心に意見交換するというやり方、あるいは、もし皆様の方で、これについてはどうしても意見交換をというようなことがあれば、お聞きをすることによっていきたいと思っているのですが、どうでしょうか。はい、D様。

（D）

皆さんの意見を伺って、これは漏れてるなっていうことが二つあるんですけど。一つはですね、経済的な問題で、私のところに浦和高校のOBで定年退職した人たちから、こういう観点もあるよっていうことでよく言われてる大きな問題だね。経済的な問題で、今は私学が優勢になっていると。埼玉県においても数十年前から私立と県立の競争で、県立はトータルとしては負けてきている。それは認めなくちゃなんないんですけども。

私学が今、高校無償化なんていうことを言われてるけど、私学にかかる全額を無償化になんてなるはずがないわけですよ。県立高校だって、学校によって団体会計費違うわけで、授業料なんていうのはごく一部で、私学だと例えば修学旅行で海外に行って、60万70万なんて使っていくところがいくらでもある、一つの例として。それで、私学が大学進学にもずっと優勢である。それはこの間一日かけて、サンデー毎日の記事から、コンパクトに1ページにまとめてみたんだけれども、ご希望ならば、後で私のところから持っていったいいですけども、大学進学だけが高校の役割じゃないんだけれども、こういうデータに取れるのは先ほど言ったように、大学進学だけが数字が出てくるんですね。

あとは甲子園によく行くか行かないかとか、そういう有名な運動部については、どこが伸びたとかっていうのは分かるんだけど、一般には、どういう人柄の人格形成をしたかというのが測りにくいし、またデータがないんです。

だから、先ほどどなたかおっしゃった、別学でいると、人格形成上問題があるっていうことはものすごく引っかかって、今の知事っていうのは中学から別学だし、東京都知事もそうだし、今の総理もあるいは前の総理もみんな別学の出なんですよ。彼らに人格形成上問題があるっていうのは言えないですよ、政策で批判はあっても。

そういうことで、私学が優先になっている。そういう実態があると。そうすると私学に行った方が子供の成長のためにいいところというふうに考えた時に、家の経済力によって、私学に行けるか行けないかという問題が出てくるから公立こそ、浦和高校の生徒は金持ちがいなかったんです、みんな庶民の子供で、サラリーマンの子供で。一番多い時に医学部に55人行きましたけども、ほとんどがサラリーマンの子で、開業医の子供は2、3人しかいなかったです。そういう庶民っていうかね、経済力がなくても、いろいろ教育を受けられるという形が残ってるんだから、逆にどなたかがおっしゃった公立だから共学にしろっていうのは、そうじゃなくて「公立こそいろいろな選択肢を用意して、選べるようにしてもらいたい。」という、そういう意見がありました。

それと、合わせて言っちゃったような気がするんですけども、そういう観点があるということ。経済力の問題と、また後で意見が言える時があればですけども、Sさんがおっしゃったように勧告書がね、私もよく勉強してみました。それで法律がこれに基づいているってまでいろいろ調べてみたんだけれども、非常に恣意的に考えてて、判断が極端すぎる。科学的根拠がない話をいっぱい書いていますと感じます。以上です。

(依田 高校改革統括監)

では、話をまた戻しますね。

これから意見交換をするに当たって、意見交換の議題ですね。様々な観点、今経済力とも絡めたお話もありましたけれども、皆様の方からご提案がありますか。なければ私の方でお話を進めさせていただきますがよろしいですか。

(N)

一回勧告書の件については、ちょっと深く掘っていただきたいなと思います。

(依田 高校改革統括監)

今、N様から提案がありました。勧告書について、意見交換をという話でございます。よろしいでしょうか。

では勧告書について、N様の方できり出していただいていいですか。

(N)

これは事務手続きの問題として、非常に疑義を感じた点があって、これはもうホームページで見られるんですけども、勧告書の「第6 結論・勧告」の部分です。訂正文が入っているんです。こんなの前代未聞ですよ。令和5年の8月に出された勧告書が、令和6年5月8日になって訂正しますと、しれっと出てきたわけです。しかもこれは自発的修正じゃないんです。知事から訳文が正しくないという指摘があったので修正したという話です。何が変わったかということ、男女別学は女子差別撤廃条約上、男女別学であることだけでは条約違反とはされないものの、原文「男女共学」での教育が奨励されており、これを訂正して「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより」というふうに変えられています。我々企業人からすると、英文の解釈というのは非常に重要なことで、特に”and”でつながる条文だとか、”or”でつながる条文というものを見落とすというのはありえないし、もしそんなことをやったら始末書ものです。しかもこの原文というのが、”coeducation”これが共学ですね。”and other types of education”、これを見逃すなんてことはありえないんで、最後の方もおっしゃってる通り、これはもうインテンショナルエラー、いわゆるミスリードを引き起こすための極めて悪質な文書だと私は思います。これは男女共学が良いとか悪いとかという問題ではなく、一方的な意思を持って共学化を進めるために、文書の悪質な見落とし、改ざんとは言わない、改ざんはしてないんです。ただ書くべきものを書いてないという極めて公文書としては成立しえないものだから、このミスに対する検証というものを行っているのかどうか、普通だったらします、出させるんですよ企業は。再発防止策、だって重大インシデントです。再発防止策を出さないと、またこんなような「すいません訳間違えました」が起こる、それで済むようなレベルの話じゃないんで、これについて、きちんと究明すべきだと思います。さらに付け加えると、これは余談かもしれませんが、座長的な、いわゆる筆頭の武田委員という方は女子大の教員をされておられまして、その方が、男女別学を否定するというのがちょっとわけが分からない。もっと言うと、もしこの方が、別学堅持すべきという意見表明をしたとしたら、それはあなた女子大なんだからそう言うでしょうねと、やっぱりバイアスがかかって見てしまわれがちなんで、委員の人選にも私はちょっと疑問を感じている。どっちかの軸に足を置いてるような方は、やはり委員になるべきではない。だからこそこういう問題が起きてしまったんじゃないかというふうに考えます。以上です。

(依田 高校改革統括監)

勧告書について今、N様から問題提起がございましたが、皆様のほかのご意見ございますか。

(D)

私も何度も読んで、勧告書に訂正がいっぱい入ってるんですけども、この考え方は違うと、あるいは根拠がないということばかりなんですよね。先ほどNさんがおっしゃったように、非常に偏った思想の持ち主なんじゃないか。国民全体からすれば。そういう思想があるのは、もちろんいろいろな考え方があっていいんですけども。それを否定するわけじゃないけれども、それによってすぐ動かされて、措置報告書もよく勉強させていただいたんですけども、措置報告書は全体としてはいいかなと思うんですけども、最後の今後の進め方については、勧告書におもねったようなところがいくつかあって、特に人事のことについてね、男子校に女性の先生をたくさん入れると、管理職もそうしろとかこう言ってるんだけど、教員の

数で教育内容、特にこの男女の問題の教育内容、男女共同参画の問題がそれによって改善ができて進むってようなものではなくて、もっと本質的な姿勢の問題なんですよ。

男だけだってできるし、女だけだってできるし、人数だけで言うと、名門の女子大の学長はみんな女性ですよ。あるいは東京の御三家の女子校とか、女子校の多くもね、校長は女性ですよ。そういうのがある程度あるんでね、あるいは男女の採用を同数に近くやれって言ったら、今の義務教育なんてほとんど女性になってきてますから、これは世界の潮流なんですけど。それもおかしいんじゃないかっていう、そういうところまで発展していくんで、教育の中身を、人の数の問題じゃなくて中身の問題でどういうことを推進しましょうとか、あるいは教師の研修会を充実するとか、そういうことにいくべきなのであって。勧告書は私に言わせると偏りすぎてるといいます。

(依田 高校改革統括監)

はい、他ございますでしょうか。

(M)

ジェンダー教育と平等とか、男女共同参画社会ということに対して別学だとそれは成し得ないのでしょうか。共学化すれば男女共同参画が進むってのは、ちょっと単純すぎる考えなんじゃないかなって個人的には思ったりするところもあります。

Nさんが先ほど、東京都立には女子校はないんですよって言われて、埼玉県にはそれがある。男子校もある、女子校もある、共学校もある。全部共学校とか全部別学にしなさいって言ってない自由さがある。ここが大事なんじゃないかなってすごく思うんです。

ジェンダー教育っていうのは初等教育からなされるべきであって、例えば高校3年間を別学に在籍したからって人格がおかしくなっちゃいますか、そこはないと思います。例えば日本に住んでる人が海外に行ってみて、海外で日本を外から見るといように、例えば3年間女子だけの高校の生活を送った後、例えば共学の大学に行く、もしくは社会に出ていく、そういう中でまた振り返る機会もある。先ほどHさんがおっしゃったように、男女共同参画社会を推進して原動力となってるのは結構別学の人たちが今頑張ってますよっていう話もありました。本当に3年間別学になったら人格形成におかしくなるなんていうことこそ、アンコンシャスバイアスなんじゃないかなってちょっと個人的には思うんですね。

皆様は、そういうところを真のジェンダー教育とか、男女共同参画っていうのはどういうことなのか、本当の平等って何なのか、例えば、男性からの視線を気にせずに心理的安全が保たれた中で、そういう学校で気兼ねなくリーダーシップや専門知識を学ぶっていうことも考えられるわけですし、そういう選択肢を残しといてあげる、別学の道も残してあげるっていうのが、私としては本当に平等っていうか大事なんじゃないかなと思ってます。

だから一律共学っていうのは私としてはおかしい。それぞれの子供たちが、それぞれの意思で、こういう生活を送りたい、こういう学校生活を送りたいという中で、選べる県であってほしいと思ってます。つまり本当に別学だと、ジェンダー教育ができないんですか、別学だと人格形成がおかしくなりますか、というところに私は疑問があるんです。

そこを鑑みて、県教育委員会の方としては本当に別学がいらないのか、全部共学化しなきゃいけないのか、先ほども言ったように少子化の中で教育行政上統合したり、別学校が少し減ってしまうっていうのは仕方ない現実かもしれませんが、特色ある学校づくりを目指す以上、そこは死守してほしいんですね、別学校も残してほしいです。

(E)

私は共学化に賛成の立場ですけれども、別学を共学にしたらジェンダー平等になるとか、男女共同参画になるとか、という単純なことを言っているわけではないです。

しかし、すぐにジェンダー平等になるんじゃないなくても、現に不公正でありそこは変える。同時にどの学校でも、共学校もやっぱりもっとジェンダー平等の教育をしなきゃいけないです。やんなきゃいけないんであって、共学化したらジェンダー平等になるか、男女共同参画になるからじゃないと思います。

でも男女共同参画を本当に考えていくなら、やはり公立という立場であるなら、きちんと共学化していくべきですし、例えば今の政財界を作っている人たちは別学出身者多いじゃないかとありましたが、関東で生きているとそのように感じるかもしれませんが、都道府県立の別学校が残っているのは、わずか5県です。この中でも埼玉と栃木と群馬が、そのうちの多くを占めています。この3県は別学校が残ってることで、本当にすごく優れてると言えるのか、ちょっと前まで群馬県が一番女子校が多かったんですね。でも群馬県は、自治会に占める女性リーダーの割合が全都道府県で一番低かったと聞きました。女子校がエンパワーメントって言われますけれども、だから例えば女子校が女性リーダーを出してたわけでもないし、別学出身の人たちが男女共同参画やジェンダー平等を進めているとも言えない。

5県以外のところでは私立は別として、公立は全部共学なんですね。そこで女性がいろいろなリーダーとして育っています。埼玉だけを見ると、リーダー層の多くは別学であり、別学だからリーダーになれるとつい思っちゃうんですけれども、そういうわけじゃないと思います。

また、東大の女性比率が22～23%、なんとか増やそうと考えていますけれども、実は女子が少ないのは東大だけじゃなくて、京大もそれから慶応大も私学ですけど、いわゆる難関大学と言われて、政策決定層に学生を輩出する大学における女性が決定的に少ないのが日本なんですね。

でも世界を見ると、ハーバード大学なども含めて男女比は50：50です。でも日本は圧倒的に女性は少ないです。埼玉県でいうと、そういう難関校に入って行ける高校に、女性が入っていけない現状があります。

大きな広い目で見た時に、日本社会を変えていくには、もっと男性も女性も力をつけていきたい。そのためにはできることは地味だけれども、まずは最低限、制度をニュートラルにしていって、ニュートラルの制度とは共学だと思っています。

今性的マイノリティの方たちは、実は左利きの人と同じくらい多いと言われているけれども、性的マイノリティの人たちが高校受検の段階で、トランスジェンダーだったり、エックスジェンダーの人がカミングアウトをすることなく、行きたいところを受検できるのは共学校なんですね。公立っていうものはそういう役割を持ってると思います。

あと私は別学でも共学でも教員していましたが、どの学校でもすごく生徒たちはもちろん辛い子も同じようにいるけれど楽しそうです。だから別学にいた人は楽しかったら別学だから楽しいんだと思うようだが、どんな成績であろうと、楽しい学校を、ここにきてよかったと思える学校を作りたいっていうふうに教師は思っています。その上で、これから先の社会を考えた時に県が共学化を公立の使命として考えていくということは、とても大事だと思っています。

男子校の新聞部の生徒たちにインタビューを受けました。二人のうちの一人は男子校だからここにきた、もう一人は成績でここが一番自分に適してるから来たんだと。でも周辺に、共学化がこんなに話題になってるのに、共学賛成の意見を誰もいないので聞きに来た。疑問

点を含めていろいろ聞かれて、2時間近く話し合っ、こちらも自分は偏見持ってたなと思いましたし、その子達も分かるところは分かったと。後で新聞の社説を読みましたら、宮城県のこととか、福島県のこととか、自分たちはもっともっと学ばなきゃいけないってことを書いてくれています。さすがだなって思いました。

だから県教育委員会が、参加者が少なかったようで残念ですが、中高生たちの意見交換会を設けられるのいいと思いますし、現場の教員たちも、大人として子供たちに、自分が考えているところをもっともっと、賛成であれ反対であれ出してほしいなと思っています。子供たちは柔軟だし考えるし成長していきます。そういう機会にしてみらうといいと思います。

(依田 高校改革統括監)

勧告書の話から展開をしまいましたが、ここでもう一度確認します。勧告書のことについてのご意見はよろしいでしょうか。ではC様。

(C)

これ質問でなくちょっとお願いなんですけど、勧告書に質問書がありますよね、あの鉛筆で殴り書きしてあったあの質問書。そこのお名前が黒塗りですよね。県民としては知りたい。そして、その出した人と、それを受け取った3人がいますね、男女共同参画苦情処理委員。その方々と、質問した方の関係性を私は正直言って疑ってるんです、一県民として。

だから質問で鉛筆手書きで書いた一枚ありましたよね、浦和高校に入れないのは…。どういう立場の方なのか、本当にお子さんが女性なのに浦高に入りたいって思ってる方なのか、埼玉県民の方なのか、何歳なのかっていうのを、一県民として知りたいと思ってます。それはこの勧告に関しての要望です。

(依田 高校改革統括監)

勧告書についてはよろしいですかね。はい、ではH様。

(H)

今勧告書を読んでいるんですけど、ここに書いてあることは結構大事なことで、男女別学校の共学化を早期に実現する必要があるという要望が知事及び県教育委員会に提出されたって書いてあるんですけど、三つの市民団体って書いてあります、これどこですかって話です。それを書かないのはとても疑問があるんですよ。ぜひこういうのを書くときってどこどこどこがっていうのが書いてほしいなって思います。

(依田 高校改革統括監)

記載については事務局において確認します。

確認している間に、皆様から今出てきたお話について、私の方でお話ができる範囲で話をします。まずN様から最初にあったお話は、これは苦情処理委員の事務局をしている県民生活部の方に私の方からお伝えします。そのような意見がこの会議で出たことについて伝えます。

(N)

ぜひ再発防止策を出させてください。重大な誤りです。

(依田 高校改革統括監)

悪質な見落としだという評価と併せて再発防止策について講じるべきだという意見ですね、分かりました。それと、そもそも武田委員は女子大で委員の人選自体に問題があるというご意見ですね。

(N)

この問題を語る立場ではない人だということです。

(依田 高校改革統括監)

処理するのに適した人選ではないってことですね、分かりましたお伝えします。

D様からあった、全体としてはいいかなとは思いますが、特に人事について思っているというところについて、これは報告書の中身の方なので私の方からお話をさせていただきます。

人事については私どもも、これがジェンダー教育の推進につながるかというのは直接的な話ではないと思っています、教育の中身の話ではないと思っています。ただ一方で、男女共同参画を、教育行政として進めていくには、様々な機会に女性と男性の双方が入って参画する必要がありますとは考えています。それは学校以外の県教育委員会事務局も同じ考えです。そういった意味とは別に、男性、女性、どうしても女子校ですと修学旅行にしても体育祭にしても、女性教員が多く必要になるという実情があります。男子校も同様です。宿泊学習などをするのに、男性教員がやはり必要だということもあります。そういったことから「同等」という言葉をあえて報告書の中では使わないでおります。

男女の人数の「同等」とか「均等」という言葉を避けて、「均衡」という言葉を報告書の中で使っております。「均衡」というのはそういうことを加味した上で、必要な男女の構成比を考えていく、「均等」ではなく「均衡」という言葉をあえて使っておりますので、そうした意味では学校の実情をしっかりと踏まえた上での男女の構成比ということを県教育委員会は考えているということをご理解いただければと思います。

M様の方から、男女別学を共学化することにより、男女共同参画が進むのか疑問であるという趣旨のお話があったと思います。県教育委員会の考え方ですが、別学校を共学化することによって、男女共同参画社会に直接的影響がそれによって及ぶとは思っておりません。

県教育委員会が考えているのは、男女共同参画社会においてこれから生きていく生徒にプラスになる教育をするという意味で、男女共同参画の視点に立った教育を推進しますという言い方をしておりますので、そこはM様の考え方と、私どもの考え方は一致点があるように感じております。

E様のお話については、現に別学校を共学にしたら、男女共同参画が進むとは言っていないという意味では一致してるかと思えます。現に不公正であるというところについては、県教育委員会としては、現在男子と女子の教育機会の均等は、一定程度図られていると考えておりまして、完全に公正だとはまでは申し上げないんですが、不公正とまで言い切る状況にあるとは考えておりませんので、一部男子には入れない学科があったりすることは事実でございますので、そうしたことについては今後十分県教育委員会としては留意していく必要があるという見解を持っております。

C様のお話につきましては、正直私も全く分からないんです。少なくとも県民（県内に在勤、在学している方を含む）であることは間違いのないと思います。県民以外に苦情を申し立てる権限がありませんので、ただそれ以外のことについて全く私も分からないので、申し訳ございません。

(C)

そういう疑義があるってということだけは伝えていただいて。

(依田 高校改革統括監)

先ほどのN様と合わせてお伝えします。

(C)

合わせての話だと思います。意見を出した人とそれを揉んだ方々がつながってたんじゃないかと一県民としては思っちゃうんですよね。

(依田 高校改革統括監)

分かりました。オブラートに包まないでそのままでお伝えするようにします。

(C)

私もそのまま言います。つながってるんじゃないかって、一県民としては思っちゃったんで、それはもうそちらに持ちかえていただいて、オブラートに包まずに伝えていただきたいなと。

(依田 高校改革統括監)

はい、県民生活部に伝えます。

(S)

【第三者の個人情報に関わる内容のため、S及び参加者の同意により削除】

--

(依田 高校改革統括監)

皆様提案です。今のS様の発言は議事録から削除させていただいてよろしいでしょうか。S様よろしいですか。

(S)

もちろん、はい。【参加者から賛成の声有】

(依田 高校改革統括監)

事務局の方で、先ほどのH様からあった勧告書について確認ができたということなので説明をお願いします。

(事務局)

勧告書の記載の部分で、令和5年8月の勧告の記載の中に「三つの市民団体から男女別学校の共学化を早期に実現する必要があるという要望が知事及び県教育委員会に提出された」という表現があるとのことでしたが、こちらについては項目として、平成13年度勧告以降の埼玉県における動向ということで、その当時のことを記載している部分の記載という確認ができました。以上です。

（依田 高校改革統括監）

H様それについても、ご意見はお伝えするようにいたします。市民団体の名称ははっきり明記すべきであると。

（S）

今の点ですけれども、共学ネットさいたまが一番の大きな市民団体であることはもう間違いなくて、知事も会見に応じてるじゃないですか、そこはもう明らかになってるわけですよね。

（依田 高校改革統括監）

今のH様の話は、明示するかどうかの話なんで、そういうことでお伝えしますので。

続いて、意見交換をしたい内容がございましたら、ご発議いただきたいと思うんですが。はい、H様。

（H）

私事で恐縮なんですけど、私の家内、義母、義理の妹、3人女性がいるんですけど、全部同じ高校なんです。そこが共学化しました、静岡なんですけど。

そこで大きな問題が起きたのは、まず校是が変わる、校是が変わると今度は校歌が変わるんです。校歌が変わるっていうのはもうほとんど違う学校になるんです、OB、OGに言わせると。同窓会とかに出てみるとすごく思うんですけど、みんな同じ歌が歌えるんです。子供から80何歳の人まで。そこで一体感みたいなのがあるんですけど。それを妻からそういう話を聞いて、じゃあもう別の学校だねっていう話になったんです。同窓会のお誘い状みたいなのがずっと来るんですけど、妻は全然行きません。もう別の学校になってしまっているみたいなことで、実際同窓会ですが、女子校なので女子ばかりなんですけど、もうだから愛校精神っていうものがなくなってしまう。そういう事例があるっていうことを、ぜひ頭の中に入れておいていただいて、それでもやりますかっていうことをちょっと言っておきたいなと思ってます。

（依田 高校改革統括監）

今のH様のお話ですが、皆様の方からそれについてのご意見や、また別の観点からのご意見とかございますでしょうか。K様、お願いします。

（K）

今すごく良い意見を言っていていただきまして感謝いたします。

私の出身校は質実剛健、文武両道であります。やはり女子を仮に受け入れたとなると、同じように校訓を変えざるを得なくなります。先ほど高校野球の県予選の応援のことも申し上げましたが、やはり男子校特有の応援の伝統があるんです。幸いにして勝ったんですけど、

今予選で勝っても校歌が流れるんですね、観客の皆さんが肩を組んで校歌を歌いました。あと応援指導部っていう伝統的なクラブもあるんですけど、すごく一体感があって、やはり男子校って良いなって改めて思いましたね。ですから今おっしゃったように質実剛健だと女子を受け入れた場合やはり変えざるを得ない。あわよくば校歌も変えるとなると、私も絶対もう野球の応援にも行きたくないし、同窓会にも出たくありません。

いずれ同窓会にも、終活の中で寄付をするとか、そういうことも考えてるんですけども、女子を受け入れた母校に寄付はしたくありません。そういった弊害が出てくるんですよね。

先生を経験された皆さん意見をおっしゃいましたけど、ジェンダーとか男女共同参画とかですね。私にとってちょっと難しいんで、ちょっとよく分からないんですけども、大半の方々は学者じゃありません、大半の県民は一般県民です。先生、経験者のような、素晴らしい頭の良い方ばかりではありません。感情的に母校を失ってしまうような気がするんですよ。

女子校の方も同じだと思います。別学で育った方が異性を受け入れるのはですね。先ほど私インフラのこと言いましたけど、いろいろ校舎だって変えなきゃいけないと思います、トイレ問題とか。八潮市の下水道陥没を見ると、やはりもっと他のところに貴重な税金使ってくださいって言いたくなります。

共学も非常に精神としては素晴らしいと思います。今日主催いただいているのは教育局魅力ある高校づくり課の方々です。魅力ある高校というのはオール共学では絶対にありえません。魅力ある高校っていうのはいろいろなタイプの学校があって、私のように異性が苦手で中学の時結構異性に泣かされたといいますか、そういう面もあったので、もう高校は絶対男子校に行くんだと、男子の中で伸び伸びやるんだと、こういう方が時代は変わっても絶対にこれからの進路選択の中で要望があるわけで、そういった要望を私学に任せていいんですか。駄目ですオール共学は絶対ダメです、これは私学に全部任せることになってしまう。私学は別学で行くんでしょうから、教育方針がありますから。

でも、貴重な税金を入れてるんです最近。父母負担軽減とか。だから、我々の頃の私学は本当に学費高かったけど、今は私学で学んでも税金が入って安く学べる中で、男女別学の需要を全部私学に任せていいんですかということで。逆にさっき、別学校は埼玉、栃木、群馬しかないとおっしゃいましたけど、それでいいじゃないですか。逆に考えてください、必要なんです。埼玉、栃木、群馬にいることを誇りに感じましょうよ。

埼玉、栃木、群馬しかないじゃなくて、だけなんだと。この貴重な伝統を守りましょうよ。OBが断絶していいんですか、我々にとって非常に残念です。税金は他のインフラに使いましょう。

(依田 高校改革統括監)

はい。それではP様お願いします。

(P)

埼玉県のパウリということて受け継がせてもらいます。今私たちがこうして、男女別学を維持するか、共学にすべきかという議論ができています。実は今までそんなに日本全国でもきちんと議論されてこなかった問題だと思うんですね、世界的にもそうだと思うんです。

戦後日本は公立の学校を共学化していくっていう、それが良いものだってみんななんとなく思って、共学化が進んだのだと思うのですが、なぜそれが良いのか、なぜ別学じゃ駄目なのかっていうのを改めて、埼玉県で今こうして私たち大人あるいは中学生高校生それぞれが話し合いの場を設けているということ、これ自体が非常に素晴らしいことだと思います。既

に共学化が進んでいる東京都ではこういう議論ってないと思うのですね。埼玉県ならではの議論が、さらに、別学か共学かという問題を超えて、良い教育って何なのか、子供たちに何を残していくべきなのかという教育の本質の話に繋がっていく。こういう機会を持てていること自体がとても貴重なことなので、もっともっとこの議論を広げたらいい。別学が残ってるからこそこの議論が今、埼玉県でできている。小学生からやってもいいと思いますけれども、この話をきっかけにして、自分たちがどこに進んでいくべきなのか、あるべき未来の姿というのを話す、良い機会にできたらいいのかなというふうに思いました。

それから、先ほどの「伝統を守る」という話にしても、それがすごく良いことにもなるかもしれないけれども、そうじゃないかもしれないっていう議論をしたっていいと思うのですね。良い伝統もあるし、ジェンダー平等にとってはだめな伝統もあるかもしれないけれども、それを話し合う機会に、私は今日居合わせることができたこと、非常に幸せなことと思います。ありがとうございました。

（依田 高校改革統括監）

ほぼ定刻の4時になりますが、これまで、特色ある学校づくりの共学、別学との関連の話であるとか、トップ校に別学しかないからそれがジェンダー格差の再生産になるというようなお話だとか、発達段階における男女差、男女同一の教育の弊害のお話だとか、皆様からいろいろなお話がありました。

本来はそういったところにも焦点を当てて、皆様のご意見、また県教育委員会の考え方についてお話をできればよかったのですが、お時間になりました。大変申し訳ないのですが、この議論をそのまま、今手を挙げられた方までにしていただいて、おそらく4時を過ぎてくるとと思いますが、皆様ご承知いただいてよろしいですか。

（S）

統括監からはお話はないんですか。

（依田 高校改革統括監）

最後私が、簡潔に県教育委員会の考え方は述べさせていただこうと思いますが、今手が3人から上がってますので、4時過ぎることをご理解いただいた上で、ご予定がある方は中座していただいて結構でございますので、3人の方にお話しいただいて、最後にいただいたご意見と県教育委員会の考え方をまとめて、私の方でお話をさせていただいて終わりにさせていただきたいと思います。それでは、O様お願いします。

（O）

実際に共学化するかどうか決まるって議会を通りますよね。県議会議員の人たちに我々の意見を聞いてほしいんです。ここで県教育委員会の言ってみればお役人の方々にいくら言っても、結局県議会議員が動かなければ、どうにもならないと思うんです。なので、自分が言いたってわけではないですけども、高校生や我々の意見を聞してくれるのは教育局の人たちなんだけど、実際決めるのは議会になっちゃって。

私が知ってる範囲では、ギャップがあるというか、結局決めるのは議員さんというふうに私は思っているので、議員さんは分かってるのか、分かってるけどどういうパワーバランスで決まってるのかが疑問に思っているんで、それもちょうと、難しいかと思うんですけど考えていただければいいかなと思います。以上です。

(依田 高校改革統括監)

一通りと思ったんですが、今のO様の話に私の方で、お話をさせていただきます。この件については、男女の別学、共学は県教育委員会規則で定められているものなので、一義的には議会ではなく県教育委員会だけの判断となります。ただ、今O様がお話になられたことは、そのとおりであって、議会はやはり県民の代表の方ですので、皆様方からご意見をいただいているのと同様に、議会の各議員や、また各会派からの意見は私ども、十分意見を聞いていく必要があると思っております。そういった意味では、議会の方のご意見も含めて、私ども県教育委員会は十分検討させていただいた上で、最終的に別学、共学は県教育委員会の規則で定めておりますので、県教育委員会が責任を持って判断することになってまいります。

今のお話については、議事録を公開しますので、O様のお話も議員の方に見てもらえるように、私の方で議事録について、お声がけはさせていただきたいと思いますが、議会は議会の判断になりますので、そこはご了承いただきたいと思います。

(S)

現在埼玉県の場合は自民党が共学化に賛成ですから、議会の多数派が共学化なんですよ、ちょっと普通の県議会と違います。

普通は右の方の人たちが別学と親和性があるんですけど、埼玉県議会はまったく、いや、左の人は共学化ですけども、右の方の人も大多数がそうなんで。ある意味県議の意向でもあるんで、安心して共学化できるというのは、県教育委員会の姿勢のような感じがしてますね。

(依田 高校改革統括監)

それでは、N様お願いします。

(N)

私が冒頭に申し上げたのは、子供たちの声を聞いてください。子供たちの声をとにかく大切にしてくださいということなんです。その子供たちの声が端的に現れるのは、アンケートでもなくて、意見交換会でもなくて、競争率なんです。その学校に行きたいという子供たちの総計。それが子供たちの声ですよ。それで仮に、大宮高校が突出した志願者数となって、他校とのバランスを著しく欠くというようなことになれば、じゃあ4校を共学にして、その辺の受験の過熱を防ぐよう図ろうかという意見はあっていいと思います。また、同じように浦高なり一女が、競争倍率1を切りましたと。やっぱり子供たちにもう別学が嫌われている、もう立ち行かない。そうなった時にも、これは伝統なんだ、別学は大事だ、残すべきだという意見があっても、私は賛成できない。それは子供たちの意見だし、子供たちがそう思っているのであれば、これは浦高も一女も共学になるのが時代の流れということになるので、大人のノスタルジーでそれをどうこうするのはやはり間違い。とにかく注視していただきたいのは受験競争倍率、これが1を切るようなことがあれば、やはり別学は否定されているんだ。子供たちには受け入れられてないんだという判断はあってしかるべきだし、周りの大人もそこは受け入れるべきだと思います。

もう一点ちょっと長くなり申し訳ありません。私は、学校群の被害生徒なんです。それは何があったかっていうと、理念だという押し付け、これが極めて危険です。というのは僕の時でも100万人以上の受験生がいたわけで、受験戦争が加熱している、一校集中してる、そういったことを平準化し解決するという、非常に美しい教育理念のもとに学校群制度が発

足したんです。しかし、結果はもうご存じの通りで、僕は全然そんなこと望んでいなかったにもかかわらず学校群が強引に進められ、未だにそれは15の蹉跎です、だって行きたい学校を選べないんですから。そういう制度変更による不幸な思いをこれからの子供たちに味あわせてはいけません。理念というのは一方の側だけの理念です。万国共通の理念なんてありません。だから多様化なんで、そこをもっと慎重に扱ってほしいと思います。以上です。

(D)

ちょっと話が違うところなんですけど、新聞で前に中学生とか高校生の話を聞く時のダイジェストみたいなのが載ってたのを見たんですけども、行政側からの説明で、これから少子化していくと、新しい学校を作るのに共学以外は難しいんだと。まあ新しく作る場合は確かにそうでしょうけれども。

私、大学が仙台だったんです。だから宮城県の学校を出た友達がいっぱいいて、東北の出身の人が大学全体で約半数だった。約半数は関東から全国に散らばってましたけれども、それであちらの学校の状況がある程度は知ってるんですけども。今、福島県以北で別学がなくなりましたよね。最後になくなったのが宮城県、福島県が私がもう退職して、ここ10数年の間でしたよね。それで共学になった、特に女子校が少なくなったっていう群馬の話もありましたけれども、その共学になった、数の上では。大半が少子化によって、それぞれの田舎の学校が、規模がどんどん小さくなって維持できなくなったから統合すると。

統合する時に男子校と女子校が統合すると共学にせざるを得ないと、その共学化がかなり多いと思うんですよね。だからそれは、みんな共学をどんどん進めているっていう時に背景は何かっていうことを、ちゃんと理解してほしい、調べてほしいっていうのが一つと、その人口減ではまだ統合しなくてもいいところの、ある意味では伝統校ですね、伝統校を男女別学だったのを共学にしたのは、宮城県と福島県のある部分なんです。全体じゃないんですよ。だから埼玉県に今度当てはめて、埼玉県で少子化だから、20年後50年後のことを考えると全部共学にしなくちゃならないっていうのは、それは地域によってね、小鹿野からいろいろありますから。それはあの地域によってはそういうこともあるけれども、必ずしも、少子化だから、共学にしなくちゃなんないんだっていう説明は行き過ぎではないかなと。特に県南部でというふうに思いますので、あまり少子化を旗印に、理由にしないでもらいたいなというふうに思っております。

(依田 高校改革統括監)

長時間に渡りまして、ご意見をいただきまして大変ありがとうございます。皆さんからいただいた意見につきましては、教育委員としっかりと共有をして、今後の県教育委員会の仕事を進める上での参考にさせていただきます。

いろいろ今もご意見をいただきました。特にH様ですね、共学化した後の学校についてのお話がありましたし、K様には、大変熱い思いを伺いました。そうしたことも十分、私ども県教育委員会は考えていく必要があるものと考えております。最後に、県教育委員会の昨年出した報告書、また今回この3月に、魅力ある県立高校づくりの方針という方針の中で盛り込んだ考え方について、皆様にお話をさせていただいて、その上で皆様方からいただいた今日のご意見をしっかりと受け止めてまいりたいと思っております。

先ほどS様からあった、男女差ですね、男女同一の教育の弊害というご意見もございましたが、県教育委員会は、男性用の教育と女性用の教育ということではなく、教育については男性、女性変わりない教育を進めることを考えております。その上で私どもとしては、別々

にその教育を行おうとしているわけではございませんので、男女ともに学ぶことに優先順位を置いている考え方でございます。

今日もいろいろ特に別学校のOB・OGの皆様からは様々、別々の思い出も含めてご意見をいただきました。現役の高校生からもたくさんこの一か月の間伺ってまいりました。

そうした別学の、伸び伸びとか、生き生きとか、またシェルター的な機能であるとか、そういったものについて県教育委員会は、そこは別学の特長として十分、別学の意味があることとして捉えております。その上で学びの選択肢の話になりますが、県教育委員会はそういう意味のある別学も一つの選択肢として当然考えているので今設置をしているわけですが、私どもの進める学びの選択肢という考え方は、希望と能力に応じた学びの選択肢というふうに言っておりますが、普通科もありますし、農業、工業、商業、様々な学びがあるかと思えます。普通科の中でも様々な特色を持った学びが今後必要だと考えております。その中でさらに能力に応じた学びの選択肢が必要だと思っております。

D様から少子化をことさら理由にすることは納得いかないという趣旨のお話がありましたが、私どもとして全県を俯瞰して高校の再編整備をこれから、昨年生まれた子供が高校になるまでの15年間を考えると、全県的には約25%の子供が減少してまいります。そうした中で、高校の再編整備を検討していく中では、南部地域も北部地域も全ての地域の学校の再編が必要だと考えております。それはもちろん少子化だけではございません。新たに情報科やAI、その他にも定時制通信制、フレキシブルなライフスタイルに合った学校など、いろいろな視点があると思います。国際教育も必要でしょうし、そのような様々な新たに必要になる教育内容なども加味しながら、学校数が減っていく中で、学校の学びの種類を、選択肢を増やしたい。さらにそこに能力に応じた選択肢をまた用意したいと。そういう中で全県を俯瞰して、南部地域から北部地域まで変わらず見ていく必要があると考えております。

そうした中で、男女別学校の共学化というものも併せて、共学校と同様に別学校も再編整備の検討の対象校になっていくものと考えておまして、県教育委員会が、これまでは共学化についての検討を学校がした場合は、その支援を県教育委員会はするという方針だったわけですが、今お話したような状況の中で、県教育委員会が主体的に共学化についても検討していく方針にさせていただいたところでございます。

検討を進める中で、子供の声、また県民の皆様の声、そうしたものをしっかりと受け止めながら、私どもは再編整備も含めて、この共学化の問題に今後向き合っていきたいと考えております。

とりとめのない話になって申し訳ございません。時間が15分ほど過ぎてしまいました。進行がうまくいきませんで申し訳ございませんでした。私の話は以上になりますが、本来は私の話に対してもまた異論反論、皆様からいただかなければいけないんですが、お時間がございません。もしまだ言い足りない、また最後の県教育委員会の話についても異論がある場合については、お時間がある方は、できればアンケート用紙にご記入いただきたいと思います。ご記入いただいた内容についても、しっかり県教育委員会の中で情報を共有して、受け止めてまいりたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。

「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」参加者アンケート結果について

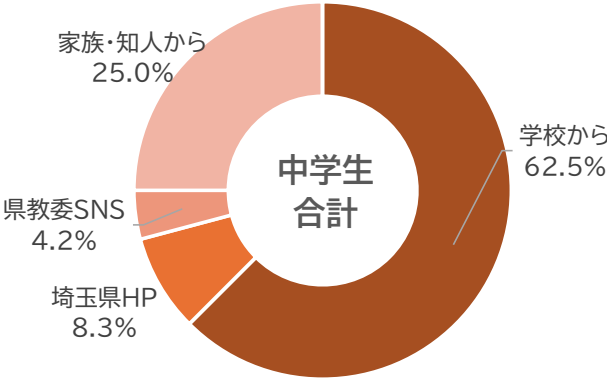
魅力ある高校づくり課

「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」参加者アンケート結果について

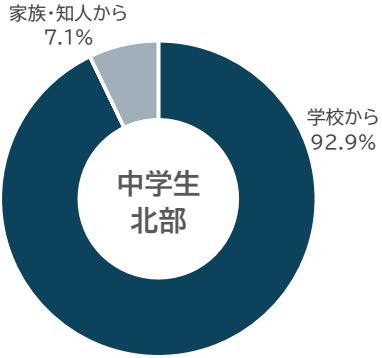
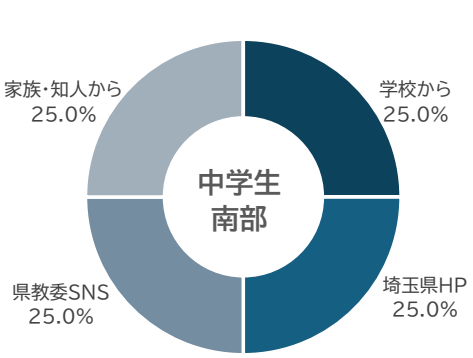
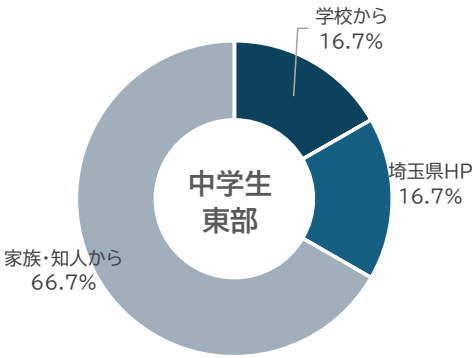
1 中学生の部

Q1 この意見交換会をなにで知りましたか(あてはまるものをすべて選んでください)

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
学校からのお知らせ	1	-	1	13	15
新聞等	0	-	0	0	0
彩の国だより	0	-	0	0	0
埼玉県ホームページ	1	-	1	0	2
県教委SNS	0	-	1	0	1
家族・知人から	4	-	1	1	6
その他	0	-	0	0	0



会場別の回答



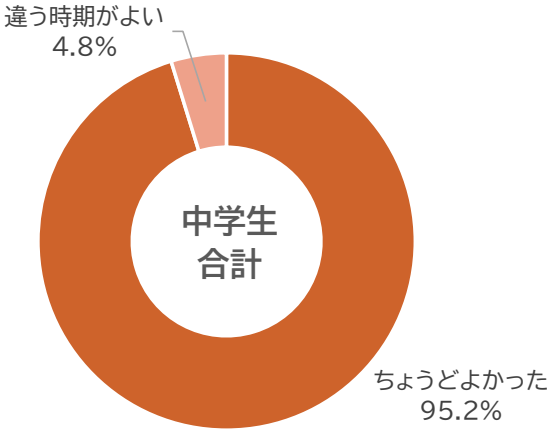
「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」参加者アンケート結果について

1 中学生の部

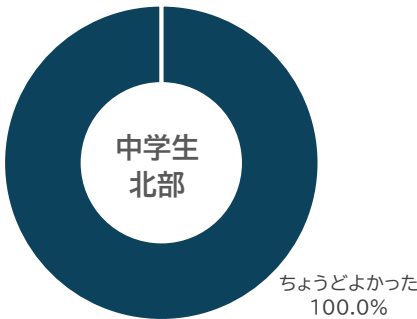
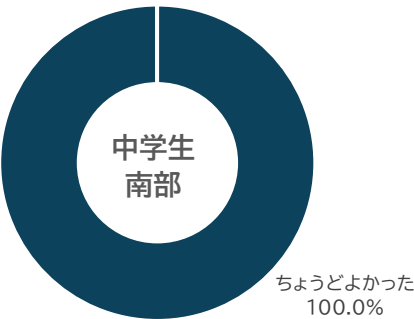
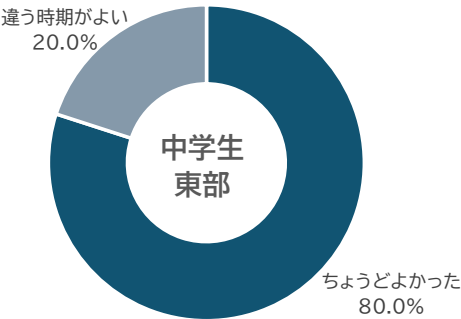
Q2 意見交換会の開催時期はいかがでしたか

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
ちょうどよかった	4	-	2	14	20
違う時期がよい	1	-	0	0	1

違う時期：8月



会場別の回答

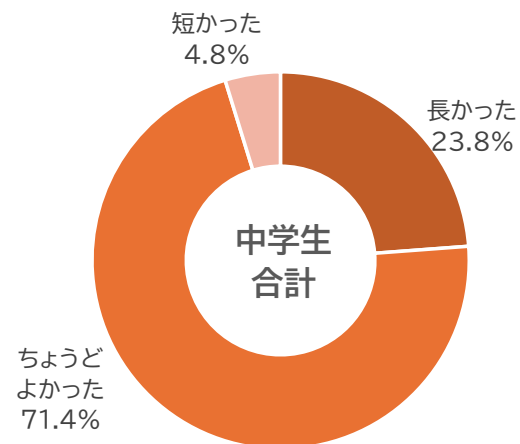


「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」参加者アンケート結果について

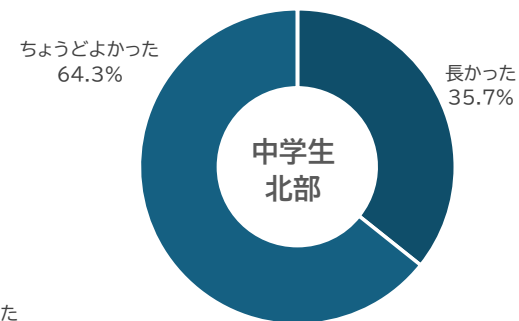
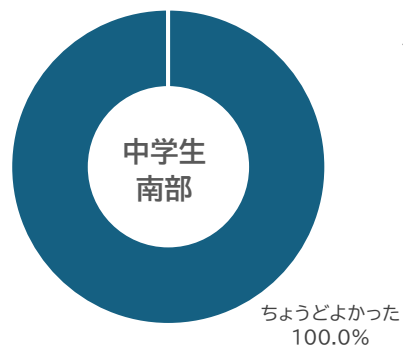
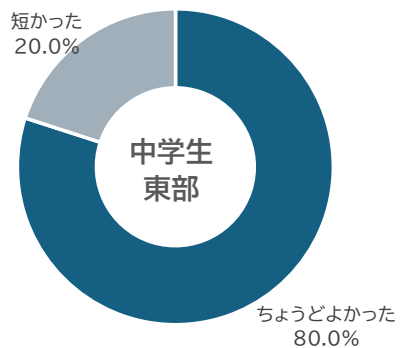
1 中学生の部

Q3 意見交換会の時間はいかがでしたか

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
長かった	0	-	0	5	5
ちょうどよかった	4	-	2	9	15
短かった	1	-	0	0	1



会場別の回答

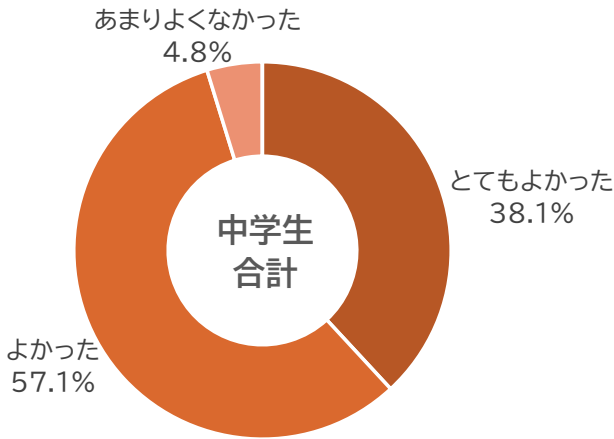


「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」参加者アンケート結果について

1 中学生の部

Q4 意見交換会の進行や雰囲気はいかがでしたか

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
とてもよかった	2	-	1	5	8
よかった	3	-	1	8	12
あまりよくなかった	0	-	0	1	1
よくなかった	0	-	0	0	0



理由(自由記述)

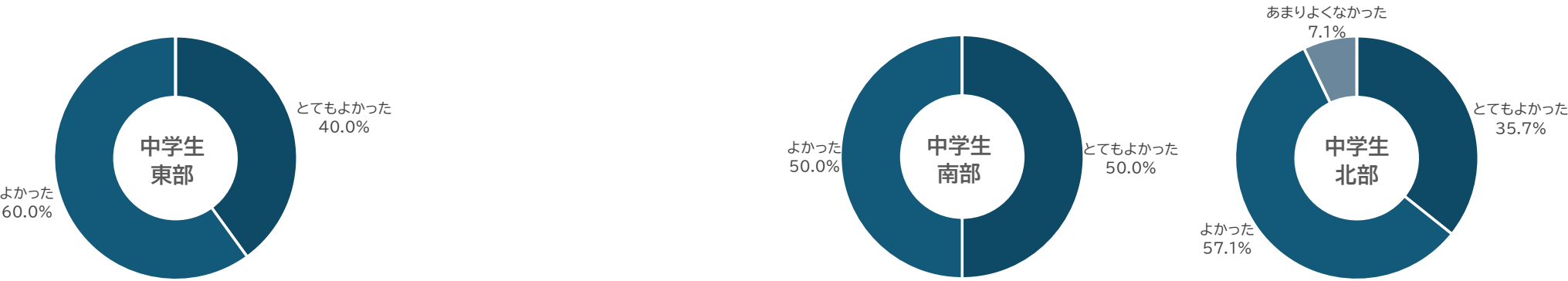
(とてもよかった)

- 順に指名していく方式なので、円滑な話し合いができたため。
- 一人一人が活発に意見を話せるような雰囲気だったから。
- とても自分の意見を言いやすい雰囲気ではなしかったです。
- 進行がスムーズで発言しやすい雰囲気だった。
- 意見がとても言いやすい、多様なものに寛容だったから。
- 教育委員会の考えていることを知ることができ、それに対する意見を言いやすい雰囲気だったから。
- 気まずい空気にならないで発言ができていたから。

(よかった)

- あまりカジュアルすぎず、自分の意見をはっきり言える環境でした。
- 質問しやすい雰囲気でした。
- 中1～中3の人がいるだけあって、中1の自分からしたら、しっかりとした会議だったのでふんいきが少し重く感じました。
- 意見がだしやすい雰囲気だった。
- 様々な人の意見を聞くことができたから。でも、少し雰囲気が重く感じました。
- もう少し意見がいいやすい雰囲気でもいいのかと思いました。
- リラックスできるようお声がけをしてくださったため。
- 誰かが発表する時も静かに聞いてくれた。しっかり一つ一つにあいづちをしてくれた。

会場別の回答

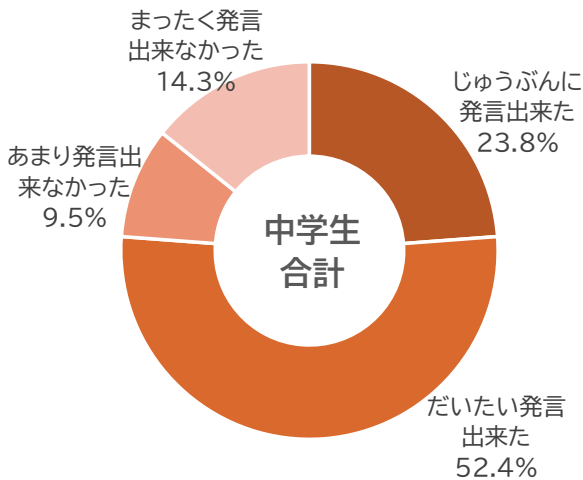


「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」参加者アンケート結果について

1 中学生の部

Q5 じゅうぶんに自分の意見は言えましたか

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
じゅうぶんに発言出来た	2	-	1	2	5
だいたい発言出来た	3	-	1	7	11
あまり発言出来なかった	0	-	0	2	2
まったく発言出来なかった	0	-	0	3	3



理由(自由記述)

(じゅうぶんに発言出来た)

- 議論の中で、自分の考えがまとまったため。
- 質問したいことを質問することができた
- 発言できる自分の番もとても多かったし、意見ありますかと聞いてくださるおかげで意見をじゅうぶんに言えたから。
- はじめはさんちようしてははっきりと言えなかったけど会議が進むにつれて自分の意見が固まっていたから。

(だいたい発言出来た)

- 個々に質問の考えを聞く形で進んだため、自分の考えを十分に伝えることができなかった。もう少し時間があるとよい。
- 積極的ではなかったけど言いたいことは言えたから。
- 内容がうちからしたら難しく、あまり自分の考えが思いつかなかったです。でも、お話を聞いたら、何となく内容を理解できました。
- 自分は今回の意見会ではよく発言した方だと思っているから。
- 自分がどのように考えたことがあるのかを言語化して伝えられたから。
- 自分の考えを伝えることができたから。
- 自分の疑問に思ったことや、質問に対する意見を言えた。

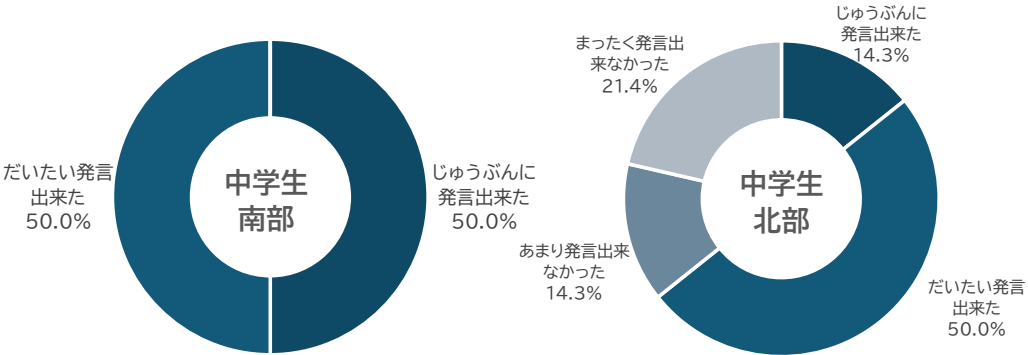
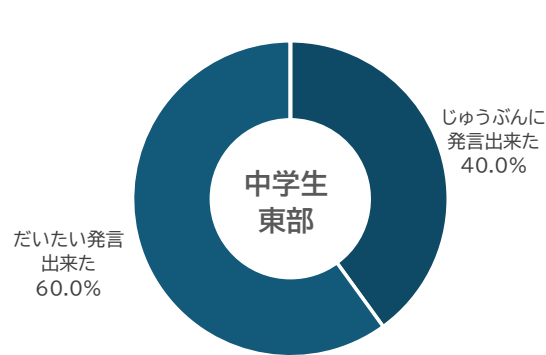
(あまり発言出来なかった)

- 人に注目されるのが苦手だったため。意見があっても発言することが難しかった。

(まったく発言出来なかった)

- 考えがまとまらなかった。
- 考えがうまくまとまらなかった
- 教育委員会の人の話にとっても納得してしまった。考えを上手くまとめることがむずかしかった。

会場別の回答



1 中学生の部

Q6 意見交換会で印象に残ったことがあれば教えてください

- 県教育委員会の話や考えを聞いたこと。特に、自分と異なる考えのときもあり、参考になった。
- ジェンダー平等のための共学化と少子高齢化の影響に対する学校の併合は別の話だが、共通している部分はある。県教はきっと意見を変えず、「交換会で反対意見も聞きました」というのだろうが、であれば私は海外の学校へ行きます。本当に共学化がジェンダー平等になるのか学び直してほしい。男女共同参画の人が言う「ジェンダー平等」は本当のジェンダー平等ではないですよ！
- 共学化を推進していく理由が男女平等だけではなく少子化などの問題もあったこと。これからの生徒数が大幅に減っていくこと。
- 3年生の質問した時のすがた。自分の意見をしっかり伝えていた。
- 共学化について疑問が多かったけれど、教育委員会の方々もたくさん悩んだ末に出た結果で、どう考えてそうなったのかをよく話してくださり、共学にすごく反対していたけれど、悪くないなと思いました。
- 教育委員会がどのように思っているかも教えてくださったところです。普段は分からない、知れないことが分かって、すごく考えがふかまったからです。
- 「男女の違いというよりは、一人一人の考え方や(受けとめ方?)が違って特徴の方が大きい」
- 他の学校の人の意見を聞くことで視野を広げることができた。しかし、教育委員会の方が否定はしないものの、教育委員会側の意見を引っ張るのは悪い意味で印象に残った。
- 最初の意見発表にあった共学でも男子クラス、女子クラス、混合のクラスというのを希望で分けるとするのは比率が一緒にはならないと思うけど、個人の意見の尊重という面ではよいと思った。
- 教育委員会の方々の意見や、方針を実際に知れたし、その意見に対しての考えを伝えられることができただけでもとても貴重な体験になりました。ありがとうございました。
- 教育委員会さんの共学化に対する思いやこれからの取り組みについての考え
- 色々な意見が出ていてよかったと思いました。
- 相づちなどの反応があり、とても話しやすい環境だった。
- 他の学校の人などもそれぞれ違う意見をもっていて、自分にとっても有意義な時間となった。
- みんなが自分の意見を持ち伝えていたところ。
- 県のみなさんが考えていることを私たちが知ることは少ないので、県の現実や将来に向けて考えていることを知れたことです。
- 今まででは合peiするときは、別学校どうし、共学校どうしだと思っていたけど、教育委員会は学びの同じところをするということを聞いて確かにとと思いました。
- 色々な人の意見が聞けて将来について高校選びについて興味をもち、高校生になるのがとても楽しみになりました。
- 私が考えていたこと以外の意見をしることができてよかったです。意見交換会で印象に残ったのは、共学や男子校、女子校に限らず個人の能力に合わせた教育をするということについてです。私はこの話を聞いてとてもすばらしいなと思いました。
- 教育委員会が考えている意見について、詳しく知ることができて、良かったなという印象です。共学化についてどんな考えがあるのか。という話から展開し、いろいろな面から、理解を深めることができてよかったです。
- 共学、男子校、女子校の前に、個人意見や考えを一番にする教育をすることが大切だと学べた。

1 中学生の部

Q7 意見交換会について、改善してほしいことや、要望があれば教えてください

(内容に関すること)

- 自分以外の人には問題ないかもしれないんですけど、内容が多くて、少し頭がパンパンになってしまったので、中1・2と中3とかで少し分けるなりして、もう少しゆっくり話してほしいと思いました。
- こちら側が意見を言った後、似たような説明が返ってくるので発言する気が失せる。(例:別学の方がいい→そうだね。でも～)中学生にもっとわかりやすく、簡潔にしてほしい。わかりやすい資料やパワポは紙面で配るべき。
- 周りの人と意見を交換し合う時間が欲しいです。
- どうしても共学化にしたいという大人の気持ちが伝わってきました。
- もう少し中学生に身近な話題で、意見をもちやすかったら、発言しやすいのかなと思いました。
- たまにわかりにくかったところがあったから、もう少しグラフなどを使って説明してほしい。

(参加者・人数に関すること)

- さらに人数が増えると、より考えも多様になると思うので、人数増加。
- もっと人がいた方が活発になると思った。
- 現在、高校に通っている人とも一緒に意見を交換できれば、中学生も実際の高校生と話ができ、より意見が深まると思った。

(時間に関すること)

- 休み時間が欲しい。暑いです。
- 会議途中で集中が切れてしまったのでこまめに休けいがほしい。
- もう少し、意見を整理する時間が欲しいです。

(その他)

- このままの意見交換会でいいと思います。
- これからも様々な意見会を続けて開いてくださるとありがたいです。
- 満足いく話し合いができる環境でよかったです。
- とても良かったです。ありがとうございました。

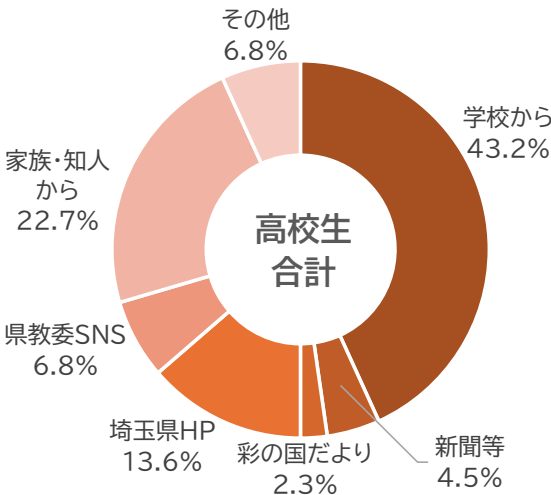
「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」参加者アンケート結果について

2 高校生の部

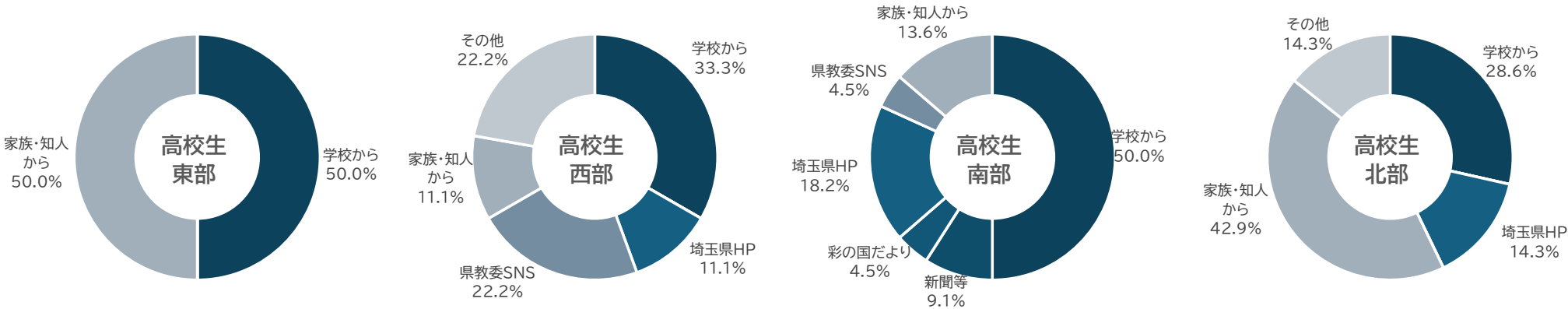
Q1 この意見交換会をなにで知りましたか(あてはまるものをすべて選んでください)

手段	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
学校からのお知らせ	3	3	11	2	19
新聞等	0	0	2	0	2
彩の国だより	0	0	1	0	1
埼玉県ホームページ	0	1	4	1	6
県教委SNS	0	2	1	0	3
家族・知人から	3	1	3	3	10
その他	0	2	0	1	3

その他：他校からの勧誘、SNS(県教委以外)、別学団体から



会場別の回答

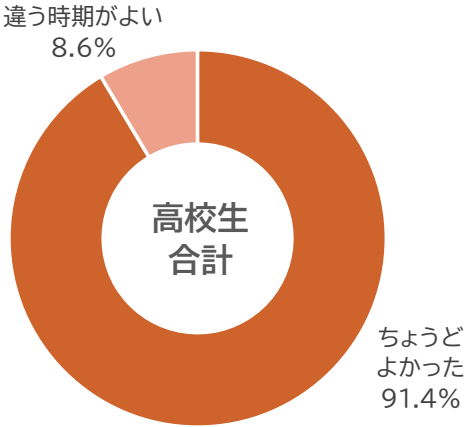


2 高校生の部

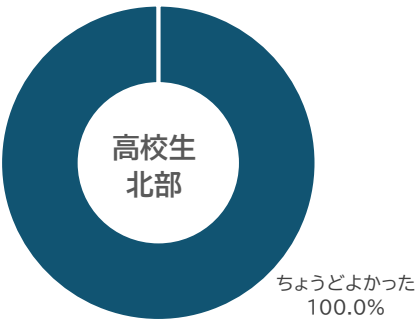
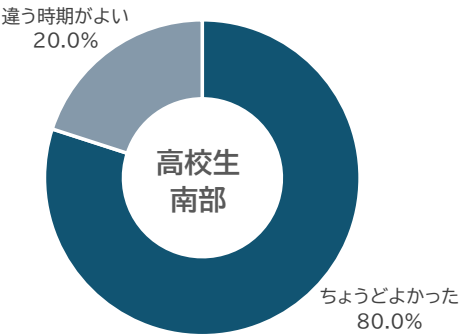
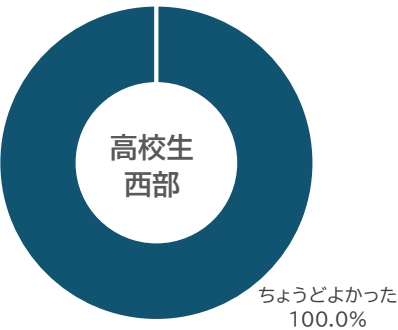
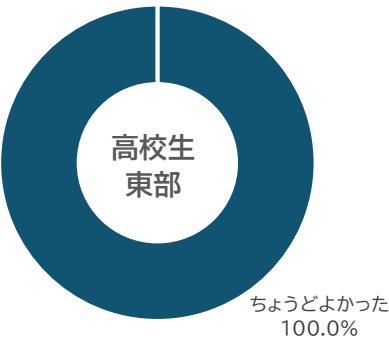
Q2 意見交換会の開催時期はいかがでしたか

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
ちょうどよかった	6	7	12	7	32
違う時期がよい	0	0	3	0	3

違う時期：2,3月、4月、7月前



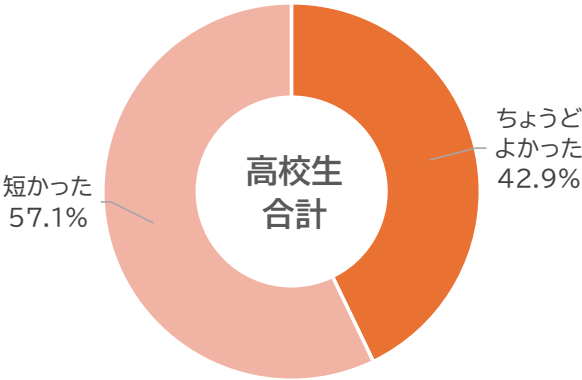
会場別の回答



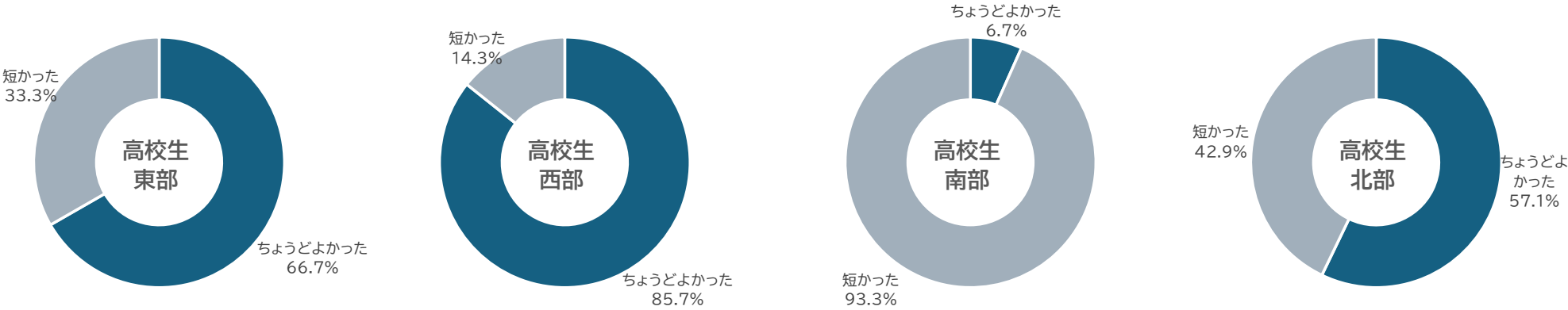
2 高校生の部

Q3 意見交換会の時間はいかがでしたか

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
長かった	0	0	0	0	0
ちょうどよかった	4	6	1	4	15
短かった	2	1	14	3	20



会場別の回答

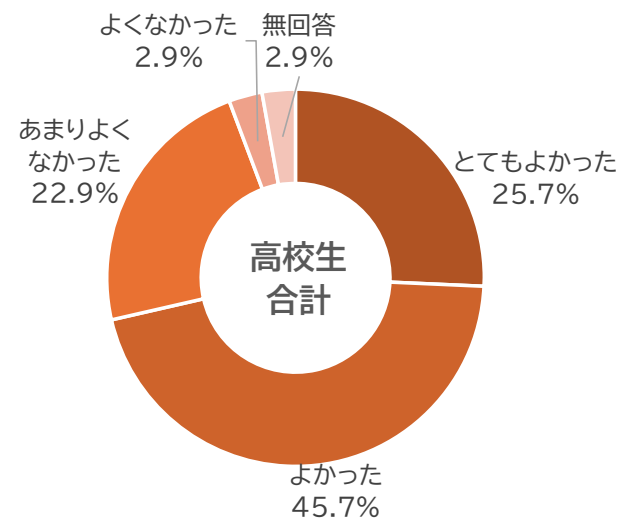


2 高校生の部

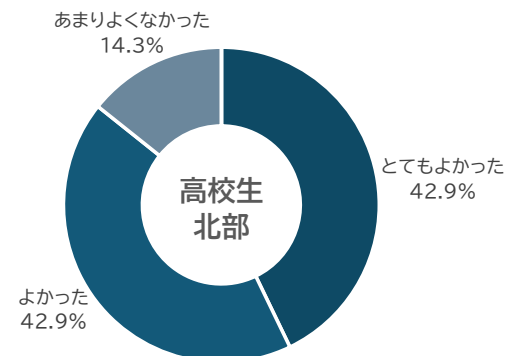
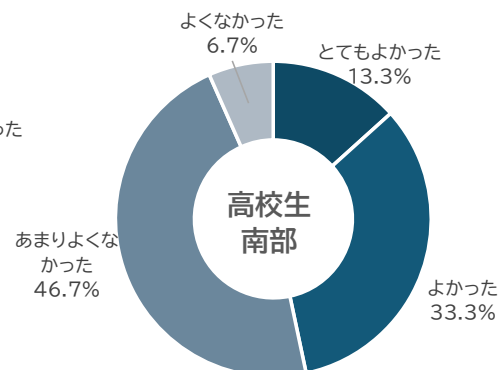
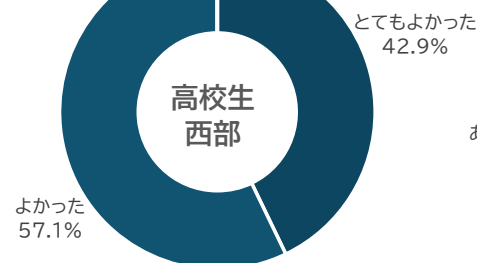
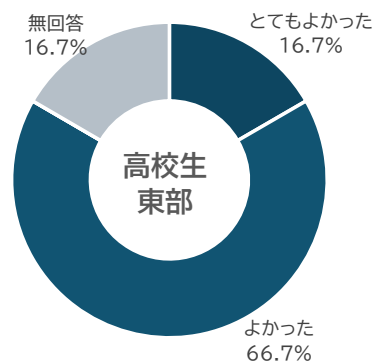
Q4 意見交換会の進行や雰囲気はいかがでしたか

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
とてもよかった	1	3	2	3	9
よかった	4	4	5	3	16
あまりよくなかった	0	0	7	1	8
よくなかった	0	0	1	0	1
無回答	1	0	0	0	1

理由・自由記述は次ページ



会場別の回答



2 高校生の部

Q4 意見交換会の進行や雰囲気はいかがでしたか(理由・自由記述)

(とてもよかった)

- 進行がスムーズで議題から話がそれた際もどしていただけたのが良かった。
- 共学の人は意見が言いづらい環境を想定していましたが、非常に意見が言いやすくて良かった。誰も遠慮していなかったのが良かった。
- 話しやすい空気を作っていただいたり、1人1人に話を振っていただいたりしたからだと思います。ただ、女子の生徒さんの意見をもっと伺いたかったと思います。
- 男子校の方や共学校の方の考えを知ることができたことと、県の共学化に対する姿勢の認識を更新することができたため。
- 全員が積極的に発言していたし、良い雰囲気で自分の伝えたいことを話せたのでよかった。
- イスに座ったまま発言出来てフラットに1対1で話し合いが出来たから
- 私は、二極化した意見ではなく、あくまで”対話”により別学問題は解決すると思う。私が思う理想郷を実現できたので良かった。

(よかった)

- 前半は意見を求める場面が多かったが、後半は教育委員会の方が説明する場面が多くなっていたから。
- 大人の方の人数が少なかったため、あまり緊張せず意見を述べることができました。教育委員会側の推進する意見を押し付けるのではなく、反対側の意見をしっかり受け止めてくださり嬉しく思います。
- 発言しやすかった。
- 進行をしている方が挙手だったり、全員に聞いていく形だったり、色んな形で質問をして下さり、話しやすかったから。
- 全体的に、こちらが話す機会が多く、質問も振っていただいて話しやすかったため。
- 他の高校さんの生徒の意見をたくさん聞けたのが良かったと思う。
- 意見の言いやすい雰囲気であったから
- 別学維持派の意見は聞く機会があったが、県側の考えを聞ける機会は少なかったのが良い機会だった。

(あまりよくなかった)

- 団体からの質問が多かった。少し進行方針が噛み合っていない部分があった。
- 全員発言および質問の時間を設けるべき。発言するのに少し雰囲氣的に言いづらい生徒もいたと思う。
- 共学化にどんなメリット、デメリットがあるのかを話し合おうと思ったら、どんなプロセスでその結果に至ったかという質問会になって、激しくなってしまったからです。
- 一人一人が全員が意見を述べるべきである。
- 話し合いをする前に、議題等を提示していただけるとありがたい。
- これまでと形式が違っており混乱につながったのかと思われます。
- 雰囲気が良かったが、今回場合によっては参加者からの質問の時間が設定されない、もしくは少なくなる可能性もあったので、ある程度質問時間も長く設けるべきだと思いました。

(よくなかった)

- もっと賛成・反対についての意見を述べたり、述べられたかった。

(無回答)

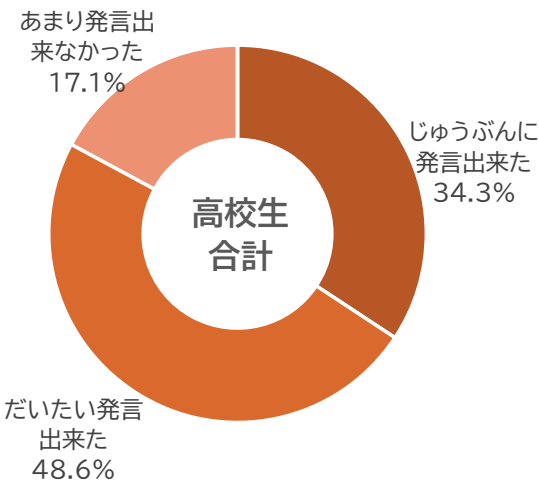
- 否定はしなかったけれど、自分たちの立ち位置を強いものにしていて、お互いにまんべんなく話し合いをすることができたと思う。経験や体験談に基づいた話を聞くことができたことも好印象だった。

2 高校生の部

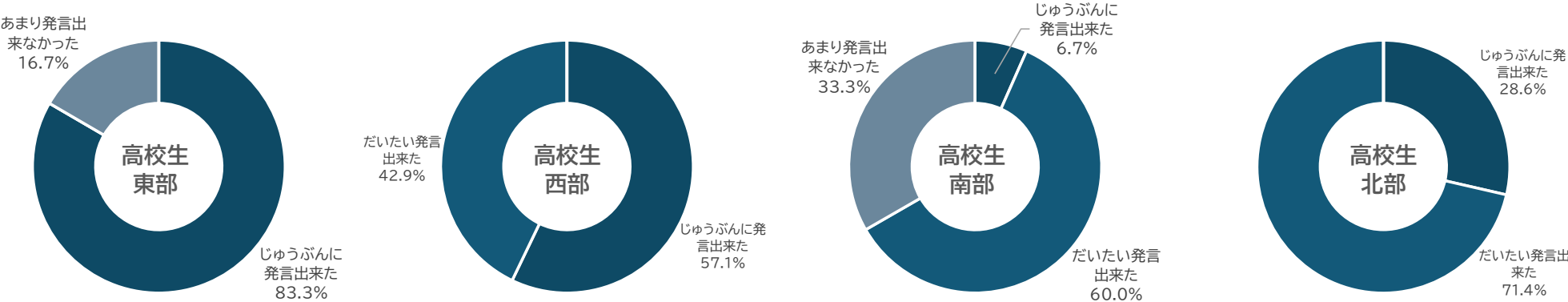
Q5 じゅうぶんに自分の意見は言えましたか

回答	会場				合計
	東部	西部	南部	北部	
じゅうぶんに発言出来た	5	4	1	2	12
だいたい発言出来た	0	3	9	5	17
あまり発言出来なかった	1	0	5	0	6
まったく発言出来なかった	0	0	0	0	0

理由・自由記述は次ページ



会場別の回答



2 高校生の部

Q5 じゅうぶんに自分の意見は言えましたか(理由・自由記述)

(じゅうぶんに発言出来た)

- アンケートの内容を受けての判断や結果の理由など、自分の中でもっていたモヤモヤを伝えることができた。
- 他の参加者が様々な話の引き出しを持っていらっしゃって私の意見を引き出していたさ、しっかりと伝えることができたと感じたため。
- もちろん、私の反対する意見を伝えることも参加目的でしたが、近年の教育委員会の動きについての疑問点について質問し、納得できる返事をいただけました。
- 最初の自己紹介のときに自分の意見を好きなだけ述べさせて下さっただけでなく、所々で質問をして新しい考えを引き出して下さったから
- 全員が遠慮なく話していたので、自分も積極的に話せました。また、話しやすい進行をして下さったので、話しやすかったです。
- 自分の中で共学化に対する意見、考えは準備していたため、自分の思いを素直に伝えることができた。
- 教育委員会の方がしっかり受け止め、細かくていねいに話をしてくれたので、自分の意見をしっかり言えた。
- 自分のまとめて来たことや思いは喋ることができた。

(だいたい発言出来た)

- 人数が少なかったため、ちょうど良かった。
- 最初の方の質問などで、緊張してあまり発言できなかった
- 個人的に言いたいことは冒頭と末尾で言ってしまったので、言いたいことは言えました。しかし、特定の生徒さんが話しすぎている感じがしたので、そのあたりはもっと考えてほしかったと個人的に思っています。
- 話す内容がかなり固定化されてしまっていたから。
- 最初の自己紹介や感想のときに言いたいことは言えたと思う。
- 質問の時間を設けていただいたため、話す機会が多かった。
- 言いたい事が多すぎて私があるので内容を忘れてしまった。そのためだいたいになってしまった。

(あまり発言出来なかった)

- 前半は自分自身が緊張しすぎてしまって意見があまり浮かばず、後半は発言するターンがなかなかなかったから。
- 時間が短かったからだと思います。
- 時間が短いから。
- 時間や進行が足りなかったと思う。
- 時間が短かった。趣旨、やり方が事前に分からなかったから。

2 高校生の部

Q6 意見交換会で印象に残ったことがあれば教えてください

- 女装コンテストや男装コンテストなどどのような意図が行われているかが重要であるという点。
- 少子化や倍率、学びの多様さやそれを地域によって格差が起きないようにする努力など、多くの話をききました。その話が出るかもしれないと予想していましたが、消去法のような形というか、それがベストと言わざるを得ない状況で共学化を進めている面もあることが、仕方のないこともあるんだろうと思いました。
- 共学化問題が少子化による側面もあるということが重要だと思った。その一方で、メディアなどには共学化問題が別学のメリット・デメリットに関する問題としてとらえられてしまっているように感じる。この問題について考えるには、視野がせまくなりすぎてしまうと思う。そのため、今後は「今後の社会」「少子化」などのワードを用いて伝えていくべきだと思った。
- 共学化問題は様々な事柄が繋がっているという気づきがあったこと。
- 男装、女装コンテストの趣旨については、参加した6人に聞くのではなく、コンテストの主催者や、出場者に聞くべきだと思います。私が入学した時には既に存在していた行事であるため、詳しい趣旨は知りません。
- 共学校や男子校との違いを学ぶことができ印象的でした。県教育委員会の考えや主張の中で、私たちが知らなかった情報が多くあったように感じます。そういった考えを多くの人に広めていくことで、より多くの意見が生まれると思いました。
- 教育委員会としての共学化に対する考え。子どもの数に関する課題。男子校、女子校、共学での教育は同じにする。
- 教育委員会の考えをきくことができたのはとても良い経験になった。共学・男子校に通っている生徒の考えは、自分にはないものばかりで楽しかった。
- 女子校、男子校、共学の全ての在校生が参加していて、全員が主体的に発言していたこと。教育委員会の方が、現在の県の状況や教育委員としての考えを述べて下さったこと。
- 共学の役割についての話し合いが印象に残りました。
- 男女共学の人からも、男女別学の人からも話を聞き、各校のよさや各校ならではの行事などを聞けて良かったです。また、なかなか聞きすることができない県教育委員会の皆様のご意見をお聞きできてよかったです。
- 「共学化」という難しい議題の中で、自分自身も理解が浅かったことを丁寧に説明頂いたこと。
- 女子校や共学、他の男子校の方の意見を聞けて新たな視点からこの問題をとらえることができた。
- 報告書のデータへの不満が多いと感じた。
- このような場を設けていただけてありがたい。

- 県教委にしっかり意見を伝えてくださったとの確約を頂けたこと。
- スタッフの皆さんが丁寧に対応していただいたことです。本日はありがとうございました。
- 浦高が男子校だから入りたい女子が入れないという部分を深く考えた時間はとても意味深かったと思います。女子生徒さんの意見もそうですが、別学という「少数派」の私たちが、さらに少数派の人のことを考えるきっかけになりました。
- 他の学校や偏差値の高い学校の意見は自分のものとはちがう考え方だったことが印象に残った。
- いろいろな意見を聞くことができた。このような多くの意見を得ることができる場所・物等がもうすこしあると良いと感じました。
- さすが、県立浦和と感じました。
- 皆さんが、自分の学校を大切にしているということがよく分かりました。やっぱりこういった場に参加する原動力は、私もですが、納得できていないのに母校がなくなるかもしれないというのが大なり小なり含まれているのではないかと話を聞いていて感じました。
- 教育委員会側さんが思っていることや、生徒側からの意見を聞いた上での話し合いをしたところが印象に残った。
- 話題が簡単にコロっと変わったこと。
- 何をしても主体的に、合意を前提とせず、共学化を推進することは変わらないと感じた。政治的圧力のある中での政策を考えなければならない中で、生徒の意見を聞く会を設けていただき、ありがとうございました。
- 自分の考えが他の人よりも浅はかであると感じた。特に「能力と希望」という教育委員会の方の言葉が印象に残った。もっと多くの人がこのような意見交換会に参加してほしいとこの会を通して感じた。
- 会長数などデータを出していただいたのでより理解が深まったと思う。
- 様々な資料を見れたこと。貴重な時間だったと思います。
- 共学校の生徒会では男子が席を多く占めていると思い込んでいたが、資料で女子と大差ないと知り、考えを改めるきっかけとなった。
- 「同じ教育をするとき、男女を分ける必要がない。」という県教委の姿勢が分かった。

2 高校生の部

Q7 意見交換会について、改善してほしいことや、要望があれば教えてください

(内容に関すること)

- 共学化を進めている、という方針(前提)があって話が進むと、別学にするべきだと思う根拠を話すなど、本来もらいたかったであろう意見が発言しにくい雰囲気が生まれてしまったと思うので、最初に少し話した後、一回別の話として展開するべきかと思います。
- 大きな問題を身近に感じることができる良い機会になったので、また開催してほしいと思った。さらに世代が変わってきてくるだろうし、その世代ごとにニーズもちがうからまた討論会を開いてほしいと思った。最後に1人ずつ感想をいう機会が必要だと思った。
- 県教委の立場(なぜ共学派なのか、なぜ推進するのか)又は意見の全てを一番最初に述べてほしいと思った。
- 事前に話し合いに関わる資料をいただけると、より深い考えを創り出すことができたのではないかと思います。
- 質問内容をスライドにまとめてほしい。本当に共学化反対の意見が伝わっているか分からなかった。
- 生徒たちのみで話し合うグループワークの時間があれば、より活発な意見交換ができたと思う。
- 質問をして、答えが出なかったとき、時間があればもう少し考える時間が欲しいです。参加者同士で話せる時間が欲しいです。
- 「～の可能性がある」という発言が複数回あったが、話す前にデータを集めてあると理解・納得はできると思う。「可能性がある」という発言を始めてしまうとキリがないと思うので、個人的にはそのような発言はやめてほしい。
- 報告書等が手元があれば、荒れずに進むと思った。
- 意見の更なる深掘りではなく、質問、疑問点を聞いてほしい。
- 発言者は挙手制でもよいですが、県教委の方で指名するような形でもよい気はしました。
- 意見交換会のみではなく、質疑応答等の私たち県民が行いたいこととできるだけそうことができるような多種多様な会の実践を強く求めます。大変忙しいことと存じ上げますが何卒よろしくお願いします。また、多くの情報の提供を強く願います。
- 質問に対して論点が変わっているところがあつたので改善してほしい。
- 進め方、目的をわかりやすく明記してほしい。
- 時間を長くしてほしい。意見交換なのか、質問会なのか、主旨を事前に明らかにしてほしい。意見交換会、質問会は分けてほしい。
- もう少し具体的な回答が欲しかった。でもすばらしい時間だったと思います。
- 参加者からの質問も最初から設けるべき。

(参加者・人数に関すること)

- 共学校に通う人も少数でいいですが、一定の人数がほしいです。

(時間に関すること)

- 時間が短い、かつ雰囲氣的に発言しやすい様では無かった。
- 時間が短かったので、もう少し長くしてほしいです。
- もう少し交換会の時間をのばしてほしいです。(別学出身の方、共学出身の方どちらも)女性の方から(大人の方)からの意見をもっと聞きたかったです。
- まずは第一に、時間をもっとのばすべきだと思う。
- もっとお話ししたかったです。時間を増やしていただきたかった。形式について事前に連絡していただきたかった。
- 時間を長くしてほしい。

(その他)

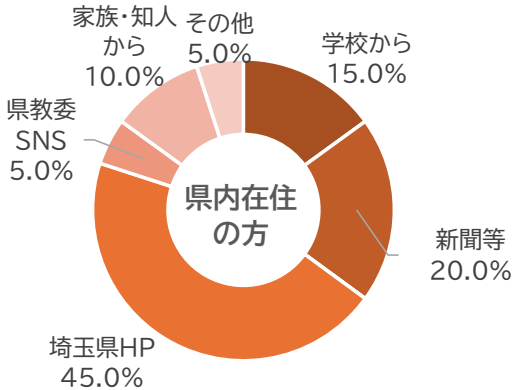
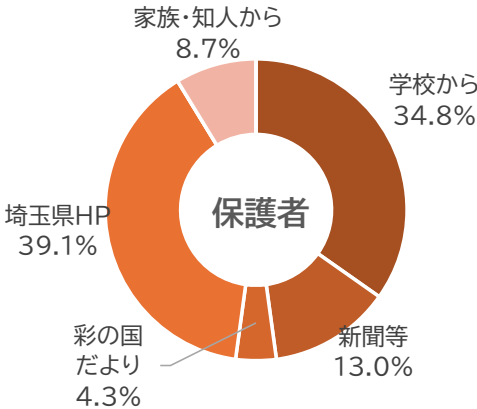
- 冷房の温度を下げてほしい。
- 1人1人うちわや飲み物を用意してくださいましたが、大人の方はうちわを使っていなかったり、水分補給をしていなかったりしていたため、高校生がその中で水分補給をするのは申し訳なさがありました。
- どの会場も駅からのアクセスが良く、積極的に参加できるようになって良かったと思います。本日はありがとうございました。
- 友人に教えてもらって初めて知ったので、学校でもっと知れると良いかなとは感じた。
- 当該生徒と県教委が対話できる場を設けていただきありがとうございました。別学に対してさらに考えが深まりました。

3 保護者の部・県内在住の方の部

Q1 この意見交換会をなにで知りましたか(あてはまるものをすべて選んでください)

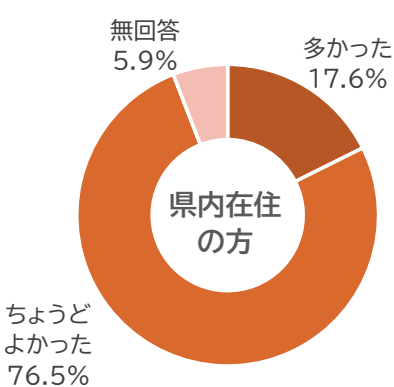
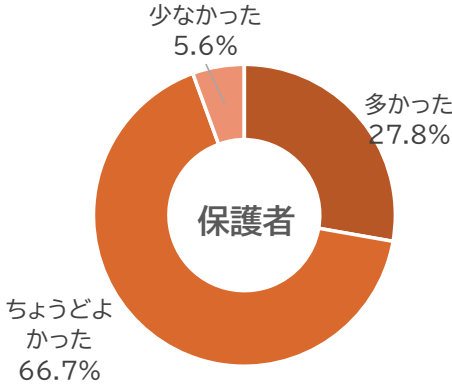
回答	部	
	保護者	県内在住の方
学校からのお知らせ	8	3
新聞等	3	4
彩の国だより	1	0
埼玉県ホームページ	9	9
県教委SNS	0	1
家族・知人から	2	2
その他	0	1

その他：無記入



Q2 意見の交換をする際の人数(20名)はいかがでしたか

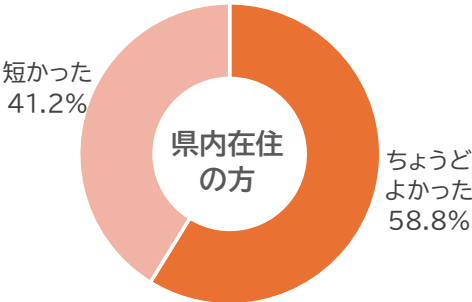
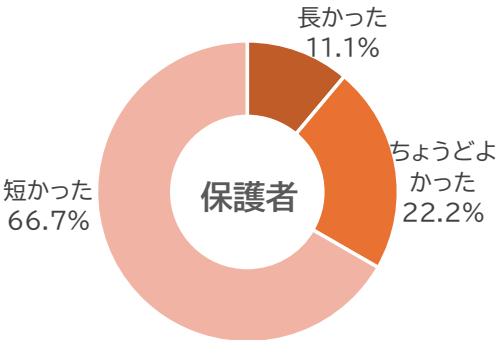
回答	部	
	保護者	県内在住の方
多かった	5	3
ちょうどよかった	12	13
少なかった	1	0
無回答	0	1



3 保護者の部・県内在住の方の部

Q3 意見交換会の時間はいかがでしたか

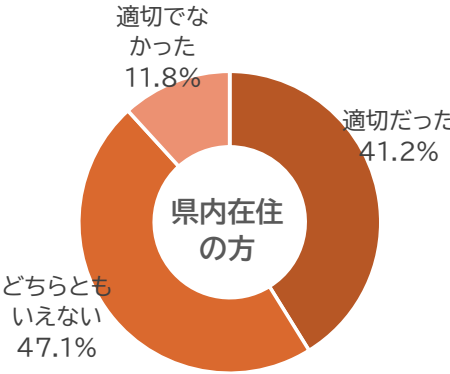
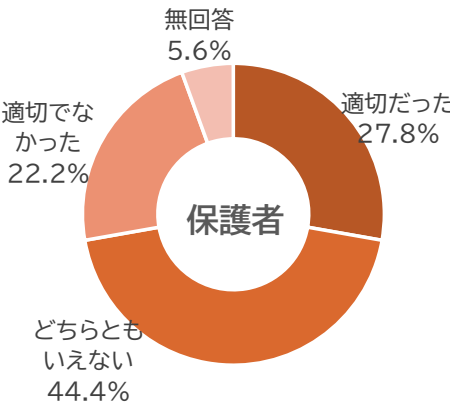
回答	部	
	保護者	県内在住の方
長かった	2	0
ちょうどよかった	4	10
短かった	12	7



Q4 意見交換会の進行はいかがでしたか

回答	部	
	保護者	県内在住の方
適切だった	5	7
どちらともいえない	8	8
適切でなかった	4	2
無回答	1	0

理由・自由記述は次ページ



3 保護者の部・県内在住の方の部

Q4 意見交換会の進行はいかがでしたか(理由・自由記述)

保護者の部

(適切だった)

- 教育委員会の考え、説明をしてもらい分かったことが多かった。男女共同参画について教育委員会の考えを聞いて共学にすることでこのことを解決しようとしているわけではないときき安心した。
- 最初の「自己紹介＋α」が長い。時間をタイマーを使って管理してほしかった。(参加者の熱意は分かるが)

(どちらともいえない)

- 時間が短かった為、十分な議論がなされなかったと思う。
- 様々な意見が聞け、大変有意義でした。参加者の皆さんが危惧されるのは「形骸化」だと思います。また「性急で強引な改革」という意見が複数出ており、そう思っていたのは自分だけではないと安心しました。ただ県側の参加者が実質2名という点に保護者は不安を抱いたと思います。
- 冒頭のあいさつの時間を区切っていって進めて欲しかった。
- 自己紹介の時間を定めた方が良かったと思います。自分の意見を述べるのは意見交換が開始された後でも良かったのではないのでしょうか。
- 発言者が長いので、1回の発言はもっと簡潔にするべきです。そうすれば、もっと発言できたと思います。

(適切でなかった)

- もっとたくさん意見を言いたかった。人数が多くて、自分の発言する時間がすくなくてくやしいです。
- あらかじめスケジュール通りにしようというのが感じられませんでした。自己紹介を手短にと最初に言ってほしかった。自己紹介が長く、最初に1人1分程度というアナウンスがなく、だらだらスタートしてすべての選択の話など、議論がなかったのが残念。
- 手元にレジュメがなく、自己紹介と参加した目的を20名で話す時間がどれだけあるのかわからなかった。意見交換というか、自論を述べる1人あたりの時間が長すぎて話として一方的だったかと思いました。
- 昼休憩を設けてさらに意見を交換する機会がほしい。

(無回答)

- 一人一人の発言の時間を決められた方が良かったと思う。

県内在住の方の部

(適切だった)

- ありがとうございます。

(どちらともいえない)

- 1人1人の熱い意見が長く、自分の意見がもっと話せるかと思っていたが、言えずに終わった。人の意見はよく理解しました。
- 進行がむずかしかったと思うが、よくまとめていただいた。
- むずかしいところですが、長時間発言者をうまく切ってほしかった。
- 持ち時間制にして、意見時間の配分より多くの方の意見が聞きたかった。
- もう少し議論を深められればよかったと感じましたが、貴重な機会をありがとうございました。
- 自己紹介が長すぎた。

(適切でなかった)

- 議題から論点がズレることが多いように感じます。
- 最初の自己紹介が長すぎる。制限があった方がいいと思ったので。

3 保護者の部・県内在住の方の部

Q5 意見交換会について、改善してほしいことや、要望があれば教えてください(保護者の部)

(運営に関すること)

- 意見交換会の初めに教育委員会のお話をお伺いしてから意見交換会の参加者から話を進めた方が良かったのではないかと思います。最後に教育委員会の方がまとめの話をされていたが、意見を汲んでのお話ではなく、ゴールが決まってい意見が反映されるのかという疑問を残す形となってしまった。
- 子どもが別学など当事者としての意見がメインになるので、第三者が入りにくい状況になっている印象があった。これまでの意見交換で出たものを提示するなど、途中参加者からも入りやすい雰囲気作りが必要ではないか。
- 共学賛成の方が20名中ほとんどいないとは、意見の交換になっていない気がしました。とするならば、県はここまで共学反対、別学賛成の意見が多い中で、共学化を進めているということになります。民意を反映した決定をしていただきたいと思います。親が自分の用意してきた台本を読み上げる時間が長すぎて非常に会としては残念でした。県の方の意見を生でもっと聞きたかったです。
- 長い話の人がいます。できるなら1人何分と決めてほしい。「手短に」では抽象的すぎて熱意あふれる人には伝わらなかったのが残念。

(その他・ご意見)

- これだけ意見がでている中で、おし進めていく意味を県民が納得するように話して頂けたらと思います。
- 高校生が共学化にかかる費用について返答を求めていると聞いた。高校生の質問には回答してほしい。(現状維持と違って費用がかさむので)
- 私たちの声をしんしに聞いてほしい。埼玉県にはいろいろな問題があります。税金をたくさん払っているの県民の声を聞いて下さい。女子校、男子校、共学校あつての魅力的な学校づくりだと思います。
- 意見交換会で話された内容が教育長や教育委員にどのように伝えられ、その後、どの様な反応や議論がなされたのか、その内容を公開して下さい。
- 内容を県民に公開してほしいです。(「彩の国だより」などで)これからも何度も定期的にこのような機会を望みます。よろしく願います。本日はこのような機会を本当にありがとうございました。これからも埼玉県に誇りを持ちたいし、また誇りを持てる埼玉県であつてほしいと思います。教育委員会の皆様本当におつかれさまでした。

- 貴重な機会をありがとうございました。
- 共学化にすることが決まっているわけではないと分かり少し安心した。別学を全て廃止するためのものでないという安心しました。上手に伝えられなくても、一生懸命話を聞いていただけたのがありがたかった。高校の大切な3年間が守られるような会議であることを願います。
- 共学校のお子様がいる保護者が半数参加されていても良かった。埼玉県内の共学校の保護者の意見も聞きたかったです。教育委員会の考えを聞くことができ、埼玉県の子どもに与えられている教育、学べる機会が今後も与えられることを伺い安心できました。今回は浦和高校等、県内のレベルの高い学校の保護者の出席率が多かったので、もう少し、広い範囲で参加者がいたら、もう少し良い意見交換ができたのではないのでしょうか。男女比率も半数の方が良かったです。子どもの意見の受け入れながら、共学化を進めていただきたいです。
- 知事との意見交換会を望みます。
- この意見交換会が「共学化する上で意見はとりあえず伺いました。方針は変わりません」というものにならない様、切に希望します。高校再編の中に別学も含まれることは理解しますが、それにより進学先のバリエーションの制限につなげてほしくありません。マイノリティな別学をナシにするのは多様性の否定です。男女共同参画、たった一通の声をここまで拾うのであれば、県内に存在する2万以上の不登校児童生徒の声はなぜ全く拾われないのか。子どもの学ぶ権利を尊重してください。男女別学を選びたい子どもを守ってほしい。自民党県議団の圧力をはねのけてほしい。
- 教育委員会の方向性はほぼ決まっている中での交換会であった。少し残念です。
- まだ伝えきれないことがある方や、意見交換会に参加できなかった方もいるようですので、継続的な意見交換の場を開催を希望いたします。
- 意見交換会に参加することができて良かったです。別学でも十分男女共同参画を推進することはできます。女子校でも、文化祭等では看板を作ったり、ステージを作ったりと、共学であれば男子がやるようなこともします。そのことが、大人になった時にとても役立っていて、男子校でも同じなのではないと思っています。高校生活は3年と短い。貴重な高校生活を有意義なものにするためにも、選択肢として別学は残していただきたいです。本日はありがとうございました。

3 保護者の部・県内在住の方の部

Q5 意見交換会について、改善してほしいことや、要望があれば教えてください(県内在住の方の部)

(運営に関すること)

- 1人の時間を少し区切ってもらえると良かった。憧れの高校として目指す子供たちがいるのに無くす必要があるのか？埼玉県民で投票することは？
- もっとお互いにつっこみ合える時間がほしかった。
- 同意見が多く、意見交換とは言えない。ディベートではないが、事前にどの立場かを確認した上で、バランスよい人選が必要ではなかったかと思います。
- 意見交換会の出席者の人選については少し疑問を感じた。賛成・反対の比率は民意でもあるがちょっと片寄りがあった。子供が減っていく速度が速いので早急な対策が必要。
- 進行と時間スケジュールの管理をもう少し厳格に進めていただければと思います。
- 自己紹介に時間制限を設けたほうがよい
- 人選に疑問。ガス抜きですね。

(その他・ご意見)

- 県教委の皆様、大変お疲れさまでした。多様な意見の中で進めていくのは、本当に大変だと思います。
- 交換会をただのガス抜きにしないでほしい。一部の偏った意見のみに流されることはやめてほしい。
- 別学維持の御意見が多かったことに驚いた。その思いが生かされることを希望します。
- 県内在住者に対して、「意見交換会」という形で門戸を開いていただけたことに感謝したい。今回の意見交換会が単なる「形式」だけに終わらせてほしくない。可能な限り、多くの貴重な意見を今後の教育行政に生かしてほしい。「共学化」と言葉は簡単だが、実際の道のりは厳しい、予算的にも。「魅力ある高校」として、埼玉県に誇りを感じられる「別学」の道を残してほしい。
- また開催してほしい。
- アンケートについて、子どもたちの声を聞くのは一番大事ですが、中学生に「共学」「別学」の賛否を聞いてもどこまで分かるのだろうと。現に学校生活を送っている現役高校生の意見が現実を如実に現わしているのではないかと思います。初等教育からの教育の充実があれば中学生でもしっかりした考えを持てると思うと、教育は本当に質が大切だと思いました。
- 教育委員会の御担当者の方におかれましては、県立学校の再編整備は本当に大変だと思います。一人の県民として全ての高校を維持するのは難しいと思います。卒業生の意見は声高ですが、「母校がなくなる」のは当然であるとも思います。人口や県財政に左右されるものですので。本日はこのような場を作って下さり改めて感謝申し上げます。
- 別学校(志望率の高い)はぜひ残して下さい。



2024年9月25日

埼玉県教育委員会 教育長 日吉 亨 様
教育委員各位

共学ネット・さいたま
世話人代表 清水 はるみ

共学化実現のための具体策を求める要望書

8月22日、日吉教育長は、2023年に埼玉県男女共同参画苦情処理委員から出された、県立男女別学高校の早期共学化を求める勧告に対して、県教育委員会として「主体的に共学化を推進していく」という措置報告を公表され、記者会見では別学12校すべてを検討の対象にすることを明言されました。私たちはこれを評価いたします。

一方、今回の措置報告書では、共学化の担当部署、年度計画、完成年度が明記されておらず、実効性に疑問が残ります。具体的な措置を早急に講じることが必要です。

また会見では、推進の理由として男女共同参画の視点と、中学校卒業生の減少とが同列に論じられましたが、「だれもがどれも選べる社会に」がキャッチフレーズの男女共同参画社会の形成には、性別による差別的取扱いを受けないという人権を実現することが必須です。従って公立の学校への入学を性別で制限されない共学化が必然となります。これは別学校の「ニーズ」があっても例外ではありません。地域や学校を問わず共学化を推進しなければなりません。

さらに、共学化推進の理由として「性の多様性」の観点を他団体も挙げていますが、措置報告書には全く言及がありませんでした。誤った認識である性別二元論の上に成り立つ男女別学校は、少なくとも公立学校においては解消されるべきです。

今回、県教委は近年共学化を進めた6県を調査し、総じて共学化してよかったという回答を得ています。県内の学校調査で共学校ではリーダーシップをとる男女比が48:52であることがわかりました。県民に広報して、共学化への不安を払拭し合意形成に努めるべきです。共学化はスタート地点に過ぎません。今後ジェンダー平等と性の多様性の教育、及び教員研修を充実することが必要です。

以上を踏まえて、私たち共学ネット・さいたまは、県教委に対して下記のとおりに要望いたします。

記

- 1 今後県立高校では、性別を問われない権利を受検者の人権として実現するために、男女別学校を「選択肢」「多様性」として維持することはせず、全域全校の共学化を分け隔てなく推進すること。
- 2 教育局内に、共学化推進のための担当部署（プロジェクトチーム）を作ること。
- 3 12校全校の共学化を完了する最終期限を早急に定め、計画的に共学化を進めていくこと。
- 4 「魅力ある県立学校づくりの方針」に、男女共同参画と性の多様性理解の推進を取り入れること。
- 5 公立の小中高等学校のすべての教職員の初任者研修を含めた研修に、男女共同参画（ジェンダー平等）と性の多様性の理解を組み入れること。
- 6 男女共同参画（ジェンダー平等）と性の多様性の理解促進について、今後どのように児童、生徒に啓発を図っていくか、具体的方策を示すこと。

以上

埼玉県教育委員会教育長 日吉 亨 様



令和6年12月21日

よりよい一女をつくる有志の会
代表 [Redacted]

師走の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より教育の発展にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

この度、埼玉県立浦和第一女子高等学校（「一女」）の卒業生・在校生・卒業生の保護者・在校生の保護者・その他応援してくださる方々が集まり、よりよい一女をつくる有志の会（通称「一女の会」）が発足致しました。この一女の会は以下のような活動を行うことを趣旨・目的としています。

- 一女が女子校のまま、よりよい学校になるよう支援すること
- 志を同じくする方々と連携し、埼玉県立高校の男子校・女子校の維持のために一女の会を構成する仲間と意見交換や情報共有をすること
- 埼玉県立高校の男子校・女子校の維持のために今後の魅力ある県立高校づくりを真剣に考えて、県教育委員会の皆様と対話型でのコミュニケーションさせていただくこと

さて、早速ではございますが、一女の会の発足の趣旨に鑑み、令和6年8月22日に埼玉県男女共同参画苦情処理委員会に出された措置報告書に関して、以下のようなご質問をさせていただきたいと思います。

質問事項

- ① 「魅力ある県立学校づくり」の方針が近々改定されるとのことですが、その中で共学化について触れる予定であれば、措置報告書の14ページ「本県では男女別学校にも県民から一定のニーズがある」、同15ページ「男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがある」ことについて、「魅力ある県立学校づくり」の中で、どのように反映する予定ですか？
- ② 措置報告書15ページ「アンケートや地域別での意見交換」は、いつ、どこで、どのように実施する予定ですか？また、アンケートと意見交換は、それぞれ誰を対象とするのですか？
- ③ 「魅力ある県立学校づくり」の今後出される新しい方針において、その「魅力」の1つに「男女別学校であること」という項目があると理解/期待してもよろしいでしょうか？
- ④ 措置報告書15ページに「男女における機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択を用意することが求められる。」との記述があります。「魅力ある県立学校づくり」の新しい方針には、「魅力」ある「希望に応じた進学先の選択肢」として、別学も含めていただけるでしょうか？

- (参考；出典 QRコードが次のページにあります。)

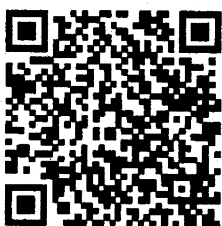
お忙しいところ大変恐れ入りますが、令和7年1月15日を目途に以下の宛先に書面でご回答を頂けると幸いです。よろしくお願いいたします。なお、ご回答はこの質問内容とともに、個人名を除いて、公開させていただく場合がありますので、お含みおください。

代表

埼玉新聞記事



弁護士ドットコム記事





令和7年3月28日

埼玉県教育委員会 教育長
日吉 亨 様

〒360-0031

埼玉県熊谷市末広2丁目131

埼玉県立熊谷女子高等学校生徒会

埼玉県立熊谷女子高等学校 共学化に関する生徒アンケート結果について

下記の通り埼玉県立熊谷女子高等学校で実施した生徒アンケートの結果を報告いたします。
本アンケートの結果を踏まえ、埼玉県こども・若者基本条例第12条(こども・若者からの意見聴取及び意見反映)に則り、同校を女子校として維持することを求めます。

記

1. アンケート対象者 : 埼玉県立熊谷女子高等学校在校生(1年生・2年生)
2. アンケート期間 : 令和7年2月17日～令和7年2月21日
3. アンケート方式 : オンライン方式
4. アンケート結果 :

1) 有効回答数: 251件

2) 設 問: 埼玉県立熊谷女子高等学校の今後の在り方について質問します。

3) 回 答 結 果:

埼玉県立熊谷女子高等学校は

- | | |
|-----------------|-------------|
| ① 共学化しない方がよい | 221件(88.0%) |
| ② 共学化した方がよい | 14件(5.6%) |
| ③ どちらでもない・わからない | 16件(6.4%) |

以上



令和7年3月31日

埼玉県知事 大野元裕 様

埼玉県教育委員会教育長 日吉 亨 様

埼玉県立熊谷高校全日制生徒会長

共学化に関する本校生徒のアンケート結果について下記の通り報告します。

記

1. アンケート対象者 埼玉県立熊谷高校全日制在校生

2. アンケート期間：令和7年3月24日のみ

3. アンケート結果（別添）

1) 有効回答数555件

2) 回答結果

①共学化しない方がよい 480件（86.5%）

②共学化した方がよい 17件（3.1%）

③どちらでもない・わからない 58件（10.4%）

つきましては、埼玉こども・若者基本条例に則り、今回の生徒の意見を県の教育施策

に反映し、埼玉県立熊谷高校の男子校としての維持をお願い致します。

共学化に関するアンケートの集計結果

1 年生(3 1 7 人)：有効回答数 2 8 6 人

- ①男女共学に変更すべき(共学化に賛成)：7 人
- ②男子校のままで良い(共学化に反対)：2 4 7 人
- ③どちらでもない・わからない・その他：3 2 人
- ④白紙・無提出：3 1 人

2 年生(3 1 6 人)：有効回答数 2 6 9 人

- ①男女共学に変更すべき(共学化に賛成)：1 0 人
- ②男子校のままで良い(共学化に反対)：2 3 3 人
- ③どちらでもない・わからない・その他：2 6 人
- ④白紙・無提出：4 7 人



令和7年4月22日

埼玉県教育委員会教育長 日吉 亨 様
埼玉県教育局県立学校部魅力ある高校づくり課 御中

よりよい一女をつくる有志の会

代表

「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」に関する質問書

春陽の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より埼玉県の教育の発展にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

さて、掲題に関し弊会より以下質問させていただきます。

質問1：抽選方法をお教えてください。透明性、公平性のある方法であることの説明をお願い致します。

特に一般の会は定員が少なく、県教委の方針に賛成の推進派ばかり選ばれ、反対派は排除されることを懸念しております。

質問2：受験を控えた中学生と保護者は、入試への影響を考え、意見を言うことおよび参加そのものを躊躇してしまう懸念があります。受験時の評価に結びつかないこと等を公表いただくことは可能でしょうか？

質問3：教育委員会側は、参加者の氏名、所属等を知った上で開催されます。マスコミが入るにも関わらず、名札、ネームプレートを付けることに個人情報保護の観点より、その必要性をご説明いただきたい。(SNS等の批判的になりかねません。)

質問4：県側の参加者に大野知事の出席をお願いできますでしょうか？特に、高校生の会への出席を調整いただけませんか？

質問5：各会の議事録を次の会開催日までに公表いただけますでしょうか？

質問6：傍聴は不可とありますが、未成年の中高生が教育委員会の複数の方と対峙しますの



令和7年4月18日

埼玉県教育委員会教育長 日吉亨様

埼玉県内高等学校連携有志

他 866 名（別紙参照）

（埼玉県内在住中学生・高校生含む）

「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」の開催方法について変更を求めます

日頃は、埼玉県の公教育の充実にご尽力いただき感謝申し上げます。また今般、措置報告書でも記載いただいた意見交換の場を設けていただくこと、御礼申し上げます。

ただし、本意見交換会の開催方法には、中高生を含めた広く埼玉県民の意見を引き出すという観点から強い懸念を抱いています。以下の理由により、意見交換会の開催方法について変更を求めます。

1. 氏名表示について

報道発表資料によると以下の記載がございます。

引用ここから

- ・当日、会場において名札又はネームプレート等により学校名（中学生・高校生・保護者のみ）及び氏名を表示します。
- ・報道機関による取材が入る可能性があります。

引用ここまで

意見交換の場において、敢えて学校名及び氏名を表示する意味はないと考えます。今後高校受験を控えた中学生やその保護者が、埼玉県教育委員会が「主体的に推進する」とした共学化に対して、自由な発言を行うことは現実的ではありません。まず参加すら躊躇するのが実情でしょう。

令和6年5月～6月にかけて行われた県教委によるアンケートにおいても、共学化反対意見が中学生19.3%（記名なし61.0%）、中学生保護者43.5%（記名なし64.4%）、高校生57.2%（記名なし60.1%）、高校生保護者57.3%（記名なし68.0%）となっています。ここから導き出されるのは、記名ありと記名なしではアンケート結果に大きな乖離が出ること、高校受験を控えた中学生において特に乖離が大きいということです。

上記からも明らかなように、中高生を含めた広く埼玉県民の意見を引き出すためにも、意見交換会申込み時における学校名及び氏名の記入、意見交換会開催時における学校名及び氏名の表示については行わないよう、開催方法の変更を求めます。

2. 募集対象について

募集対象は、東部（越谷）、西部（川越）、南部（浦和）、北部（熊谷）の各会場において、中学生 60 名、高校生 60 名、保護者 20 名、県内在住 20 名となっており、全ての会場を合わせても 160 名ほどでしかありません。これは埼玉県人口（約 730 万人）の 0.002% でしかなく、措置報告書にある「県民の意見を丁寧に把握」には遠く及びません。

県教委は令和 6 年 8 月 27 日の高校生との意見交換会においても、72,986 件（記名あり 64,829 件、記名なし 8,157 件）のアンケート結果について「アンケート結果は世論とは考えていない」と発言されました。今回桁違いに少ない 160 名ほどの意見交換では全く判断の基準になり得ません。

埼玉県には、「埼玉県子ども・若者基本条例」があり、第 12 条において「県は、子育て・子育てに関する施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、当該施策の対象となる子ども・若者、保護者・養育者その他の関係者の多様な意見を反映させるため、子ども・若者等からの意見の聴取その他の必要な措置を講ずるものとする。」とされています。埼玉県は条例に則り、少なくとも応募してきた者については全員、意見交換会の対象とすべきです。

加えて「県民の意見を丁寧に把握」するのであれば、例えば生徒会がとりまとめるなど、当事者生徒たちの意見を幅広く集約する手法も検討すべきです。熊谷女子高校及び熊谷高校においては生徒会が意見を取りまとめて、大野埼玉県知事へ提出しています。

（熊谷女子高校：令和 7 年 3 月 31 日、熊谷高校：令和 7 年 4 月 1 日）

また、今回の意見交換の主なテーマとして「男女共同参画の視点に立った教育について」が掲げられています。埼玉県男女共同参画推進条例第 4 条 2 項によれば、「県は、男女共同参画の推進に当たり、市町村、事業者及び県民と連携して取り組むものとする。」とされています。僅か 160 人との意見交換だけでは「連携して取り組む」とは言い難く、今回の意見交換会は、埼玉県男女共同参画推進条例に違反している恐れがあります。

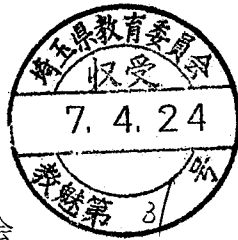
3. その他

SNS 等での代表的なコメントを以下に記します。いずれも開催方法（氏名の表示）や募集対象の少なさに懸念を示すものばかりです。

	コメント
--	------

1	<p>埼玉県教育委員会が「共学化意見交換会」を開催しますが、中立性に疑問を感じます。「共学化」「県立高校の削減」がテーマで、参加者は氏名・学校名を表示、報道機関が入る可能性あり、県民の傍聴は不可…いやいや、聞く権利があると思うのだが？</p> <p>この環境で学生や保護者が反対意見を出すの不安や怖さを感じてしまいませんか？申込時に学校名を入力し「抽選」で選ばれるのも不安です。</p> <p>それくらい今の埼玉県に信用がない。</p> <p>また「共学化を推進するに当たり」とは？</p> <p>結論ありきで進めているのではないか？</p> <p>2024 年の実施された調査でも高校生 57.2%が別学維持、的外れな"一件の苦情"に対し、生徒や保護者などから寄せられた 34,461 件もの反対署名も集まる中、県は「県民の意見を丁寧に聞く」と言うが、それは、限られた参加者で十分なのか？多くの県民の声を反映すべきではないか？</p>
2	<p>苦情処理委員の議事は非公開なのに、中学生のは晒すんだ！</p>
3	<p>氏名及び学校名そして顔を晒すことの危険性や不利益がある可能性は皆無と言えますか？</p>
4	<p>報道陣も来るかもしれない場に怖気付くことなく出てくる子供達に期待したいけれど、その前にもっと小さな声を拾えないものか</p> <p>各学校の生徒会が意見を取りまとめ地域の代表者が参加するなど</p> <p>意見交換のテーマの2つも気になる</p> <p>問題前提の大人達の意見主導で、子供達の闊達な意見が阻まれないことを祈る</p>
5	<p>各学校の生徒会が意見を取りまとめて地域の代表者が参加するの、いい案だと思います！！</p> <p>身バレが怖くて自由に意見が言えない子もいると思います。</p> <p>大人だって怖いです。</p> <p>やり方を変えられませんか。</p> <p>@saitama_kyouiku</p> <p>教育委員会さんへ</p> <p>返信は不要なので教育長にはお伝えください</p>

以上



埼玉県教育委員会
教育長 日吉亨様

令和7年4月24日

埼玉県議会議員
高木 功介

意見討論会等における生徒氏名公表に関する配慮のお願い

拝啓 春暖の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より本県教育行政の発展と生徒の健やかな成長のためにご尽力いただいておりますこと、深く敬意を表します。

このたび、県教育委員会主催の「埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会」における「生徒氏名の公表の扱い」について、現場の声や保護者からの意見も踏まえ、以下のとおり配慮をお願い申し上げる次第です。

【提案趣旨】

近年、若年層における個人情報保護意識の高まりや、SNS等による拡散のリスクを背景に、学校現場においても「実名発表」に対する不安の声が生徒本人・保護者双方から聞かれるようになっております。

とりわけ意見討論会などにおいては、発言内容が社会的に注目される可能性もあり、その際に氏名が公表されることで、当人が心理的プレッシャーや周囲からの過度な反応に晒されるリスクが生じかねません。

県が推進する「主体的・対話的で深い学び」や「自らの意見を形成し、発信する力」の育成にとっても、安心して参加できる環境の整備は極めて重要です。

【具体的なお願い】

つきましては、下記の点についてご配慮・ご検討を賜りたくお願い申し上げます。

生徒氏名の公表は原則として任意とし、本人及び保護者の同意に基づく運用とすること

希望する場合は、ニックネーム・イニシャル等を用いた参加形式も認めること

イベント実施前に、氏名の使用範囲（配布資料、記録、WEB掲載等）を明示し、書面で

同意を取得すること

生徒が安心して自らの考えを社会に向けて発信できる環境づくりは、未来を担う人材育成において不可欠です。個人情報保護と教育的効果の両立を図る観点から、貴委員会におかれましても、柔軟かつ丁寧な対応をご検討いただけますようお願い申し上げます。

何卒よろしくお願い申し上げます。



上 議 第 3 5 3 号
令和 7 年 6 月 2 5 日

埼玉県教育委員会
教育長 日吉 亨 様

埼玉県上尾市議会
議 長 田 中 一 崇



意見書の提出について

謹啓、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、本市議会では令和 7 年 6 月定例会において意見書が可決されましたので、別紙のとおり提出いたします。

つきましては、意見書の内容実現について特段の御高配を賜りたくお願い申し上げます。

謹 白

埼玉県立高等学校男女別学校において生徒の意見に基づく方針決定を求める意見書

現在埼玉県には、12校の男女別学県立高校がある。令和5年8月30日埼玉県男女共同参画苦情処理委員は、「埼玉県立高校において、共学化が早期に実現されるべきである」との趣旨の勧告を埼玉県教育委員会に対して行い、令和6年8月31日までに「是正その他の措置」についての報告を求めた。

埼玉県教育委員会は、勧告を受けて、中学生及び高校生とその保護者に対するアンケートを令和6年4月から5月に実施した。その結果、「共学化した方がよい」と答えたのは中学生で18.7%、高校生で7.8%であった。特に高校生では過半数の57.2%が「共学化しない方がよい」という結果であった。埼玉県教育委員会は令和6年8月22日に措置報告書を提出し、「男女共同参画社会の中において、高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることには意義があり、主体的に共学化推進していくこと」としたうえで、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、埼玉県教育委員会がアンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見徴取などを実施している。先に行われたアンケート結果からも、今後更に慎重な議論が求められることは明らかである。

よって、埼玉県及び埼玉県教育委員会においては、在校生及び進学を目指す生徒の気持ちを第一に考え、埼玉県立高等学校男女別学校において当事者の意見に十分配慮した方針決定を行うことを求める。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

令和7年6月20日

上 尾 市 議 会



令和7年6月30日

埼玉県教育委員会教育長様

埼玉県立浦和高等学校保護者代表

埼玉県教育委員会から埼玉県男女共同参画苦情処理委員宛ての
措置報告書に関するの

保護者意見調査報告

保護者を対象にした保護者新聞を作成する際に、意見調査を実施しましたので、その回答データについてご報告申し上げます。

実施期間 : 2025年1月22日(水)～2月2日(日)

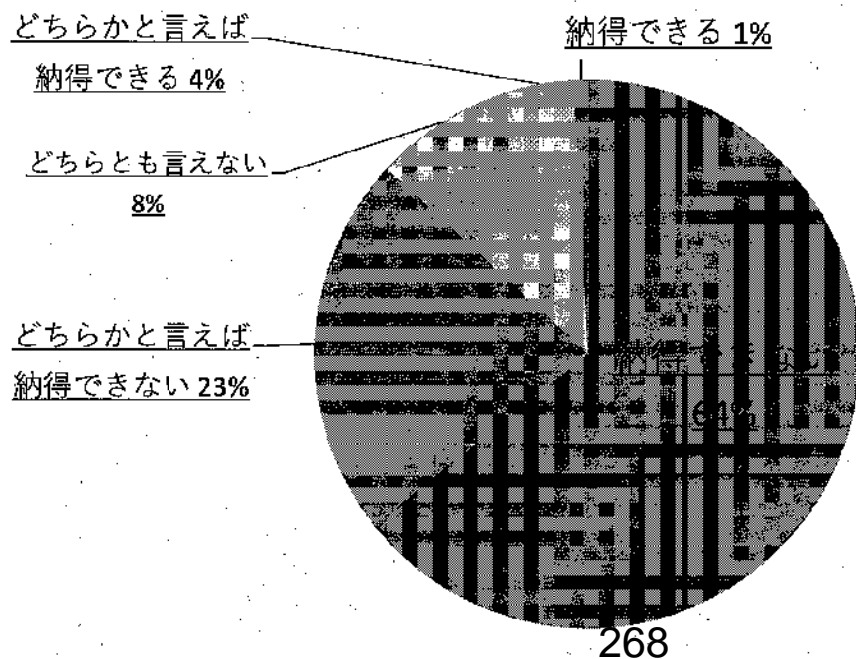
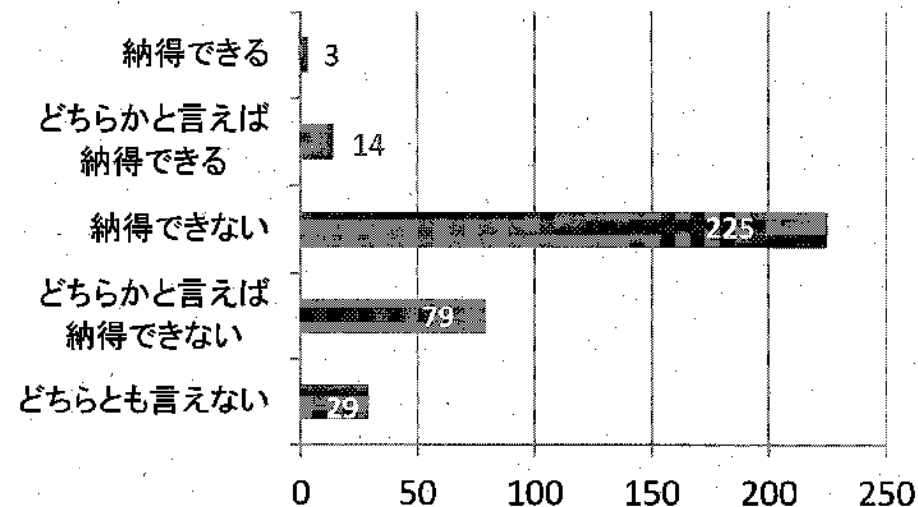
調査方法 : 選択式と自由記述による意見回答

回答数 : 350 回答率:33.3%(※世帯数:1,050) ※回答率・世帯数は参考値

©2025 埼玉県立浦和高等学校保護者代表

【質問】埼玉県男女共同参画苦情処理委員による勧告に対し、令和6年8月埼玉県教育委員会教育長による措置報告についてどのようにお考えでしょうか

回答	回答数 (人)	回答割合 (%)	回答割合 (%)
納得できる	3	0.86%	4.86%
どちらかと言えば納得できる	14	4.00%	
納得できない	225	64.29%	86.86%
どちらかと言えば納得できない	79	22.57%	
どちらとも言えない	29	8.29%	8.29%
	350	100.00%	100.00%



「納得できる」・「どちらかと言えば納得できる」 という回答の分析

「納得できる」「どちらかと言えば納得できる」という回答(17)のうち、意見を分析し、5つに分類した。

① 両論に配慮した中庸的姿勢への理解 (2)

共学化推進・反対の両方に配慮しようとした点に理解を示しているが、「結論が曖昧」「中途半端」とも感じている声。

② 少子化や社会の流れへの現実的対応 (2)

少子化や社会構造の変化(大学入試の女子枠など)を背景に、「共学化は避けられない」という認識。

③ 多様な選択肢の維持とバランス重視 (3)

別学も共学も残してほしい、あるいは状況に応じた柔軟な対応を求める考え。

④ 納得はするが課題あり：現場・生徒への丁寧な配慮を求める声 (4)

生徒の学業や交際、SNSなどにおける問題点にも触れ、今後の調査・検討を希望。

⑤ 男女共同参画や社会的視点への評価 (2)

教育や労働の場における男女平等の方向性や、多様性への配慮姿勢を肯定。

注意：()内の数は回答数

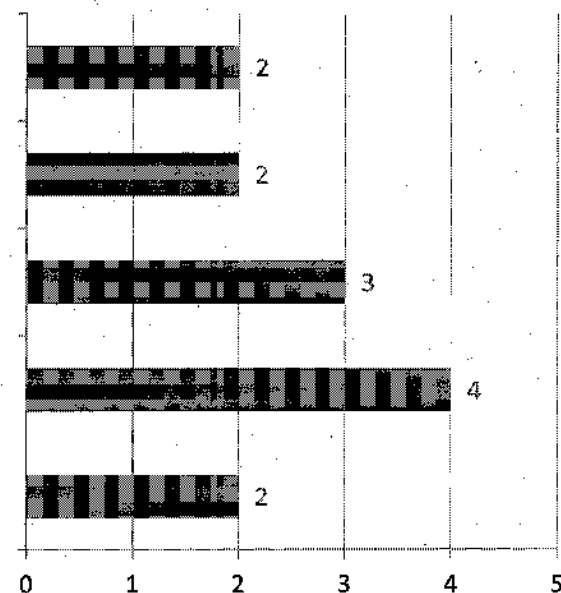
① 両論に配慮した中庸的姿勢への理解

② 少子化や社会の流れへの現実的対応

③ 多様な選択肢の維持とバランス重視

④ 納得はするが課題あり：現場・生徒への丁寧な配慮を求める声

⑤ 男女共同参画や社会的視点への評価



注意：サンプル数が少ないため回答数で表示

「納得できない」・「どちらかと言えば納得できない」 という回答の分析

「納得できない」「どちらかと言えば納得できない」という回答(304)のうち、意見を分析し、5つに分類した。

①公立の別学・共学の選択肢を残すべき(88) (多様性の維持)

「別学・共学の選択肢を残してほしい」「選ぶ自由があるべき」という表現が繰り返し登場し、多くの方が“自由に選べる状態の維持”を重視

②措置報告書の内容が曖昧・非論理的・抽象的(79)

内容が曖昧すぎる／結論ありき文章であり論拠に乏しい／何が問題なのか不明など、ジェンダー平等や教育格差の解消といった目的に対して、共学化が有効な手段なのか疑問視しているもの。「別学でも平等は実現できる」と主張する声

③生徒・保護者・県民の意見が反映されていない(70)

「アンケートが無視されている」「当事者の声を反映していない」といった声が広く見られました。特に在校生や保護者の声が扱われていない。

④共学化すると別学の魅力ある伝統・文化・校風が失われる(36)

伝統校の特色や行事、男子校・女子校だからこそその教育文化を尊重したいという声が多かった。

⑤苦情処理委員が苦情を受理した理由が不明瞭(21)

「たった一人の苦情がなぜここまで影響するのか」「共学化ありきで議論が進んでいる」という、進行プロセスや背景の不透明さを指摘

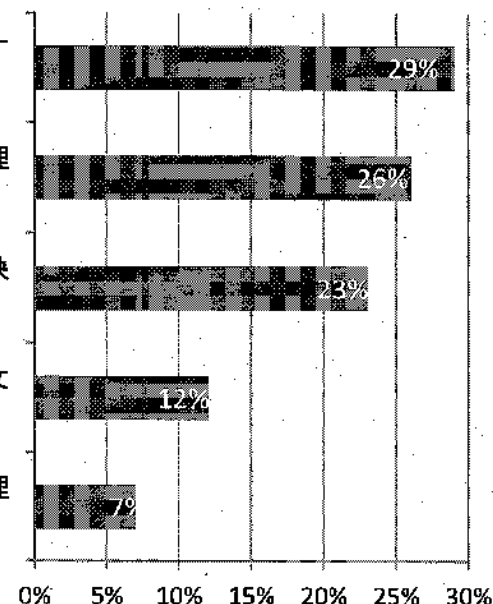
1. 公立の別学・共学の選択肢を残すべき(多様性の維持)

2. 措置報告書の内容が曖昧・非論理的・抽象的

3. 生徒・保護者・県民の意見が反映されていない

4. 共学化で別学の魅力ある伝統・文化・校風が失われる

5. 苦情処理委員が苦情を受理した理由が不明瞭



注意: ()内の数は回答数

「どちらとも言えない」という回答の分析

「どちらとも言えない」という回答(29)のうち、意見を分析し、5つに分類した。

① 共学・別学の選択肢を維持してほしい(9)

全てを共学化する必要はない／選ぶ権利を奪わないで／共学・別学どちらにも利点がある／男子校の雰囲気や行事を残してほしい／男女別の校風が共存できる埼玉の良さを発信してほしい

② 結論が曖昧、方針が明確でないことへの不満・不安(6)

附則に共学化の方向性があり納得できない／結局共学化することになりそうで不安／別学を望む声に十分な対応がない／曖昧なので、妥当なところに収まった感じ

③ 子ども・生徒の声の尊重を求める(4)

子どもが別学希望なのでその意思を尊重したい／在校生やOBの声をもっと聞くべき／生徒に議論の場を与えてほしい

④ 社会や時代の流れとして理解しているが疑問もある(5)

時代の流れには逆らえない／少子化は避けられない事情／共学化がジェンダー平等と言えるのか疑問

⑤ 報告書や対応姿勢への一定の評価(4)

内容は理解できるが全ての学校を共学にする必要はない／すぐに結論を出さなかった姿勢は評価／男女共同参画や外部の意見に安易に流されない点は評価

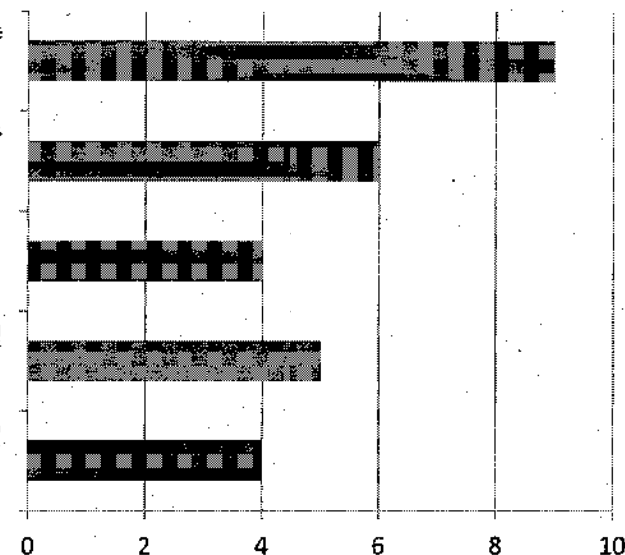
① 共学・別学の選択肢を維持してほしい

② 結論が曖昧、方針が明確でないことへの不満・不安

③ 子ども・生徒の声の尊重を求める

④ 社会や時代の流れとして理解しているが疑問もある

⑤ 報告書や対応姿勢への一定の評価



注意: サンプル数が少ないため回答数で表示

注意: ()内の数は回答数

保護者の具体的な声

納得できる（3人 / 0.9%）

- 社会の変化に対応する姿勢を評価しました。(1年)
- 時間をかけて双方の現役高校生の意見を取り入れて頂けるから。(1年)

どちらかと言えば納得できる (14人 / 4%)

- 共学化反対の意見にも推進の意見にも立場上等距離で対応したいという県教委の考えは分からなくないから。しかしどちらにも気を使ったことで中途半端な内容になってしまっているのは残念です。(2年)
- すべての別学を共学にするべきではないと思うが、定員数に満たない等、一部の学校に関しては共学化を進めてもよいと思ったから。(2年)
- 早期に共学に向けた動きではなく、とりあえずは学校主体で特色ある学校作りを推奨はされているから。(2年)
- 勧告を出した側、共学化反対派、どちらかの意見に偏ることなく、少子化問題を軸に必要な応じて進めていく姿勢は時代に沿った正しい意見だと感じたから。それは必ずしも全ての高校を共学にしようと言っているようには感じなかったからです。質問内容とはそれますが、別学維持派のXを拝見したときに、教育委員会を敵視しているような反応に見えました。私自身は別学を残してほしいと強く思っていますが、必ずしも教育委員会が別学廃止を強く掲げているようにも感じていないので、もう少し平和的に良い方向に進むといいなと感じています。(3年)

納得できない① (225人 / 64.3%)

- 苦情処理委員に出されたたった1通の苦情のために、長い伝統がある校風に憧れて別学に入学を希望する多くの生徒の道を閉ざすのは理解できない。公立の学校でこれ程までに在校生、保護者に教育方針が支持されて賛同を得ている学校は無いと思う。埼玉県はこれを失ってはならない。(2年)
- 学生達の話丁寧に聞いていくとの発言に責任をもっていただきたい。未来を作ることも達と現場の声を反映した教育政策をとっていただきたいです。(1年)
- 浦和高校には独自の運動カリキュラムがあり、男女共学になった際に、とても女子がこなせる運動量ではありません。このカリキュラムによって培われた体力があるからこそ大学受験でも優秀な成績を残しているのも事実です。女子ができないからという理由で、無くなってしまっては本末転倒です。(1年)
- 在校生やその保護者、卒業生等の意見が全く反映されていないから。(2年)
- (前略)ある塾の統計では、最難関国立大の東・京・一・工の合格者に占める公立高校の割合は東京都3割、神奈川と千葉県が4割、それに対して埼玉県は7割。圧倒的である。こんなに素晴らしい公教育の力がある埼玉県教育委員は、現状にもっと自信を持って、むしろ公立別学をアピールしてほしい。別学校の魅力は、通ってみないと分からない(我が家がそうでした)。その別学校に通う生徒から共学化を求められたのなら、共学化すべきだろう。しかし今、生徒達は何を望んでいるか？当事者である生徒のほうを向いた措置になっているのか？県教委は一体どこを見てるのか？埼玉県公立高校は、今でも充分“魅力”的です。(1年)

納得できない② (225人 / 64.3%)

- 埼玉は別学を維持します。少子化の時代の流れに沿って統廃合することはあります。でいいのではないかとそれが民意なのではないかと考えるからです。(2年)
- 共学化にかかるコストよりも老朽化した学校施設の更新や教師の待遇改善を通じた教育の質の向上にコストをかけるべきである。国内私立中学、高校においても成績上位層においては男女別学が優位であり、かつ国内の私立中学受験者数の増加傾向を考慮すると、共学化」は時代に逆行する古い画一的な考えに思われる。(1年)
- 別学教育が人格形成上問題だという勧告だったと記憶しているが、措置報告では魅力ある学校作りの一環で共学を推進すると言っていた。我が子の人格形成を否定され、それに対して県教委が反論してくれなかったことに失望している。(2年)
- 現在検討されている高校の学費無料化が現実になったら、県立高校へ進学を希望する子供が減るのではないかと思う。子供たちにいろいろな選択肢を残して欲しい。(1年)

納得できない③ (225人 / 64.3%)

- 実際通っている子供たちの意見を尊重して欲しかった。実際別学を経験しないと、この良さは理解できないのかもしれない。だからこそ、子供たちの意見に、もっと耳を傾けてもらいたかった。(3年)
- 別学だと、異性への理解がなくなるなどそれこそ偏見の極みだと思う。(1年)
- そもそも措置報告には、「男女別学」は条約違反ではないと明確に書かれています。つまり教育委員会は当初きっかけになった申し立てを完全に否定しています。(中略)日本よりジェンダー格差の少ない海外先進諸国では別学のほうが生徒の主体性・積極性や学力が伸びるという研究結果から、別学化が進んでいます。埼玉県公立高校の145校。そのうち別学はわずか12校ですが、学力は海外の研究結果同様、別学のほうが高いのではないのでしょうか。(中略)別学では性差を意識することなく勉学・部活・行事に打ち込める。共学は男女が共にいることで、逆に男女の定型化された概念が意識される。別学は生徒のリーダーシップを育てる。(中略)むしろ別学出身のほうが結果的には男女格差を少なくしていると言えます。よって教育委員会は「男女格差をなくす＝共学」という短絡的な考えのもと一方的な今回の勧告を撤回し、別学をもっと正当に客観的に再評価するべきです。(1年)

納得できない④ (225人 / 64.3%)

- 子供達の意見や考えが全く反映されていない一方的なものと感じる。公立校を全て共学化にすることが正当だとも思わない。別学だからこそ、やりたいことを伸び伸びとやれている子供がいることの理解が足りない。実際が分からない人間だけで決定すべきではない。(3年)
- (前略)大宮・浦和周辺には、偏差値が同程度の共学校2校、男子校1校、女子校1校があり、(中略)生徒たちは各校の校風や文化を直接知り、自分に合った学校を選ぶことができます。しかし、これらがすべて共学校になってしまえば、生徒たちは偏差値だけを基準にして、自分の学力に近い学校だけに目を向けるようになるでしょう。(後略)(1年)
- 現況、男女における教育の機会に格差が存在しているとは到底思えません。(中略)男女別高校に行きたいというお子さんやご家庭が一定数あり、高校数もそのニーズと一致しているにも関わらず、それを完全に無視してまで、それを超える共学化の意義がどこにあるのでしょうか？個性やそれぞれの物の考え方、何よりも子供達の気持ちを尊重するならば、そのニーズに応えることは教育機関の大事な役目です。それができないならば、何のための教育委員会なのでしょう？男女別学校が廃止されれば、行きたくもない共学校に嫌々行くしかなくなる子供も出てくるのは明らかです。それこそ、子供達の選択肢を狭め、平等に教育を受ける場所を奪うことです。その権利を奪うことの責任は誰が負うのでしょうか。(2年)

どちらかというと納得できない (79人 / 22.6%)

- 別学が差別だとは思えない。
- それぞれ、進学した学校で、自分の個性を活かしていれば何の議論も必要はないと思います。結論を先延ばしにすることは、ないと思います。(1年)
- そもそも苦情に対する、解決策が即共学化なのか？に疑問がある。現状の高校のあり方において、解決していけるのではないか？と思う。(1年)
- 時代に合わせて、共学化しなくてもいいと思う。(2年)
- (前略)男女問わず成長過程で性について嫌悪感を抱く経験をせざるを得なかった生徒がいます。そのような背景を持った生徒が安心して思春期に成長することができる環境を公教育も選択肢として設けて頂きたい。別学がいいなら私立を選べばいいという発想は、余りに一方的であり、乱暴だと考えます。(2年)
- 根拠が薄く出所があいまいな苦情申し立てをこの措置の根拠の1つに入れ、強引に話を進めるのは全く納得できない。また、これから進路を選ぶ中学生が性別を理由に入れないと訴えるならわかるが、全く関係ない大人が話を進めたがるのは理解できない。(3年)
- いずれ共学化を目指している方針が示されているから。(2年)
- 最終的に時代の流れに乗り共学化にしていくことが決まっているような内容でした。埼玉の進学校の選択肢としては別学校だけではなく共学校もあると思います。別学校を全て共学化にすることで伝統的な学校行事などが失われてしまう事はとても残念だと思います。多様化というのであれば全てを共学校にするのではなく、別学校も選択肢の一つとして残した方が良いと思います。(3年)

どちらとも言えない (29人 / 8.3%)

- 今すぐ共学化というわけではないが、共学化の方向性を残しているから。(3年)
- 現状維持で安堵しましたが、今後共学化されることが附則されていることに納得できません。共学、別学それぞれを涵養される人格形成があると思います。男子校である本校の理念に、共感し、憧れて入学し、充実した学校生活を送っている子供たちの思いを大切にしてください、後に続いていく子供たちの選択の権利を奪わないで頂きたいです。(1年)
- 共学化することが男女平等なのか疑問。世の中にはもっと平等化しなくてはならないことがたくさんあると考える。(1年)
- 男女共同参画の観点や、第三者から言われての共学化はしないと言う点は評価できると思う。ただ少子化による共学化は致し方ないとの事だったため。はっきりした方針がでず別学を望む生徒や保護者の不安は晴れるものではなかったから。(2年)



富議第326-3号
令和7年10月2日

埼玉県教育委員会教育長 日吉 亨 様

埼玉県富士見市議会議長 勝山 祥



男女別学の埼玉県立高等学校において生徒の意見も尊重した方針決定を求め
る意見書の提出について

当市議会で議決した意見書を、地方自治法第99条の規定により提出いたします。

【担当】

埼玉県富士見市議会事務局
担当 伊藤
電話 049 (251) 2711 内 166

男女別学の埼玉県立高等学校において生徒の意見も尊重した方針決定を 求める意見書

現在埼玉県には、12校の男女別学の県立高校がある。令和5年8月30日、埼玉県男女共同参画苦情処理委員は、「埼玉県立高校において、共学化が早期に実現されるべきである」との趣旨の勧告を埼玉県教育委員会に対して行い、令和6年8月31日までに「是正その他の措置」についての報告を求めた。

埼玉県教育委員会は、勧告を受けて、中学生及び高校生とその保護者に対するアンケートを令和6年4月から5月にかけて実施した。アンケートの結果、「共学化した方がよい」と回答したのは中学生で18.7%、高校生で7.8%、「共学化しない方がよい」と回答したのは中学生で19.3%、高校生で57.2%、「どちらでもよい」と回答したのは中学生で56.2%、高校生で33.2%となった。

埼玉県教育委員会は令和6年8月22日に措置報告書を提出し、「男女共同参画社会の中において、高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることには意義があり、県教育委員会は、主体的に共学化を推進していくこと」とした上で、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、埼玉県教育委員会がアンケートや地域別の意見交換、有識者からの意見徴取などを実施するとしている。先に行われたアンケート結果からも、今後更に慎重な議論が求められることは明らかである。

よって、富士見市議会は、埼玉県及び埼玉県教育委員会に対し、在校生及び進学を目指す生徒の気持ちも尊重し、男女別学の埼玉県立高等学校において当事者の意見に十分配慮した方針決定を行うことを求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年10月1日

埼玉県富士見市議会